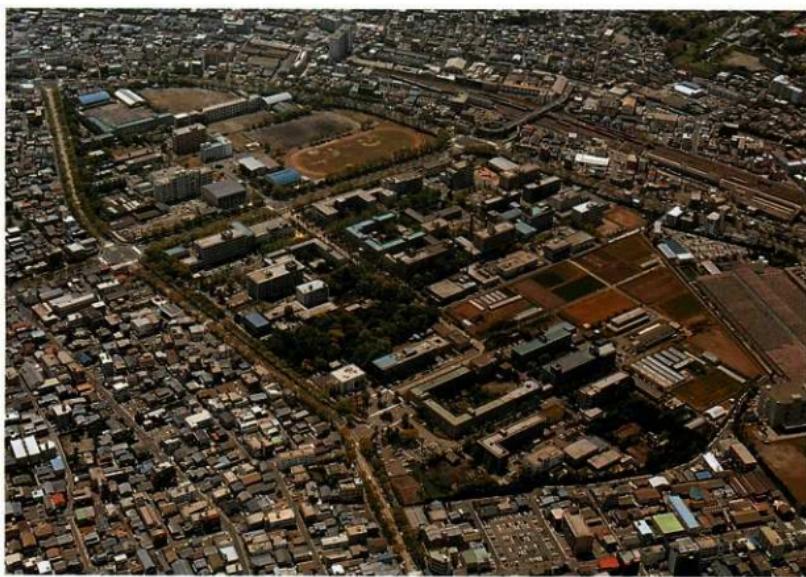


鹿児島大学構内遺跡 郡元団地L-11・12区

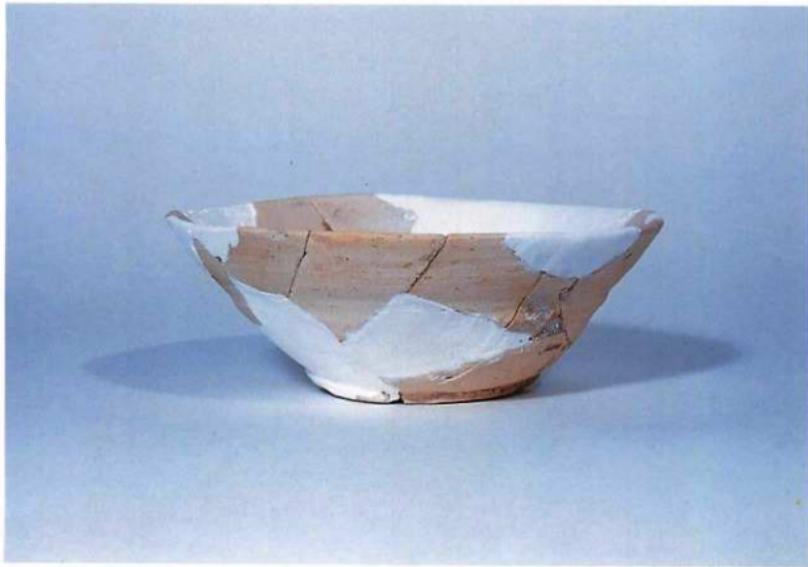
鹿児島大学稻盛会館建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1994年11月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室



鹿児島大学郡元団地



9層出土土師器

序

このたび、鹿児島大学工学部の創立50周年を迎えるにあたり、同学部卒業生の稻盛和夫様および稻盛家の皆様方の計り知れない御厚志によって、きわめてユニークな形と機能をもった稻盛会館が竣工する運びとなりました。

「世のため、人のために尽くすことが人間として最高の行為である」という確固たる信念の持ち主である稻盛様が京セラの会長および稻盛財団の理事長として、各種の事業および京都賞の創設など、全世界を舞台とした数々の業績を挙げられるとともに、国内においては日本の対外政策の理念の構築に指導的な役割を果たしてこられたことは、皆様ご承知のとおりであります。究極的には「世界の人たちから信頼と尊敬されるに値する日本をつくることである」とのお考えに基づいて、母校の鹿児島大学に、国際交流や学術発表の場として、また地域社会に向けての公開講座、生涯学習などを目的とした施設として、稻盛会館をご寄贈下さいました。

また、稻盛会館への並々ならぬ想いをもって、その設計・建築を世界的な建築家である安藤忠雄様に託され、ユニークな施設の実現を目指されました。現代社会における偉大な存在であられるお二人の、深い信頼関係の結晶として稻盛会館が竣工した次第であります。

本学は現在、大学改革の渦中にあり、大学の個性化、高度化、ならびに運営の活性化を促進しているところでありますが、このような時期に、この稻盛会館をご寄贈頂く私たちは、これを学内外の知的交流や国際交流の広場として、また地域社会への窓口として、十二分に活用させて頂き、ご寄贈の趣旨にお応えする所存であります。

稻盛会館を本学にご寄贈下さいました稻盛和夫様ならびに稻盛家の皆様方と、夢にあふれたユニークな会館を作り上げて下さいました安藤忠雄様に、深く感謝の意を捧げます。また、この日を待たずにお亡くなりになられました稻盛様のご両親を記念し Kimi and Kesa Memorial Hall という会館の愛称を末長く愛用して参りたいと存じます。

終わりに、稻盛会館の建設工事に先立つ埋蔵文化財調査のための経費をもご援助下さいましたことを、心から感謝申し上げるとともに、本報告書が学術文化の向上に資することを願いつつ、序文とさせて頂きます。

鹿児島大学長 早坂祥三

序

鹿児島大学工学部が創立50周年を迎えるにあたって、本学出身である京セラ会長稻盛和夫氏より、本学のますますの発展のために、教育と国際学術交流の場として、また本学が市民に開かれた大学としての役割を果たすために、稻盛会館を寄付して頂くことになった。この主旨に基づき、現代の世界的建築家である安藤忠雄氏の設計による同会館を工学部敷地内に建設することになった。

稻盛会館建設予定地は、専門家による埋蔵文化財発掘調査を必要とする場所である。そこで、鹿児島大学埋蔵文化財調査室長上村俊雄教授に調査をご依頼したところ、快く承諾して下さった。稻盛和夫氏の多額のご寄付による発掘調査が開始されたのは平成5年5月6日である。度重なる豪雨の中での上村教授を始めとする調査室の方々の4ヶ月あまりのご苦労の末、9月27日に発掘調査は終了した。

平成6年11月18日に予定されている稻盛会館開館記念式典へ向けて、埋蔵文化財調査室の皆様には、ご多忙の中、通常より6ヶ月も早く埋蔵文化財発掘調査報告書を完成して頂いた。報告書によると、出土遺物は年代の新しい順に上から層をなしていたとのことである。先祖の残した文化遺産の上に、我々の世紀を代表する文化遺産を構築し、子孫へ伝えることができることに感激している。

本学の教育と研究の飛躍を象徴する稻盛会館完成も、埋蔵文化財発掘調査に関係して下さった方々のおかげと深く感謝いたします。

平成6年11月

工学部長 前田明夫

例　　言

- 1 本書は鹿児島大学郡元団地内遺跡のうち鹿児島市郡元一丁目21番40号に所在する稻盛会館建設予定地において実施した発掘調査報告である。
- 2 本地点における発掘調査は鹿児島大学埋蔵文化財調査室が1993(平成5)年5月6日～9月29日にかけて行った。
- 3 1985(昭和60)年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれから埋蔵文化財調査に用いるため鹿児島大学構内座標を郡元団地と宇宙(桜ヶ丘)団地とに設定した。郡元団地の設置基準は、国土座標第2座標系(X - 158200, Y - 42400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行った(Fig. 3 参照)。これによれば本調査地点はH - II・12区に相当する。
- 4 地形図・遺構図の方針は真北を示し、レベルの数値は、すべて海拔高である。
- 5 層位・遺物の色調については、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)の表記方法によった。
- 6 調査時の遺構や壁面断面図の実測は大西智和・松村みどり・前幸男・中村直子・峰山いづみ・西谷彰・横手浩二郎・趙国興・古澤生・星野恵・中村由美子・谷村勝・松村恵子が行い、写真撮影は大西・前が行った。
- 7 遺物の取り上げ、調査区の測量、一部の遺構実測にはコンピュータ・システム株式会社のSITEシステムを使用し、プロッターで出力したものを原図として製図を行った。
- 8 自然科学分析は宮崎大学農学部の藤原宏志氏、株式会社古環境研究所に依頼した。なお、藤原宏志氏に依頼した分析のサンプルは埋蔵文化財調査室において採取した。13層の試料は古環境研究所の13層中部の試料に相当する。
- 9 遺物の実測は峰山・古澤・中村が行った。
- 10 遺構図・遺物実測図の範囲は峰山・中村が行った。
- 11 出土遺物の写真撮影は峰山・大西・中村が行った。
- 12 遺構は、土壤: SK, 潟: SD, 崩: AZという略号で表示した。
- 13 出土遺物にはすべて遺物番号を付している。遺物番号はTab. 4の遺物一覧表、Fig. 28～40の遺物平面分布図の番号と一致する。また、出土した遺物のうち、実測図を掲載したものについては通し番号を付した。この番号は本文、Tab. 3の遺物観察表、図版の番号、Fig. 28～40の遺物平面分布図の()内の番号とも一致する。
- 14 Tab. 3の遺物観察表は古澤が作成した。凡例は以下のとおりである。
 - ・遺物の色調・釉調は前掲の「土色帖」の表記方法にしたがつたが、土色帖に見られない色調については、もっとも類似する色名を記し、「～に類似」と表記した。
 - ・粒子の色調についてまでは「土色帖」を使用した色調区分を行うことができなかつたため、たとえば「赤色」、「黒色」のような、大まかな色名を記載した。
 - ・遺物の胎土・磁胎については、粒子の大きさで、直径0.3mm未満を「微粒子」、0.3mm以上0.8mm未満を「細粒子」、0.8mm以上2mm未満を「砂粒」、2mm以上3mm未満のものを「粗砂粒」、3mm以上のものを「礫」として5段階に区分した。
 - ・その粒子が含まれる量については、相対的に少ない方から、「わずかに含む」、「若干含む」、「含む」、「多く含む」の4段階に区分して表記した。
 - ・遺物の磨滅が激しいために調整を明らかにできなかつたものについては「磨滅、調整不明」と記した。

- ・遺物観察表の備考には遺物の種別、法量などを記載した。
- 15 調査に際し、森脇広氏（鹿児島大学法文学部）には土層の観察を中心としてご教示を賜った。報告書作成に際しては新田栄治（鹿児島大学教養部）、本田道輝（鹿児島大学法文学部）、渡辺芳郎（鹿児島大学法文学部）、松永幸男（北九州市立考古博物館）、雨宮瑞生、下山覚（指宿市教育委員会）、中園聰（九州大学文学部）、横手浩二郎（鹿児島大学法文学部）の各氏からご教示を賜った。
- 16 本書の執筆は自然科学分析に関する図章を除き大西が行い、編集は大西が行った。
- 17 本地点の出土遺物は鹿児島大学工学部において保管し、記録図面・写真などは鹿児島大学埋蔵文化財調査室で保管する。

本文目次

I	調査に至る経過	1
1.	調査に至る経過	1
2.	調査の体制	1
II	遺跡の位置と歴史的環境	2
1.	遺跡の位置	2
2.	付近の遺跡	2
3.	鹿児島大学都元団地内の遺跡	6
III	調査の経過と概要	12
IV	層位	13
V	遺構と遺構出土の遺物	17
1.	2層上面検出の遺構	18
2.	5層上面検出の遺構	18
3.	6 a 層上面検出の遺構	18
4.	9層検出の遺構	22
5.	12層上面の遺構	22
VI	包含層出土の遺物	23
1.	1層出土の遺物	23
2.	2層出土の遺物	24
3.	3層出土の遺物	25
4.	4層出土の遺物	26
5.	5層出土の遺物	28
6.	6 a 層出土の遺物	29
7.	6 b 層出土の遺物	30
8.	7層出土の遺物	36
9.	8層出土の遺物	37
10.	9層出土の遺物	37
11.	10層出土の遺物	38
12.	11層出土の遺物	38
13.	12層出土の遺物	38
14.	その他の遺物	38
VII	自然科学分析	77
1.	鹿児島大学稻盛会館建設予定地におけるプラント・オパール定量分析結果について	77
2.	鹿児島大学構内遺跡、都元団地 L - II - 12 区における自然科学分析	79
I.	鹿児島大学構内遺跡の植物珪酸体分析	79
II.	放射性炭素年代測定結果	95
III.	鹿児島大学構内遺跡の花粉分析	95
IV.	鹿児島大学構内遺跡の種実同定	101
V.	鹿児島大学構内遺跡の珪藻分析	104
VIII	まとめ	110
1.	遺構について	110
2.	出土遺物について	110
3.	自然科学分析について	111

挿図目次

Fig. 1	鹿児島市の位置	2
Fig. 2	遺跡位置図 S = 1/50,000	4
Fig. 3	郡元団地調査地点位置図 S = 1/5,000	8
Fig. 4	トレンチ位置図 S = 1/400	12
Fig. 5	層位断面図 S = 1/60	15
Fig. 6	遺構平面図 S = 1/200	17
Fig. 7	2層上面検出遺構 SD1 S = 1/80	18
Fig. 8	5層上面検出遺構 SK2 S = 1/20	18
Fig. 9	6a層上面検出遺構 AZ 1・2・3 平面: S = 1/80 断面: S = 1/20	19
Fig. 10	9層検出遺構 SD2 S = 1/80	21
Fig. 11	9層検出遺構 SD3 S = 1/80	22
Fig. 12	1層出土の遺物 S = 1/3	23
Fig. 13	2層出土の遺物 S = 1/3	24
Fig. 14	3層出土の遺物 S = 1/3	26
Fig. 15	3層出土の石鐵 S = 1/1	26
Fig. 16	4層出土の遺物 S = 1/3	27
Fig. 17	5層出土の遺物 S = 1/3	28
Fig. 18	6a層出土の遺物 (1) S = 1/3	28
Fig. 19	6a層出土の遺物 (2) S = 1/3	29
Fig. 20	6b層出土の遺物 (1) S = 1/3	31
Fig. 21	6b層出土の遺物 (2) S = 1/3	32
Fig. 22	6b層出土の遺物 (3) S = 1/3	33
Fig. 23	7層出土の遺物 S = 1/3	34
Fig. 24	8層出土の遺物 S = 1/3	37
Fig. 25	9層出土の遺物 S = 1/3	37
Fig. 26	10・12層出土の遺物 S = 1/3	38
Fig. 27	その他の遺物 S = 1/3	38
Fig. 28	1層出土遺物平面分布図 S = 1/200	54
Fig. 29	2層出土遺物平面分布図 S = 1/200	55
Fig. 30	3層出土遺物平面分布図 S = 1/200	56
Fig. 31	4層出土遺物平面分布図 S = 1/200	57
Fig. 32	5層出土遺物平面分布図 S = 1/200	58
Fig. 33	6a層出土遺物平面分布図 S = 1/200	59
Fig. 34	6b層出土遺物平面分布図 S = 1/200	60
Fig. 35	7層出土遺物平面分布図 S = 1/200	61
Fig. 36	8層出土遺物平面分布図 S = 1/200	62
Fig. 37	9層出土遺物平面分布図 S = 1/200	63
Fig. 38	10層出土遺物平面分布図 S = 1/200	64
Fig. 39	11層出土遺物平面分布図 S = 1/200	65

Fig. 40	12層出土遺物平面分布図 S = 1/200	66
Fig. 41	プラント・オパール定量分析結果	78
Fig. 42	鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区, IIトレンチ北側東壁の植物 珪酸体分析結果	86
Fig. 43	鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区, 4トレンチ北壁の植物珪酸体分析結果	86
Fig. 44	鹿児島大学構内遺跡(郡元団地), IIトレンチ北側東壁における主要花粉組成図	98
Fig. 45	鹿児島大学構内遺跡(郡元団地), IIトレンチ北側東壁の珪藻化石群集	107
Fig. 46	各層における遺物の種類の比率	111

表 目 次

Tab. 1	遺跡一覧表	5
Tab. 2	鹿児島大学構内遺跡郡元団地調査一覧	9
Tab. 3	遺物観察表	39
Tab. 4	遺物一覧表	67
Tab. 5	鹿児島大学稻盛会館建設予定地におけるプラント・オパール定量分析結果	78
Tab. 6	鹿児島大学構内遺跡、郡元団地の植物珪酸体分析結果	84
Tab. 7	鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)IIトレンチ北側東壁における花粉分析結果	98
Tab. 8	鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)IIトレンチ北側東壁の珪藻化石産出表(その1)	105
Tab. 9	鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)IIトレンチ北側東壁の珪藻化石産出表(その2)	106

図 版 目 次

PL. 1	植物珪酸体の顕微鏡写真	88
	1. イネ 2. イネ 3. イネ	
	4. イネ(側面) 5. サヤスカグサ属 6. オオムギ属(穂の表皮細胞)	
PL. 2	植物珪酸体の顕微鏡写真	89
	7. オオムギ族(穂の表皮細胞) 8. キビ属(ヒエ属など) 9. キビ属(ヒエ属など)	
	10. ヨシ属 11. ヨシ属 12. ウシクサ属(ススキ属など)	
PL. 3	植物珪酸体の顕微鏡写真	90
	13. ウシクサ属(ススキ属など) 14. ジュズダマ属 15. ジュズダマ属	
	16. シバ属 17. キビ属型 18. ウシクサ属型	
PL. 4	植物珪酸体の顕微鏡写真	91
	19. ウシクサ属型(大型) 20. イネ科Aタイプ 21. ネザサ節型	
	22. クマザサ属型 23. メダケ節型 24. メダケ節型	
PL. 5	植物珪酸体の顕微鏡写真	92
	25. マダケ属型 26. 表皮毛起源 27. 棒状珪酸体	
	28. 棒状珪酸体 29. イネ科の茎部起源 30. イネ科の茎部起源	
PL. 6	植物珪酸体の顕微鏡写真	93
	31. 不明 32. 不明 33. 不明 34. カヤツリグサ科	
	35. ブナ科(シイ属) 36. ブナ科(シイ属)	

PL. 7	植物珪酸体の顕微鏡写真	94
	37. ブナ科(アカガシ亞属?) 38. マンサク科(イスノキ属) 39. マンサク科(イスノキ属)	
	40. クスノキ科(バリバリノキ?) 41. はめ縫パズル状(ブナ属など) 42. 海綿骨針	
PL. 8	鹿児島大学構内遺跡の花粉・胞子遺体 I	99
PL. 9	鹿児島大学構内遺跡の花粉・胞子遺体 II	100
PL. 10	鹿児島大学構内遺跡出土種実	103
PL. 11	(図判1) 鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)の珪藻化石顕微鏡写真	108
PL. 12	(図判2) 鹿児島大学構内遺跡(郡元団地)の珪藻化石顕微鏡写真	109
PL. 13	層位断面	117
PL. 14	層位断面	118
	1. 3トレンチ北壁 2. 4トレンチ北壁 3. 5トレンチ東壁	
PL. 15	層位断面写真・遺構	119
	1. 11トレンチ北壁 2. 12トレンチ北壁 3. S D 1検出状況	
PL. 16	遺構	120
	1. S D 1完掘状況 2. S K 2検出状況 3. S K 2完掘状況	
PL. 17	遺構	121
	1. 6a層上面畦検出状況 2. 6a層上面畦検出状況	
PL. 18	遺構	122
	1. 6a層上面畦検出状況 2. A Z 2断面	
PL. 19	遺構	123
	1. S D 2検出状況(9トレンチ) 2. S D 2検出状況(12トレンチ)	
	3. S D 2検出状況(6トレンチ)	
PL. 20	遺構	124
	1. S D 2完掘状況(9トレンチ) 2. S D 2完掘状況(12トレンチ)	
	3. S D 2完掘状況(6トレンチ)	
PL. 21	遺構	125
	1. S D 3検出状況 2. S D 3完掘状況	
PL. 22	遺構・全景	126
	1. S K 3完掘状況 2. 調査区完掘状況(全景)	
PL. 23	出土遺物	127
	1. 1層出土遺物 2. 1層出土遺物 3. 2層出土遺物 4. 2層出土遺物	
PL. 24	出土遺物	128
	1. 3層出土遺物 2. 3層出土遺物 3. 3層出土遺物	
	4. 3層出土石器 5. 3層出土石器	
PL. 25	出土遺物	129
	1. 4層出土遺物 2. 4層出土遺物	
PL. 26	出土遺物	130
	1. 2層出土遺物 2. 4層出土遺物 3. 2層出土遺物(手足部分)	
	4. 2層出土遺物(下から) 5. 4層出土遺物 6. 4層出土遺物	
	7. 5層出土遺物 8. 5層出土遺物	

PL. 27	出土遺物	131
	1. 6 a層出土遺物 1# 2. 6 a層出土遺物 1#	
PL. 28	出土遺物	132
	1. 6 b層出土遺物 2# 2. 6 a層出土遺物 2#	
PL. 29	出土遺物	133
	1. 6 b層出土遺物 1# 2. 6 b層出土遺物 1#	
PL. 30	出土遺物	134
	1. 6 b層出土遺物 2# 2. 6 b層出土遺物 2#	
PL. 31	出土遺物	135
	1. 6 b層出土遺物 3# 2. 6 b層出土遺物 3#	
PL. 32	出土遺物	136
	1. 6 b層出土遺物 4# 2. 6 b層出土遺物 4#	
PL. 33	出土遺物	137
	1. 6 b層出土遺物 5# 2. 6 b層出土遺物 5#	
PL. 34	出土遺物	138
	1. 7層出土遺物# 2. 7層出土遺物#	
PL. 35	出土遺物	139
	1. 6 a層出土土錘# 2. 6 a層出土土錘# 3. 6 b層出土土錘#	
	4. 6 b層出土土錘# 5. 8層出土遺物# 6. 8層出土遺物#	
PL. 36	出土遺物	140
	1. 9層出土遺物# 2. 9層出土遺物# 3. 9層出土土師器#	
	4. 9層出土土師器# 5. 10·12層出土遺物# 6. 10·12層出土遺物#	
	7. 廢土中採取遺物# 8. 廢土中採取遺物#	

I 調査にいたる経過

1. 調査にいたる経過

鹿児島大学では福盛和夫氏の寄付により、科学技術、人文社会など、広い範囲にわたった学内外の情報交換、知的交流を促進するための施設として、鹿児島大学福盛会館が建設されることになり、工学部の南西部、工学部管理棟の西側がその予定地とされた。

鹿児島大学郡元団地は周知の遺跡上に立地しており、本地点の北西約60mのところに位置する工学部危険物薬品庫において、改築に伴う事前の発掘調査が行われ、水田遺構などが検出されている⁽¹⁾。

これらのことから、本地点における埋蔵文化財包蔵の有無を確認するために、鹿児島大学埋蔵文化財調査室では1992年10月20日から30日にかけて試掘調査を行った。その結果、水田層やビット群が検出され、土器などの遺物も出土した⁽²⁾。

試掘調査の結果をふまえ、埋蔵文化財調査室は1993年5月6日から9月29日にかけて本地点における発掘調査を実施した。

2. 調査の体制

本発掘調査は平成5年5月6日から9月29日にかけて、下記の体制で行われた。

調査主体者	鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 上村俊雄
調査担当	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長	上村俊雄
室員	大西智和・前幸男・松村みどり・中村直子・峰山いづみ
発掘調査作業員	岩戸エミ子・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・末吉ナミ・末吉ミヤ・野下ヨシエ・脇俊子・脇ツルエ・野下チリ子・安倍松伊都子・寺光ミツ子・松下ミチ・諫園チリ・諫園アキエ・諫訪田フサエ・西村チエ子・増満ミエ子・谷口ノリ子・末吉サチ子・石谷トキエ・牧島知子・西庄司・田野辺昭穂・谷村勝・白田和吉 中村由美子・上地博(鹿児島大学大学院生)
	古澤生・池口洋人・西谷彰・横手浩二郎・甲斐光代・今村知子・星野恵美・小原愛・国分リカ・西中川泉・坂元裕子・鈴川章子・松村恵子(鹿児島大学学生)
	趙国興(鹿児島大学研究生)

註

(1) 鹿児島大学法文学部考古学研究室 「神川堤第一地点遺跡(鹿児島大学工学部危険物薬品庫改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)」鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1985

(2) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 「第Ⅱ部 第3章 郡元団地L-11・12区(福盛ホール建設予定地)における試掘調査」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ 平成4年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1993

II 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置 (Fig. 1)

本遺跡が所在する鹿児島市は薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾(錦江湾)が広がり、他の三方は、姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

市の中心部は南東流する甲突川や田上川などによって形成された沖積平野上に立地し、鹿児島大学郡元団地はその南端部付近に位置している。

本遺跡は鹿児島大学郡元団地内のはば中央部の西端部にあたり、標高は約 67m を測る。

2. 付近の遺跡

鹿児島市内の遺跡は、シラス台上あるいは、小丘陵上に集中している。[鹿児島市文化財基本調査報告書]⁽¹⁾などによると、100 遺跡中 64 の遺跡が台地や丘陵上に位置することからもそのことがうかがえる。しかしながら、鹿児島大学を中心として作成した分布図 (Fig. 2) と地名表 (Tab. 1) に見られるように、平野部に立地する遺跡も多い。

まず旧石器時代の遺跡としては、鹿児島市北西部に位置する加栗山遺跡⁽²⁾・加治屋園遺跡⁽³⁾、鹿児島市に隣接する松元町の仁田尾遺跡⁽⁴⁾を挙げることができる。いずれも、鹿児島市西側のシラス台地上に位置している。

縄文時代草創期の遺跡としては、市南部の台地上に掃除山遺跡⁽⁵⁾ (Tab. I-35) があり、住居跡 2 軒などが出土している。この時期までの遺跡は非常に少ない。

早期になると、住居跡が出土した遺跡としては、先述の加栗山遺跡、松元町前原遺跡⁽⁶⁾、鹿児島大学桜ヶ丘団地⁽⁷⁾ (Tab. I-25)などを挙げることができる。前者からは十数基の竪穴式住居跡が検出されているが⁽⁸⁾、後者から検出された住居跡は 1 基のみである⁽⁸⁾。いずれも台地上に立地する遺跡である。当該時期の土器などを出土する遺跡数はかなり増加し、平地に立地する遺跡も含まれるようになる。

前期～中期になると平地部に立地する遺跡がさらに増加するが、遺構を伴う遺跡は少ない。春日町⁽⁹⁾ (Tab. I-7)・大龍遺跡⁽¹⁰⁾ (Tab. I-8)などが代表的な遺跡として挙げられる。

後期には遺跡の数は増加しているものの、遺構を伴う遺跡は少ないといえる。代表的な遺跡として、市北部に位置する春日町・大龍遺跡の他、若宮神社遺跡⁽¹¹⁾ (Tab. I-6)、市南部に位置する草野貝塚⁽¹²⁾などを挙げることができる。

晩期になると遺跡は平地部へと移動してしまった感を受ける。しかし、該期の遺物が出土する遺跡の数



Fig. 1 鹿児島市の位置

は後期に比べると非常に少ない。

弥生時代前期も前時期と同様、平地に立地する遺跡が多い。遺跡の数はかなり増加するが、遺構が検出されている例はほとんどない。

しかし、中・後期になると遺構を伴う遺跡も増えてくる。一の宮遺跡⁽¹⁾ (Tab. I-18) では中期の住居跡が検出され、さらに「一の宮式」と呼ばれる土器群も出土している。なお、一の宮遺跡と鹿児島大学郡元団地はほとんど隣接しているが、郡元団地内からは弥生時代の遺構は検出されていない。

古墳時代の遺跡は非常に多く知られている。住居跡が出土した遺跡としては大籠⁽²⁾・鹿児島大学郡元団地⁽³⁾ (Tab. I-17)・武⁽⁴⁾ (Tab. I-14)・（薬師堂）遺跡⁽⁵⁾ (Tab. I-31) などが挙げられ、分布における地域的な偏りはほとんどないといえる。住居跡が出土した遺跡は分布図で取り上げた遺跡以外にも各地に多く見られることや、「成川式」土器が出土する遺跡が多く存在することから、この時期には広い範囲にわたって、人口が増加したことが予想できる。

その後の時代については遺構の検出例は少ないものの、遺物はほぼ連続的に出土していることから、連綿と人々の営みがあつたことは確実である。江戸時代になると、城下町としての整備が進み、城下、寺院跡などの遺跡が多く知られている。

なお、分布図中には江戸時代以前の城跡も多く含まれるが、表示は省略した。

註

- (1) 山之内宏行・出口浩編「鹿児島市文化財基本調査報告書」、鹿児島市文化財調査報告書(5)、鹿児島市教育委員会、1988
- (2) 鹿児島県教育委員会「加栗山遺跡・神ノ木山遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16)、鹿児島県教育委員会、1981
- (3) 鹿児島県教育委員会「加治屋町遺跡・木の迫遺跡」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(14)、鹿児島県教育委員会、1981
- (4) 鹿児島県立埋蔵文化財センター「埋文だより」4、1994
- (5) 出口浩編「掃除山遺跡-県道玉取追～鹿児島港線建設に伴う緊急発掘調査報告書-下巻」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(12)、鹿児島市教育委員会、1992
- (6) 前追亮一「鹿児島縄文新知見」「歴史九州」1994・前追亮一「南九州縄文時代早期の集落相」「考古学ジャーナル」378、1994
- (7) 桜ヶ丘団地G-11区(受水槽設置地点)における発掘調査で検出された。
- (8) 住居跡は調査区の北東隅で検出されたため調査区外に住居跡が存在している可能性がある。
- (9) 文獻 6, 9, 11, 13, 16, 27, 32
- (10) 文獻 23
- (11) 文獻 3, 11, 13, 16, 27, 32
- (12) 河口貞徳「草野貝塚発掘報告」「鹿児島県考古学会紀要」1、1952
出口浩・中村直子編「草野貝塚-宅地造成に伴う第1次・第2次緊急発掘調査報告書-」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)、鹿児島市教育委員会、1988
- (13) 文獻 2, 8, 13, 16, 27, 32
- (14) 文獻 4, 8, 11, 26, 29, 34, 36
この間に、1993年1～3月、5～9月に発掘調査したK・L-6区(中央図書館増築地)、1994年1～4月に発掘調査したM～T-7～9区(運動場)からも住居跡が検出されている。
- (15) 文獻 42
- (16) 薬師堂遺跡では住居跡の検出はされていないが、その存在が推定されている。

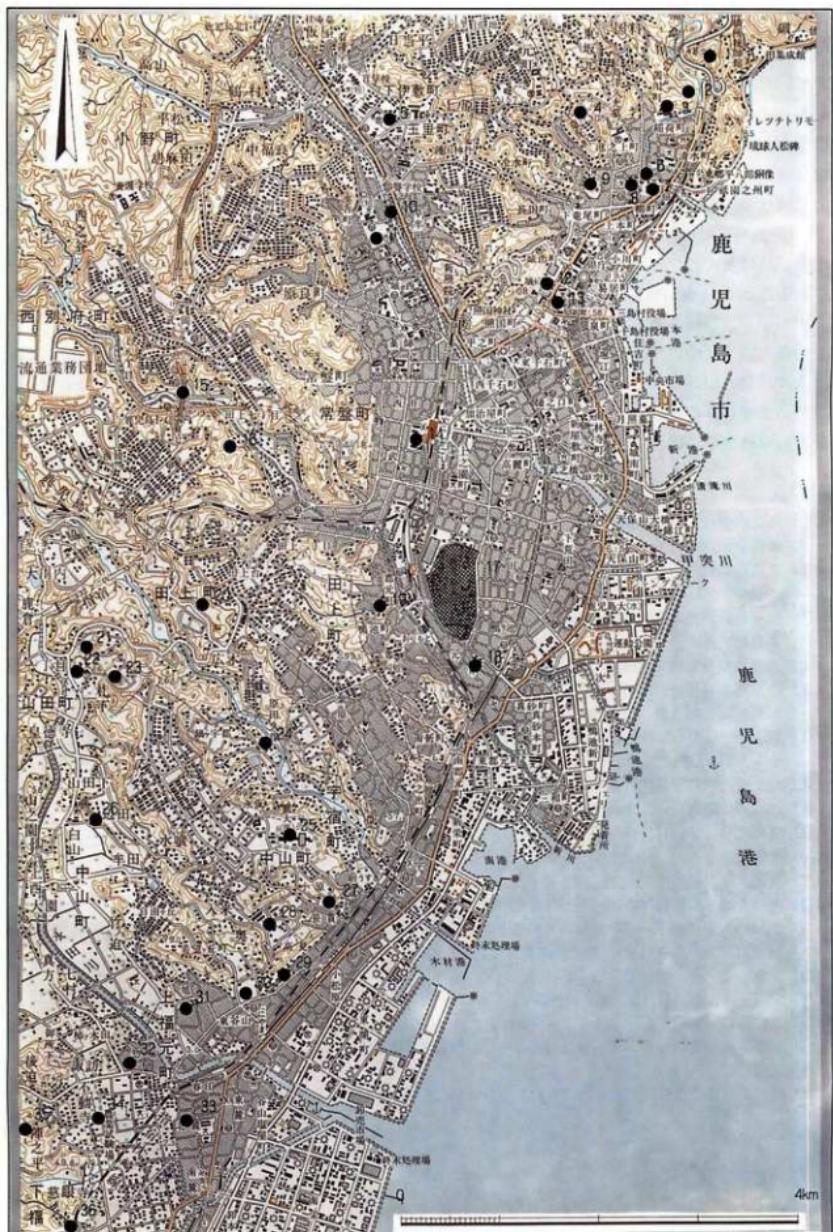


Fig. 2 遺跡位置図 S = 1/50,000

Tab. 1 遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	绳文時代				弥生時代			古墳	古代 中近世	文 獻
			前期	早期	中期	後期	前期	中期	後期			
1	前平	吉野町雀ヶ宮前平	○							○	8, 11, 13, 27, 32	
2	滝ノ上火薬製造所跡	吉野町滝ノ上								○	32	
3	大乗院	郡南町清水中学校内								○	21, 32	
4	丸岡	板元町たんとう丸岡	○		○						11, 13, 27, 32	
5	玉里	玉里町旧練兵場跡					○				3, 13, 19, 27, 32	
6	若宮神社	池之上町若宮神社			○						8, 11, 13, 16, 27, 32	
7	春日町	春日町5番地		○	○	○					6, 9, 11, 13, 16, 27, 32	
8	大龍	大龍町11番44号	○	○	○	○	○	○	○		11, 13, 15, 17, 23, 27, 32, 40	
9	南淵神社	上竜尾町南淵神社	○								11, 13, 27, 32	
10	甲突川川底	木吉町玉江橋~鶴尾橋								○	11, 27, 32	
11	刑務所跡	木吉町旧刑務所敷地								○	32	
12	演武館・造士館	山下町中央公園内								○	32, 39	
13	名山	山下町名山小学校内								○	31, 32	
14	武A・B・C	武1丁目2番	○	○	○	△	○	○	○	○	42	
15	後庭	西別府町後庭								○	32	
16	堀ノ内	田上町堀ノ内								○	32	
17	鹿児島大学 鶴元団地	鶴元鹿児島大学備内	○	○	○	○	○	○	○	○	4, 11, 12, 14, 16, 20, 24, 26~ 30, 32~37, 41	
18	一の宮	鶴元一の宮神社境内			○	○	○	○	○		2, 8, 13, 16, 27, 32	
19	鹿児島大学 学生寮	唐湊3丁目3番1号			○		○	○	○	○	36	
20	伊佐ノ原	田上町天神ヶ原戸	○								18, 27, 32	
21	坂下	山田町坂下					△	△	△	○	11, 13, 27, 32	
22	札下	山田町札下					△	△	△	○	11, 13, 27, 32	
23	上ノ原	山田町上野札下	○		○					○	13, 27, 32	
24	原田久保	宇宿町原田久保								○	32	
25	鹿児島大学 桜ヶ丘団地	桜ヶ丘8丁目35番1号	○	○	○	○	○	○	○	○	25, 27, 32	
26	辺田	中山町辺田中山 小学校裏	△	△	△	△	△	△		○	13, 22, 27, 32	
27	佐貫	宇宿町佐貫通								○	4, 11, 13, 16, 27, 32	
28	亀ヶ原	魚見町東谷山小 学校一帯					△	△	△	○	32	
29	高見	上福元町高見					△	△	△	○	32	
30	波ノ平	上福元町高見波ノ平								○	11, 13, 27, 32	
31	薬師堂	上福元町薬師堂			○	○	○	○		○	5, 7, 11, 13, 27, 32	
32	堂間	上福元町堂間								○	11, 13, 27, 32	
33	北麓	北麓平田病院敷地								○	11, 13, 27, 32	
34	不動寺	上福元町不動寺							○	○	1, 11, 27, 32	
35	揖除山	下福元町後述字揖除山	○	○		○				○	○	38
36	慈眼寺	下福元町慈眼寺					△	△	△	○	10, 11, 13, 27, 32	

凡例 ○: 敷期の遺物・遺物が確認されている。
 △: 稲かい時期を特定できないもの。

3. 鹿児島大学郡元団地の遺跡

福盛会館が建設される鹿児島大学郡元団地は從来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われてきている。郡元団地内で今までに行われた発掘調査は (Fig. 3 · Tab. 2) のとおりであり、学術調査・本調査・試掘調査に限っても 51 件を数えている。

郡元団地内において確認された遺構には、水田・溝・河川・住居跡などがある。その他、古墳時代・中世の遺物包含層も確認されている。

これまでに行われた発掘調査の結果から、郡元団地内の過去の状況がかなり具体的に把握できるようになった。以下に時代を追ってその状況を素描したい。

縄文時代の初め頃は、海平面が現在よりも高かつたことから、このあたりは、海であったと考えられる。福盛会館建設予定地で採取した泥炭層をサンプルとして、放射性炭素年代測定を行ったところ、今から四千数百年前という年代が得られた⁽¹⁾。したがって、この時期にはこのあたりは湿地ではあるものの、陸地化していたと推定できる。つまり、この時代以後の遺跡は存在する可能性があるということになる。

郡元団地から出土した遺物で現在のところ、もっとも古く遡るのは縄文時代前期の曾根式土器⁽²⁾である。そして、それ以後の時代の遺物はほぼ連続的に出土している。しかし、縄文時代から弥生時代までの遺構は今までのところ検出されていない。また、縄文時代・弥生時代の単純な包含層も確認されていない。

郡元団地において、遺構と遺物包含層の存在がはつきりと確認できるのは古墳時代以降であり、遺構としては住居跡・溝・ピットなどが確認されている。

郡元団地は今までの調査結果から、古墳時代の集落であるとされてきた。しかし、郡元団地すべての地点から住居跡が検出されるわけではない。

住居が集中して検出されるのは、Fig. 3 の赤色の網かけで示した範囲である。この 2カ所はいずれも微高地で、北側の範囲については、青色の網かけで示した自然河川の自然堤防に位置しているといえるかもしれない。南側の範囲については、郡元団地の東に位置する一の宮遺跡に連続していく微高地だといえる。

両方の範囲から約 100 基の住居跡が検出されている⁽³⁾。各調査区では、住居は何度も切り合った状態で検出されることが多く、たとえば、Fig. 3 - 25 番の理学部 1 号館増築地【文献 26】では約 30 m × 15 m の調査範囲から、27 基の住居跡が検出されている。現在のところ、両範囲からは同時期の遺物も出土するため、同時に併存していた可能性が高いが、各範囲において同時に何軒の住居が存在していたのかということは不明である。

郡元団地で確認されているこの時期の住居は竪穴式で、竪穴の平面プランは方形のものが多いが、まれに、柄鏡形などを呈するものも検出されている。柱穴は竪穴の内側にあるもの、外側にあるものの両者が見られる。竪穴内のほぼ中央部に炉が設けられたものもあるが、窓を有するものは確認されていない。竪穴の規模は 1 辺が 3 ~ 4 m のものがほとんどである。

この集落の生業は何であったのだろうか。郡元団地において、古墳時代の畦や畝などの水田遺構は現在のところ検出されていない。しかし、この時代の生活面 - 黒色を呈する包含層であるが、この層からは大量のイネプランツ・オバールが検出されている⁽⁴⁾ ことから、稻作がこの地点あるいは付近で行われていたことは確実だと考えられる。

Fig. 3 の青色の網かけで示した部分が自然河川の河道であるが、東側については調査例が無いため、推定のラインである。古墳時代にこの河が流れていったということは I - 8 区 (理学部 2 号館増築地)【文献 26】などの調査から明らかであるが、この河川が弥生時代やそれ以前まで遡って存在していたかどうかは不明である。

郡元団地における古墳時代以後の遺構としては水田に伴う畦や畝、水田に伴う可能性が指摘できる溝などが検出されている。土層の觀察からも、水田の特徴が読みとれ、プラント・オパール定量分析の結果もこのことを裏付けている。このあたりは平安時代以降は確実に水田であったと考えられる。水田層はかなり厚く堆積していることから、長期にわたって、連続的に水田耕作が行われてきたと考えられる。出土する遺物は、水田という性格上量は少ないものの、各時代のものが出土していることからも、そのことを裏付けていると考えられる。なお、古墳時代以後は明確に時期を特定できる住居跡などの出土例は無いため、集落は郡元団地の外に移つたものと考えられる。

註

- (1) 図版2.- II. に報告。
- (2) 1994年1~4月にかけて実施したM~T-7~9区(運動場)の発掘調査において出土した。
- (3) 北側の範囲からは約65軒、南側の範囲からは約30軒の住居跡が検出されている。
- (4) L-6区(中央図書館増築地)におけるプラント・オパール定量分析の分析結果などによる。

文献

- (1) 山崎五十廣「弥生式土器遺跡と墳墓の関係」「考古学雑誌」10-1, 1919
- (2) 河口貞徳「一の宮遺跡報告」「考古学雑誌」37-4, 1951
- (3) 麻生幸行「有溝の石庭下」「鹿児島県考古学会紀要」2, 1952
- (4) 河口貞徳「鹿児島県の弥生諸遺跡について」「鹿児島県考古学会紀要」2, 1952
- (5) 河野治雄「谷山町業師堂遺跡について」「鹿児島県考古学会紀要」2, 1952
- (6) 河口貞徳「鹿児島県鹿児島市春日町遺跡」「日本考古学年報」6J, 1953
- (7) 河野治雄「谷山町における先史時代遺物の分布状況について」「鹿児島県考古学会紀要」3, 1953
- (8) 河口貞徳「鹿児島のおいたち - 先史時代」鹿児島市 1955
- (9) 河口貞徳・河野治雄「鹿児島市春日町遺跡発掘調査報告」「鹿児島県考古学会紀要」4, 1955
- (10) 河野治雄「先史時代」「谷山市史」1967
- (11) 河口貞徳「原始・古代編」「鹿児島市史」鹿児島市史編纂委員会, 1969
- (12) 平田信芳「町田遺跡」「日本考古学年報」28J 1975
- (13) 鹿児島県教育委員会「市町村別遺跡地名表」1977
- (14) 戸崎勝洋「町田遺跡第6地点」「日本考古学年報」3J 1978
- (15) 上村俊雄編「大龍遺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(1), 鹿児島市教育委員会, 1979
- (16) 南日本新聞社「鹿児島大百科事典」1981
- (17) 本田道輝・田中修編「大龍遺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(2), 鹿児島市教育委員会, 1982
- (18) 上田耕「鹿座半島の考古学 - 伊佐の原遺跡「鹿児島考古」17, 1983
- (19) 鹿児島市教育委員会「文化財の手引きその3 埋蔵文化財・史跡分布地図 - 鹿児島市北部 -」1985
- (20) 上村俊雄他「神川堤第一地点遺跡」鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1985
- (21) 口出浩編「大衆院跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(6), 鹿児島市教育委員会, 1985
- (22) 鹿児島市教育委員会「文化財の手引きその4 埋蔵文化財・史跡分布地図 - 鹿児島市南部 -」1986
- (23) 本田道輝・下山覚編「大龍遺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(7), 鹿児島市教育委員会, 1986
- (24) 本田道輝編「鹿児島大学郡元団地内遺跡(J-7地点) - 鹿児島大学理学部公用車庫改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -」鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1986
- (25) 本田道輝「町田丸ケ原遺跡について - 鹿児島大学宇宙宿キャンパス及びその周辺地区に於ける採集遺物の紹介 -」
- (26) 松永幸男・坪根伸也編「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 I 昭和60年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1986
- (27) 坪根伸也編「木町遺跡(鹿児島大学郡元団地内遺跡 P-6・7地点) - 鹿児島大学教育学部校舎新築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」鹿児島大学教育学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1987
- (28) 本田道輝編「鹿児島大学郡元団地内遺跡(B~D・9, 10地点) - 鹿児島大学農学部温室改築及び実験温室、網室等新設に伴う試掘調査報告書 -」鹿児島大学農学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1987
- (29) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 II 昭和61年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1987
- (30) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 III 昭和62年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1988



Fig. 3 郡元団地調査地点位置図 (S = 1/5,000)

Tab. 2 鹿児島大学構内遺跡都元団地調査一覧

No.	地区名	調査主体	調査期間	遺物	遺構	弥	彌	塙	占	中	近	文献	調査形態	備考
1	Q-10 (黒園地区)	河口貞徳	1951年3月～4月	土器、須恵器	円形住跡	* * *			4, 8				学術調査	
2	Q-10 (附属中学校敷地内)	河口貞徳	1963年7月	土器、石製品	圓丸形住跡	*			11, 29				学術調査	
3	I-J-4 (教養校舎)	鹿児島県文化課	1975年4月～7月	土器、須恵器、石製品	住居跡、溝状遺構	* * *				26			本調査	釣田第1地点
4	(理・教養・工・教育学部)	平野信房・出口浩	1975年9月	土器、須恵器、石製品	工字廊: 溝状遺構(近代)	*				*	26		試掘調査	
5	I-B-8 (理学部2号館増築地)	鹿児島県文化課	1976年1月								26		本調査	釣田第8地点
6	I-B-8 (理学部2号館増築地)	鹿児島県文化課	1976年5月～12月	土器、須恵器、石製品、鐵製、土製瓦、木製品	方形住跡、柱列	* * *	* * *				26		本調査	釣田第8地点
7	M-N-5-6 (教育学部第2体育館)	鹿児島県文化課	1978年7月～8月	土器、須恵器	溝状遺構	* * *	* * *				26		試掘調査	釣田第6地点
8	J-1 (教養部講義室)	鹿児島県文化課	1979年	土器									試掘調査	釣田第2地点
9	K-L-9-10 (教養部講義室)	鹿児島県文化課	1979年		用永路								試掘調査	釣田第3地点
10	E-6 (教育学部研究棟)	鹿児島県文化課	1979年										試掘調査	釣田第5地点
11	(理学部実験研究棟)	鹿児島県文化課	1979年	土器									試掘調査	
12	(電算機センター)	鹿児島県文化課	1979年										試掘調査	
13	L-3-4 (法文学部講義室)	鹿児島県文化課	1979年5月	土器									試掘調査	釣田第3地点
14	O-4-5 (教育学部校舎)	鹿児島県文化課	1979年5月	土器									試掘調査	釣田第7地点
15	I-11-12 (工学部機械工学科校舎)	鹿児島県文化課	1980年7月～8月	土器、須恵器、陶磁器	溝状遺構(弥生～古墳、中世)	* * *	* * *	* * *			29		本調査	
16	(教育学部)	鹿児島県文化課	1980年7月～8月	土器、磁器	水田(中世)、溝状遺構	*					29		試掘調査	
17	N-O-5 (教育学部新校舎)	鹿児島県文化課	1980年8月	土器、磁器	水路(古墳)	* * *					29		試掘調査	
18	G-H-9 (電子計算機室)	鹿児島県文化課	1983年8月～9月	土器、須恵器、磁器、石製品	水田、溝状遺構(古代?)	* * *	* * *				35		本調査	釣田第9地点
19	J-7 (理学部講義室)	上村俊雄・本田道輝	1983年12月	土器									試掘調査	
20	K-12 (工芸部危険物販賣品庫改修)	上村俊雄	1983年12月	土器、須恵器、磁器、土製品、石製品	水田(古墳・奈良)、足跡?、ビット、溝状遺構	* * *	* * *				20		本調査	
21	C-D-9 (農学部温室整替え)	本田道輝	1983年12月	土器、陶磁器、古錢	溝状遺構、土壇、ビット・水田(室町以前)						28		試掘調査	
22	J-7 (理学部講義室)	本田道輝	1984年11月～12月	土器、須恵器、石製品	ビット・溝状遺構(古墳)、土壇	* * *					24		本調査	
23	P-6-7 (教育学部校舎)	上村俊雄・本田道輝	1984年11月～1985年3月	土器、須恵器、磁器、硬玉勾玉	水田、溝状遺構	* * *					27		本調査	水町遺跡
24	B-C-9 (書類整理室・実験室・教室・ガラス室など新設改修)	本田道輝	1985年3月	土器、陶磁器、土製品	溝状遺構、ビット、土壇	* * *					28		試掘調査	
25	2-1-9-10 (理学部1号館増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1985年6月～10月	土器、須恵器、石製品、石庖丁	方形住跡(後円丘1基)、溝状遺構、配石をもつ方形振り込み(古墳)	* * *					26		本調査	理学部3号館
26	O-3-4 (教育学部附属厚生施設改修)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1985年6月	土器、陶磁器							26		試掘調査	
27	I-J-4 (教養部宿舎増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1986年3月	土器	溝状遺構						29		試掘調査	
28	Q-6-7 (教育学部音楽美術学科)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1986年3月	土器、須恵器、陶磁器、土製品	溝状遺構、ビット、水田層(古墳～)	* * *					29		試掘調査	
29	J-7 (理学部施設場)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1986年7月	土器	住居跡?						29		試掘調査	
30	B-8 (農学部R-1号館増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1986年11月	土器、陶磁器	河川跡(中世)						29		試掘調査	
31	O-7 (教育学部福山厚生施設)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1988年3月	土器、須恵器、磁器	溝状遺構(古墳以降)、ビット(古墳～中世)	* * *					33		試掘調査	
32	G-H-9 (電子計算機室増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1988年7月～8月	土器、土製品、石製品	方形掘込、ビット、土壇、溝状遺構(中世)	* * *					30		本調査	
33	F-4-5 (教育学部育成課実験室センター及び音楽・美術棟)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1988年11月～12月	土器、須恵器、陶磁器	溝状遺構、落し込み(古墳以降)、ビット	* * *					33		試掘調査	
34	F-3-4 (大学院進歩主義研究科校舎)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1989年10月～12月	土器、陶磁器、土製品、石製品、石鏡、古鏡、雜貨	ビット(平野～豊前)、細跡、日影跡、溝状遺構、不整形形跡、ビット層(江戸～明治)	* * *					34		本調査	
35	Q-9-10 (教育学部附属小学校ゴール上屋)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1989年12月	土器、須恵器、土製品、石製品、陶磁器	住居跡?						34		本調査	
36	H-11-12 (工学部情報工学科校舎)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1990年3月	土器、須恵器、陶磁器	河川跡						35		試掘調査	
37	S-T-6-7 (教育学部附属小学校ゴール上屋)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1990年8月	土器、須恵器、陶磁器	ビット	* * *					35		試掘調査	
38	S-T-6-7 (教育学部附属小学校ゴール上屋)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1990年11月～1991年1月	土器、須恵器、陶磁器、石製品、石庖丁、銅製品	方形住跡、溝状遺構(古墳)、土壇、ビット	* * *					36		本調査	
39	H-11-12 (工学部情報工学科校舎)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1990年12月～1991年3月	土器、陶磁器、石製品、石鏡	河川跡	* * *					36, 41		本調査	
40	B-8-9 (課外活動施設)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1991年3月	土器、陶磁器、土製品、石製品、石鏡	ビット、土壤						36		試掘調査	
41	H-11 (地域共同研究センター)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1992年2月	土器、陶磁器	河川跡?						41		試掘調査	
42	O-P-4-5 (教育学部音楽・美術学科)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1992年6月～10月	土器、須恵器、陶磁器	歛状遺構、溝状遺構、土壇、ビット	* * *					41		本調査	
43	K-12 (工学部応用工学科エレベーター)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1992年6月		水田層?						41		本調査	
44	O-7 (教育学部附属厚生施設)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1992年6月～12月	土器、陶磁器	溝状遺構、ビット(古墳)	* * *							本調査	
45	L-11-12 (植生会館)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1992年10月	土器、須恵器、陶磁器	ビット、足跡?	* * *					41		試掘調査	
46	L-6 (中央図書館増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993年1月～3月	土器、石製品	溝状遺構、樹錆形住跡体、ビット(古墳)								本調査	
47	R-L-6 (中央図書館増築地)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993年5月～9月	土器、陶磁器、石製品	上壇、溝状遺構、土壇、群跡								本調査	
48	L-11-12 (植生会館)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993年5月～9月	土器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品	溝状遺構、土壇、群跡	* * *							本調査	
49	P-5 (教育学部教員実践研究指導センター)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993年10月～12月	土器、須恵器、陶磁器、石製品	溝状遺構(古墳、近代～)、土壇、歛状遺構、ビット	* * *							本調査	
50	H-11-12 (地域共同研究センター)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993年12月～1994年4月	土器、石製品、石庖丁、紡錘輪、木製品	河川跡、杭例	* * *							本調査	
51	M-T-7-9 (運動場)	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1994年1月～4月	土器、須恵器、陶磁器、石製品、石庖丁、紡錘輪	方形・楕錆形住跡(古墳)、土壇	* * *							本調査	

査室, 1988

- (31) 出口浩編「名山遺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(8), 鹿児島市教育委員会, 1988
- (32) 山之内宏行・出口浩編「鹿児島市文化財基本調査報告書」鹿児島市文化財調査報告書(5), 鹿児島市教育委員会, 1988
- (33) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ 昭和63年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1989
- (34) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ 平成元年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1990
- (35) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ 平成2年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1991
- (36) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅴ 平成3年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1992
- (37) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「町田第1地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告~遺構及び遺構出土遺物編~」「南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究」鹿児島大学法文学部, 1992
- (38) 出口浩編「拂除山遺跡 - 県道玉取追~鹿児島港線建設に伴う緊急発掘調査報告書 - 下巻」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(12), 鹿児島市教育委員会, 1992
- (39) 山口浩・濱川まゆみ編「造士館・演武館跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(13), 鹿児島市教育委員会, 1992
- (40) 山口浩編「大龍遺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(15), 鹿児島市教育委員会, 1992
- (41) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅵ 平成4年度」鹿児島大学埋蔵文化財調査室, 1993
- (42) 「1993年度 鹿児島県関係発掘調査一覧」「鹿児島考古」28, 1994

III 調査の経過と概要

5月6日から10日までは、重機を用いて表土層の除去を行った。表土層の厚さは平均で約0.6mほどであった。

5月12日と14日には鹿児島大学構内座標にもとづいて基準点の設定を行った。

5月17日から、掘り下げを開始した。

まず、調査区の北東隅（3トレンチ）、北西隅（4トレンチ）、南隅（5トレンチ）に3ヶ所、先行トレンチを設定して掘り下げた（Fig. 4）⁽¹⁾。次に1～5トレンチの土層観察を行い調査区全体の基本層位をあらかじめ設定した⁽²⁾。その後、調査区全体を層ごとに掘り下げた。

7層までは調査区全体を掘り下げたが、8層以下については、先行トレンチにおいて、遺物がほとんど出土しなかつたことから、6カ所のトレンチを設けて掘り下げることにした（Fig. 4-6・7・8・10・11・12トレンチ）。

12トレンチの9層において溝（SD2）を検出したため、溝の方向や規模を確認するために、溝の北側への延長線上にさらに、1ヶ所トレンチを設定した（Fig. 4-9トレンチ）。

地表下約1.5mのところで泥炭層を検出した。泥炭層は調査区全体に広がっており、その厚さは平均で、約1mほどである。

泥炭層の下には粗砂が堆積していた。これより下では水が湧き出すため、以下の掘り下げを行うことはできなかつた。

掘り下げ終了後、自然科学分析に用いるサンプルを採取し、調査区壁面の土層断面図を作成して、発掘調査を終了した。

註

(1) Fig. 4の1・2トレンチは1992年度に行った試掘調査のトレンチと同一である。（鹿児島大学埋蔵文化財調査室、「第3章 郡元墳地I-11・12区における試掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ 平成4年度』1993）

(2) 試掘調査時の層の数よりも若干減少しているが、これは、調査区全体の共通した層を得ることができるよう、類似の層を統合したためである。

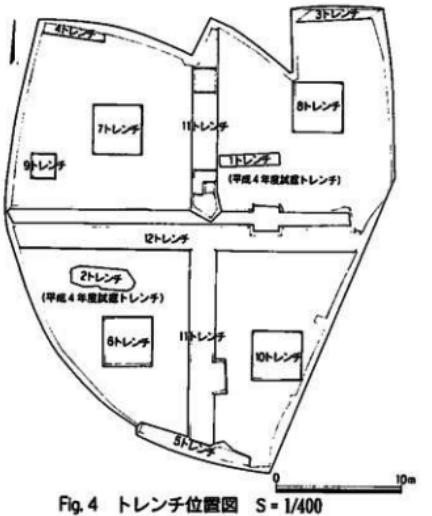


Fig. 4 トレンチ位置図 S = 1/400

IV 層位 (Fig. 5)

- 表土層、客土、カクラン層などは一括して表土とした。
- 1層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) を呈する細砂質土で、マンガンの浸透が見られ、0.3~0.5cm 大のパミスを含む。2層との境のところどころに、黄褐色 (10YR5/6) の粗砂を含む。粘性は少ない。1層は調査区の中央部を中心に部分的に確認できた。
- 2層 にぶい赤褐色 (5 YR4/3) のシルト～細砂質土で、マンガンの浸透が多く見られ、パミスや褐色 (7.5YR4/6) の斑点を含む。粘性は少ない。
- 3層 暗褐色 (7.5YR3/3) 細砂質土で、マンガンの浸透が見られ、0.5~1 cm 大のパミスを含む。粘性は無い。
- 4層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂質土。マンガンの浸透がわずかに見られ、0.5~1 cm 大のパミスを含む。褐色 (7.5YR4/6) の斑点も多く含み、粘性は少ない。
- 5層 褐色 (7.5YR4/3) シルト～細砂質土。マンガンの浸透が見られ、パミスを含む。粘性は無い。5層は調査区の北側に部分的に確認できた。
- 6a層 灰褐色 (5 YR4/2) シルト～細砂質土。暗褐色 (10YR3/4) を呈するマンガンの浸透が見られ、パミスを含む。粘性を少し帯びている。
- 6b層 灰褐色 (5 YR5/2) シルト～細砂質土。暗褐色 (10YR3/4) を呈するマンガンや、褐色 (10YR4/6) の鉄分が浸透している。パミスを含み、やや粘性を帯びている。6a層とは色調が異なる以外はよく類似している。
- 7層 灰褐色 (7.5YR4/2) シルト質層。6b層よりも若干薄い色調を呈する。暗褐色 (10YR3/4) のマンガンの浸透が見られ、パミスをわずかに含む。やや粘性を帯びている。
- 8層 黄灰色 (10YR4/1) シルト質層。マンガンの浸透は見られず、パミスをごくわずかに含む。粘性がやや強い。
- 9層 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質層。黄灰色 (2.5YR5/1) を呈する粒子の細かい砂をブロック状に含む。マンガンの浸透が若干認められ、0.5~1 cm 大のパミスをごくわずかに含む。褐色 (10YR4/4) の鉄分を含み、やや粘性を帯びる。
- 10層 灰褐色 (7.5YR4/2) を基調とし褐色 (10YR4/4) が混ざるシルト質層。0.5~1 cm 大のパミスをまれに含み、粘性を帯びている。
- 11層 褐灰色 (10YR4/1) のシルト粗砂 (2 mm 大) 混じりの層である。粘性を帯びている。
- 12層 暗灰黄色 (2.5YR5/2) 粗砂層。0.5~1 cm 大のパミスを含む。
- ①層 黒褐色 (2.5YR3/1) 粗砂層。0.5~1 cm 大の輕石を多く含む。
- ②層 灰黄褐色 (10YR4/2) を呈し、パミスの含み方などは 10 層に類似する。
- 13層 黒色 (5 YR1.7/1) を呈する粘性のある泥炭層。アシ・ヨシ系の植物繊維を含む。
- 14層 オリーブ黒色 (5 Y3/2) を呈する粘性のある泥炭層。アシ・ヨシ系の植物繊維を含む。
- 15層 オリーブ黒色 (5 Y2/2) を呈する粘性のある泥炭層。アシ・ヨシ系の植物繊維を含む。
- 16層 オリーブ黒色 (5 Y3/1) を呈する粘性のある泥炭層。アシ・ヨシ系の植物繊維を含む。
- 17層 北側では黄褐色 (10YR5/6) を、南側では青灰色 (5 GB6/1) を呈する粗砂層。下方ほどパミスを多く含み、その大きさは 5 cm 大である。全体に植物繊維状のものを含む。

1層～11層までは粒子の大きさ、粘性、鉄分やマンガンの浸透の状態から水田層であると考えられる。ブ

ラント・オパール定量分析からもこのことは裏付けられるといえる⁽¹⁾。

13層から16層までは泥炭層である。これらの層が形成された時、この地点は後背湿地であったことがわかる。なお、13層以下から遺物は出土しなかつた。

註

(1) 亜章に報告。

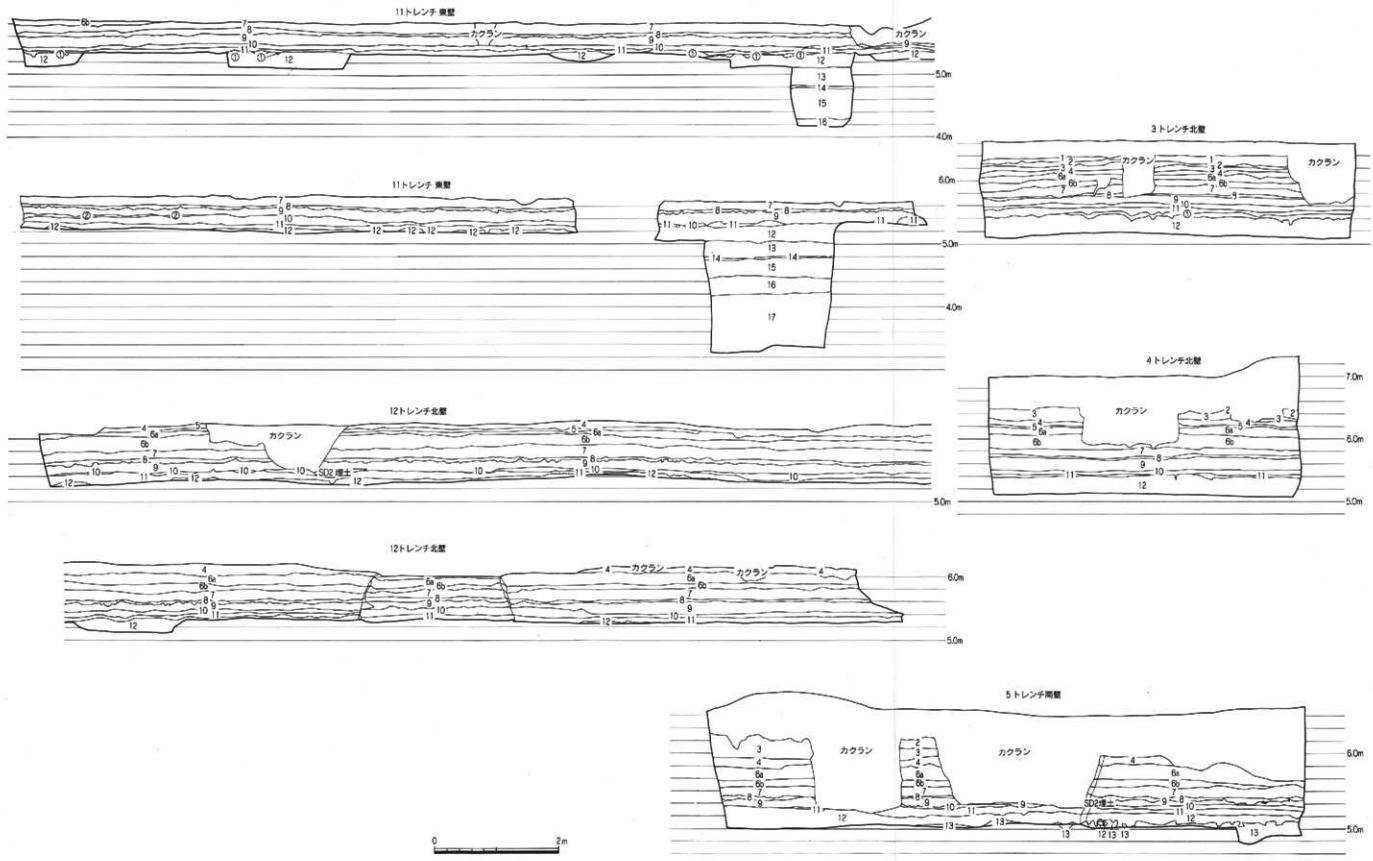


Fig. 5 層位断面図 S = 1/60

Ⅴ 遺構と遺構出土の遺物

本調査区で検出された遺構としては、溝状遺構が3条 (SD1~3), 畦が3本 (AZ1~3), 土壙が2基 (SK2・3) ある (Fig. 6)。SK1とした土壙については調査の結果、カクランであることがわかつたため削除した。

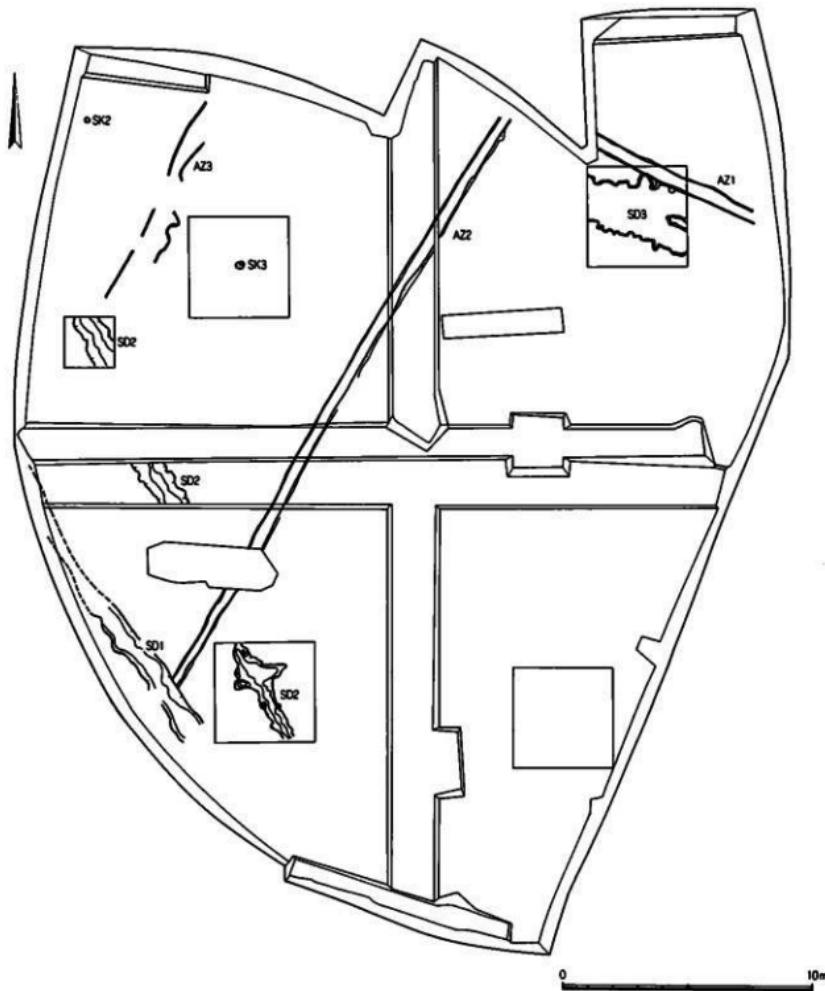


Fig. 6 遺構平面図 S = 1/200

畦が検出されたことから、水田を遺構として確認することができたことになる。土層観察やプランツ・オ・パールの分析結果を総合すると、畦が検出された層以外でも水田耕作が行われたと推定できることから、本地点は連續的に水田として利用されてきた遺跡であるといえる。

1. 2層検出の遺構

SD1 (Fig. 7)

調査区南西部の2層上面で検出した。北西から南東に向かって傾斜し、南端はごみ穴によって切られている。埋土は砂で、遺物はほとんど出土していない。検出した長さは約5.5m、最大幅1.18m、最小幅0.9m、平均幅1.0m、平均の深さ0.17mである。

2. 5層検出の遺構

SK2 (Fig. 8)

5層上面で検出した。埋土は4層の土である。長径0.5m、短径0.43mで、深さ0.08mを測る。遺物の出土はなく、土壤の性格は不明である。

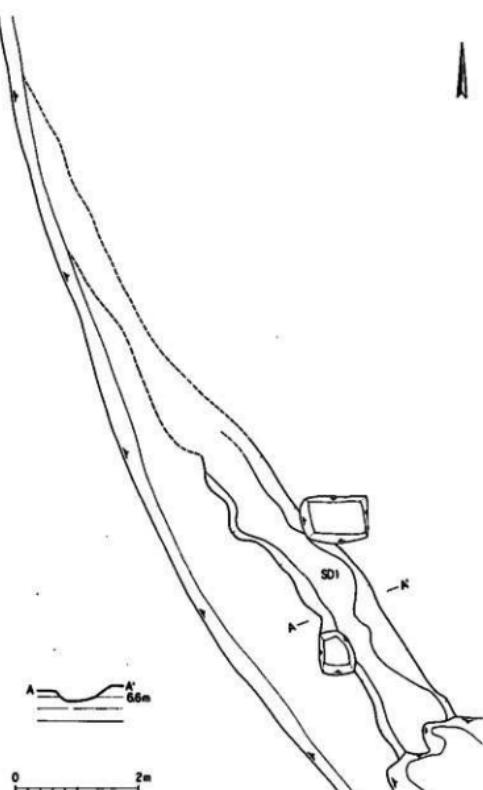


Fig. 7 2層上面検出遺構 SD1 S = 1/80

3. 6a層検出の遺構 (Fig. 9)

全部で3本の畦を検出した。畦1は北西 - 南東方向で、畦2・3はそれと直行するように、北東 - 南西方向に延びている。

AZ1

北西 - 南東方向で、長さ7.3mにわたって検出した。幅は平均で0.48m、高さは平均で0.04mである。

AZ2

北東 - 南西方向に、長さ約264mにわたって検出された。幅は平均で0.41m、高さは平均で0.05mを測る。3本の畦のうちもっとも残りが多い。

AZ3

AZ2と同様、北東 - 南西方向に、長さ18.6mにわたって検出された。残りは良くないが、幅約0.7m、高さ約0.03mを測る。

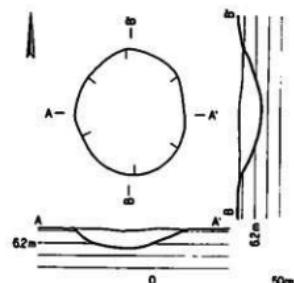


Fig. 8 5層上面検出遺構 SK2 S = 1/20



Fig. 9 6a層上面検出遺構 AZ1-2-3 平面 : S = 1/80 断面 : S = 1/20

0 10m

0 1m

D D' 60m

C C' 60m

A A' 60m

B B' 60m

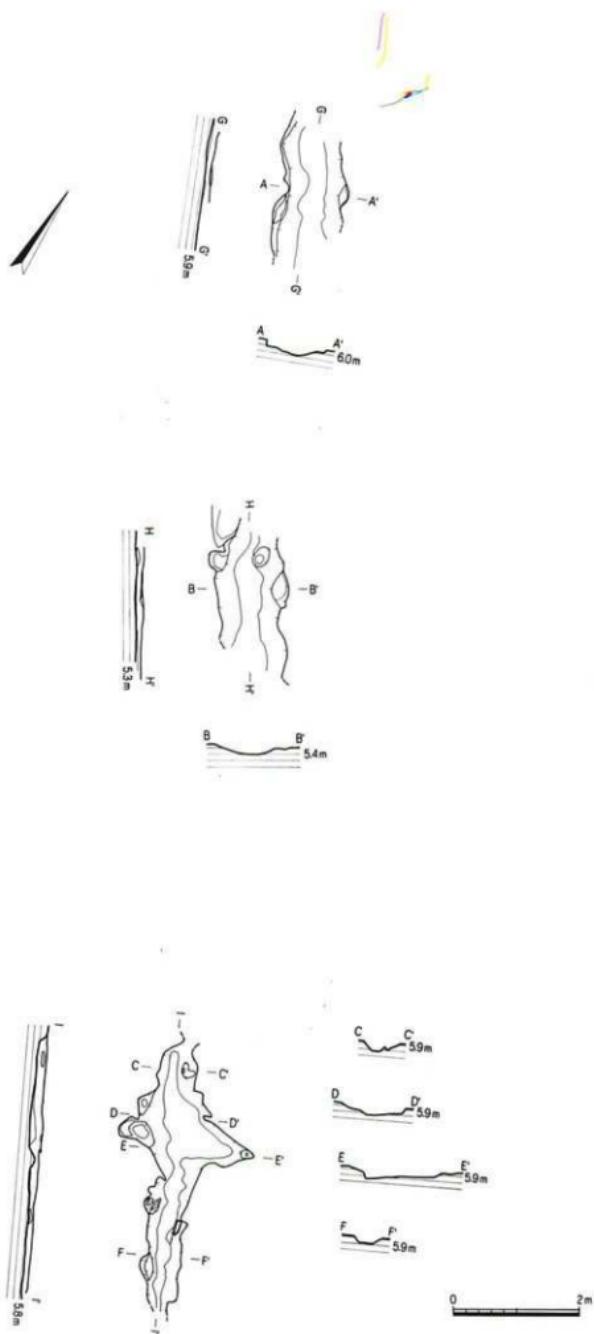


Fig. 10 9層検出構造 SD2 S = 1/80

跡が検出された6a層は出土遺物の検討から、江戸時代に比定できると考えられる。畦の形態がよく整つており、また、AZ1とAZ2・3が直行していることなどから、当時、整然と区画された水田が作られていたことが想定できる。

AZ2とAZ3の間は約10mあり、AZ2の南東側にAZ2・3と平行する畦は確認されていない。このため、AZ2の南東側に位置する畦があるとすれば、それは調査区外に存在することになる。そしてその畦までの距離は16m以上はあったということになり、畦による区画の幅は一定ではないということがわかる。ところで、溝の流れた方向が推定できるものについては北西—南東であることから、当時、地形は調査区の北西側が高く、南東方向に向かって低くなっていたと考えられる。畦が等間隔でないのは、当時の地形の影響を受けているためだと考えられ、AZ2とAZ3の間はもともとAZ2の南東側に比べて傾斜が急であったことが想定できる。

4. 9層検出の遺構

SD2 (Fig.10)

12トレンチ西側の9層を掘り下げる過程で検出した。溝の方向を確認するため、溝の延長と予想される部分に、6・9トレンチを設定して掘り下げたところ、いずれからも溝の続縫が検出された。その結果SD2は北西から南東にほぼ直流していたことが明らかになった。埋土は細砂である。3ヶ所のトレンチにより溝の長さは18.7m以上あつたことがわかる。最大幅は2.25m、最小幅は0.5m、平均の幅は1.15m、深さは平均で0.15mである。

出土した遺物はいずれも土師器あるいは素焼き土器で、埋土中から1点、溝底から3点が出土している。そのうちの1点はFig.25-299番の土解器と接合した。いずれも小破片であるため、299番と接合した資料以外の実測はできなかつた。なお、この土師器は平安時代のものと考えられることから、SD2についてもこれに近い時期を想定できる。

SD3 (Fig.11)

調査区北東部の8トレンチ内において9層を掘り下げる過程で検出した。東西方向に延びると考えられるが、溝底部のレベルはほとんど同じであることから、溝の流れていた方向を決定することはできない。埋土は砂である。検出した長さは3.6m、最大幅2.9m、最小幅1.85m、平均の幅は2.35mで、深さは0.02mと非常に浅い。

遺物は埋土中から2点出土しており、1点は土師器、もう1点は素焼き土器である。いずれも小破片であるため実測することはできなかつた。

5. 12層検出の遺構

SK3 (Fig.6)

12層上面で検出した。長径0.35m、短径0.35m、深さ0.21mを測る。遺物の出土ではなく、土壤の性格は不明である。

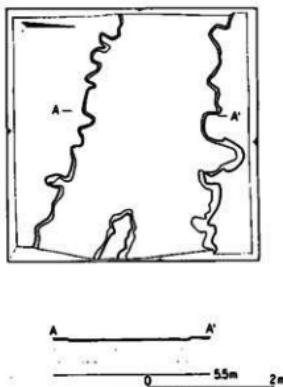


Fig.11 9層検出遺構 SD3 S = 1/80

IV 包含層出土の遺物

各包含層について、遺物の種別ごとに分布図を作成した (Fig.28~Fig.40)。色とマークの凡例は Fig.28 のとおりである。

全体を通して見てみると、上部の層では磁器、陶器などが多いが、中部～下部の層では土師器や素焼きの土器が多くなることがわかる。

まず、各包含層ごとの遺物分布図について触れ、次に、個々の遺物について述べる⁽¹⁾。遺物は基本的に磁器、陶器、須恵器、土師器、「成川式」土器、弥生土器、土製品、石製品の順に配列した。

なお、以下の点を留意事項として記しておく。

・本調査区は大雨により数度にわたって全体が水没したため、調査区の断面に残るごみ穴からの落ち込みや、調査区外からの流れ込みなど二次的な遺物が含まれてしまった可能性がある。

・1・5層は調査区の一部で確認された層であり、それらの層の分布図には偏りがある。また、8層以下はトレンチ内のみからの出土である。

・分布図に用いた素焼き土器は縄文土器、弥生土器、「成川式」土器、土師器（古墳時代の土師器は含まれない）のいずれであるのかが不明なものである。

・「成川式」土器は古墳時代の土器という意味で用いることにした。中津野式（弥生時代終末期に併行する）とはつきりわかる場合は弥生土器としたが、不明瞭なものについては「成川式」土器に含めた可能性がある。

1. 1層出土の遺物 (Fig.12)

磁器や陶器の他、ガラスなど総数で約10点が出土している。出土点数が少ないので1層が確認された範囲がわずかであることにもよると考えられる。

1は白磁の皿である。口縁端部はやや外方に開く。2・3は白磁の杯でいずれも口縁部を欠く。高台の下端部は無釉である。4は染付の碗と考えられる。

5は陶器（薩摩焼）の徳利の口縁部と考えられる。口縁部上端は無釉である。6は陶器の鉢で、外面は風化しているが施されている釉は褐釉と思われる。内面および底面は無釉である。

7は土師器の杯で、焼成前に半裁している。糸切り底である。

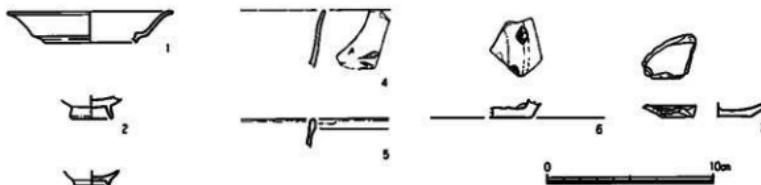


Fig. 12 1層出土の遺物 S = 1/3

2. 2層出土の遺物 (Fig.13)

磁器、陶器、素焼き土器など、総数約50点が出土している。

8は磁器の杯で、口縁端部付近で外方にやや屈曲する。暗青灰色と明赤褐色の2色で模様が施されている。高台盤付部は無釉である。9は白磁の碗である。10は染付の碗である。外面に蝶の文様を描いている。11は染付の碗である。12は染付の皿である。部分的に口縁部を外側から内側に少し押しつけて屈曲させている。外面には貫入が見られる。13・14は染付の碗である。外面と内面に貫入が見られる。15は白磁の瓶と考えられる。16は磁器の碗である。内面見込みには蛇の目状に輪を搔き取った部分がある。また、高台盤付部も無釉である。17は磁器の碗と考えられる。呉須・緑灰色・灰白色、3色で模様が施されている。高

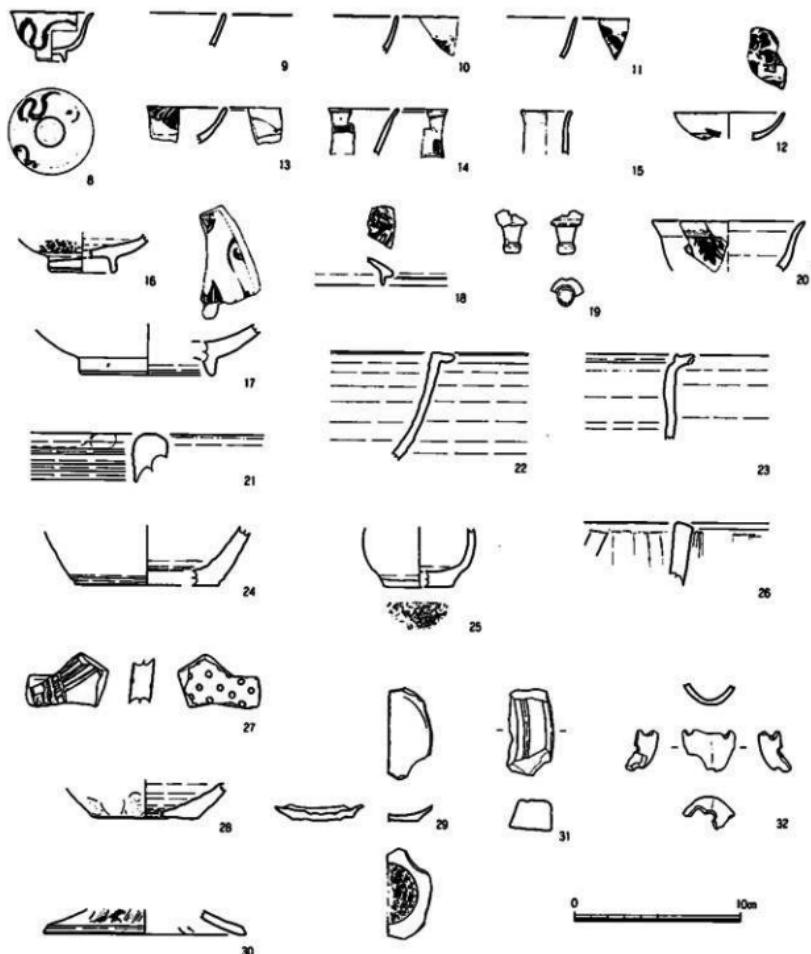


Fig. 13 2層出土の遺物 S = 1 / 3

台の疊付部は無釉である。18は染付の蓋である。かえりの外面は無釉である。19は磁器の脚である。上部に直径約5 mmの穿孔がある。穿孔部から上部と、下端部には施釉されている。

20は陶器の碗である。外面に細かい貫入が見られる。21は陶器の甕と考えられる。内面には数条のくぼみが見られ、内外面とも鉄釉が施されているが、上端部は無釉である。22は陶器の鉢である。整形の際の凹凸が明瞭に残っており、外面には鉄釉が施される。23は陶器の甕であり、かなり風化しているが、全体に鉄釉が施されている。胴部にゆがみがある。24は陶器の鉢である。外面は回転ヘラケズリ、内面にのみ緑灰色の釉が施される。

25は磁器の杯と考えられる。器表は風化しているが、褐釉が施され、底部付近から底面は無釉、糸切り底である。

26は素焼き土器で器種は不明であるが、口縁部であると考えた。内外面とも工具によるナデによって調整されている。

27は陶器であるが、内面に溝が刻まれていることから擂鉢であると考えた。外面には円形の刺突が多数施されている。

28は土師器の杯で、内面には整形時の凹凸が明瞭に残る。おそらく糸切りである。29は土師器の皿である。焼成前に半裁されている。

30は「成川式」土器の高杯の脚部で、脚端部はわずかにくぼんでいる。赤色顔料がわずかに残っている。

31の器種は不明である。内側と下側は接合面である可能性がある。32は土製の鉢であると考えられる。直径約6 mmの円孔が遺存部分だけについても5カ所確認できる。

3. 3層出土の遺物 (Fig.14・15)

陶器が多く見られる他、磁器、土師器なども比較的多く含まれる。打製石鎌、薺きようなどもあり、総数で約50点が出土している。

33は白磁であるが器種は不明である。脚端部は無釉である。34・35は染付であるが器種は不明である。36は陶器の浅鉢と考えられ打刷毛の技法が見られる。施されている釉は褐釉であると考えられる。37は陶器の小鉢ではないかと考えられる。口縁端部の外面が肥厚している。38は陶器（薩摩焼）の茶家本体の口縁部である。黒釉が施され口縁上端部は無釉である。39も陶器（薩摩焼）の茶家本体の口縁部である。黒釉が施されるが、口縁内側の一部は釉が拭き取られている。40は陶器であるが器種は不明である。施された釉は鉄釉と考えられるが口縁上端部は無釉で、外面には貫入が見られる。41は陶器の碗であると考えられ、黒釉が施されている。42は陶器の皿と考えられる。施されている釉は褐釉と考えられるが、外面は無釉である。43は陶器の擂鉢の口縁付近である。釉はかなり風化している。44は陶器の皿である。目跡には1 mm大の砂目が残っている。45は陶器の鉢の底部と考えられる。内面には砂目が残っている。46は陶器の碗で、鉛釉が施される。見込みには釉を剥ぎ取った跡が残るが、砂目は見られない。高台～底部は無釉である。47は陶器（薩摩焼）の小燈である。見込み中心部には中央に穴をあけた半円錐形の粘土を接合している。脚部中央には円錐形の穴があけられている。褐釉が施され、脚部は無釉である。48は陶器の小型釜と考えられる。外面にはヘラケズリによる後線が明瞭に残っている。透明釉が施されるが、受け部上面から内面にかけては無釉である。49は陶器の茶家（琉球系瓈瑪組茶家）の蓋である。沈線で描かれた円と星形部分の外枠は眞須で、星形の内側は茶色の顔料で彩色されている。50は陶器の擂鉢の底部である。外面の溝はかなりシャープな感じを与える。底部外面にはカキメが施されており、器表は風化しているが褐釉が施され、底部は無釉である。51も陶器の擂鉢の底部である。内面の溝は50に比べるとシャープさに欠け、外面にはカキメ状の痕跡が残る。器表は風化しているが褐釉が施され、底部は無釉である。

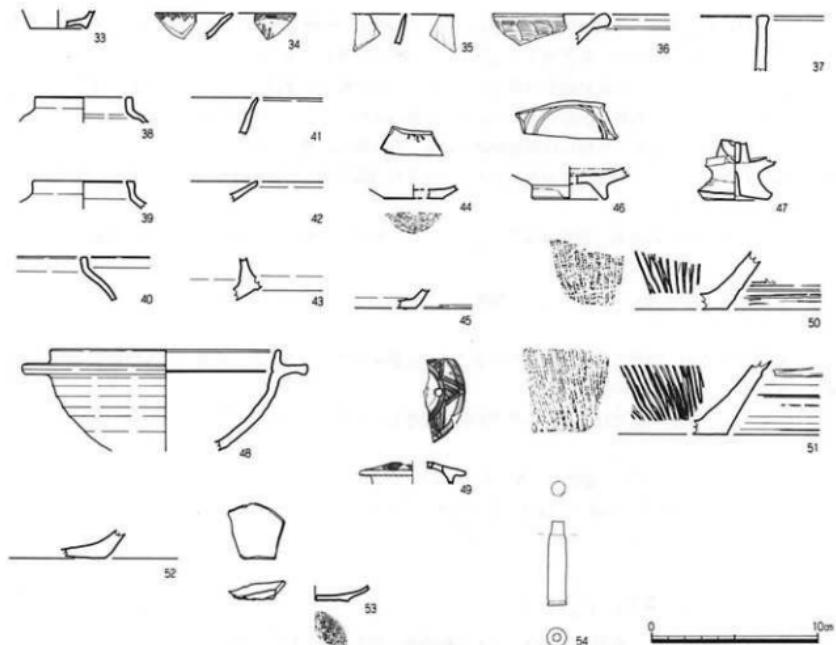


Fig. 14 3層出土の遺物 S = 1 / 3

52は土師器の杯の底部である。53は土師器の杯である。焼成前に半裁しており、底部には糸切りの痕跡が残る。

54は葉きょうである。

Fig.15の55は石鐵で、基部に挿入がある凹基無茎鐵と呼ばれるものである⁽²⁾。先端は欠損しているが、残存部の長さ2.8cm、最大幅2.25cm、厚さ0.55cmを測り、重さは1.92gである。石材は頁岩であると考えられる。刃部中央よりもやや上方に2カ所、わずかな挿りが観察できる。形態的特徴から縄文時代中期以降のものと考えられる。

縄文時代の石鐵については長さ1.0cm~3.0cm、重さ0.5~2.0gのものが多いとされていることから⁽²⁾、本遺跡出土の石鐵は長さ、重さともに上限に近い値となっている。

4. 4層出土の遺物 (Fig.16)

陶器が多く見られ、他に磁器や素焼き土器なども含まれる。陶器に施された釉は、風化したものが多いのがこの層からの出土品の特徴である。総数で約60点が出土している。

56は染付の碗の口縁部である。57は磁器の碗の口縁部である。58は青磁の碗の口縁部である。59は白磁

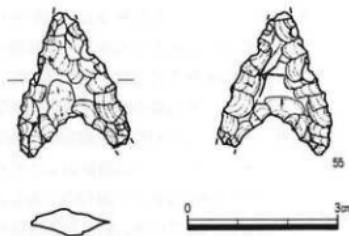


Fig. 15 3層出土の石鐵 S = 1 / 1

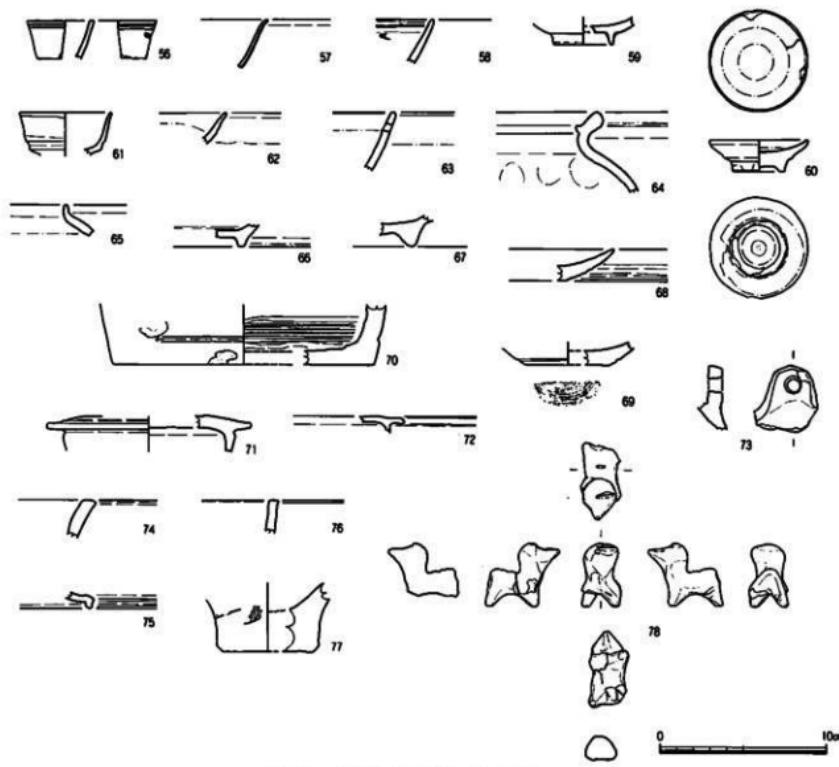


Fig. 16 4層出土の遺物 S = 1/3

の碗の底部である。高台下端付近は無釉である。

60は陶器（薩摩焼-龍門司系二彩灰褐釉）の杯である。見込みには蛇の目状に釉を書き取った部分があるが、目砂は残っていない。高台から底部にかけては無釉である。61は陶器の仏飯碗ではないかと考えられる。62は陶器（薩摩焼-龍門司系二彩灰褐釉）の碗または杯であると考えられる。63は陶器であるが器種は不明である。口縁端部付近のみ内外とも施釉されているが、風化している。口縁部の下に外側から内側への穿孔がある。外面の穿孔部の周りには剥離した痕跡があることから、突起物状のものが付いていた可能性がある。64は陶器の甕の口縁～肩部である。口縁端部に胎土が付着し、内面にも一部釉が付着している。器表は風化している。65は陶器の壺あるいは茶家の口縁部である。器表は風化しているが、施された釉は黒釉と思われる。口縁上端部と内面下方は無釉である。66は陶器の碗の底部である。黒釉が施され、貫入が見られる。内面と高台下端部は無釉である。67は陶器で器種は不明であるが脚部である。脚は半球形状を呈する。おそらく褐釉が施され、底部の外面のみ無釉である。68は陶器の皿である。施された釉は綠釉と考えられる。内面底部付近と外面は無釉であるが、外面は部分的に釉が流れたように付着している。69は陶器の皿で器表は風化している。内面に施釉されており、底部には糸切りの痕跡が残る。70は陶器の甕である。底部付近の外面の一部に1条の沈線が見られ、底部外面の数カ所に胎土が付着している。器表

はかなり風化している。外面には釉が施され、底部の内外面は無釉であるが、部分的に釉が付着している。71は陶器の茶家の蓋である。天井部にのみ施された釉は黒釉と考えられる。72は陶器の蓋である。天井部にのみおそらく褐釉が施されている。73は陶器の茶家の釣り手掛で器表は風化している。内面のみ無釉で、他はすべておそらく黒釉が施されている。

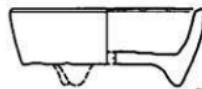
74は須恵器の壺の口縁部であると考えられる。75は須恵器の蓋である。

76は壺の口縁と考えられる。77は弥生土器の壺の底部である。外面にはハケメの痕跡がわずかに残っている。底部内面には炭化物が付着し、黒色を呈している。

78は犬形の土製品である。耳や目などは表現されていない。このような土製品は中世末～近世初頭にほぼ全国的に見られ、安産祈願などの土俗的な信仰にかかる呪具と考えられる⁽³⁾。

5. 5層出土の遺物 (Fig.17)

素焼き土器など約10点が出土している。5層が確認されたのは調査区北半分のみであるので、分布状況と矛盾はしていない。



0 10cm

Fig. 17 5層出土の遺物 S = 1/3

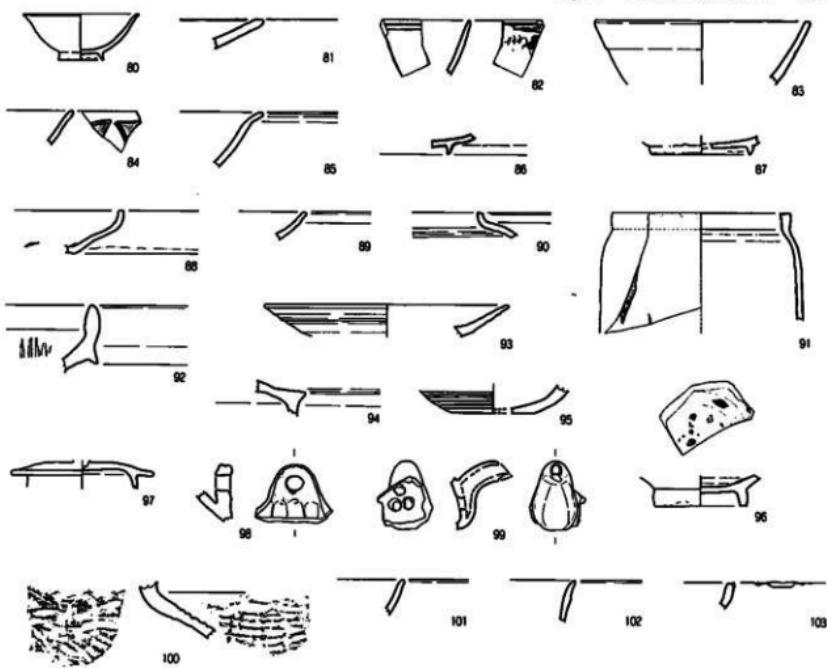


Fig. 18 6a層出土の遺物 (1) S = 1/3

79は脚付の杯である。脚は現在1個しか残っていないが、取り付けの痕跡などから、もともとは3カ所付いていたことがわかる。脚を取り付けた部分には接合しやすくするために、刻み目が施されている。

6. 6a層出土の遺物 (Fig.18・19)

素焼き土器が圧倒的に多くなる。他に、磁器、陶器、須恵器、土師器なども少量ではあるが含まれる。総数で約400点が出土している。

80は白磁の杯である。口縁端部付近でわずかに外方に屈曲する。高台下端部のみ無釉である。81は磁器であるが器種は不明である。鉛釉が施され、口唇部は浅く刺突されている。82は染付の碗の口縁部である。83は青磁碗の口縁部である。内外面ともに貢入が見られる。84も青磁の碗で蓮弁が見られる。85は青磁の碗の口縁部であるが、釉の色は非常に薄い。86は白磁の皿である。高台の下端と内側は無釉である。87は磁器の皿と思われる。高台の下端は無釉である。

88は陶器の皿と考えられる。体部中央で外方に屈曲し口縁部付近で上方に立ち上がる。透明釉が施され、内外面には貢入が見られ、底部は無釉である。89は陶器の皿と考えられ黒釉が施される。90は陶器の茶葉と考えられ、褐釉が施されている。口縁上端部は無釉である。91は蓋と考えられる。具須で模様が描かれ透明釉が施される。内外面に貢入があり、口縁端部の一部は無釉である。92は陶器の擂鉢の口縁部である。器表は風化しているが、黒釉が施されている。内面は無釉である。93は陶器の皿で、透明釉が施されている。94は陶器の蓋で、外面の釉は風化している。95は陶器の杯である。外面にはカキメが施され、底部外

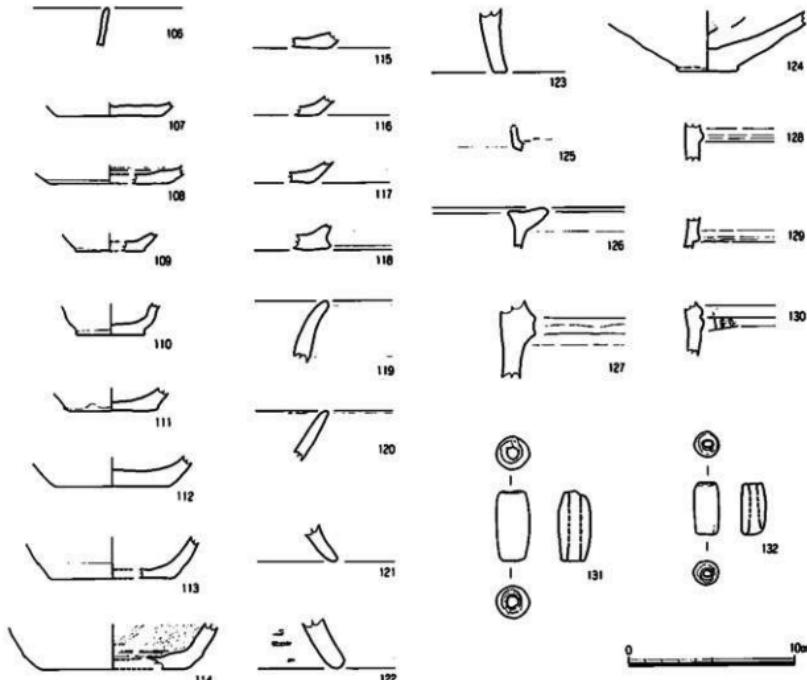


Fig. 19 6a層出土の遺物 (2) S = 1/3

面には部分的に炭が付着している。器表は風化しているが、おそらく黒釉が施されている。96は陶器の碗の底部である。見込みの内部には釉や胎土が付着している。透明釉が施され、高台の下端は無釉である。97は陶器（薩摩焼）の茶家の蓋である。天井部にのみ褐釉が施されている。98は陶器（薩摩焼）の茶家の釣り手掛である。下方には茶家本体と接合する際に付いたと思われるユビオサエの痕跡が残る。内面は無釉であるが、他はすべて黒釉が施されていると思われるが器表は風化している。99は陶器（薩摩焼）の茶家の注ぎ口である。おそらく褐釉が施され、内面は無釉である。

100は須恵器の壺の頸部から肩部である。酸化焰焼成になっている。101は須恵器の口縁部である。器種は不明であるが、壺の口縁かもしれない。102・103は須恵器であるが器種は不明である。104は須恵器の杯である。中村浩氏による編年⁽⁴⁾の壺型式に相当すると考えられる。105は須恵器の蓋のつまみ部である。中村編年の壺型式に相当すると考えられる。

106は土師器の碗の口縁部である。107は土師器の皿であると考えられ、糸切り底である。108は土師器の杯であると考えられる。109は土師器の小型皿で、糸切り底である。110は土師器であるが器種は不明である。111は土師器の杯か皿である。112・113は土師器の皿と考えられる。114は内黒土師器の碗である。内面はヘラミガキ、底部外面の一部にススが付着している。115・116は土師器の杯または皿の底部である。117は土師器の杯と考えられる。118は土師器の碗の底部である。

119は壺の口縁部である。120は壺の口縁部である。121・122は壺の脚部である。123は「成川式」土器の壺の脚部である。124は「成川式」土器の壺の底部である。底部はわずかに段を形成しており、底部の形態はほぼ平底である。内外面ともにハケメがわずかに残っている。125は「成川式」土器の壺または壺の脚部であると考えられる。126は弥生土器（黒變式）の壺の口縁部である。127は弥生土器の大型壺の突帯部である。突帯はM字状を呈し、ヨコナデで調整している。128は壺または壺の突帯部である。129は壺の突帯部である。突帯の下方では、器壁がかなり薄くなっている。130は壺の突帯である。少なくとも2条以上あつたことがわかる。

131・132は土縫である。いずれも紐ずれと考えられる痕跡が残っている。

7. 6b層出土の遺物 (Fig20・21・22)

素焼き土器が圧倒的に多い。その他に、磁器、須恵器、「成川式」土器、土製品なども見られる。総数で約800点が出土している。

133は白磁であるが器種は不明である。134は白磁の皿で、外面に整形時の縫が残っている。135は白磁の碗であると考えられる。口縁は波状を呈し、内外面に貫入が認められる。136は磁器であるが器種は不明である。口縁端部付近のみ施釉されている。137は青磁の皿と考えられる。内外面に貫入が見られる。138は磁器の碗である。高台疊付部～高台内部は無釉である。139は青磁の碗と考えられる。内面見込みに蛇の目状に釉を拭き取った部分がある。高台疊付部～高台内部は無釉である。底部はかなり厚く、高台の見かけの高さは1.5cmほどもある。内外面に貫入が見られる。140は青磁の碗であり、底部内面で屈曲している。外面には縱方向に連弁の縞が見られる。高台内部は無釉である。

141は陶器の壺である。肩部にはカキメが施され、口縁部上端面の釉は拭き取られている。器表は風化のため白濁している。

142は須恵器であるが器種は不明である。

143は陶器の鉢の底部である。144は陶器の碗である。削り出しの高台を有し、高台疊付の付近は無釉である。底部はかなり薄い。

145は須恵器の杯の口縁部である。口縁端部付近の外面は少しくぼんでいる。146は須恵器の壺の口縁部

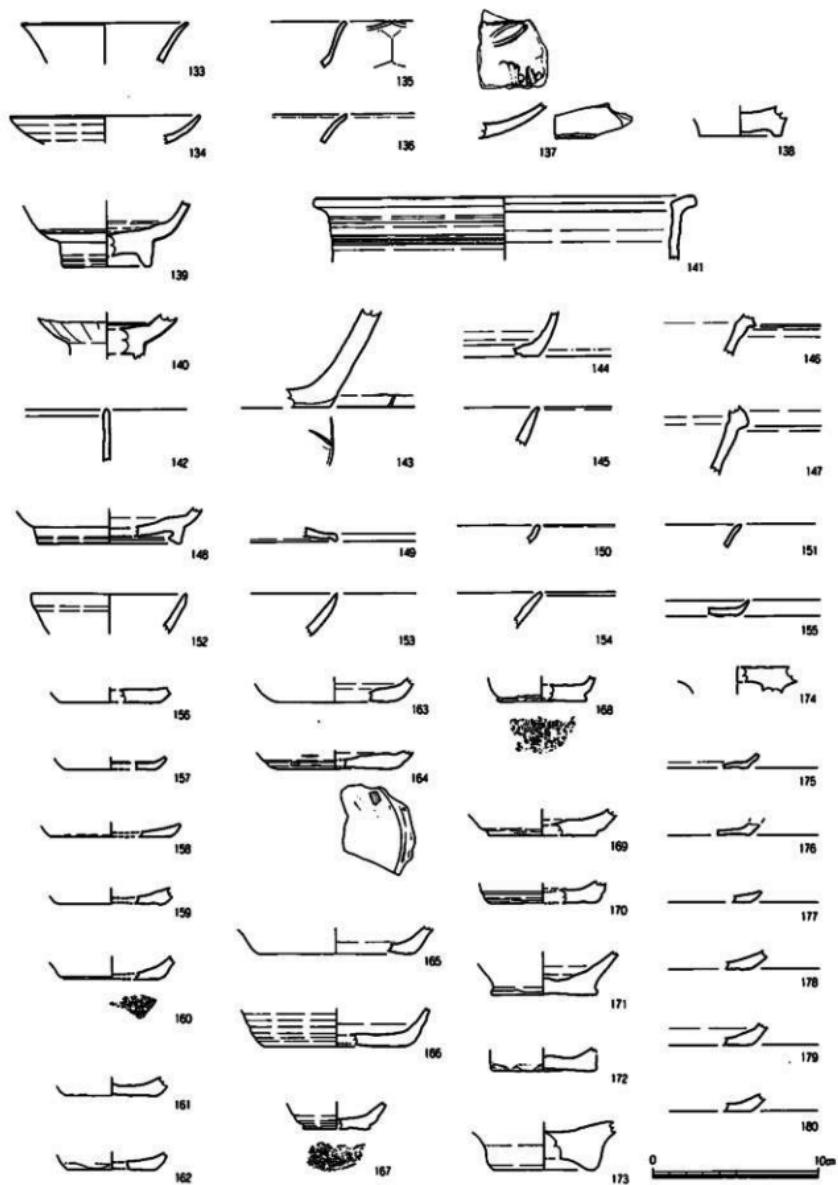


Fig. 20 6b層出土の遺物 (1) S = 1/3

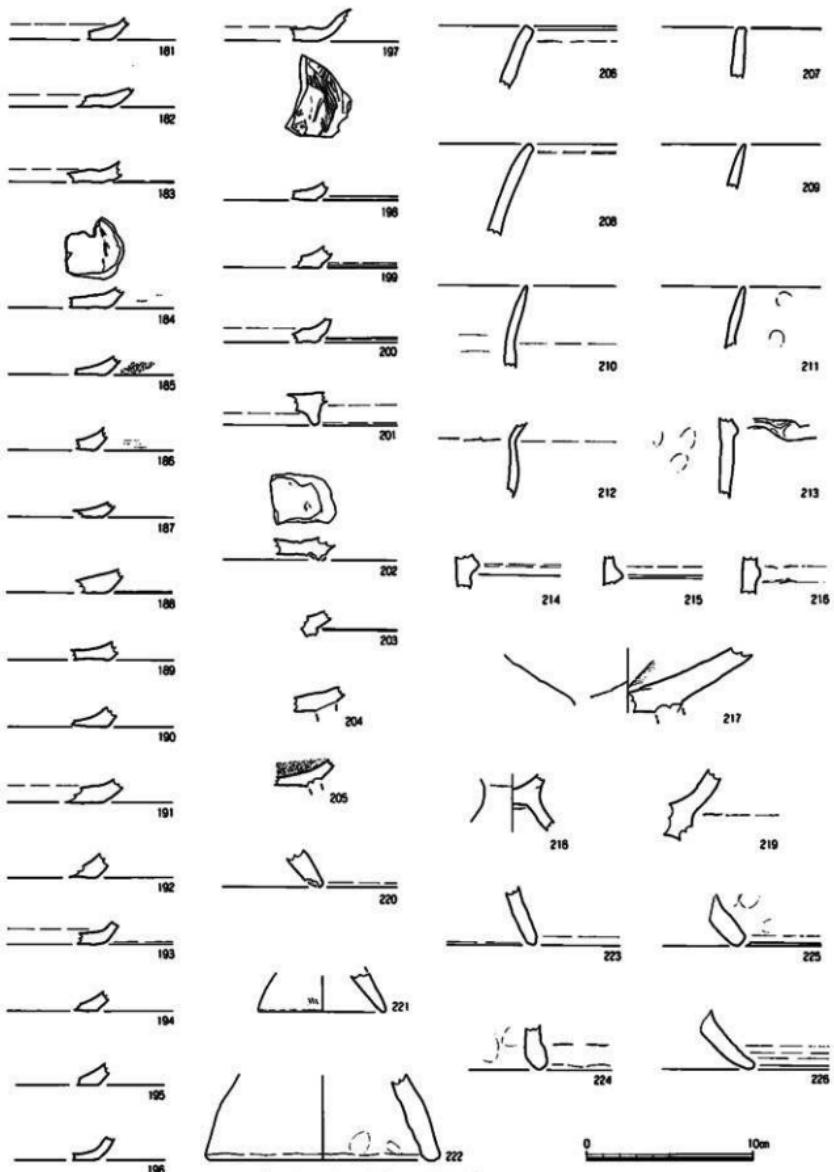


Fig. 21 6b層出土の遺物 (2) S = 1/3

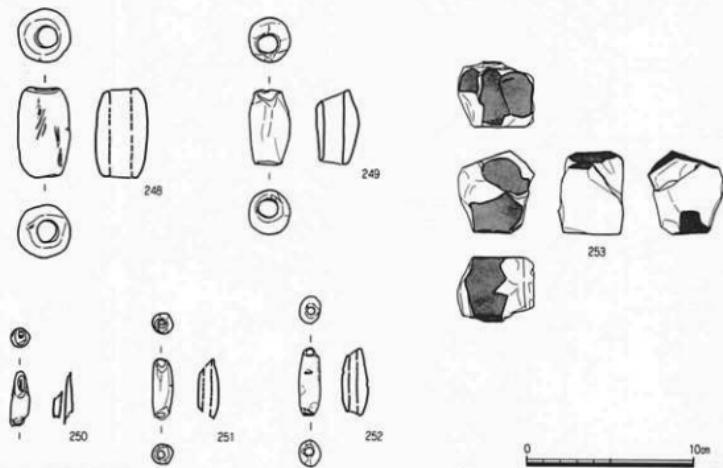
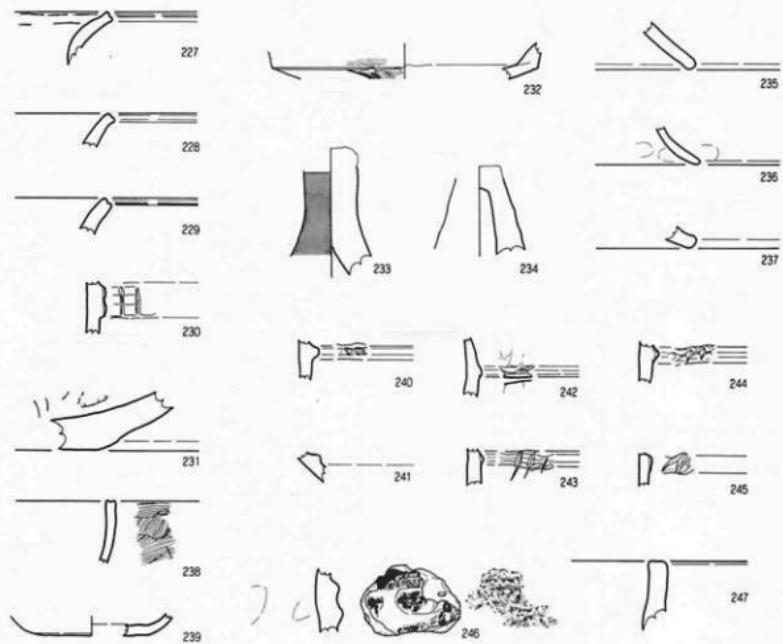


Fig. 22 6b層出土の遺物 (3) S = 1/3

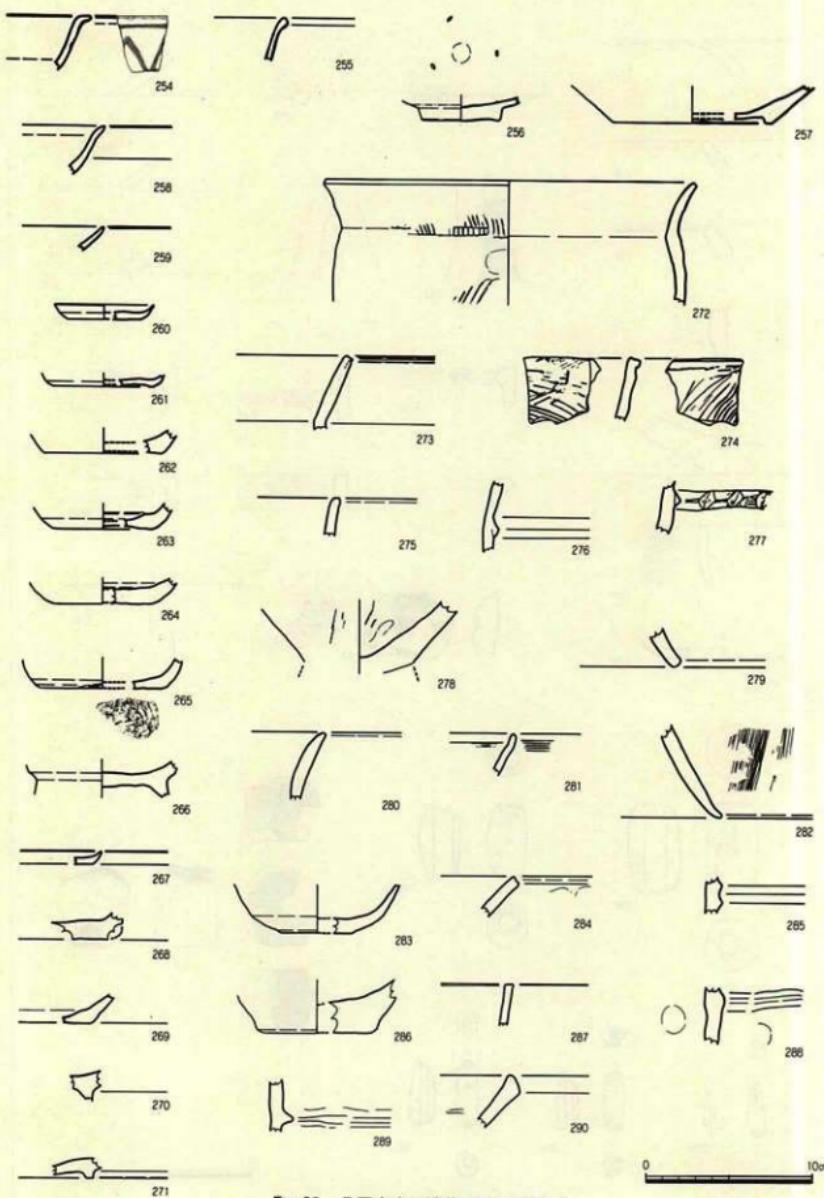


Fig. 23 7層出土の遺物 S = 1/3

であるが、口縁端部は欠損している。内外面ともに自然釉がかかっている。147は須恵器の甌の口縁部であるが、口縁端部は欠損している。口縁端部付近に自然釉が付着している。148は須恵器の杯の底部である。高台が内側に曲がっている。149は須恵器の蓋である。

150・151は土師器の皿あるいは杯であると考えられるが、小破片のため断定することはできない。152は土師器の碗である。口縁部の外面は上方に屈曲している。153は土師器の杯である。154は土師器の杯であると考えられる。155は土師器の皿で、糸切り底である。156は土師器の皿あるいは杯と考えられる。157は土師器の皿で、内外面に赤色顔料が見られる。158は土師器の皿で、糸切り底である。159は土師器の皿あるいは杯と考えられる。160は土師器の皿の底部で、糸切り底である。161は土師器の皿または杯と考えられ、底部はヘラ切りである。162は土師器の皿または杯である。163は土師器の杯と考えられる。164は土師器の杯と考えられる。底部外面と体部外面の一部に赤色顔料が見られる。165は土師器の皿または杯である。166は土師器の皿または杯である。他の土師器に比べやや赤みがかっていて、堅い感じを受ける。ヘラ切り底のようである。167は土師器の碗と考えられる。底部に段を有し、見かけ上の充実高台を形成している。糸切り底である。168は土師器の碗と考えられる。底部には高さ0.4cmほどの段を有しており、見かけ上、充実高台となっている。糸切り底である。169は土師器の杯または碗である。底部は高さ0.3cmほどの段を有しており、見かけ上の充実高台となっている。糸切り底である。170は土師器の杯または碗である。底部には高さ0.5cmほどの段があり、見かけ上の充実高台となっている。外面の一部に赤色顔料が見られる。糸切り底である。171は土師器の碗である。底部はすべて遺存している。底部には高さ0.4cmの段があり、見かけ上の充実高台となっている。172は土師器の杯または碗である。173は土師器の碗である。底部内面に黒斑が見られる。174は土師器の碗の底部である。175は土師器の皿である。176は土師器の皿で、糸切り底である。177は土師器の皿である。178は土師器の杯と考えられ、糸切り底である。179は土師器の皿または杯である。180～183は土師器の杯と考えられ、180と182は糸切り底である。184は土師器の杯と考えられる。底部付近の内面と体部の外面に赤色顔料が見られる。185は皿または杯である。外面の一部はやや黒みがかっていて、糸切り底である。186・187は土師器の皿または杯である。188は土師器の杯と考えられる。189・190は土師器の皿または杯である。191は土師器の杯である。192～195は土師器の皿または杯で、194は糸切り底である。196は土師器の皿で、糸切り底である。197は土師器の杯で、ヘラ切り底である。198は土師器の皿または杯で、底部にわずかな段を有する。199は土師器の皿または杯で、糸切り底である。200は土師器の皿と考えられる。201～204は土師器の碗の高台部分である。202は内面に赤色顔料がわずかに見られ、203は高台との接合部分にわずかに赤色顔料が見られる、204は高台が剥がれ落ちている。205は内黒土師器の碗である。ミガキの状態は不明である。高台は欠損している。

206は「成川式」土器の甌である。口縁端部が外方にごくわずかに肥厚している。207は甌の口縁部である。208は「成川式」土器の甌である。209は口縁部であるが器種は不明である。210は「成川式」土器の甌である。211は甌の口縁部と考えられる。212は「成川式」土器の甌の頭部である。213は「成川式」土器の甌の突帯部である。214～216も突帯部であるが器種は不明である。217は「成川式」土器の甌である。脚部は刺離している。218は甌の底部～脚部である。器壁は薄く小型である。219は「成川式」土器の甌である。脚部は刺離している。220・221は甌の脚端部である。222は「成川式」土器の甌の脚端部で、かなり大型である。223～226は甌（226は「成川式」）の脚端部である。225・226は接合面が露出している。227～229は甌の口縁部である。口縁端部がわずかにくぼんでいる。230は「成川式」土器の甌の突帯部である。突帯中央部をくぼませ、ヘラ状工具で突帯と直行に刺突している。いわゆる「幅広突帯」の範疇にはいるものである。231は「成川式」土器の甌の底部である。内面にはハケメの痕跡がわずかに残っている。232は弥生土器の高杯の杯部である。内外面に接合痕が残るがそれらの接合の状態は不明である。233は「成川式」土器の高杯である。脚部上方に横位の沈線が見られるが、杯部接合の目印として施された可能性がある。

る。外面には赤色顔料が塗布されている。234は「成川式」土器の高杯である。上方には杯部との接合面が露出している。235~237は「成川式」土器の高杯の脚端部で、236は薄手である。238は「成川式」土器の壺の口縁部である。口縁端部はわずかにくぼんでいる。239は「成川式」土器の壺の底部と考えられる。内外面に赤色顔料が残っている。240は弥生土器の突帯部である。突帯の先端には刻みが施されている。241は弥生土器の壺の突帯である。242~244は突帯部である。243と244には突帯の上からヘラ状工具による刺突が施されている。とくに243の刺突の痕跡は器壁上にも残っている。245は突帯部である。突帯の上をハケ原体で斜め方向に刺突している。246は布目压痕が残る土器片と考えられる。突帯部分の可能性もあるが断定はできない。247は口縁部の破片であるが器種は不明である。

248~252は土縁で、248は大型、249は中型、他は小型である。248は外面の一部に黒斑が見られる。249・251・252は端部の一部が抉れたりすり減ったりしており、絞ずれの痕跡の可能性がある。

253は表面が滑らかなことから、磁石として用いられていたと判断した。なお、遺存している面は網掛けで示した。

8. 7層出土の遺物 (Fig23)

素焼き土器がやはり多い。その他に、須恵器、土師器、「成川式」土器、弥生土器なども見られる。総数は約300点である。

254は青磁の碗である。口縁端部で外方に屈曲し、外面には片彫りによる連弁文様が施されている。内外面とも買入が見られる。255は青磁の碗である。口縁端部付近でやや外方に屈曲する。内外面に買入が見られる。256は陶器の碗で透明釉が施されている。内面見込みには目跡が3カ所見られる。充実高台の疊付部は無釉である。257は磁器の碗と考えられるが、径が大きいため他の器種の可能性もある。釉は風化している。体部の器壁に比べ底部の器壁が厚いため、見かけ上の高台が形成されている。

258は土師器の碗である。口縁端部が外方にやや屈曲する。外面にススあるいは黒斑が付いている。259は土師器の杯と考えられる。260は土師器の皿で、糸切り底であると考えられる。261は土師器の皿で、糸切り底である。262・263・264は土師器の皿である。265は土師器の皿で、ヘラ切り底である。266は土師器の碗である。267は土師器の皿である。268は土師器であるが器種は不明である。269は土師器の杯で、糸切り底である。270・271は土師器の碗である。

272は「成川式」土器の壺である。口縁部で外方に屈曲し、口縁端部は平坦面を有する。東原式⁽⁶⁾に属すると考えられる。273は壺である。口縁部は外方に屈曲し、口縁端部の先端はわずかにくぼんでいる。中津野式あるいは東原式に属すると考えられる。274は壺である。口縁端部付近の外面には接合痕が見られ、口縁上端部はわずかにくぼんでいる。275は壺の口縁部である。276は「成川式」土器の壺の突帯部である。突帯の上方から器壁は外反している。277は壺の突帯部分である。突帯の上部から斜め方向にハケ工具を押しつけることによって、刻み目突帯としている。278は「成川式」土器の壺である。脚部は刺離しており残っていない。279は「成川式」土器の壺の脚部である。280は「成川式」土器の高杯の口縁部である。281は器種は不明だが口縁部であると思われる。口縁端部付近でわずかに上方に屈曲し、口縁端部は丸みを帯びている。282は「成川式」土器の高杯の脚部である。283は「成川式」土器の壺の底部と考えられる。284は壺の口縁部で、口縁上端部はわずかにくぼんでいる。285は弥生土器の突帯部である。286は弥生土器の壺である。底部にはハケ工具を刺したような直線的なくぼみがあるが、底部にハケを施したのかどうかは不明である。287は壺の口縁部である。288は突帯部分である。突帯はそれほど高くない。289は「成川式」土器の壺の突帯であると思われる。突帯の形状は略三角形を呈する。290は素焼きの土器であるが器種は不明である。

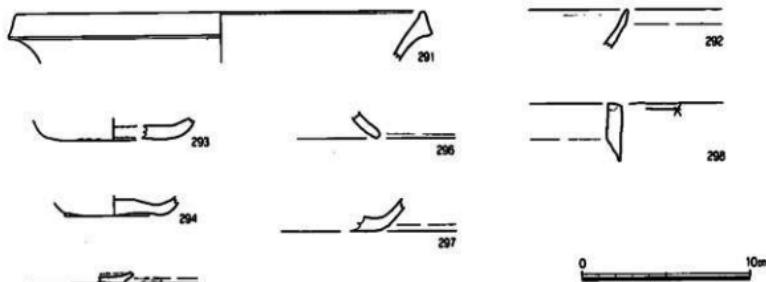


Fig. 24 8層出土の遺物 S = 1/3

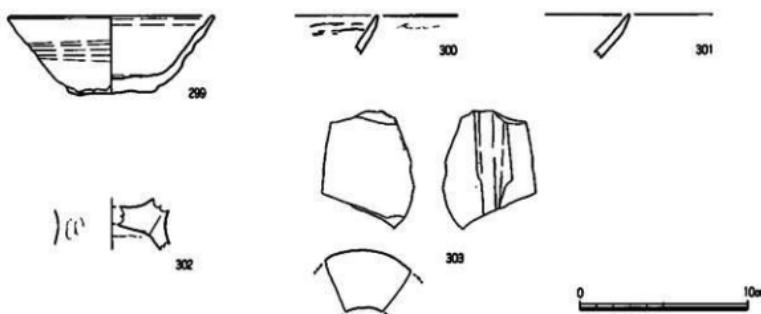


Fig. 25 9層出土の遺物 S = 1/3

9. 8層出土の遺物 (Fig. 24)

素焼き土器の他、陶器、土師器、「成川式」土器など、総数で約10点が出土している。

291は陶器の壺または擂鉢であると考えられる。しかし、残存部では無釉であり、また、内面に溝は見られない。

292は土師器の皿または杯である。293・294は土師器の皿あるいは杯で、糸切り底である。295は土師器の皿である。内外面に赤色顔料が塗布されており、糸切り底である。

296は「成川式」土器の高杯の脚部である。脚端部は丸みを帯びている。297は土師器の杯あるいは「成川式」土器の壺であると考えられる。

298は素焼き土器であるが器種は不明である。下端部は割れているが、その部分の厚さはわずか1mmほどしかない。

10. 9層出土の遺物 (Fig. 25)

素焼き土器の他、土師器、「成川式」土器、弥生土器などが出土している。総数で約25点が出土している。

299は土師器の碗で、復元の結果完全な形を知ることができた。比較的狭い場所からまとめて出土し、割れ口も磨滅していないことから、9層の形成時期を表す資料と考えられる。なお、10層から出土した破

片1点がこの碗に接合した。ロクロ整形の痕跡をよく残している。底部は高さ3~4mmの段を有し、見かけ上の充実高台となっており、底部はヘラ切りである。平安時代のものと考えられる。300は土師器の碗の口縁部である。口縁端部はわずかに平坦面を有する。口縁端部外面に弱い屈曲が見られる。301は土師器の碗の口縁部である。

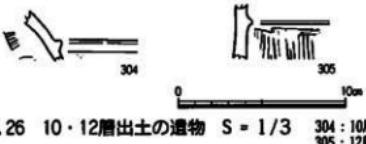
302は甕の底部である。

303は復元すると管状になると、外面にススが付着している部分があることから、フイゴの羽口の破片であると考えた。

11. 10層出土の遺物 (Fig.26)

素焼き土器の他、土師器、弥生土器も見られる。総数は約25点ほどである。

304は甕の突帯部である。突帯は略三角形を呈する。 Fig. 26 10・12層出土の遺物 S = 1/3 304 : 10層
305 : 12層



12. 11層出土の遺物

素焼き土器が2点出土しているが、いずれも小破片のため図化できなかった。

13. 12層出土の遺物 (Fig.26)

素焼き土器が2点出土している。

305は甕の突帯部である。突帯取り付け後タテハケが施されている。

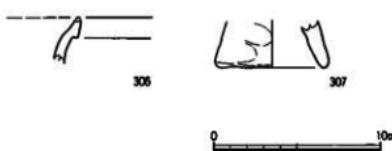


Fig. 27 その他の遺物 S = 1/3

14. その他の遺物 (Fig.27)

306は6層から出土した須恵器の甕の口縁部であると考えられるが、口縁端部は欠損している。

307は廃土中より採集した「成川式」土器の甕の脚部である。

註

(1) 磁器、陶器の説明には、以下の文献等を参考にした。

向田民夫「日本の陶磁9 薩摩」保育社、1978

本田道輝・下山覚編「大龍遺跡 - 大龍小学校校舎改築及び給食室建設に伴う第5次・第6次緊急発掘調査報告書 - 」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(7), 鹿児島市教育委員会, 1986

出口浩編「大龍遺跡 - 大龍小学校体育馆建設工事に伴う第7次緊急発掘調査報告書 - 第1集 歴史時代編 大龍寺跡」鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(15), 鹿児島市教育委員会, 1992

弥栄久志編「鹿児島城二之丸跡(遺物編) - 鹿児島県立図書館・鹿児島県立視聴覚センター建設に伴う発掘調査報告書 - 」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(60), 鹿児島県教育委員会, 1992

矢部良明・水尾比呂志・岡村吉右衛門「日本のやきもの③ 薩摩・民窯」講談社, 1992

上田耕編「南別府城跡 - 城山遺跡 - 」鹿児島県知覧町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集, 鹿児島県知覧町教育委員会, 1993

(2) 鈴木道之助「国錄石器入門辞典 繪文」柏書房, 1991

(3) 蒼宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター「三重県の祭祀遺跡 - まつりのかたちさまざま - 」

蒼宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター, 1994

(4) 中村浩「和泉陶邑窯の研究 - 須恵器生産の基礎的考察 - 」柏書房, 1981

Tab. 3 造物觀察表

番号	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・埴胎	調整・施文	造物 年号	備考
1	皿	完形	1	外面・内面：透明釉。器肉：HueN8/0灰白色		施釉	2	白磁。口径9.90cm。高台径5.56cm(反転復元残存約1/8)、高さ1.83cm
2	杯	体部～ 高台部	1	外面・内面・高台外内面：透明釉。高台疊付部・器内：HueN8/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉。高台疊付部：釉張き取り；調整不明	2	白磁。高台径2.58cm(反転復元残存約1/6)
3	杯	体部～ 高台部	1	外面・内面・高台外内面：透明釉。高台疊付部・器内：HueN7/0灰白色		施釉。高台疊付部：釉張き取り；調整不明	41	白磁。高台径2.10cm(残存約3/4)
4	碗	口縁部	1	外面・内面：透明釉。支様：Hue10BG 6/1青白色。器肉：Hue5YR3/4暗赤褐色		施釉；支様	40	染付
5	籠利？	口縁部	1	外面：Hue7.5YR4/2灰褐色。内面：Hue5YR4/4にない赤褐色に類似。口唇部：Hue5YR5/4にない赤褐色。器内：Hue5YR3/4暗赤褐色	微細粒をわずかに含む。	施釉。口唇部：釉張き取り；ヨコナデ	39	陶器(鹿毫焼)
6	鉢	底部	1	外面・内面一部：Hue7.5Y6/3オーリーブ青色。外面一部・内面：Hue10BG2/1青黑色。器肉外側：HueN3/0暗灰色。内側：HueN5/0灰白色。釉胎？	白透明砂粒・白色細砂紋・黒色微細粒をわずかに含む。	施釉。内面：無釉；回転ナデ。一部釉胎着	46	陶器
7	杯	底部	1	外面・内面・底面：Hue7.5YR8/3外黄褐色。器内：Hue7.5YR8/2灰白色	白色微細粒をわずかに含む。	外側：ナデ。内面：回転ナデ。底面：糸切り痕	44	土器器、焼成前に半分に切斷されている。
8	杯	完形	2	外面・内面・高台外内面：透明釉。器身：Hue5PB3/1暗青灰色に類似。Hue5YR5/6明赤褐色。高台疊付部・器内：Hue10Y8/1灰白色	黒色微細粒をわずかに含む。	施釉；外面文様。高台疊付部：釉張き取り；調整不明	31	磁器
9	碗	口縁部	2	外面・内面：透明釉。器肉：HueN8/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉	51	白磁
10	碗	口縁部	2	外面・内面：透明釉。支様：Hue5PB5/1類似	黒色微細粒をわずかに含む。	施釉；外面繩文	53	染付
11	碗	口縁部	2	外面・内面：Hue5Y7/1灰白色。支様：Hue5B3/1暗青灰色。器肉：HueN7/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉；外面文様	81	染付
12	皿	口縁部	2	外面・内面：Hue5G7/1明緑灰色。支様：口唇部：Hue5PB3/1暗青灰色に類似。器肉：HueN7/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉；外面貢入	49	染付。口径6.65cm(反転復元残存約1/6)
13	碗	口縁部	2	外面・内面：Hue5G7/1明緑灰色。支様：Hue5PB2/1暗青色。器肉：Hue5PB3/1暗青灰色に類似。器肉：HueN8/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉；外面・内面貢入	73	染付
14	碗	口縁部	2	外面・内面：Hue2.5GY8/1灰白色。支様：Hue10BG7/1明青灰色。器肉：HueN8/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉；外面・内面貢入	99	染付
15	瓶	口縁部	2	外面・内面：HueN8/0灰白色。器肉：HueN8/0白色		施釉	33	白磁。口径3.06cm(反転復元残存約1/3)
16	碗	体部～ 高台部	2	外面・内面：透明釉。支様：Hue5PB3/1暗青灰色に類似。内面一部・器内：Hue2.5Y8/2灰白色	晶白色微細粒を若干含む。	施釉。内面見込部一部：釉張き取り；回転ナデ。高台疊付部：釉張き取り；調整不明	32	磁器。高台径4.18cm(反転復元残存約1/3)
17	碗	体部～ 高台部	2	外面・内面・高台内面・器内：HueN8/0灰白色。支様：Hue5PB4/1暗青灰色に類似。Hue10GY5/1暗青色に類似。Hue7.5Y7/2灰白色。高台疊付部：Hue5YR7/6橙色		施釉。高台疊付部：釉張き取り；調整不明	77	磁器。高台径6.18cm(反転復元残存約1/8)
18	蓋	口縁部	2	外面・内面：透明釉。支様：Hue10BG3/1暗青灰色に類似。受部外側・器内：HueN8/0灰白色		施釉。口縁部(受部)外面：釉張き取り；回転ナデ。	95	染付
19	不明	脚部	2	穿孔部以上・下端部：透明釉。支様：Hue7.5YR2/2黒褐色。外面無釉部・器内：HueN8/0灰白色		施釉。無釉部：調整不明。穿孔直径5mm	73	磁器
20	碗	口縁部	2	外面・内面：透明釉。支様：Hue7.5YR3/4暗赤褐色。器肉：Hue5YR3/6橙色。鉄胎	黒色細砂粒をわずかに含む。微細粒を若干含む。	施釉；外面・内面貢入。回転ナデ。口唇部：無縫合	30	陶器。口径9.12cm(反転復元残存約1/8)
21	亮？	口縁部	2	外面・内面：Hue7.5YR2/2黒褐色。口唇部：Hue5YR6/3にない黄色。器肉：Hue5YR7/6橙色。鉄胎	白透明砂粒・細砂粒を含む。	外面・内面：頸部接合部：回転ナデ。口唇部：無縫合	22	陶器
22	鉢	口縁部	2	外面・内面：Hue10YR3/4暗赤褐色。器肉：Hue5YR3/4暗赤褐色。鉄胎	黒色・白色細砂粒を若干含む。	施釉；形に伴う凹凸が鉄歯。口唇部：外へつまみ出し	2017	No 5 トレンチ(西側)、鹿毫焼

番号	器種	部位	出土層	色・調・釉・質	胎土・鉱物	調整・施文	遺物番号	備考
23	碗	口縁部	2	外面・内面：Hue 5Y6/3オリーブ 青色、器内：Hue 5YR5/4にぶい赤 褐色、鉄鉢	灰色砂粒を若干含む。細砂粒を含む。	自然粘がかかるって調整 不明	4	陶器
24	鉢	底部	2	外面：Hue 10YR5/3にぶい黄褐色 色、Hue 2.5Y3/2オリーブ褐色、 底面：Hue 7.5YR3/3暗褐色、器 内：Hue 7.5YR5/2灰褐色	砂粒を若干含む。細砂粒を含む。	施釉、外面：無釉；回 転ヘラケツリ(反時計 まわり)、底面：無釉； 調整不明	112	陶器
25	杯？	体部～ 底部	2	外面：Hue 10YR3/4暗褐色、外 面一部、底面：Hue 10YR8/2灰白色、 内面：Hue 7.5YR2/3暗褐色、器 内：Hue 10YR8/1灰白色、黒釉	黒色・白色微細 砂粒を若干含む。	施釉、外面底部附近： 無釉；調整不明、底面： 無釉；未切り抜	6	粗器、底径4.39cm(反転 復元残存約1/2弱)
26	不明	口・縁 部？	2	外面・口唇部：Hue 10YR5/2灰黃 褐色、内面・器内：Hue 7.5YR6/4 にぶい褐色	白色粗砂粒・赤 色砂粒を若干含む。微 細砂粒をわずかに含む。	外面・内面：工具によ るナデ、外面部上 部・口唇部：ヨコナナ ズ	2017	No5 トレンチ(西側)
27	擂鉢	不明	2	外面：Hue 10YR2/1黑色、H ue 7.5YR6/3にぶい褐色、内面：H ue 5YR6/4にぶい褐色、器内：H ue 5YR6/6褐色	白色砂粒を若干含 む。黑色細砂粒を若干 含む。	外面：円形刻夷文(直 径3mm深さ1mm)、内 面：沈模(幅2mm深さ 1mm)7本?交差して いる。	2017	陶器、No5 トレンチ(西 側)
28	杯	底部	2	外面・内面・器内：Hue 7.5YR7/4 にぶい橙色	白色その他微細 砂粒を若干含む。	外面：ナデ、内面：回 転ナデ、凹凸(波形時) 底面：未切り抜	47	土師器、底径6.40cm(反 転復元残存約1/5)
29	皿	底部?	2	外面・器内・切 断面：Hue 7.5YR6/4浅黄褐色、内面：H ue 7.5YR6/2灰白色	微細砂粒をわずか に含む。	外面・内面：回転ナ デ、底面：未切り抜	61	土師器、焼成前に半分に 切断されている。
30	高杯	脚部	2	外面：Hue 5YR7/4にぶい褐色、内 面：Hue 5YR6/5褐色、赤色顔料部 ：Hue 7.5YR5/0明褐色	黒色・白色・赤 色細砂粒を含む。 微細砂粒を若干 含む。	外面：ハケメ赤色顔 料付、脚部：ヨコナ ズ	58	「成川式」脚部 12.22cm(反転復元残存約1/8)
31	不明	不明	2	外面：Hue 7.5YR7/4浅黄褐色、器 内：Hue 5YR7/6褐色、赤色顔料：H ue 2.5YR5/0明赤褐色	赤色顔料・透明 ・白透明・黒色砂 粒を若干含む。 細砂粒を含む。	上面：回転ナデ、溝(幅 2.5mm深さ0.5mm)、内 面・底面：接合面?	20	
32	土師?		2	外面・内面・器内：Hue 5YR7/3に ぶい橙色	微細	外面：ナデ、径6mmの 穿孔	24	
33	不明	体部～ 高台部	3	外面・内面・高台内面：透明釉、器 内：Hue N8/0灰白色	黒色細砂粒・微 細砂粒をわずかに 含む。	施釉、高台部分部：釉 搔き取り；調整不明	139	白磁、高台径3.36cm(反 転復元残存約1/5)
34	碗?	口縁部	3	外面・内面：透明釉、文様：H ue 5P83/1暗青灰色に紫灰、器内： Hue N7/0灰白色	微細砂粒をわずか に含む。	施釉	109	朱付
35	不明	口縁部	3	外面・内面：Hue 2.5GY6/1オリーブ 灰色、文様：Hue 10BG5/1青灰色、 口番号：Hue 7.5YR4/4褐色、 2/3脚暗褐色、器内：Hue 5P4/1暗 紫灰色	黒色・白色微細 砂粒を若干含む。	施釉	123	朱付
36	浅鉢?	口縁部	3	外面・内面：Hue 10YR2/3褐色 色、Hue 2.5Y6/4にぶい青色、 内面：Hue 5YR2/3暗赤褐色、黒 鉢	白色微細砂粒をわ ずかに含む。	施釉	136	陶器
37	小鉢	口縁部	3	外面・内面：Hue 2.5Y8/2灰褐色、Hue 10YR2/2灰褐色、Hue 10YR2/1灰白色	透明微細砂粒をわ ずかに含む。	施釉	83	陶器(白底摩)
38	茶家	口縁部	3	外面：Hue 10YR2/2暗褐色、内面 ・透明釉、Hue 2.5Y4/3オリーブ 褐色、内面一部・口盤部、器内：H ue 2.5YR4/4にぶい赤褐色、黒 鉢	透明・黒色細砂 粒を若干含む。	施釉、口縁～上端部： 釉搔き取り・調整不 明、口盤部一部： 釉搔き取り・回転ナ デ	72	陶器(黒底摩)、口 径5.80cm(反転復元残存約 1/6)
39	茶家	口縁部	3	外面・口唇部：Hue 10YR3/1黒褐 色、内面：Hue 10YR2/2黒褐色、 内面一部・口盤部、器内：Hue 2.5YR3/2 暗赤褐色、器内：Hue 7.5YR4/6褐色、黒 鉢	黒色細砂粒をわ ずかに含む。微 細砂粒を若干含 む。	施釉、内面一部：釉 搔き取り・回転ナ デ	93	陶器(黒底摩)、口 径6.10cm(反転復元残存約 1/6)
40	不明	口・縁 部?	3	外面：Hue 10YR5/4にぶい青褐色、 内面：Hue 10YR6/3にぶい青褐色、 口番号：Hue 5YR2/2暗褐色、器内： Hue 5.5YR5/4にぶい赤褐色、黒 鉢	黒色・白色細砂 粒をわずかに含 む。白色微細砂 粒を若干含む。	施釉、口縁上端部：無 釉	120	陶器
41	碗?	口縁部	3	外面・内面：Hue 2.5Y4/1灰褐色、 器内：Hue 5B5/1暗褐色、黒 鉢	白色細砂粒をわ ずかに含む。	施釉	138	陶器
42	皿?	口縁部	3	外面・器内：Hue 5YR4/3にぶい赤 褐色内面：Hue 10YR3/2暗褐色、 黒鉢	黒色・白色・透 明微細砂粒をわ ずかに含む。	施釉、外面：釉 搔き取り・白底ナ デ	91	陶器
43	擂鉢?	口縁部 付近	3	外面・内面・器内：Hue 2.5YRS/6 明赤褐色、外面下部：H ue 5YR3/2暗褐色	白色細砂粒・微 細砂粒をわずかに 含む。	回転ナデ、外面下部 ：施釉	17	釉かなり風化
44	皿	底部	3	外面・底面・器内：Hue 10BG3/1 暗青灰色。内面：Hue 5Y3/2オリー ブ黒色	白色微細砂粒を若 干含む。	外面：回転ナデ、内面 ：施釉、砂目、底面： 未切り抜	114	陶器、底径3.42cm(反 転復元残存約1/3)、砂目 は1mm大の砂粒。

器種	部位	出土層	色調・粘土	粘土・埴輪	調整・施文	遺物 番号	備考
45 鉢?	底部?	3	外面・器内外側: Hue 2.5Y3/1 黑褐色 内面: Hue 5Y3/1オリーブ 器内側: Hue 2.5YR3/6暗赤褐色	白色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	施釉、底面: 粘土付着	98	陶器 内面に砂目
46 瓢	体部~高台部	3	外面: Hue 2.5VR2/2暗赤褐色 外表面: Hue 5YR3/4暗赤褐色 内面: Hue 5YR3/6暗赤褐色 内面一部: Hue 10YR8/3浅青褐色 高台内面: 登付部・器内: Hue 5YR6/6暗赤褐色	白色・黑色細砂粒をわずかに含む。 微細粒を含む。	施釉、外表面一部: 粘土引き取り; 回転ナデ 高台内面: 無施; 回転ナデ 高台登付部: 無施; 調整不明	131	陶器、高台径4.58(反転復元残存約1/2弱)
47 壺器 (小壺)		3	外面・内面: Hue 10YR4/3にぶい 黄褐色 外表面下部・内面・器内: Hue 5YR7/5暗褐色 半円錐形粘土部 外内面: Hue 10YR2/1黒色 半円錐形粘土部内: Hue 2.5YR6/1赤 褐色 高台	細砂粒をわずかに含む。 微細粒を若干含む。	施釉、外表面下部・胸内 面: 無施; 回転ナデ 半円錐形粘土部: 施釉	70	陶器(底座), 径4.42cm (完全)
48 小型の 壺?	口縁部~胴部	3	外面: Hue 5Y6/2灰オリーブ色 受上部・たちあがり部・内面・器内: Hue 10YR8/2灰白色、透明釉	微細粒をわずかに含む。	施釉: 外面受部直下まで 回転ヘラケツリ、受上部・たちあがり部・ 内面: 回転ナデ	84	陶器、口径 13.95cm (反 転復元残存約1/8)
49 盆	天井部 一口縁部	3	外面: H ue 5Y6/8灰白色 ue5PB5/1青灰色に類似 5Y4/4暗オリーブ色 内面: H ueNB3/0灰 青色 器内: H ue 2.5Y8/3浅黄色	黑色微細粒をわ ずかに含む。	施釉、文様: 沈線で円 と星を施す。星との内側は 外側は青。星の内側は 茶色で施釉。内面: 無施 回転ナデ	76	陶器(抹茶系煎葉茶 家), 天井部最大径6.49cm (反転復元残存約1/3)
50 振鉢	底部	3	外面: Hue 2.5YR2/4暗赤褐色 Hue 7.5Y5/2灰オリーブ色 内面: Hue 2.5YR3/3暗赤褐色 器内: Hue 10RA4/4赤褐色、黒褐色	白色・透明 砂粒・細砂粒・微 細粒をわずかに含む。	外面: カキメ、一部自 然施 内面: 滴	59	陶器
51 振鉢	胴部~底部	3	外面: Hue 7.5YR3/4暗赤褐色 Hue 5Y6/2灰オリーブ色 内面: Hue 5YR3/2暗赤褐色 器内外間 ue5YR3/3にぶい 赤褐色 ue2.5YR5/6明赤褐色、黒褐色	茶褐色砂粒をわ ずかに含む。 黑色・白色細砂粒 を若干含む。	施釉、外面: カキメ? 内面: 滴(1mm幅)	59	陶器
52 杯	底部	3	Hue 10YR8/2灰白色	黑色微細粒をわ ずかに含む。	摩滅、調整不明	117	土師器
53 杯	底部	3	Hue 10YR8/2灰白色		回転ナデ、底面: 糸切 り痕	50	土師器、焼成前に半分に 切断されている。
54 薬莢	完全	3				122	長さ 5.15cm、最大径 1.2cm、重さ 9.10g
55 石瓢		3	表面: Hue N5/0灰褐色、器内: H ueSB1.7/1青黒色			37	頁岩製、長さ 2.80cm、最 大幅 2.25cm、厚さ 0.55cm、 重さ 1.92g、先端部欠損
56 瓶	口縁部	4	外面・内面: Hue 5B7/1明青灰色 文様: Hue 5B4/1暗青灰色に類似 器内: Hue NB/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉: 外内面文様	127	柒付
57 瓶	口縁部	4	外面: Hue 10GY1/1綠灰色に類似 Hue 10GY8/1 Hue 2.5Y6/4 H ueNB/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉: 内面: 调整不 入	143	磁器
58 瓶	口縁部	4	外面・内面: Hue 10Y6/2オリーブ 灰色、器内: Hue N7/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉: 内面、文様: 片 脛	198	青磁
59 瓶	体部~ 高台部	4	外面・内面・高台内面: Hue 10BG7/1明青灰色に類似。器内: H ueNB/0灰白色		施釉、高台登付部: 粘 土引き取り; 調整不明	203	白磁、高台径358cm (反 転復元残存約1/6)
60 杯(高 台付)	完形	4	外面: Hue 10YR4/3にぶい 黄褐色、Hue 2.5Y6/2灰黃色・外内面 一部・高台内面、高台登付部: H ue7.5YR5/2灰褐色、内面: Hue 5Y7/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉、高台部外内面・ 登付部: 無施; 回転ナ デ、内面一部: 粘土引 き取り; 回転ナデ	104	龍門司系二彩灰濁釉、口 径 5.95cm 高台径 3.12cm (ほぼ完全)
61 仏 瓶?	口縁部~ 高台部	4	外面・内面: Hue 2.5Y6/4にぶい 黄褐色、外内面下部・器内: Hue 10YR7/3にぶい黄褐色	微細粒をわずかに含む。	施釉、外面最下部: 無 施; 調整不明	204	陶器、口径 5.53cm (反 転復元残存約1/6)
62 瓶・ 杯?	口縁部	4	外面・内面上半部: Hue 5Y6/2灰 オリーブ色、外内面下部・内面下半 部: Hue 10YR4/3にぶい黄褐色。 器内: Hue 10YR2/2灰褐色	微細粒を若干含 む。	施釉	135	龍門司系二彩灰濁釉
63 不明	口縁部	4	外面・内面・口唇部: Hue 2.5Y5/1暗オリーブ灰色 内面口唇一部: Hue 5YR3/3暗赤褐色 器内: Hue 10BC4/1暗青灰色	黑色・白色調細 粒を若干含む。	施釉、外内面一部: 無 施; 回転ナデ、口縁部 直下第2孔(直径4mm外 一内、周辺: 粘土突 出・物刺離)	199	陶器 釉: 黑化
64 瓶	口縁部~ 旗部	4	外面・内面・口唇部: H ue 2.5Y5/1暗オリーブ灰色 内面口唇一部: Hue 5YR3/3暗赤褐色 器内: Hue 10BC4/1暗青灰色	白色砂粒・細砂 粒を若干含む。	施釉、外内面かなり剥 落、内面一部自然剥 落、下部: ユピオナイト、外 内面上部・口唇部: 無 施; ヨコナシ、口縁部 粘土付着	113	陶器 釉: 黑化

器号	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	遺物番号	備考
65	壺(茶 家?)	口縁部 一肩部	4	外面: H ue 10YR2/3黒褐色。外 面頸部以下、内面: H ue2.5GY3/1時 オリーブ灰色に類似。器肉: H ue2.5YR5/6明赤褐色。黒胎?	黒色・赤色細砂 粒を若干含む。	施釉、口唇部: 磨擦さ 取り; 調整不明	239	陶器 胎: 風化
66	碗	全体一 高台部	4	外面・高台内面: H ue10R1.7/1赤 黒色。内面: H ue2.5GY3/1時 オリーブ灰色に類似。器肉: H ue5/7/1灰白色。黒胎		施釉、高台外面・疊付 部: 磨擦さ取り; 調整 不明。内面: 黑胎; 回 転ナデ	191	陶器
67	不明	脚部?	4	外面: H ue10R3/4暗赤色。内面: H ue7.5R3/4暗赤色。外面一部: H ue5YR5/2灰褐色。器肉: H ueN5/0灰色。黒胎?	細砂粒を若干含 む。	施釉、外面一部: 無釉; 回転ナデ; 調整不明	183	陶器。半球形状の突起
68	皿	完形	4	外面・内面: H ue 10YR3/4暗褐色。 外面一部: H ue 10YR2/3黒褐色。 器内: H ue7.5YR5/2灰褐色。器 肉: H ueN5/0灰色。黒胎?	白色砂粒・白色 細砂粒をわずか に含む。	施釉、外面一部: 無釉; 回転ナデ; 底部: 余 切り痕	212	陶器
69	皿	底部	4	外面・底面: H ue2.5YRA/4にい る赤褐色。内面: H ue7.5YR2/1明褐 色。内面一部・器肉: H ue 10YR5/6赤色		施釉、外面: 無釉; 回 転ナデ。内面一部: 無 釉; 調整不明。底面: 無釉; 余切り痕	204	陶器。底径 4.92cm (反 転復元残存約 1/3)
70	(小型) 壺	底部	4	外面・内面: H ue 2.5G5/1時 オリーブ灰色。内面: H ue 5B4/1暗青灰色。底面: H ue 5R2/1赤黒色。器肉: H ue10R4/3赤 褐色	白色・黒色・透 明の砂粒を若干 含む。細砂粒を 含む。	施釉: 外面・内面・底 面の一部も。内面上 半部: 回転ナデ。下半 部: カキメ状。内面・ 底面の一部に胎や胎土 が付着。外面凹部に施 釉	204	陶器。底径 15.62cm (反 転復元残存約 1/6) 外面: 風化化
71	壺(茶 家)	天井部 一口脛 部(受 部)	4	外面: H ue 2.5Y7/2灰黄色・ 2.5YS/1黒褐色。受部外面: H ue 2.5Y6/1灰黄色。内面・器肉: H ue10R5/6赤色。黒胎?	細砂粒を若干含 む。	施釉、口縁部(受部)外 面: 無釉; 回転ナデ; 内面: 黑胎; 回転ナデ	183	陶器。最大径 12.15cm (反 転復元残存約 1/5)
72	壺	天井部 一口脛 部(受 部)	4	外面: H ue2.5YR3/4暗赤褐色。受 部外面・器肉: H ue2.5YR6/6暗赤 色。内面: H ue2.5YR4/3にい る赤褐色。黒胎?	微細粒を若干含 む。	施釉。口縁部(受部)外 面・内面: 回転ナデ	2019	陶器。No 5 トレンチ(西 側)
73	茶家	釣手掛 け	4	外面: H ue 5Y3/1オリーブ黒色。 内面: H ue2.5YR3/4暗赤褐色。器 肉: H ue2.5YR6/4にい る橙色。黒胎?	白色・黒色・赤 色細砂粒を若干 含む。微細粒を わずかに含む。	施釉: 穿孔部も施釉。 内面: 磨擦さ取り; 調 整不明	19	陶器
74	甕?	口縁 部?	4	H ueN6/0灰色	黒色細砂粒を若 干含む。微細粒 をわずかに含 む。	回転ナデ	133	須恵器
75	蓋杯の 蓋	口縁部	4	H ue 5B5/1青灰色	微細粒をわずか に含む。	回転ナデ	2003	須恵器。No 3 トレンチ
76	甕	口縁部	4	H ue 2.5Y8/2灰白色	白色細砂粒・微 細粒をわずかに 含む。	回転ナデ	2019	蓋焼。No 5 トレンチ(西 側)
77	甕	脚部	4	外面: H ueSYR6/6橙色。内面: H ue 10B01.7/1青黒色。底面・器肉 : H ue7.5YR7/3にい る橙色	白色・黒色微細 粒を含む。	外面・底面: ナデ。 外面下半部: ヨコ方 向のナデ。内面: 黒色(炭 化物付着)	18	弥生土器。脚径 6.02cm (反 転復元残存約 1/3)
78	土製品 (大型)		4	H ue 2.5Y7/1灰白色・ H ue 2.5Y5/1黄灰色	白色・黒色細砂 粒を若干含む。	ナデ。一条丸溝(目に 相当?), 足接合部に 刻み目を入れている。	237	手すくね。高 23.70cm (足 2本欠損)
79	杯(脚 付)	完形	5	外面・内面・底面: H ue5YR3/4暗 赤褐色。外縁・内面・底面の一部・ 器内: H ue10R5/6赤色	微細粒をわずか に含む。	回転ナデ。底面: ナデ。 脚接合部に接合を助ける ため溝を切っている	222, 223	口径 11.60cm (反 転復元残存約 1/3), 脚 3 本
80	杯	完形	6 a	外面・内面: H ue2.5GY8/1灰白色 に類似。高台疊付部・器肉: H ueN8/0灰白色		施釉。高台疊付部: 磨 擦さ取り; 調整不明	490	白磁。口径 7.02cm・高台 径 2.70cm (ほぼ完全)
81	皿?	口縁部	6 a	外面・内面: H ue 10GY8/1明緑灰 色に類似。文様: H ue5B4/1暗青 灰色に類似。器肉: H ueN8/0灰白色。 黒胎	微細粒をわずか に含む。器肉に 直径 1mm の穴	施釉。口唇部: ユビオ サエ状の刻み目	708	磁器
82	碗	口縁部	6 a	外面・内面: H ue 10GY8/1明緑灰 色に類似。文様: H ue5B4/1暗青 灰色に類似。器肉: H ueN8/0灰白色	微細粒をわずか に含む。	施釉	185	疊付
83	碗	口縁部	6 a	外面・内面: H ue2.5GY5/1オリーブ 灰色。器肉: H ue 10YR7/1灰白色	微細粒をわずか に含む。	施釉: 外面貢入	473	青磁。口径 12.80cm (反 転復元残存約 1/7)
84	碗?	口縁部	6 a	外面・内面: H ue 2.5Y5/3黄褐色。 器内: H ue7.5YR6/2灰褐色		施釉。文様: 並形時に 形を作り、その部分に 厚く釉を施す、鱗状の 窓弁文	418	青磁

器番号	器種	部位	底土層	色 囲・粘 围	底土・磁鉄	調整・施文	遺物 分類	備 考
85	碗?	口縁部	6 a	外面・内面：Hue 5G6/1緑灰色、器内：HueN7/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	施釉	599、 613	青磁
86	皿	体部～ 高台部	6 a	外面・内面・高台内面：白透明釉Hue5G7/8/1灰白色に類似、器内：HueN8/0灰白色	微細粒を含む。	施釉、高台外面：磁鉄 付着	477	白磁
87	皿?	体部～ 高台部	6 a	外面・内面・高台内面：透明釉、器内：HueN8/0灰白色	微細粒を若干含む。	施釉、高台付部：施 被取り；調整不明	491	磁器、高台径 6.02cm (反 転復元残存約 1/6)
88	皿?	完形	6 a	外面・内面・高台内面：透明釉、器内：Hue5Y4/2灰オーリー色、Hue10R3/6 暗赤色、Hue10G6/1緑灰色、外面 裏下部、底面：Hue 2.5Y8/2灰白 色、器内：HueN8/0灰白色。透明 釉	微細粒をわずかに含む。	施釉、外内面貫入、外 面最下部・底面：無釉 ；調整不明	709	陶器
89	皿?	口縁部	6 a	外面・内面：Hue5YR2/3暗赤褐色、 器内：HueS5YR5/6明赤褐色、 黒釉		施釉	485	陶器
90	茶家?	口縁部	6 a	外面・内面上半部：Hue 7.5Y2/2 オーリー黒色、内面下半部・口唇部： Huef. 5YR3/3暗褐色、器内：H ue 10BG4/1暗灰褐色、施釉？	細砂粒を若干含 む。	施釉、内面下半部・口 唇部：無釉；回転ナデ	331	陶器
91	壺?	口縁部～ 肩部	6 a	外面・内面：透明釉、器内：Hue 5B4/1暗灰褐色、内面一部・口唇一 部、器内：Hue 2.5Y8/1灰白色、 外面口縫部一部：Hue5YR5/6暗 色、透明釉	黑色微細粒をわ ずかに含む。	施釉、外内面貫入、外 面口縫部一部・内面 一部・口唇一部：施被 取り；回転ナデ	709	陶器、口径 10.83 (反 転復元残存約 1/8)
92	擂鉢	口縁部	6 a	外面上半部：Hue5YR3/1黒褐色、 下半部：Hue2.5YR3/3暗赤褐色、 内面：Hue10R4/2灰赤色、器内： HueN4/0灰色、黒釉	白色砂粒・黑色 細砂粒を若干含 む。	回転ナデ、外内面施釉、 内面下半部：幅 1cm の 溝(テ方同) 4本？	260	陶器
93	皿	口縁部	6 a	外面・内面白縁部：Hue 5Y6/2 オーリー色、内面：Hue 5Y6/3 オーリー色、器内：Hue 2.5Y8/1灰白色、透明釉	黑色砂粒を若干 含む。微細粒をわ ずかに含む。	施釉、外面：回転ナ デ；内面：わざかな黒 亞	464	陶器、口径 14.70cm (反 転復元残存約 1/8)
94	壺?	天井部～ 口縁部	6 a	外面天井部：Hue 10YR4/3に よい赤褐色、内面・口縁部外面： Hue 2.5Y5/3 黒褐色、器内： Hue7.5YR5/1灰白色、HueN5/0灰 色		外面上半部：調整不 明、割れている、外 面下半部・内面：回転ナ デ	637	陶器、外面：施風化
95	杯	底部	6 a	外面：Hue10R4/3赤褐色、Hue 10YR2/2黒褐色、内面：Hue 2.5Y7/2灰白色に類似、器内： Hue2.5YR6/4によい褐色、黒釉？	微細粒を若干含 む。	外面：カキメ、旋付着、 内面：施釉	481	陶器、底径 4.95cm (反 転復元残存約 1/6)
96	碗	体部～ 高台部	6 a	外面・高台内面：Hue 2.5Y0/1灰 褐色、Huef. 5YR6/4によい褐色、 内面：Hue 2.5Y8/1灰白色、内面 付着物：Hue 5Y2/1黒色、器内： Hue 2.5Y8/2灰白色、透明釉	微細粒をわずかに 含む。	施釉、外面一部：施鉛 落、高台付部：施被 取り；回転ナデ、内 面：施・施釉が付着、 貫入	196	陶器、高台径 5.50cm (反 転復元残存約 1/3)
97	壺(茶 葉)	天井部～ 口縁部	6 a	外面：Hue5YR4/4によい赤褐色、 口縁部外面・内面・器内： Hue2.5YR6/4によい褐色、黒釉	白色・墨色細砂 粒を若干含む。	外因天井部：施釉、口 縁部外面・内面：無釉 ；回転ナデ	238	陶器(茶葉)、最大径 8.55cm (反転復元残存約 1/4)
98	茶家	鉗手部	6 a	外面：Hue 5Y4/1灰褐色、内面： Hue 10YR2/2灰褐色、器内： Hue 2.5Y4/1黄褐色、器内： Hue7.5YR5/3によい褐色、黒釉？	白色細砂粒を若 干含む。白色微細 粒をわずかに含む。	施釉、内面中央部：無 釉；ヨコナデ、鉗手 部：ヨコサエ(本体 に接合する際に付いた ものか？)	208	陶器(茶葉)
99	茶家	注口	6 a	外面：Hue 10YR2/3暗褐色、内面： Hue5YR4/3によい赤褐色、器内： Hue2.5YR7/3淡赤褐色、Hue 7.5Y2/1 黑褐色	青黑色砂粒をわ ずかに含む。細 砂粒を若干含む。	施釉、内面：無釉；回 転ナデ	373	陶器(茶葉)
100	壺	頸部～ 肩部	6 a	外面・内面・器内：Hue 10YR2/8 灰白色、器内一部：Hue2.5YR5/4 によい赤褐色	細砂粒をわずかに 含む。	外面：タタキ・ヨコ ナデ？内面：ヨコナ デ？	1790	須恵器、施化焰燒成
101	壺?	口 縁 部?	6 a	外面：HueN6/0灰色、内面・器内： HueN5/0灰色	白色細砂粒をわ ずかに含む。	回転ナデ	339	須恵器
102	不明	口 縁 部?	6 a	外面：Hue 5B2/1青黒色、内面・ 器内：HueN4/0灰色	白色砂粒を若干 含む。白色微細 粒を含む。	回転ナデ	323	須恵器
103	不明	口 縁 部?	6 a	外面・内面：HueN4/0灰色、器内： HueN7/0灰白色	微細粒をわずかに 含む。	回転ナデ、口縁部： 施土付着	450	須恵器
104	杯	体部～ 高台部	6 a	外面・内面・高台内面：Hue 5B4/1暗青灰色に類似、器内：Hue 10BG5/1青灰色に類似	白色・白透明釉 砂粒を若干含む。	回転ナデ	403	須恵器、高台径 7.95cm (反 転復元残存約 1/5)
105	壺	フマミ 頸一 天井部	6 a	Hue10Y8/1灰白色	黑色微細粒を若 干含む。	外面：回転ナデ。内面 ：ナデ	371	須恵器、フマミ部径 2.2cm (反転復元残存約 1/3)
106	碗	口縁部	6 a	外面・内面・器内：Hue7.5YR7/4 によい褐色、口縁部・口唇部：H ue5YR7/4によい褐色	微細粒をわずかに 含む。	回転ナデ	369	土師器

器種	部位	底土塔	色調・触感	底土・遮蔽	調整・施文	追加番号	備考
107	皿?	底部	6 a	Hue 10YR8/3浅黄褐色	細砂粒を若干含む。	回転ナデ、底面：糸切り痕	469 土器器、底径6.40cm(反転復元残存約1/4)
108	杯?	底部	6 a	外面・底面：Hue10R6/6赤褐色 外面一部・器内：HueSYR8/4淡褐色 内面：Hue 10YR7/3に近い黄褐色 HueSYR7/4に近い黄褐色	黒色・白色・赤色 細砂粒を若干含む。	内面：回転ナデ、底面：糸切り痕?	558 土器器、底径7.00cm(反転復元残存約1/2)
109	皿	底部	6 a	外面・内面・器内：Hue 10YR8/3 淡黄褐色。底面：Hue7.5YR7/4に 近い褐色	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ?摩滅。底面 ：糸切り痕	287 土器器、底径4.20cm(反 転復元残存約1/4)
110	不明	底部	6 a	外面・内面・底面：Hue2.5YR6/6 赤褐色。Hue 10YR5/3に近い黄褐色。 器内：Hue 10YR6/2灰黄褐色	白色・黒色・赤色 細砂粒を若干含む。	回転ナデ?底面：糸切 り痕	188 土器器、底径4.12cm(13 は完全)
111	杯・皿?	底部	6 a	外面：Hue7.5YR8/4浅黄褐色。内 面・底面・器内：Hue7.5YR8/2灰 白色	黒色・赤色・褐 色細砂粒を若干 含む。	摩滅。調整不明	308 土器器、底径5.60cm(反 転復元残存約1/4)
112	皿?	底部	6 a	外面：Hue5YR6/4に近い褐色。H ue10R7/2に近い黄褐色。H ue5PB6/1青灰褐色。内面： Hue 2.5Y6/2灰褐色。器内： Hue7.5YR8/4淡黄褐色	微細粒をわずかに含む。	摩滅。調整不明	648 土器器、底径6.75cm(反 転復元残存約1/4)
113	皿?	底部	6 a	外面・底面：Hue 10YR7/4に近い 黄褐色。Hue7.5YR7/2明褐色 内面・器内：Hue7.5YR8/3浅黄 褐色	微細粒を含む。	回転ナデ、底面：糸切 り痕?	430 土器器、底径7.30cm(反 転復元残存約1/4)
114	碗	底部	6 a	外面・底面・器内一部：Hue 10YR8/2灰白色。外面底面黑色部 分・内面：Hue 2.5Y3/1黑褐色。 器内：Hue 2.5YS/1黄褐色	黒色微細粒をわ ずかに含む。	底面ほとんど・内面 ：黒色。外面・底面：摩 滅。調整不明。内面 ：ヘラミガキ	501, 273 内黒土器器、底径8.50cm (反転復元残存約1/4)
115	杯・皿?	底部	6 a	HueSYR8/4淡褐色	微細粒をわずかに含む。	外面：調整不明。内面 ：回転ナデ、底面：糸 切り痕?	340 土器器
116	杯・皿?	底部	6 a	HueSYR7/4に近い褐色		摩滅。調整不明	621 土器器
117	杯?	底部	6 a	外面・内面：HueSYR8/4淡褐色。 底面・器内：HueSYR7/4灰褐色	黒色砂粒をわ ずかに含む。微 細粒を若干含む。	外面一部・内面：回転 ナデ、底面：ナデ	454 土器器
118	碗	底部	6 a	外面・内面：Hue7.5YR7/6褐色。 底面・器内：Hue7.5YR8/3浅黄 褐色	赤色細砂粒をわ ずかに含む。保 砂粒を若干含む。	外面：回転ナデ?摩滅	635 土器器
119	壺	口縁部	6 a	外面：Hue7.5YR7/6褐色。外面口 縁部・内面：Hue7.5YR8/4淡黄 褐色。内面一部：HueN4/0灰褐色。 器内：10G2/1緑墨色	白透明・白 色。微細粒を含 む。白色・黒 色・褐色砂粒・ 赤色細砂粒を若 干含む。	ヨコナデ	380
120	壺?	口縁部	6 a	外面：Hue5YR8/4淡褐色。Hue7. 5YR8/2灰白色。Hue7.5YR6/2 灰褐色。内面：Hue 10YR8/1灰白 色。Hue7.5YR6/3に近い褐色。器 内：Hue 10YR3/1黒褐色	黒色砂粒をわ ずかに含む。黑 色・透明細砂 粒・白色・黑色 微細粒を含む。	摩滅。調整不明	393
121	壺	脚部	6 a	外面：Hue2.5YR7/6褐色。内面： Hue5YR8/4淡褐色。器内：H ue2.5YR7/4淡褐色	黑色・灰色砂 粒・微細粒を若 干含む。黑色・ 灰褐色・赤色・透 明細砂粒を含 む。	ナデ?	409
122	壺	脚部	6 a	外面・内面：Hue2.5YR7/6褐色。 器内：HueSYR7/3に近い褐色	黄色調・白色砂 粒をわずかに含 む。黑色・黑 色・透明細砂 粒・微細粒を若 干含む。	ヨコ方向のナデ	292
123	壺	脚部	6 a	外面・脚部・器内一部：Hue 10YR8/3浅黄褐色。内面・器内：H ue10R6/8赤褐色	白色・白透明・ 褐色砂粒を若干 含む。細砂粒を 多く含む。	摩滅。調整不明	392 「成川式」
124	壺	脚部～ 底部	6 a	外面：Hue5YR8/4淡褐色。内面： Hue5YR7/6褐色。器内：Hue 10BG1.7/1青黒色	黒色調をわずかに 含む。白色・ 灰色砂粒・細砂 粒を含む。	外面・内面：ハケメ (5本/cm)	461 「成川式」底径3.65cm(残 存約1/2)
125	壺・ 壺?	頭部	6 a	外面・内面：Hue7.5YR8/3浅黄 褐色。器内：Hue7.5YR8/1灰白色	細砂粒・微細粒 を若干含む。	外面頭部屈曲部：ヨコ 方向のナデ?摩滅	402 「成川式」

器番号	器種	部位	出土層	色調・粒度	胎土・磁胎	調整・施文	器物番号	備考
126	亮	口縁部	6 a	外面: Hu e7.5YR8/4浅黄褐色, 内面: Hu e10YR5/1褐色, 口唇部: 器肉: Hu e7.5YR7/2明褐色	灰色粗砂粒をわずかに含む, 白色, 黑色砂粒・微細砂粒を若干含む。	ヨコナデ, 内面: スス付帯? 黒斑, 磁減	488	弥生(黒式)
127	大甕	突帯部	6 a	外面: Hu e7.5YR8/3浅黄褐色, 内面: Hu e10YR6/2灰黄褐色, 器肉: Hu eN3/0暗灰色	灰色(大)を含む, 赤褐色, 黑褐色, 微細砂粒を若干含む。	突帯部外面: ヨコ方向のナデ? ヨコナデ? 外面下部: ナデ, 内面: ナデ	396	弥生
128	甕?	突帯部	6 a	外面: Hu e7.5YR4/2灰褐色, 内面: Hu e5Y2/1黑色, 器肉: Hu e10YR8/6黄褐色	白色, 褐色, 黑褐色, 微細砂粒を若干含む。	突帯部外面: ヨコナデ? 他調整不明	623	
129	甕	突帯部	6 a	外面: Hu e7.5YR3/3暗褐色, 内面: Hu e7.5YR6/3灰褐色, 器肉: Hu e5Y3/1オリーブ黒色	黑褐色粗砂粒をわずかに含む, 微細砂粒・微細粒を含む。	突帯部外面: ヨコナデ? 他調整不明	363	
130	甕	突帯部	6 a	外面上部: Hu e5YR7/6褐色, 外面下部・内面・器肉: Hu e7.5YR8/2灰白色	赤色, 黑色微細砂粒を若干含む。	磁減, 調整不明	318	多状突帯?
131	土錐		6 a	外面: Hu e5YR4/4にぶい赤褐色・Hu e6YR5/2灰褐色・Hu e7.5YR7/3にぶい黄色, 口附近(ヒモズレ部周辺): Hu e7.5YR4/2灰褐色	青黒色細砂粒・微細粒を若干含む。	口附近: ヒモズレ? 他調整不明	629	長さ4.20cm, 最大径2.00cm
132	土錐		6 a	外面: Hu e10YR7/2にぶい黄褐色・Hu e4/0灰色, 口附近(器内): Hu e2.5Y8/2灰白色	白色・黒色細砂粒を若干含む。	口附近: 余擦り痕, 他調整不明	379	長さ3.10cm, 最大径1.50cm
133	不明	口縁部	6 b	外面・内面: 半透明弱 H ue7.5Y8/1灰白色に類似, 器肉: Hu e2.5Y8/1灰白色		施釉	1399	白磁, 口径10.1cm(反転復元後残存約1/8)
134	皿	口縁部	6 b	外面・内面: H ue10Y8/1灰白色, 器肉: Hu eN9/0白色		施釉, 外面: 菱形時の模様が残る。	863	白磁, 口径11.4cm(反転復元残存約1/8)
135	碗	口縁部	6 b	外面・内面: 透明釉, 器肉: Hu e2.5Y8/1灰白色		施釉: 外面・内面: 貫入, 外面: 朱絞手法	909	白磁
136	不明	口縁部	6 b	外面・内面: Hu e2.5GY7/1明オーリーブ灰色, 口縁部: Hu e2.5Y8/1灰黄色, 器内: Hu eN8/0灰白色		施釉, 口縁端部: 釉掻き取り	814	磁器
137	皿?	体部	6 b	外面・内面: Hu e7.5GY6/1灰褐色に類似, 器肉: Hu eN8/0灰白色		施釉: 外面・内面貫入, 外面: 文様・片影り?	571	青磁
138	瓶	高台部	6 b	高台外内面: 長付部・底面見込部・器内一部: Hu e2.5Y8/1灰白色, 内面: Hu e10Y7/1灰白色, 器内: Hu eN8/0灰白色	微細粒をわずかに含む。	内面見込部: 施釉, 高台外内面: 長付・底面見込部: 無釉; ケズリ?	1620	磁器, 高台径4.92cm(反転復元残存約1/8)
139	瓶	体部~高台部	6 b	外面・内面: Hu e10Y5/2オリーブ灰色に類似, 内面一部・高台内面・器内一部: Hu e10YR8/3浅黄褐色, 器内: Hu eN8/0灰白色・Hu ue10R6/3にぶい赤褐色	白色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	施釉: 外内面貫入, 高台長付部・高台内面・底面見込部: 無釉; 回転ナデ, 内面見込部: 細の目状擦き取り	887	青磁, 高台径5.40cm(反転復元残存約1/8)
140	瓶	体部~高台部	6 b	外面・内面: Hu e10CY6/1灰褐色に類似, 高台内面: Hu e7.5Y5/1灰褐色, 器内: Hu e5Y7/1	微細粒をわずかに含む。	施釉: 外面裏舟状のシノノギ(菱形時)・内面片影り, 高台内面: 無釉; 回転ナデ	1187	青磁, 高台取付部径4.75cm(反転復元残存約1/8)
141	亮	口縁部	6 b	外面: Hu e5Y8/2灰白色, 内面: Hu e5Y6/1灰褐色, 口縁上部: Hu e7.5Y4/6褐色, 器内外側: Hu e7.5YR3/1灰褐色, 器内内側: Hu eN6/0灰褐色	微細粒をわずかに含む。	施釉, 口縁上端部: 釉掻き取り; 回転ナデ, 外面下部: カキミ, 口縁端部内面: 装合板(菱形時の折曲げによる)	891	陶器, 口径23.0cm(反転復元径は残存約1/8)軸: 風化
142	不明	口縁部?	6 b	外面: Hu e7.5YR5/2灰褐色・Hu e2.5Y6/1灰褐色, 内面: Hu e10YR5/3にぶい黄褐色, 器内: Hu eN6/0灰褐色		外面・内面: 回転ナデ	1048	須恵器, 模様不明
143	鉢?	胴部~底部	6 b	外面: Hu e7.5YR6/1褐色, 内面: Hu e10YR6/2灰黄褐色, 底面・外面下端: Hu e10YR3/2灰褐色, 器内: Hu e5R5/1赤灰色	白色砂粒を若干含む, 微細粒を含む。	外面・内面: 回転ナデ, 底面: ヘラケズリ?	772	陶器
144	碗	体部~高台部	6 b	外面: Hu e2.5YR2/3暗赤褐色, 外面下部・高台外内面: 長付・底面見込部: Hu e5Y6/2灰褐色, 内面: Hu e5Y6/3灰褐色, 器内: Hu e5Y6/2灰褐色		外面: 施釉, 外面下部・高台外内面: 長付・内面: 無釉回転ナデ, 内面: 凹凸(菱形時)?	890	陶器
145	杯	口縁部	6 b	HueN7/0灰白色		回転ナデ	1127	須恵器

器番	器種	部位	出土場	色 図・釉 図	胎土・磁胎	調整・施文	遺物 番号	備 考
146	壺	口縁部	6 b	外面：HueN5/0灰白色・Hue10YR3/2墨褐色。内面：Hue5Y7/2灰白色・Hue5Y4/1灰白色。器肉：Hue7.5R4/2灰褐色。	白色微砂粒・微細粒をわずかに含む。	自然物。回転ナデ。	759	須恵器
147	壺	口縁部	6 b	外面・内面・器肉：HueN5/0灰白色。口縁上端部：HueN3/0暗灰色。	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ。口縁上端部：自然物。回転ナデ。	716	須恵器？
148	杯	体部・高台部	6 b	外面・高台外・底面見込部・器肉外側：HueN7/0灰白色。内面・器内側：Hue7.5Y8/1灰白色。	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1229	須恵器。高台径8.70cm(反転復元残存約1/8)
149	壺	天井部・口縁部	6 b	HueN5/0灰白色	白色微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1041	須恵器
150	皿・杯?	口縁部	6 b	Hue5YR6/3浅黃褐色	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1095	土師器
151	皿・杯?	口縁部	6 b	Hue7.5YR8/3浅黃褐色	微細粒をわずかに含む。	摩滅。調整不明	1098	土師器
152	碗	口縁部	6 b	外面・内面：Hue10YR8/2灰白色。器肉：Hue2.5YK7/1灰白色。	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	819	土師器。口径9.30(反転復元残存約1/8)
153	杯	口縁部	6 b	Hue10YR8/3浅黃褐色	微細粒・微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	792	土師器
154	杯	口縁部	6 b	Hue7.5YR8/6浅黃褐色	赤色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：回転ナデ。内面：ハケ?のちナデ	568	土師器
155	皿	完形?	6 b	Hue10YR8/3浅黃褐色	赤色・灰白色微細粒を若干含む。	回転ナデ。底面：胎土付着。未切り痕?	?	土師器
156	皿	底部	6 b	外面・底面：Hue10YR7/4にぶい暗褐色。内面：Hue7.5YK7/6褐色。器肉：Hue7.5YR8/2灰白色。	微細粒をわずかに含む。	摩滅。調整不明	1024	土師器。底径6.20(反転復元残存約1/6)
157	皿	底部	6 b	外面・内面：Hue5YR6/6褐色。器肉：Hue10YR8/2灰白色	赤色・褐色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	内面：回転ナデ。他調整不明	1101	土師器。底径5.40(反転復元残存約1/6)
158	皿	底部	6 b	Hue10YR8/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	内面：回転ナデ?底面：未切り痕。摩滅	1118	土師器。底径5.30(反転復元残存約1/6)
159	皿・杯?	底部	6 b	Hue7.5YR8/3浅黃褐色	赤色・黒色微細粒をわずかに含む。	摩滅。調整不明	1058	土師器。底径6.10(反転復元残存約1/8)
160	皿	底部	6 b	外面・内面：Hue5YR6/4にぶい暗褐色。器肉：Hue5YR7/2明褐色。	微細粒をわずかに含む。	底面：未切り痕?。摩滅。調整不明	1003	土師器。底径5.80(反転復元残存約1/6)
161	皿・杯?	底部	6 b	外面・内面：Hue7.5YR8/4浅黃褐色。器肉：Hue5YK7/6褐色	赤色粗砂粒・赤色細砂粒をわずかに含む。	回転ナデ?底面：ヘラ切り痕?	1172	土師器。底径5.40(反転復元残存約1/6)
162	皿・杯?	底部	6 b	外面・底面：Hue7.5YR8/6浅黃褐色。内面・器肉：Hue7.5YR8/4浅黃褐色	赤色砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：回転ナデ?内面・底面：ヘラナデ?底面：未切り痕?。摩滅	795	土師器。底径5.10(反転復元残存約1/6)
163	杯?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黃褐色	赤色・黒色細砂粒をわずかに含む。	内面：回転ナデ。摩滅。調整不明	1018	土師器。底径6.70(反転復元残存約1/8)
164	杯?	底部	6 b	外面・底面：Hue7.5YR8/4浅黃褐色。朱塗付部分：Hue5YR6/6褐色。内面・器肉：Hue7.5YR8/3浅黃褐色	赤色砂粒・細砂粒・微細粒を若干含む。	外面・底面：朱が塗付。内面：回転ナデ	351	土師器。底径6.80(反転復元残存約1/6)
165	皿・杯?	底部	6 b	外面・内面：Hue7.5YR8/4浅黃褐色。器肉：Hue7.5YR8/2灰白色	赤色・褐色細砂粒・微細粒を若干含む。	摩滅。調整不明	904	土師器。底径9.40(反転復元残存約1/6)
166	皿・杯?	底部	6 b	外面：Hue2.5YR7/4洪赤褐色。内面：Hue5YR7/6褐色。底面・器肉：Hue2.5YR6/6褐色	赤色・白色・白色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：回転ナデ。内面：ヨコ方向のナデ・ナデ。底面：ヘラ切り痕?	898	土師器。底径8.50(反転復元残存約1/6)
167	碗	底部	6 b	外面・内面・底面：Hue7.5YR7/3にぶい暗褐色。Hue7.5YR8/1墨褐色。底面一部：HueN2/0黒色。器肉内：Hue5YR7/6褐色	微細粒・微細粒をわずかに含む。	内面：回転ナデ。底面：未切り痕	1479	土師器。底径4.10(反転復元残存約1/3)
168	碗?	底部	6 b	外面：Hue5YR6/4にぶい暗褐色。内面・器肉：Hue5YR8/4浅黃褐色。Hue7.5YR2/1墨褐色。内面・器肉内側：Hue2.5YR8/2灰褐色。器肉外側：Hue2.5YR7/6褐色	黑色砂粒・黑色細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコ方向のナデ?内面：回転ナデ。底面：未切り痕	1418	土師器。底径5.40(反転復元残存約1/6)
169	杯・碗?	底部	6 b	外面・底面：Hue7.5YR4/3褐色。内面・器肉：Hue5YR8/4浅黃褐色。Hue7.5YR2/1墨褐色。内面・器肉内側：Hue2.5YR8/2灰褐色。器肉外側：Hue2.5YR7/6褐色	微細粒をわずかに含む。	外面・内面：回転ナデ。底面：未切り痕	1231	土師器。底径6.45(反転復元残存約1/6)
170	杯・碗?	底部	6 b	外面・底面・赤色・器質料：Hue2.5YR6/4にぶい暗褐色。内面・器肉：Hue10YR8/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	外面・内面：回転ナデ。底面・赤色細砂粒付。底面：未切り痕?	1271	土師器。底径6.20(反転復元残存約1/6)

器物番号	器種	部位	出土層	色 調・釉 固	胎土・繊維	調整・施文	遺物 登録番号	備 考
171	碗	全体～ 底部	6 b	外面：Hue7.5YR8/4浅黄橙色。 内面：Hue10YR7/2にぶい黄褐色。 器内：Hue10YR8/2灰白色	赤色・白色・黑色細砂粒・微纖維をわずかに含む。	率減。調整不明	1469	土師器、高台径6.30cm(完全)
172	碗・ 杯?	底部	6 b	内面：Hue10YR8/3浅黄橙色。外 面・底面・器内：Hue10YR8/2灰 白色	透明。黄色砂粒をわずかに含 む。微纖維を若干含む。	率減。調整不明	556	土師器、底径6.40cm(反 転復元残存約1/2弱)
173	碗	高台部	6 b	外面：Hue7.5YR8/4浅黄橙色。内 面：Hue7.5YR7/4にぶい黄色。日 本：Hue3/0暗灰色。高台内面・器内： Hue2.5YR6/8橙色。器内内面：H ue10YR8/2灰白色	赤色細砂粒・微 纖維をわずかに含む。	内面：黑色。率減。調 整不明	1235	土師器、高台径6.80cm(反 転復元残存約1/3)
174	碗	高台取 付部	6 b	Hue8/0灰白色	白色細砂粒・微 纖維をわずかに含む。	外面・高台内面：回転ナ デ。率減。他調整不明	1288	土師器、高台取付部径 5.70cm(反転復元残存同 残存約1/4)
175	皿	底部	6 b	Hue10YR8/2灰白色	微細性をわずかに含む。	率減。調整不明	910	土師器
176	皿	底部	6 b	Hue10YR8/2灰白色	微纖維をわずかに含む。	底面：糸切り痕？率 減。他調整不明	1472	土師器
177	皿	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	赤色細砂粒をわ ずかに含む。	底面：糸切り痕？率 減。他調整不明	859	土師器
178	杯?	底部	6 b	Hue10YR8/2灰白色	微纖維をわずかに含む。	底面：糸切り痕。率 減。他調整不明	836	土師器
179	杯・ 皿?	底部	6 b	外面・内面・器内：Hue7.5YR8/4 浅黄橙色。底面一部：Hue5YR7/6 暗褐色	赤色砂粒を若干 含む。微纖維を わずかに含む。	率減。調整不明	790	土師器
180	杯?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	赤色細砂粒・微 纖維を若干含 む。	底面：糸切り痕？率 減。他調整不明	858	土師器
181	杯	底部	6 b	Hue7.5YR8/4浅黄橙色	赤色細砂粒・微 纖維をわずかに 含む。	内面：回転ナデ。率減。 他調整不明	849	土師器
182	杯?	底部	6 b	Hue7.5YR8/4浅黄橙色	赤色砂粒・細砂 粒・微纖維をわ ずかに含む。	外面・内面：回転ナ デ？底面：糸切り痕？ ヘラ切り痕？率減。他 調整不明	883	土師器
183	杯?	底部	6 b	外面・器内：Hue10YR8/3浅黄 橙色。内面：Hue10YR7/2にぶい黄 褐色	褐色細砂粒・微 纖維をわずかに含 む。	率減。調整不明	948	土師器
184	杯?	底部	6 b	外面・内面・器内：Hue7.5YR8/4 浅黄橙色。赤色肩部：H ue2.5YR4/3にぶい赤褐色	赤色微纖維をわ ずかに含む。	率減。調整不明。内面 一部・外面：赤色顔料	360	土師器
185	皿・ 杯?	底部	6 b	外面：Hue10YR4/1褐色。内面： Hue10YR7/1灰白色。底面：H ue7.5YR7/3にぶい褐色。器内：H ue7.5YR8/2灰白色	赤色微纖維を若干 含む。	外面：黑色。内面一部 ：ナデ？底面：糸切り 痕。率減	1028	土師器(黒色土師器?)
186	皿・ 杯?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	微纖維をわずかに 含む。	外面・内面：回転ナ デ。底面：粘土付着。 調整不明	1279	土師器
187	皿・ 杯?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	赤色細砂粒・微 纖維をわずかに 含む。	外面：回転ナデ？底面 ：糸切り痕？率減	1082	土師器
188	杯?	底部	6 b	外面・器内外側：Hue10YR8/3浅 黄橙色。内面・器内側：Hue 10YR8/2灰白色。底面・器外側一 部：Hue5YR7/6橙色。器内中央： Hue5/0灰白色	微纖維をわずかに 含む。	率減。調整不明	1355	土師器
189	杯・ 皿?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	赤色その他微纖 維をわずかに含 む。	内面：回転ナデ？底面 ：糸切り痕？率減	1342	土師器
190	杯・ 皿?	底部	6 b	Hue7.5YR8/4浅黄橙色	赤色その他微纖 維をわずかに含 む。	率減。調整不明	1304	土師器
191	杯	底部	6 b	外面・底面・器内：Hue7.5YR8/3 浅黄橙色。内面：Hue10YR8/1灰 白色	赤色その他微纖 維をわずかに含 む。	外面一部：ナデ？内面 ：回転ナデ	1388	土師器
192	杯・ 皿?	底部	6 b	Hue7.5YR8/4浅黄橙色	赤色細砂粒を若 干含む。微纖維 をわずかに含 む。	底面：糸切り痕？粘土 付着。率減	1042	土師器
193	杯・ 皿?	底部	6 b	Hue7.5YR8/4浅黄橙色	微纖維をわずかに 含む。	底面：糸切り痕？粘土 付着。率減	1001	土師器
194	杯・ 皿?	底部	6 b	Hue10YR8/3浅黄橙色	赤色その他微纖 維をわずかに含 む。	外面・内面：回転ナ デ。底面：糸切り痕	961	土師器

番号	器種	部位	出土層	色調・粒度	胎土・磁胎	調整・施文	遺物番号	備考
195	杯・皿?	底部	6 b	Hue 2.5YR/2灰白色	赤色その他の細粒をわずかに含む。	外面・内面：回転ナデ、摩滅	892	土師器
196	皿	底部	6 b	Hue 7.5YR/4浅黄褐色	赤色その他の細粒をわずかに含む。	外面・内面：回転ナデ?底面：手切り痕、摩滅	980	土師器
197	杯	底部	6 b	外面・内面・器肉：Hue 7.5YR/4にない褐色 内面一部：Hue 7.5YR/2灰褐色	黒色・赤色砂粒をわずかに含む。	外面・内面：回転ナデ?底面～外周下端：ヘラ切り痕	368	土師器
198	杯・皿?	底部	6 b	外面：Hue 7.5YR/6浅黄褐色 内面：Hue 7.5YR/6晩色、器肉：Hue 10YR/4にない黄褐色		摩滅、調整不明	1356	土師器
199	杯・皿?	底部	6 b	Hue 10YR/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	内面：回転ナデ、底面～外周下部：ヘラ切り痕?摩滅	1313	土師器
200	皿	底部	6 b	Hue 10YR/8/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	摩滅、調整不明	1286	土師器
201	碗	高台部	6 b	外面・高台外内面・器肉下部：Hue 2.5YR/6晩色 内面・器肉上部：Hue 5YR/8/4晩褐色 器肉中央：Hue 7.5YR/1明褐色	白色砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：回転ナデ?摩滅	1039	土師器
202	碗	高台部	6 b	外面・内面・器肉：Hue 7.5YR/4にない褐色 Hue 2.5YR/6晩色	赤色砂粒・赤色細粒・微細粒をわずかに含む。	底面見込部：回転ナデ?内面：赤色顔料、ハケ?摩滅	1390	土師器
203	碗	高台部	6 b	外面：Hue 7.5YR/3にない褐色 Hue 2.5YR/6晩色 内面：Hue 7.5YR/5晩色 器肉：Hue 10YR/3にない黄褐色、赤色顔料：Hue 5YR/6赤褐色	微細粒をわずかに含む。	外面：回転ナデ?高台及付部：赤色顔料並付、摩滅	951	土師器
204	碗	底部	6 b	外面・底面見込部：Hue 5YR/8/4浅褐色 内面・器肉・接合面：Hue 5YR/6/6晩色	赤色粗砂粒をわずかに含む。赤色その他の細粒を若干含む。	摩滅、調整不明、高台が接合面より取れている。	1199	土師器
205	碗	底部	6 b	外面：Hue 2.5YR/6晩色、内面：Hue N3/0暗灰色 底面見込部：Hue 7.5YR/3にない褐色、器肉：Hue 7.5YR/2灰白色	微細粒を若干含む。	底面見込部：回転ナデ、内面：黒色、摩滅	1380	内黒土師器、高台欠損
206	壺	口縁部	6 b	外面：Hue 7.5YR/4にない晩色 内面：Hue 7.5YR/4晩褐色 器肉：Hue 10YR/4/6明黄褐色	赤色・灰色・黑色・透明細砂粒・微細粒を含む。	ナデ?調整不明	1463	「成川式」
207	壺	口縁部	6 b	外面：Hue 10YR/3/2黒褐色、口縁部：Hue 10YR/5/1褐色 内面：Hue 7.5YR/6/2灰褐色 器肉：Hue 7.5YR/7/2明褐色	白色・透明細砂粒をわずかに含む。微細粒を若干含む。	外面：スス付着・細かなヒビ、口縁部：ヨコナデ?内面：ヨコナデ?ヨコ方向のナデ?付着物	1126	
208	壺	口縁部	6 b	外面：Hue 10YR/3にない黄褐色 内面：Hue 10YR/6/2灰褐色 器肉：Hue 2.5YR/3にない赤褐色 器肉中央：Hue 2.5YR/1赤褐色	赤色・黒色・白色・透明細砂粒・微細粒を含む。微細粒を若干含む。	外面・内面：ヨコ方向のナデ?内面：練割	1512	「成川式」
209	不明	口縁部	6 b	外面：Hue 10YR/4にない黄褐色 内面：Hue 10YR/2にない黄褐色 器肉：Hue N5/0灰褐色	白色・黒色細砂粒を含む。	内面：ヨコ方向のナデ?	1093	
210	壺	口縁部	6 b	外面：Hue 10YR/7/2にない黄褐色 7/4にない黄褐色 内面：Hue 10YR/7/6明黄褐色 器肉：Hue 10YR/7/1灰白色	赤色砂粒をわずかに含む。飛散粒を若干含む。	外面・内面：ヨコ方向のナデ?口縁部：ヨコナデ?	1451	「成川式」
211	壺	口縁部	6 b	外面：Hue 10YR/7/2にない黄褐色 内面：Hue 7.5YR/4にない晩色 器肉：Hue N4/0	白色粗砂粒・白色砂粒・細砂粒を若干含む。	外面：ナデ、口縁部～口縁部下端：ヨコナデ、口縁上端：下端部：ユビオサエ、内面：ナデ	1166	
212	壺	頸部	6 b	外面：Hue 7.5YR/7/6褐色・Hue 7.5YR/3にない褐色 内面：Hue 10YR/7/4にない黄褐色 器肉：Hue 10YR/7/1灰白色 Hue N3/0暗褐色	赤色その他の細砂粒を若干含む。飛散粒を含む。	外面：ヨコ方向のナデ?外周側断面部附近：ユビオサエ、内面：扇曲上部：工具等によるナデ?	1385	「成川式」
213	壺	突帯部	6 b	外面：Hue 7.5YR/3にない晩色 Hue 2.5YR/2灰褐色 内面：Hue 7.5YR/8/4晩黄褐色 器肉：Hue 7.5YR/8/1灰白色	黒色その他の細砂粒を含む。	外面：ヨコ方向のナデ?内面：ユビオサエ(突帯整形時?)	525	「成川式」
214	不明	突帯部	6 b	外面：Hue 7.5YR/4にない晩色 Hue 2.5YR/3にない晩色 内面：Hue 7.5YR/6/2灰褐色 器肉：Hue 7.5YR/8/3浅黄褐色	黒色・透明砂粒をわずかに含む。細砂粒・飛散粒を含む。	外面：ヨコナデ	981	

器番号	器種	部位	底土層	色調・粒度	底土・埴輪	調整・施文	遺物番号	備考
215	不明	突帯部	6 b	外面：H ue2.5YR6/6 棕色・H ue2.5YR5/3に近い赤褐色、内部：H ue10YR5/2灰褐色、器内：H ue10YR7/1灰白色	赤色砂粒をわずかに含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	突帯下部：ナナメ方向ナデ？、外下面下部：ヨコ方向のナデ、内部：工具等によるナデ？	832	
216	不明	突帯部	6 b	外面：H ue2.5YR6/6に近い赤褐色、H ue5YR3/2暗赤褐色、内部：H ue10YR8/2灰白色	細砂粒・微細粒を含む。	摩滅、調整不明	1197	
217	壺	脚部	6 b	外面・器内：H ue2.5YR6/6棕褐色、内部・器内一部：H ue7.5YR6/6棕色	砂粒を含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコ方向のナデ、内部：ハケのちナデ、脚台欠損	1382	「成川式」脚台取付部径6.50(反転復元残存約1/6)
218	壺	底部・脚部	6 b	外面：H ue10YR8/3浅黄褐色、内部：H ue2.5YR7/1灰白色、脚内面：H ue10YR8/2灰白色、器内：H ueN2/0褐色	赤色・黒色・灰色・透明砂粒をわずかに含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	外面頭部上半：ハケのちナデ、外面頭部下半：ヨコ方向のナデ、脚内面：ナデ	1011	
219	壺	脚部	6 b	外面：H ue2.5YR5/8明赤褐色、内部：H ue5YR3/1黑褐色、器内：H ue5YR6/8褐色、H ue2.5YR5/4に近い赤褐色	黒色・灰色・透明砂粒を若干含む。	外面：ヨコ方向のナデ、内部：ユビオサエ？脚内面：ヨコ方向のナデ？	1563	「成川式」
220	壺	脚端部	6 b	外面・内部：H ue5YR6/6褐色、器内：H ue7.5YR7/4に近い黒褐色	細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコ方向のナデ？	765	
221	壺	脚端部	6 b	外面・内部：H ue10YR8/3浅黄褐色、器内：H ue7.5YR7/5黄褐色・H ue2.5YR6/8褐色	砂粒をわずかに含む。細砂粒・微細粒を含む。	外面：ハケのちナデ、内部：ナデ？	1220	脚径7.70cm(反転復元残存約1/4)
222	壺	脚端部	6 b	外面・内部：H ue5YR6/4に近い褐色、器内：H ue10YR8/2灰白色	白色砂粒・灰色・透明砂粒をわずかに含む。赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ユビオサエ・ナデ？、内部：ユビオサエ？、ヨコ方向のナデ？凹凸激しい	1461	「成川式」、脚径14.20cm(反転復元残存約1/7)
223	壺	脚端部	6 b	外面：H ue2.5YR6/6褐色、内部：H ue10YR6/3に近い黄褐色、器内：H ue5YR7/8褐色	砂粒を含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	ヨコ方向のナデ？	1285	
224	壺	脚端部	6 b	外面：H ue10BG3/1暗青灰褐色・H ue2.5YR6/3に近い褐色、内部：H ue10YR7/2に近い黄褐色、器内：H ue2.5YR7/6褐色	赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	内部：ナデ	1398	
225	壺	脚端部	6 b	外面：H ue2.5YR5/8明赤褐色、内部・器内一部・接合面：H ue5YR4/1褐色、器内：H ue5YR7/6褐色	砂粒・細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ユビオサエのちヨコナデ？外面一部：ヨコ方向のナデ？内部：ナデ	1221	
226	壺	脚部	6 b	外面：H ue7.5YR7/4に近い褐色、内部：H ue7.5YR6/6褐色、器内・接合面：H ue5YR6/4に近い褐色	細砂粒を含む。微細粒を若干含む。	外面頭部・内部：ナデ、脚端部：ヨコ方向のナデ？	1239	「成川式」
227	壺	口縁部	6 b	外面：H ue10YR8/3明黄褐色、内部：H ue7.5YR8/3浅黄褐色、器内：H ue10YR8/4浅黄褐色	透明感・赤色・白色・黒色砂粒をわずかに含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	外面・内部：ヨコ方向のナデ、口縁端部・口唇部：ヨコナデ	902	
228	壺	口縁部	6 b	H ue5YR7/6褐色・H ue7.5YR8/4浅黄褐色	赤色その他の細砂粒を含む。微細粒をわずかに含む。	外面・内部：回転ナデ？口唇部：ヨコナデ？	1107	
229	壺	口縁部	6 b	外面：H ue7.5YR5/3に近い褐色、内部・器内：H ue7.5YR7/3に近い褐色	白色・黒色・赤色・透明砂粒を若干含む。細砂粒・微細粒を含む。	外面屈曲部：ヨコナデ？口縫端部くぼみ：ヨコナデ？	325	
230	壺	突帯部	6 b	外面：H ue5YR5/3に近い赤褐色、内部・器内：H ue10YR8/3浅黄褐色	白色・透明砂粒・微細粒を若干含む。赤色その他の細砂粒を含む。	内部：ナデ？外面：斜め上部・ヘラ状工具で削り先・摩滅	983	「成川式」
231	壺	底部	6 b	外面：H ue7.5YR8/3浅黄褐色、内部・器内一部：H ueN3/0暗灰褐色、器内：H ue2.5YR6/6褐色	微細粒を若干含む。その他の砂粒を含む。	内部：ハケのちナデ？下部：ユビオサエ？摩滅	941	「成川式」
232	高杯	杯部	6 b	外面・器内外側：H ue7.5YR7/6褐色、内部・器内内側：H ueN3/0暗灰褐色	赤色・白色・黒色砂粒を若干含む。微細粒をわずかに含む。	外面：ハケ、外面屈曲部：帯状粘土貼付	1084	弦生、屈曲部径16.20cm(反転復元残存約1/6)
233	高杯	脚部	6 b	外面：H ue10YR8/3浅黄褐色、赤色・透明感・H ue2.5YR6/6明赤褐色、内部・脚内面：H ue10YR7/1褐色、器内：H ue10YR8/15灰白色	赤色・透明砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：赤色顔料塗付・上部底面(接合目印)、摩滅	1492	「成川式」、脚取付部径3.25cm(完全)

器番	器種	部位	底土層	色調・粘土質	底土・磁胎	調整・施文	測定 値	備考
234	高杯	脚部	6 b	外面・内面：H ue7.5YR8/4浅黄色，内面：H ue10YR8/4浅黄色，器内：H ue10YR8/2灰白色	赤色その他の細砂粒を若干含む。	摩拭、調整不明	1745	「成川式」、同取付部径2.90cm(実容約2/3)
235	高杯	脚部	6 b	外面：H ue5YR8/6橙色，内面・器内：H ue7.5YR8/2灰白色	赤色粗砂粒・赤色その他の細砂粒を若干含む。	外面上部：ナデ、脚端部外面・内面：ヨコ方向ナデ	1256	「成川式」
236	高杯	脚端部	6 b	外面・器内：H ue2.5YR5/6明赤褐色・H ue10YR8/3浅黄橙色，内面：H ue5YR5/6明赤褐色	微細粒を若干含む。	外面・内面：ユビオサエのちヨコ方向のナデ	1115	「成川式」
237	高杯	脚端部	6 b	外面：H ue10YR5/3にいの黄橙色，脚端部：H ue5YR6/6橙色，内面：H ue7.5YR7/6灰色，器内：H ue7.5YR8/3浅黄橙色	細砂粒を含む。微細粒を若干含む。	調整不明	252	「成川式」
238	壇	口縁部	6 b	外面：H ue7.5YR8/3浅黄橙色，内面：H ue5YR8/3淡橙色，口部脛：H ue10YR8/4浅黄橙色，器内：H ue5/0灰色	砂粒を多く含む。赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ハケ、内面：タテ方向のナデ。口唇部：ヨコナデ	1379	「成川式」
239	壇？	底部	6 b	外面：H ue10YR7/1灰白色，内面一部(赤色顔料)：H ue2.5YR7/6灰白色，器内：H ue7.5YR8/4浅黄橙色	赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	底面：ハケ？のちナデ。摩拭	999	「成川式」、底径6.80cm(反転復元残存約1/8)
240	不明	突帝部	6 b	外面：H ue7.5YR6/6橙色，内面：H ue10YR8/2灰白色，器内：H ue7.5YR8/2灰白色	赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコナデ。外面下部・内面：ヨコ方向のナデ。突帝部：先端刺突刻み目状	1046	弥生
241	壺	胴部	6 b	外面：H ue7.5YR6/8橙色，内面：H ue7.5YR4/6褐色，器内：H ue7.5YR2/3淡黄褐色	透明砂粒・細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコナデ？	966	弥生
242	不明	突帝部	6 b	外面上部・内面：H ue5YR8/4淡橙色，外面下部・器内：H ueN4/0灰白色	赤色・白色・黒色・透明砂粒を若干含む。細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面：ヨコナデ。突帝上部外面：ナデ。突帝下部外因：ハケ？内面：ナデ？	296	
243	不明	突帝部	6 b	外面：H ue7.5YR6/8橙色，内面・器内：H ue7.5YR8/4浅黄橙色，内面底斑：H ue2.5YR4/2黄灰色	白色砂粒・赤色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ヨコナデ。突帝上から斜に外面全体に刻み目を入れている。	1085	
244	不明	突帝部	6 b	外面：H ue7.5YR8/3浅黄橙色，内面：H ue7.5YR7/4にいの橙色，器内：H ueN4/0灰白色	白色粗砂粒・微細粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ユビオサエ？突帝：斜に刻突	717	
245	不明	突帝部	6 b	外面：H ue10YR7/6明黄褐色，内面・器内：H ue10YR8/3浅黄橙色	細砂粒をわずかに含む。微細粒を若干含む。	外面：ヨコナデ？突帝をハケ原体で斜に刻突	355	
246	不明	突帝部？	6 b	外面：H ue2.5YR6/6橙色，内面：H ue5YR6/6黄色，器内：H ue5YR7/3にいの橙色	赤色・白色・黒色・微細粒を多く含む。	外面：有目状疣痕。内面：ユビオサエのちナデ？	821	
247	不明	口縁部	6 b	外面・内面：H ue10YR8/2灰白色，器内：H ueN6/0灰色	赤色・白色その他の細砂粒・微細粒を若干含む。	内面：ハケメ？	797	
248	土罐	完形	6 b	外面：H ue5YR7/4にいの橙色・H ueN4/0灰白色	砂粒・赤色その他の細砂粒・微細粒を含む。微細粒を若干含む。	外面一部：黒斑。ナデ？	808	長さ5.30cm，最大径3.10cm
249	土罐	完形	6 b	外面：H ue5YR7/6 橙色・H ue2.5YR7/4 黒褐色・H ue7.5YR4/2灰褐色・H ue10YR8/2灰白色	赤色粗砂粒・赤色その他の細砂粒・微細粒をわざかに含む。	外面：ヒモズレ痕・黒斑から赤色顔料	1298	長さ4.50cm，最大径2.60cm
250	土罐	中央部	6 b	外面：H ue2.5YR7/6橙色，内面・器内：H ueN4/0灰白色		摩拭。調整不明	735	
251	土罐	ほぼ完形	6 b	外面：H ue5YR8/4淡橙色，外面口附近：H ue5YR6/1青灰色，器内：H ueN6/0灰白色	細砂粒・微細粒をわざかに含む。	ヒモズレ？抉れ？	524	最大径1.20cm(ほぼ完全)
252	土罐	ほぼ完形	6 b	H ue10YR3/2 黑褐色・H ue10YR7/6明黄褐色	細砂粒・微細粒を若干含む。	ヒモズレ？斜に抉れ？	361	
253	砾石		6 b	表面：H ue10YR8/3浅黄橙色，割れ口：H ue5YR6/6橙色	微細粒をわざかに含む。		978	重さ 106.0g
254	瓶	口縁部	7	外面・内面：H ue10GY/61級灰色に似似，器内：N6/0灰色		施釉：外内面貯入。文様：選井、片彫り	1272	青磁
255	瓶	口縁部	7	外面・内面：H ue10GY/62オーリーブ色，器内：H ueN7/0灰白色	白色・黒色微細粒を若干含む。	施釉：外内面貯入	1061	青磁
256	瓶	高台部	7	外面・器内：H ueN9/0白色，外面一部・内面：H ue2.5YR/1灰白色，高台外面一部・底面：H ue5YR7/6橙色，透明狀		外側・内面：施釉。内面：貯入。高台取付部外面・底面：無施回転ナデ？内面：自断(上面物削落)3箇所	1138	陶器，底径4.80cm(ほぼ完全)

器番号	器種	部位	出土層	色調・粒度	胎土・埴胎	調整・施文	遺物番号	備考
257	碗(大盤)	高台部	7	外面・高台内面・器付部: H ue7.5YR8/1灰白色。器内: H ue7.5YR8/2浅黄色。内面: 2.5Y8/4浅黄色。器内: H ue2.5YR8/3褐色。器内: H ue7.5YR8/0灰白色	白色・黑色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1509	磁器、高台径9.50cm(反転復元残存約1/8) 釉:風化
258	碗	口縁部	7	外面・内面・器肉: H ue 2.5Y8/2灰白色。外面一部: H ueN5/0灰白色	白色・黑色細砂粒を若干含む。	回転ナデ、外面: 黒墨・スス付着	1410	土師器
259	杯?	口縁部	7	Hue7.5YR8/2灰白色	褐色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1712	土師器
260	皿	完全形	7	Hue 10YR8/2灰白色	褐色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面・内面: 回転ナデ。底面: 糸切り痕?	1614	土師器、底径4.40cm(反転復元残存約1/8)
261	皿	体部-底部	7	Hue 10YR8/3浅黄褐色	褐色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	内面: 回転ナデ、底面: 糸切り痕	1542	土師器、底径6.00cm(反転復元残存約1/4)
262	皿	底部	7	Hue 2.5Y8/2灰白色	灰色砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面: 回転ナデ、内面・底面: 磁城、調整不明	1693	土師器、底径7.05cm(反転復元残存約1/8)
263	皿	底部	7	Hue5YR7/6橙色	微細粒をわずかに含む。	外面・内面: 回転ナデ、底面: 調整不明	896	土師器、底径6.20cm(反転復元残存約1/4)
264	皿	底部	7	外面・底面: H ue 10YR6/2灰黄色、内面・器肉: H ue7.5YR8/6浅黄色。器肉中赤色: H ue10R4/8赤色	赤色斑をわずかに含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	回転ナデ	1362	土師器、底径4.90cm(反転復元残存約1/3)
265	皿	底部	7	外面・内面・底面: H ue5YR7/6橙色、器肉: H ue7.5YR8/4浅黄褐色	褐色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面・内面: 回転ナデ、底面: ヘラ切り痕	1069	土師器、底径7.49cm(反転復元残存約1/6)
266	碗	高台部	7	外面・内面・高台内面・底面見込部: H ue 10YR8/2灰白色。器内一部: H ueN5/0灰白色。H ue2.5YR7/4浅黄色	赤色・黑色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面: 回転ナデ、高台内面・底面見込部: 回転ナデ。内面: 磁城、調整不明	1351	土師器、高台取付部径7.88cm(反転復元残存約1/6)
267	皿	完全形?	7	外面・内面・器肉: H ue 10YR8/2灰白色、外面・底面・器内一部: H ue5YR7/6橙色		外面: 回転ナデ、磁城、他調整不明	1570	土師器
268	不明	底部	7	外面・内面・器肉: H ue7.5YR8/2灰白色。赤色顔料部: H ue2.5YR4/4に赤い褐色、器内一部: H ue2.5YR4/3に赤い褐色	褐色細砂粒をわずかに含む。	外面上部: 赤色顔料塗付。内面: 回転ナデ	1609	土師器
269	杯	底部	7	Hue7.5YR8/3浅黄褐色	褐色・灰色細砂粒・微細粒をわずかに含む。	外面: 回転ナデ、底面: 糸切り痕? 磁城、他調整不明	1711	土師器
270	碗	高台部	7	Hue 10YR8/2灰白色	微細粒をわずかに含む。	回転ナデ	1597	土師器
271	碗	高台部	7	Hue 10YR8/2灰白色	細砂粒・微細粒を若干含む。	高台外面: 回転ナデ、磁城、他調整不明	1712	土師器
272	甕	口縁部-肩部	7	外面・内面: H ue7.5YR8/5浅黄褐色。H ue5YR6/6橙色。器内: H ue 10YR6/4に赤い褐色	灰色砂粒をわずかに含む。細砂粒・微細粒を若干含む。	口縁部外面: ヨコナデ。肩部外面: タテハケのちヨコナデ。腹部: ナナメハケのちナデ。内面: ナデ	1214	「成川式」(東原)? 口径22.70cm(反転復元残存約1/8)
273	甕	口縁部-颈部	7	外面: H ue 10YR3/2黑褐色。H ue7.5YR7/8黄褐色。H ue 10YR3/4暗褐色。内面: H ue7.5YR8/3に赤い褐色。器内: H ue 7.5YR8/3浅黄褐色	黒色・透明・灰色細砂粒を若干含む。微細粒を若干含む。	外面: 調整不明。口縫部: ヨコナデ。内面: ナナメハケ方向のナデ	1546	「成川式？」
274	甕	口縁部	7	外面・内面: H ue5YR6/4に赤い褐色。内面一部: H ue5YR6/3に赤い褐色。内面黒斑: H ueN3/0暗灰色。器内: H ue 7.5Y4/1灰色	黒色・白色細砂粒を若干含む。微細粒をわずかに含む。	外面: ナナメハケ、内面: ハケ、黒墨、口縫部: ヨコナデ?	1462	
275	甕	口縁部	7	外面: H ue7.5YR5/4に赤い褐色。内面・器肉: H ue7.5YR7/8黄褐色	透明・黒色・白色細砂粒を含む。微細粒を含む。	磁城、調整不明	1068	
276	甕	頸部-肩部	7	外面: H ue5YR7/6橙色。外面一部・器肉一部: H ue7.5YR5/3に赤い褐色。内面: H ue7.5YR4/1褐色。内面一部・器肉: H ue7.5YR8/6浅黄褐色	黒褐色砂粒をわずかに含む。黑色・透明細砂粒・微細粒を若干含む。	ナデ?	1702	「成川式」
277	甕	尖部	7	外面: H ue7.5YR7/6橙色。内面: H ue7.5YR7/4に赤い褐色。器内: H ue7.5YR8/2灰白色	赤色・黒色・透明細砂粒を若干含む。細砂粒・微細粒を含む。	外面: ヨコナデ、ハケ工具による削み目、内面: 調整不明	1698	

器番	器種	部位	出土場	色・圖・釉・圖	胎土・磁胎	調整・施文	遺物番号	備考
278	壺	脚取付部	7	外面：H ue5YR8/4浅褐色・H ue7.5YR4/3褐色。内面：器内下部・器内中尖部：H ue5YR3/1墨褐色。器内外脚取付面：H ue2.5YR7/8褐色	白色・赤色・灰 色斑をわずかに含む。 黑色・黑色・透 明細砂粒を若干含む。 黑色・黑色・透 明細砂粒を若干含む。	外面上半部：ハケの ちナデ。外面下半部： ナデ。内面下部：エ ビナデ	1498	「成川式」脚取付部径 6.60cm(反転復元残存約 1/6)
279	壺	脚部	7	外面・内面：H ue7.5YR8/4浅黃褐色。 器内：H ue2.5YR7/8褐色	白色 透明細砂粒を若干含む。 黑色・灰色・白 色斑をわずかに含 む。	外面：ヨコ方向のナ デ。脚端部：ヨコナ デ？ 内面：付着物、開 差不明	1431	「成川式」
280	高杯？	口縁部	7	外面：H ue7.5YR7/3によい褐色・ H ue7.5YR8/8黄褐色。内面：H ue5YR6/4によい褐色。器内：H ue5YR7/6褐色	黑色・白色・透 明細砂粒を若干含む。 黑色・白色・透 明細砂粒を若干含む。	外面：ヨコ方向のナ デ。口縫端部内面：ヒ コナデ？	1181	「成川式」
281	不明	口縁部	7	外面：H ue7.5YR8/6褐色。内面： H ue7.5YR8/2灰白色。器内：H ue7.5YR7/8褐色	赤色・褐色細砂 粒を含む。細砂 粒・微細粒を含 む。	外面：ハケのちナデ。 口縫端部内面：ナ デ。口縫端部内面周縁部： ヨコナデ？	1716	
282	高杯	脚部	7	外面：H ue7.5YR5/3によい褐色。 内面・器内：H ue7.5YR7/3によい 褐色	白色・灰色細砂 粒を含む。細砂 粒・微細粒を若干含む。	外面：タテ(ナメ)ハ ケのちナデ。脚端部外 面：ヨコナデ。内面： 開差不明	1405	「成川式」
283	壺？	脚部～ 底部	7	外面：H ue7.5YR5/6明褐色・H ue7.5YR6/3によい褐色。内面：H ue7.5YR3/2黒褐色。器内：H ue7.5YR8/3黄褐色	微細粒をわずか に含む。	外面・内面とも付着物 調整不明	1706	「成川式」底径4.30cm (反転復元残存約1/4)
284	壺	口縁部	7	外面・内面：H ue7.5YR8/3浅黃褐色。 器内：H ueN4/0灰白色	灰白色斑をわざ かに含む。赤色・白 色・黑色・砂粒・微細粒を若干含む。	口縫端部外面：ユビオ サエ。口部：ヨコナ デ？	1784	
285	不明	突帯部	7	外面：H ue5YR5/6明赤褐色。内面・ 器内：H ue5YR7/6褐色	透明・黑色細砂 粒・微細粒を含 む。	調整不明	1550	弥生
286	壺	底部	7	外面：H ue5YR7/3によい褐色。 内面：H ue5YR5/1褐色。底面：H ue5YR7/4によい褐色。器内：H ue5YR7/1明褐灰	赤色・灰色細砂 粒・透明・灰色 砂粒・微細粒を若干含む。	外面：ハケ？ のちナ デ。内面：ナデ。底面 ：ハケ？ のちナデ。ハ ケ工具を押してたよ うなクボマリあり	1615	弥生、底径6.10cm(反転 復元残存約1/4)
287	壺	口縁部？	7	外面・口縁部：H ue7.5YR7/4によ い褐色。内面：H ue10YR8/5黄褐色。 器内：H ue10YR4/1褐色灰	微細粒をわずか に含む。	口縫部：ヨコナデ。口 縫端部外内面：ヨコナ デ？	1625	
288	不明	突帯部	7	外面：H ue5YR6/6褐色。内面：H ue7.5YR7/6褐色。器内：H ue7.5YR8/4浅褐色	透明・黑色細砂 粒を含む。微細 粒を若干含む。	外面下部・内面中央部 ：ユビオサエ。底誠。 他調整不明	1783	
289	壺？	突帯部	7	外面：H ue5YR6/6褐色。内面・器 内：H ue10YR8/2灰白色	微細粒をわずか に含む。	突帯部外面：ヨコナ デ。底誠。他調整不明	1264	「成川式」
290	不明	口縁部？	7	外面：H ue2.5Y7/1灰白色。内面 ：H ue10YR8/2灰白色。器内：H ue10YR7/3によい黄褐色	細砂粒・微細粒 を若干含む。	口縫端部内面：ヨコナ デ？ 他調整不明	1520	
291	壺・擂 鉢？	口縁部	8	外面上半部：H ue5Y6/1灰褐色。外 面下半部・内面：H ue2.5Y7/1灰 白色。器内：H ue2.5Y8/1灰白色	細砂粒・微細粒 を若干含む。	回転ナデ	1764	陶器、口径 25.45cm(反 転復元残存約1/8)
292	皿・ 杯？	口縁部	8	Hue 10YR8/2灰白色	微細粒をわずか に含む。	外面：回転ナデ？ 底 誠。内面：底誠。調整 不明	1707	土師器
293	皿・ 杯？	底部	8	外面・器内：H ue7.5YR8/3浅黃褐色。 内面：H ue7.5YR8/4浅黃褐色	赤色・黑色・白 色細砂粒・微細 粒を若干含む。	内面：回転ヨコナデ？ 底誠。	1624	土師器
294	皿・ 杯？	底部	8	Hue7.5YR8/2灰白色	微細粒をわずか に含む。	内面：回転ヨコナデ？ 底誠。底面：ホリ切 抜？ 底誠	1617	土師器、底径 6.98cm(は は完全)
295	皿	底部	8	外面・内面・器内：H ue10YR8/3 浅黃褐色。赤色底料：H ue2.5YR6/8褐色	赤色・黑色・白 色細砂粒を若干 含む。細砂粒・微細 粒をわずかに含む。	外面・内面・底面：赤 色底料塗付。断面：赤 色底料？	2014	土師器、No 4 トレンチ
296	高杯	脚部	8	外面・内面：H ue7.5YR7/3によい 褐色。器内：H ue2.5YR6/6褐色	黒色・白色・透 明・白透明砂粒 を若干含む。細 砂粒・微細粒を わずかに含む。	外面：タテ方向のナ デ。内面・脚端部：開 差不明	1701	「成川式」
297	杯？	底部	8	外面：H ue10YR8/5黄褐色。内面 ：H ue10YR5/8褐色。器内：H ue10YR7/4によい黄褐色	赤色・黒色・白 色細砂粒を含む。 微細粒をわざかに含む。	不純物付着のため調整 不明	2006	土師器、No 3 トレンチ。 培(成川)の可能性があ る。

器番号	器種	部位	出土層	色 調・粒 調	胎土・埴胎	調整・施文	遺物 番号	備 考
298	不明	不明	8	外面・内面：Hue7.5YR6/4にぶい 褐色。器内：Hue7.5YR6/6褐色	白色砂粒・微細 粒をわずかに含む。	回転ナデ？	1632	
299	碗	完形	9・ 10	Hue 10YR8/3浅黄褐色	微細粒をわずか に含む。	外面・内面：回転ナ デ。底面：ヘラ切り底。 底部中央外側：2条ク ボミ(底形跡)。底部： 充実高台状わざかな 底。胎土満まりになっ ている。	1644	土師器、口径 12.35cm・ 底径 4.95cm(底部はば完 全、口縁部残存約 2/3)
300	碗	口縁部	9	外面・器内：Hue 10YR8/2灰白色、 内面：Hue 10YR8/3浅黄褐色	細砂粒・微細粒 をわずかに含む。	回転ナデ	2015	土師器、No 4 トレンチ
301	碗	口縁部	9	外面・内面：Hue 10YR8/3浅黄褐 色。器内：Hue7.5YR6/4浅黄褐色	茶色砂粒をわず かに含む。細砂 粒を若干含む。	回転ナデ	2015	土師器、No 4 トレンチ
302	甕	脚部	9	外面・内面一部・脚内面：Hue 10YR8/2 灰白色。内面：Hue 10YR8/1 黄褐色。器内：Hue 10YR7/2にぶい黃褐色	白色・黒色・赤 色・透明細砂 粒・葉細粒を含 む。	外面：ユビナデ、内 面・脚内面：ナデ	1651	
303	フィゴ	羽口	9	外面・器内中央：Hue7.5YR8/3浅 黄褐色。外面一部：Hue7.5YR8/0灰色。 内面：Hue 10YR8/3浅黄褐色。器 内上部：Hue2.5YR6/6褐色。器内 下部：Hue 2.5Y7/1灰白色	灰色・白色・茶 色・黑色～暗 褐色～粗 砂粒を若干含 む。細砂粒・微 細粒を含む。	外面：ナデ・黒斑、外 面一部：ヨコ方向のナ デ。内面：調整不明	1727	管状を呈する
304	壺	胴部	10	外面・器内外側：Hue 10YR7/4に ぶい黄褐色。内面：Hue 10YR7/2 にぶい黄褐色。器内内面：Hue 2.5Y3/1黒褐色	調を若干含む。 白色砂粒・黑 色砂粒・葉細 粒を含む。	外面：ナデ、突帯部外 面：ヨコナデ。内面： ナデ	1780	
305	甕	胴部	12	外面：Hue7.5YR5/4にぶい褐色。 内面：Hue7.5YR6/3にぶい褐色。 器内：Hue7.5YR8/4浅黄褐色	調を若干含む。 黑色・白色・赤 色砂粒・葉細 粒を含む。	外面上半部：ヨコナ デ。外面下半部：ナデ。 内面：ヨコナデ？	1787	
306	甕？	口 縁 部？	6	外面・内面：Hue SB4/1暗青灰色。 器内：Hue 10BC5/1青灰色	白色細砂粒をわ ずかに含む。微 細粒を若干含 む。	回転ナデ	2020	須恵器、No 5 トレンチ
307	甕	脚部	表探	外面・内面：Hue5YR6/4にぶい褐 色。器内：Hue7.5YR8/3浅黄褐色	粗砂粒を若干含 む。細砂粒を含 む。微細粒をわ ずかに含む。	外面：ユビオサエ。内 面：ヨコナデ	2057	「成川式」脚径6.72cm(反 転復元残存約 1/6)

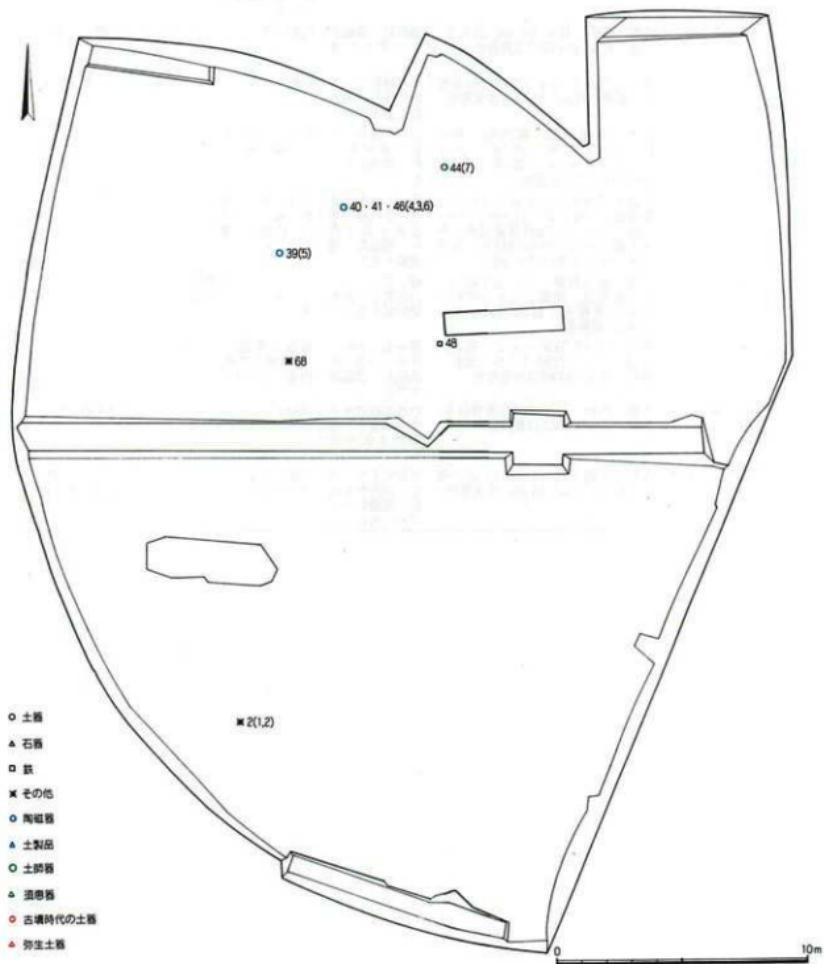


Fig. 28 1層出土遺物平面分布図 S = 1/200

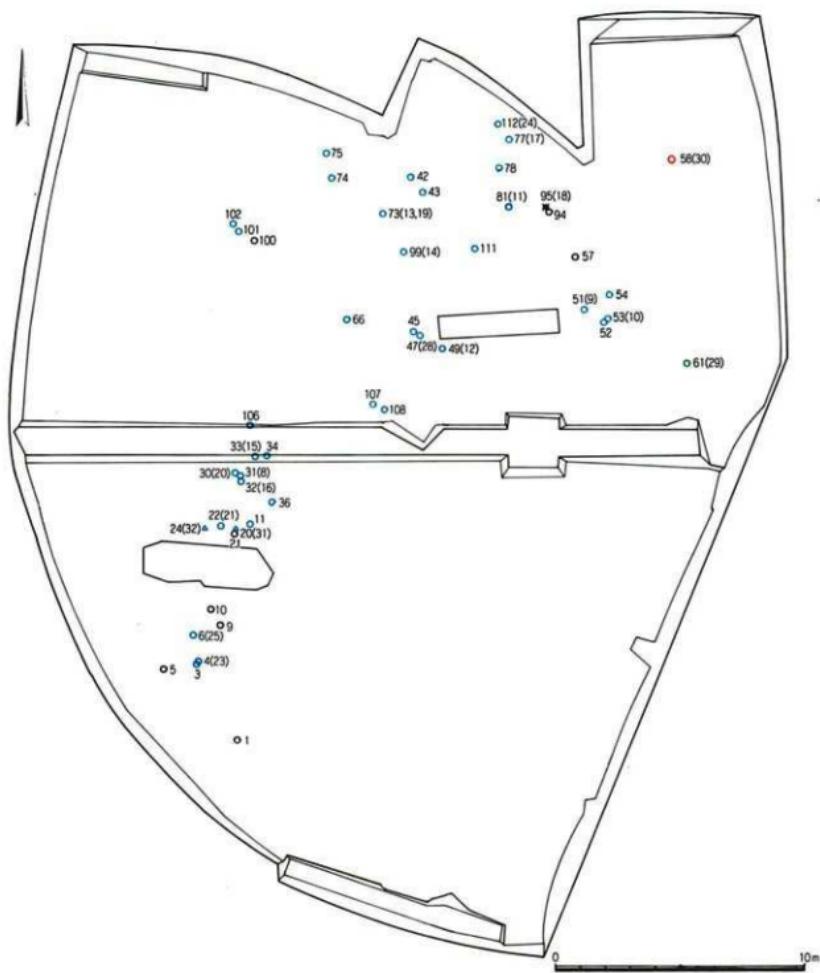


Fig. 29 2層出土遺物平面分布図 S = 1/200

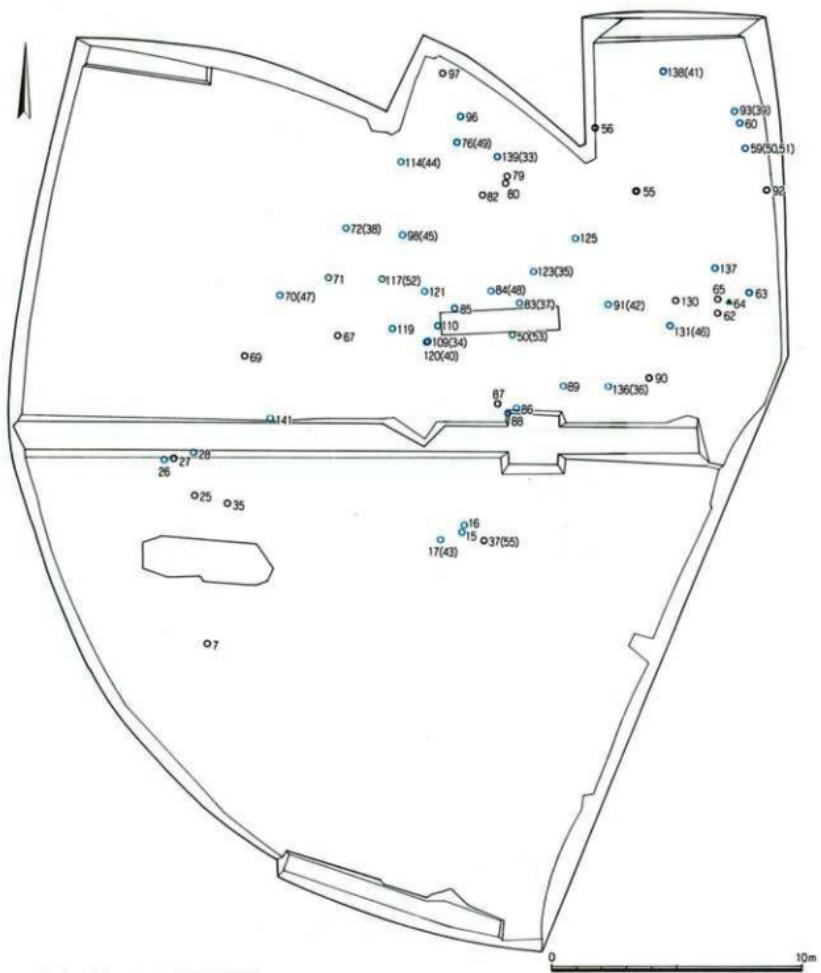


Fig. 30 3層出土遺物平面分布図 S = 1/200

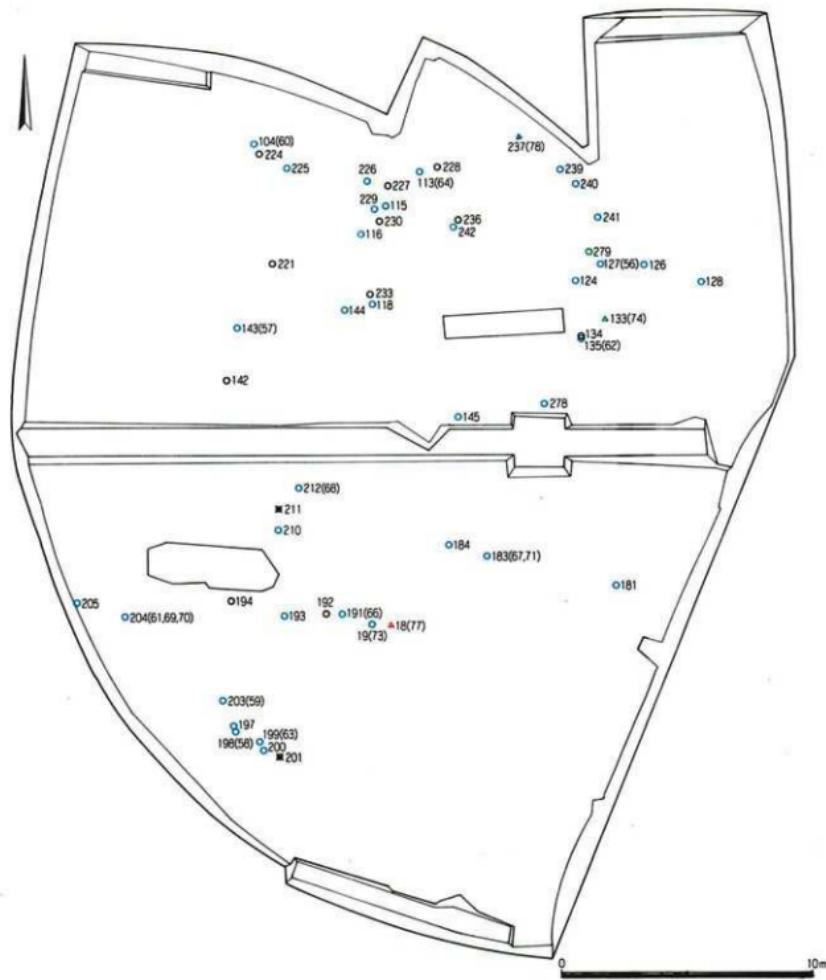


Fig. 31 4層出土遺物平面分布図 S = 1/200

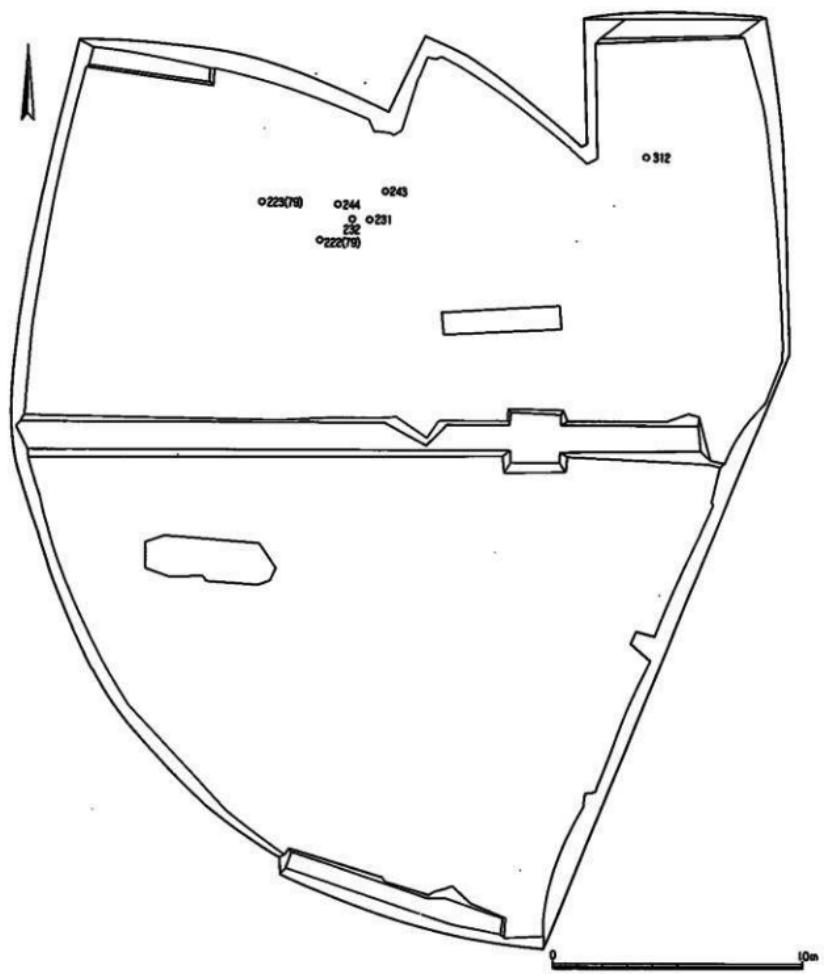


Fig. 32 5層出土遺物平面分布図 S = 1/200

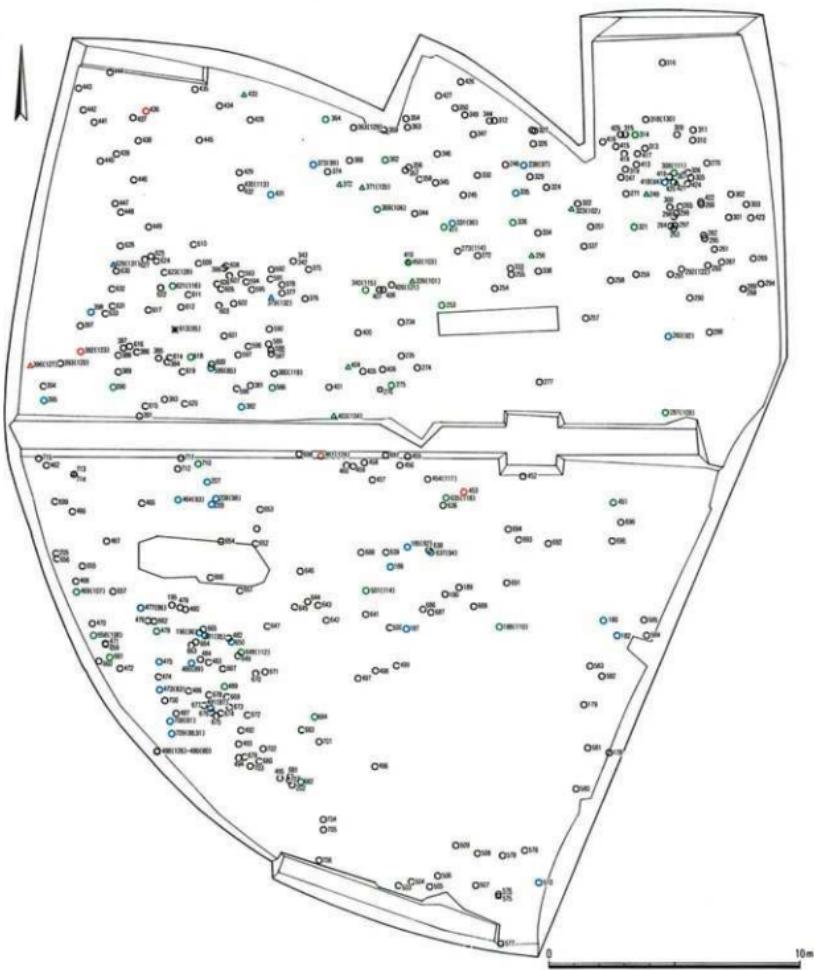


Fig. 33 6a層出土遺物平面分布図 S = 1/200

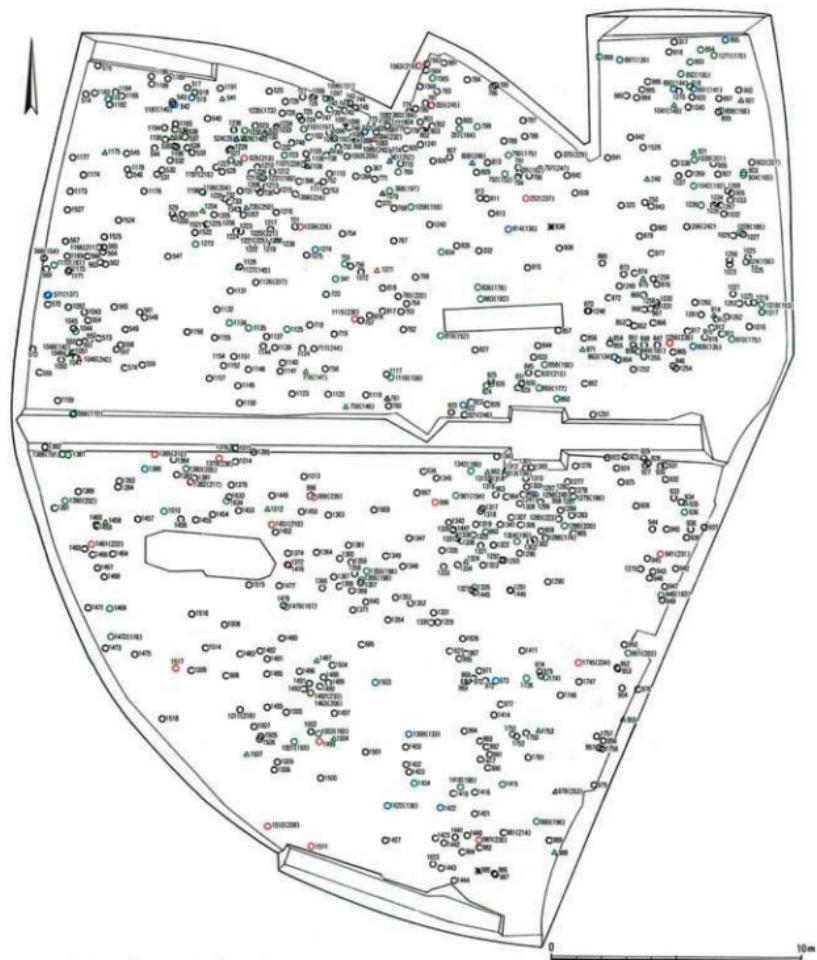


Fig. 34 6b層出土遺物平面分布図 S = 1/200

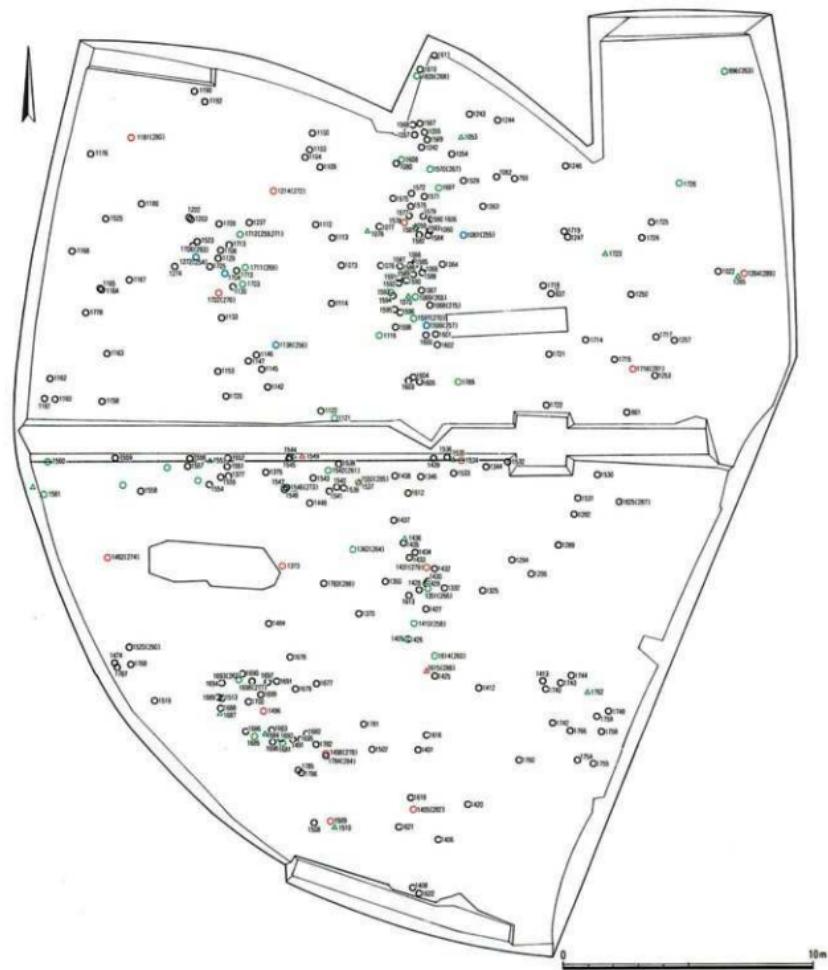


Fig. 35 7層出土遺物平面分布図 S = 1/200

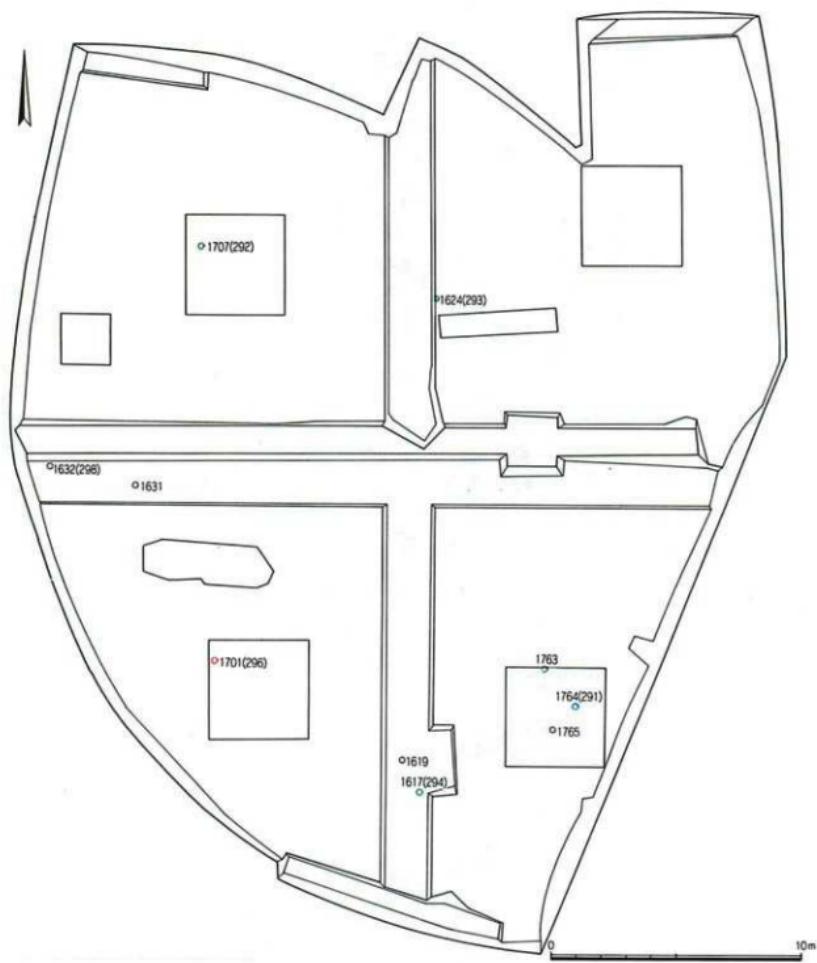


Fig. 36 8層出土遺物平面分布図 S = 1/200

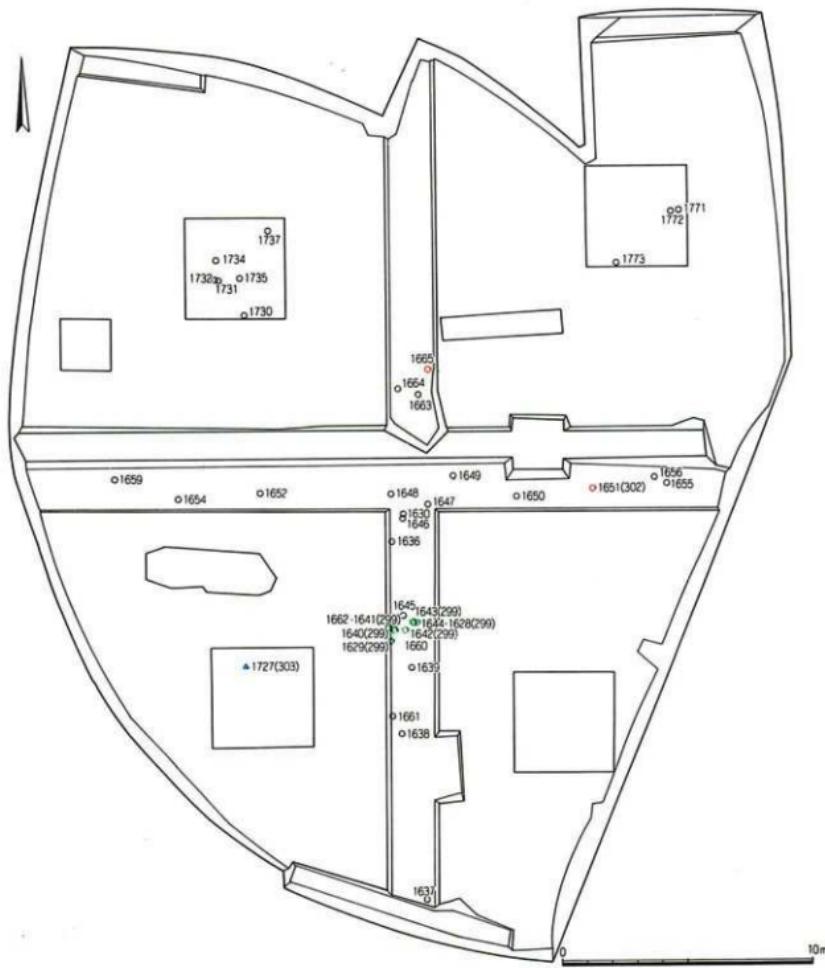


Fig. 37 9層出土遺物平面分布図 S = 1/200

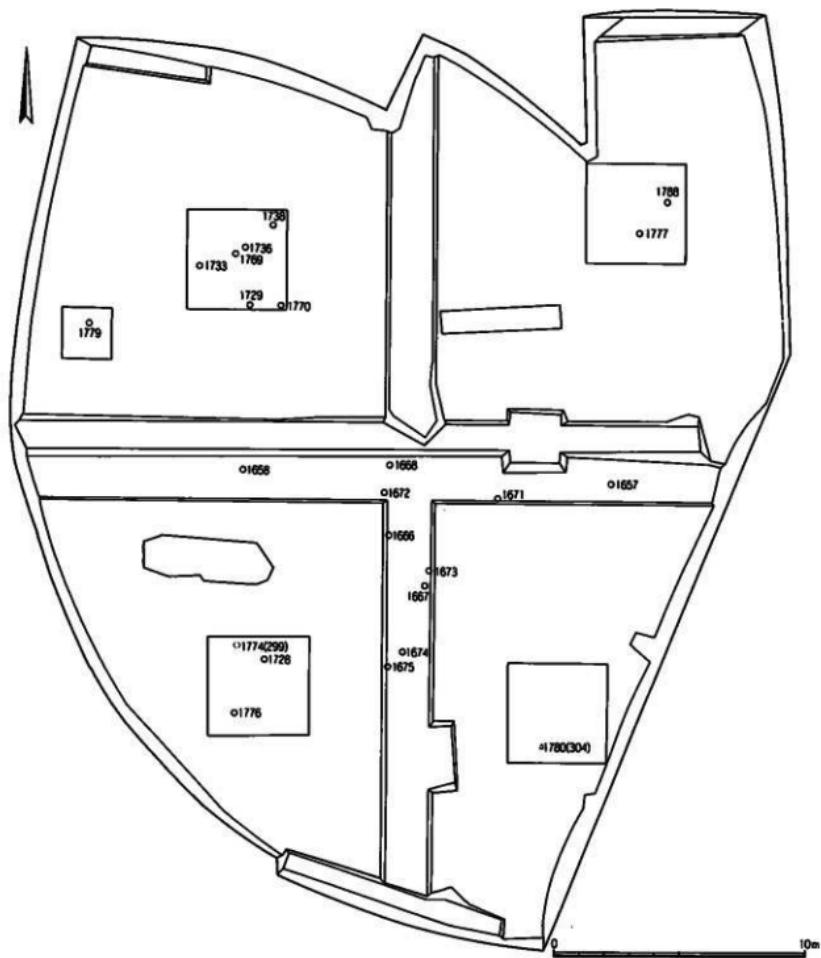


Fig. 38 10層出土遺物平面分布図 S = 1/200

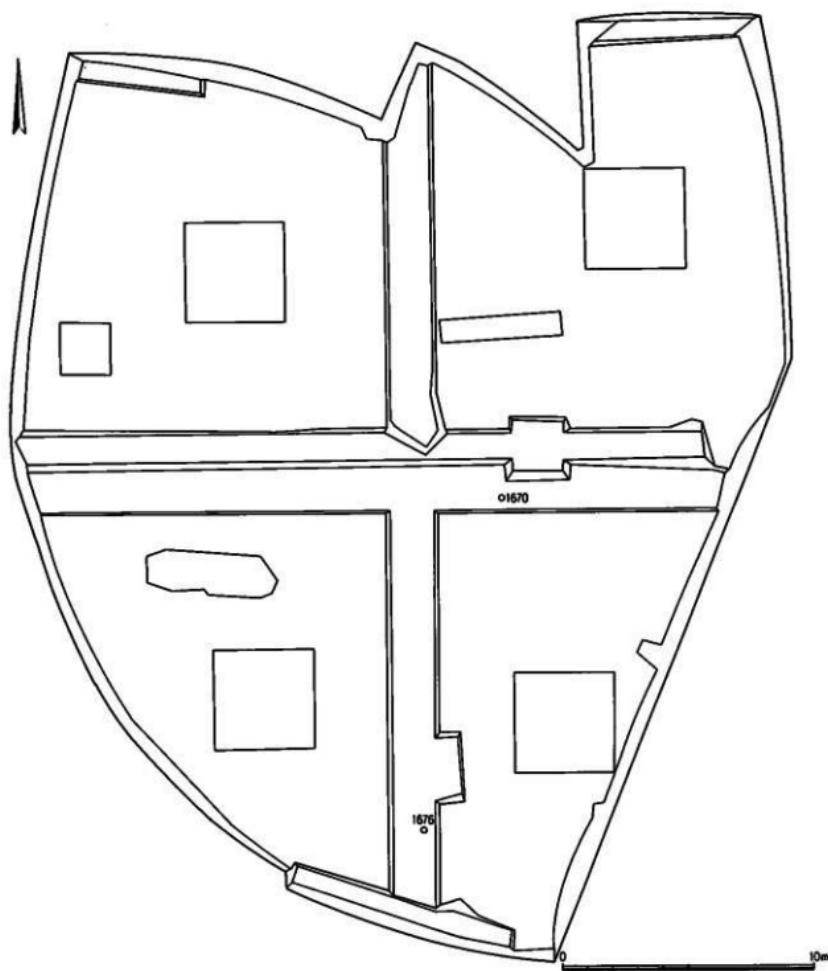


Fig. 39 11層出土遺物平面分布図 S = 1/200

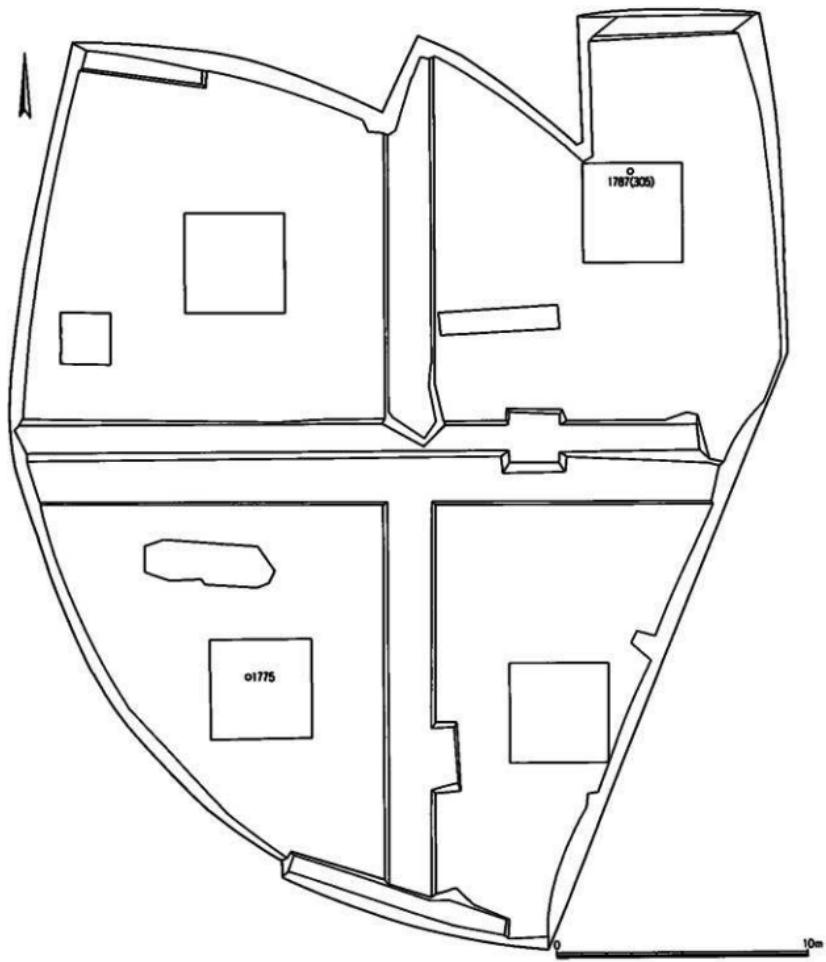


Fig. 40 12層出土遺物平面分布図 S = 1/200

Tab. 4 遺物一覧表

No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.
1	002	K			66	002	T			128	004	T		
2	001	A		1, 2	67	003	K			130	003	K		
3	002	T			68	001	A			131	003	T		46
4	002	T		23	69	003	K			133	004	C		74
5	002	K			70	003	T		47	134	004	K		
6	002	Z		25	71	003	H			135	004	T		62
7	003	K			72	003	T		38	136	003	T		36
9	002	K			73	002	Z		13, 19	137	003	T		
10	002	X			74	002	T			138	003	T		41
11	002	T			75	002	Z			139	003	Z		33
15	003	T			76	003	T		49	141	003	T		
16	003	T			77	002	Z		17	142	004	K		
17	003	T		43	78	002	T			143	004	Z		57
18	004	Y		K	77	79	003	K		144	004	T		
19	004	T			80	003	K			145	004	Z		
20	002	B		31	81	002	Z		11	146	SK1	O	I	
21	002	K			82	003	K			147	SK1	O	I	
22	002	T		21	83	003	T		37	148	SK1	O	I	
24	002	B		32	84	003	T		48	149	SK1	O	I	
25	003	K			85	003	Z			150	SK1	O	I	
26	003	T			86	003	T			151	SK1	O	I	
27	003	K			87	003	K			152	SK1	O	I	
28	003	Z			88	003	Z			153	SK1	O	I	
29	003	O			89	003	T			154	SK1	O	I	
30	002	T		20	90	003	K			155	SK1	O	I	
31	002	Z		8	91	003	T		42	156	SK1	O		
32	002	Z		16	92	003	K			157	SK1	O	I	
33	002	Z		15	93	003	T		39	158	SK1	O	I	
34	002	Z			94	002	K			159	SK1	C		
35	003	K			95	002	A		18	160	SK1	O		
36	002	Z			96	003	T			161	SK1	O	I	
37	003	S		55	97	003	K			162	SK1	O	I	
38	002	O			98	003	T		45	163	SK1	O	I	
39	001	T		5	99	002	Z		14	164	SK1	O	I	
40	001	Z		4	100	002	K			165	SK1	O	I	
41	001	Z		3	101	002	T			166	SK1	O	I	
42	002	Z			102	002	T			167	SK1	O	I	
43	002	Z			104	004	T		60	168	SK1	O	I	
44	001	H		7	106	002	T			169	SK1	K		
45	002	T			107	002	T			170	SK1	O	I	
46	001	T		6	108	002	Z			171	SK1	O	I	
47	002	H		28	109	003	Z		34	172	SK1	O	I	
48	001	I			110	003	Z			173	SK1	O	I	
49	002	Z		12	111	002	T			174	SK1	O	I	
50	003	H		53	112	002	T		24	175	SK1	O	I	
51	002	Z		9	113	004	T		64	176	SK1	O	I	
52	002	T			114	003	T		44	177	SK1	O	I	
53	002	Z		10	115	004	T			178	06a	K		
54	002	T			116	004	T			179	06a	K		
55	003	K			117	003	H		52	180	06a	T		
56	003	K			118	004	T			181	004	Z		
57	002	K			119	002	T			182	06a	T		
58	002	H		T 30	120	003	T		40	183	004	T		67, 71
59	003	T		50, 51	121	003	T			184	004	T		
60	003	T			122	003	O		54	185	06a	Z		82
61	002	H		29	123	003	Z		35	186	06a	T		
62	003	K			124	004	T			187	06a	T		
63	003	T			125	003	T			188	06a	H		110
64	003	C			126	004	T			189	06a	K		
65	003	K			127	004	Z		56	190	06a	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
191	004	T		66
192	004	K		
193	004	T		
194	004	X		
195	06a	K		
196	06a	T		96
197	004	T		
198	004	Z		58
199	004	T		63
200	004	T		
201	004	A		
202	06a	K		
203	004	Z		59
204	004	T		61, 69, 70
205	004	T		
206	06a	K		
207	06a	T		
208	06a	T		98
209	06a	T		
210	004	T		
211	004	A		
212	004	T		68
213	C			
214	SK1	O	I	
215	SK1	O		
216	SK1	O	I	
217	SK1	O	I	
218	SK1	O	I	
219	SK1	O	I	
220	004	Z		
221	004	K		
222	005	K		79
223	005	K		
224	004	K		
225	004	T		
226	004	T		
227	004	K		
228	004	K		
229	004	T		
230	004	K		
231	005	K		
232	005	K		
233	004	K		
234	06a	K		
235	06a	K		
236	004	K		
237	004	B		78
238	06a	T		97
239	004	T		65

No.	土層	種別	器種	図面No.
251	06a	K		
252	06b	N	T	237
253	06a	H		
254	06a	K		
255	06a	K		
256	06a	C		
257	06a	K		
258	06a	K		
259	06a	K		
260	06a	T		92
261	06a	K		
262	06a	K		
263	06a	H		
264	06a	K		
265	06a	K		
266	06a	K		
267	06a	K		
268	06a	K		
269	06a	K		
270	06a	K		
271	06a	K		
272	06a	K		
273	06a	K		114
274	06a	K		
275	06a	H		
276	06a	I		
277	06a	K		
278	004	Z		
279	004	H		
280	06a	H		109
281	06a	K		
282	06a	K		
283	06a	K		
284	06a	K		
285	06a	K		
286	06a	K		
287	06a	H		
288	06a	K		
289	06a	K		
290	06a	K		
291	06a	K		
292	06a	K		122
293	06a	K		
294	06a	K		
295	06a	K		
296	06b	K		242
297	06a	K		
298	06a	K		
299	06a	K		
300	06a	K		
301	06a	K		
302	06a	K		
303	06a	K		
304	06a	K		
305	06a	K		
306	06a	K		
307	06a	K		
308	06a	H		111
309	06a	K		
310	06a	K		
311	06a	K		
312	005	T		
313	06a	K		
314	06a	H		
315	06a	K		
316	06a	K		
317	06b	K		
318	06a	X		130

No.	土層	種別	器種	図面No.
319	06a	K		
320	06b	K		
321	06a	H		
322	06a	K		
323	06a	C		102
324	06a	K		
325	06b	K	P	229
326	06a	K		
327	06a	K		
328	06a	K		
329	06a	K		
330	06a	K		
331	06a	T		90
332	06b	K		
333	06a	K		
334	06a	K		
335	06a	T		
336	06a	H		
337	06a	K		
338	06a	K		
339	06a	C		101
340	06a	H		115
341	06b	H		
342	06a	O		
343	06a	K		
344	06a	K		
345	06a	K		
346	06a	K		
347	06a	K		
348	06a	K		
349	06a	K		
350	06a	K		
351	06b	H		164
352	06b	K		
353	06a	K		
354	06a	K		
355	06b	N		245
356	06a	K		
357	06a	K		
358	06a	K		
359	06a	K		
360	06b	H		184
361	06b	B		252
362	06a	H		
363	06a	K		129
364	06a	H		
365	06b	K		
366	06a	X		
367	06b	K		
368	06b	H		197
369	06a	H		106
370	06b	K		
371	06a	C		105
372	06a	C		
373	06a	T		99
374	06a	K		
375	06a	K		
376	06a	K		
377	06a	K		
378	06a	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.
379	06a	B		132	439	06a	K			499	06a	K		
380	06a	K		119	440	06a	K			500	06a	K		
381	06a	K			441	06a	K			501	06a	H		114
382	06a	T			442	06a	K			503	06a	K		
383	06a	K			443	06a	K			504	06a	K		
384	06a	K			444	06a	X			505	06a	K		
385	06a	K			445	06a	K			506	06a	K		
386	06a	K			446	06a	K			507	06a	K		
387	06a	K			447	06a	K			508	06a	K		
388	06a	K			448	06a	X			509	06a	K		
389	06a	K			449	06a	K			510	06a	T		
390	06a	H			450	06a	C		103	514	06b	K		
391	06a	K			451	06a	H			515	06b	K		
392	06a	N	K	123	452	06a	K			516	06b	T		
393	06a	K		120	453	06a	N			517	06b	X		
394	06a	K			454	06a	H		117	518	06b	X		
395	06a	T			455	06a	K			519	06b	Z		
396	06a	Y	K	127	456	06a	K			520	06b	K		
397	06a	K			457	06a	K			522	06b	K		
398	06a	T			458	06a	K			523	06b	K		
399	06a	K			459	06a	K			524	06b	B		251
400	06a	K			460	06a	K			525	06b	N	K	213
401	06a	K			461	06a	N	P	124	526	06b			
402	06a	N	C	125	462	06a	K			527	06b	K		
403	06a	C		104	463	06a	K			528	06b	K		
404	06a	C			464	06a	T		93	529	06b	K		
405	06a	K			465	06a	K			530	06b	K		
406	06a	K			466	06a	K			531	06b	X		
407	06a	K			467	06a	K			532	06b	K		
408	06a	K			468	06a	K			533	06b	K		
409	06a	K	K	121	469	06a	H		107	534	06b	K		
410	06a	H			470	06a	K			535	06b	K		
411	06a	H			471	06a	K			536	06b	C		
412	06a	K			472	06a	K			537	06b	X		
413	06a	K			473	06a	Z		83	538	06b	C		
414	06a	K			474	06a	K			539	06b	K		
415	06a	K			475	06a	T			540	06b	K		
416	06a	K			476	06a	K			541	06b	C		
417	06a	K			477	06a	Z		86	542	06b	T		
418	06a	Z		84	478	06a	H			543	06b	K		
419	06a	K			479	06a	K			544	06b	K		
420	06a	K			480	06a	K			545	06b	K		
421	06a	C			481	06a	T		95	546	06b	K		
422	06a	K			482	06a	K			547	06b	K		
423	06a	K			483	06a	K			548	06b	K		
424	06a	K			484	06a	K			549	06b	K		
425	06a	K			485	06a	T		89	550	06b	K		
426	06a	K			486	06a	K			551	06b	K		
427	06a	K			487	06a	K			552	06b	K		
428	06a	K			488	06a	Y	K	126	554	06b	K		
429	06a	K			489	06a	H			555	06b	K		
430	06a	H		113	490	06a	Z		80	556	06b	H		172
431	06a	T			491	06a	Z		87	557	06b	K		
432	06a	K			492	06a	K			558	06b	K		
433	06a	C			493	06a	K			559	06b	K		
434	06a	K			494	06a	K			560	06b	K		
435	06a	K			495	06a	K			561	06b	K		
436	06a	M			496	06a	K			562	06b	K		
437	06a	K			497	06a	K			563	06b	K		
438	06a	K			498	06a	K			564	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.
565	06b	K			625	06a	K			686	06a	K		
566	06b	K			627	06a	K			687	06a	K		
567	06b	K			628	06a	K			688	06a	K		
568	06b	K		154	629	06a	B		131	689	06a	K		
569	06b	K			630	06a	K			691	06a	K		
570	06b	K			631	06a	K			692	06a	K		
571	06b	Z		137	632	06a	K			693	06a	K		
572	06b	K			633	06a	K			694	06a	K		
573	06b	K			634	06b	K			695	06a	K		
574	06b	K			635	06a	H		118	696	06a	K		
575	06a	K			636	06a	K			697	06a	K		
576	06a	I			637	06a	T		94	698	06a	K		
577	06a	K			638	06a	K			699	06a	K		
578	06a	K			639	06a	K			700	06a	K		
579	06a	K			640	06b	K			701	06a	K		
580	06a	K			641	06a	K			702	06a	K		
581	06a	K			642	06a	K			703	06a	K		
582	06a	K			643	06a	K			704	06a	K		
583	06a	K			644	06a	K			705	06a	K		
584	06a	K			645	06a	K			706	06a	K		
585	06a	K			646	06a	K			707	06a	K		
586	06a	H			647	06a	K			708	06a	Z	81	
587	06a	K			648	06a	H		112	709	06a	Z	88, 91	
588	06a	K			649	06a	K			710	06a	H		
589	06a	K			650	06a	Z			711	06a	K		
590	06a	K			651	06a	K			712	06a	K		
591	06a	K			652	06a	K			713	06a	S		
592	06a	K			653	06a	K			714	06a	K		
593	06a	K			654	06a	K			715	06a	K		
594	06a	K			655	06a	K			716	06b	C	147	
595	06a	K			656	06a	K			717	06b	K	244	
596	06a	K			657	06a				718	06b	K		
597	06a	K			658	06a	H		108	719	06b	K		
598	06a	K			659	06a	K			720	06b	K		
599	06a	Z		85	660	06a	K			721	06b	K		
600	06a	K			661	06a	H			722	06b	D		
601	06a	K			662	06a	K			723	06b	H		
602	06a	K			663	06a	K			724	06b	K		
603	06a	K			664	06a	K			725	06b	K		
604	06a	K			665	06a	K			726	06b	K		
605	06a	K			666	06a	K			727	06b	K		
606	06a	K			667	06a	K			728	06b	K		
607	06a	K			668	06b	K			729	06b	K		
608	06a	K			669	06a	K			730	06b	H		
609	06a	K			670	06a	X			731	06b	K		
610	06a	K			671	06a	X			732	06b	K		
611	06a	K			672	06a	X			733	06b	K		
612	06a	K			673	06a	X			734	06b	I		
613	06a	A		85	674	06a	X			735	06b	B	250	
614	06a	K			675	06a	K			736	06b	K		
615	06a	K			676	06a	K			738	06b	K		
616	06a	K			677	06a	X			739	06b	K		
617	06a	K			678	06a	K			740	06b	K		
618	06a	H			679	06a	K			741	06b	K		
619	06a	K			680	06a	K			742	06b	K		
620	06a	K			681	06a	K			743	06b	K		
621	06a	H		116	682	06a	H			744	06b	K		
622	06a	K			683	06a	X			745	06b	K		
623	06a	K		128	684	06a	H			746	06b	K		
624	06a	K			685	06b	K			747	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.
748	06b	K			811	06b	K			871	06b	C		
749	06b	C			812	06b	K			872	06b	K		
750	06b	K			813	06b	K			873	06b	K		
752	06b	K			814	06b	Z		136	874	06b	K		
753	06b	K			815	06b	X			875	06b	C		
754	06b				816	06b	K			876	06b	K		
755	06b	H		U	817	06b	K			877	06b	K		
756	06b	K			818	06b	K		152	879	06b	K		
757	06b	K			819	06b	H			880	06b	K		
758	06b	K			820	06b	X			881	06b	K		
759	06b	C		146	821	06b	K		246	882	06b	K		
760	06b	K			822	06b	Z			883	06b	H		182
761	06b	S			823	06b	K			884	06b	K		
762	06b	K			824	06b	H			885	06b	K		
763	06b	K			825	06b	K			886	06b	K		
764	06b	K			826	06b	H			887	06b	Z		139
765	06b	K		220	827	06b	K			888	06b	H		
766	06b	K			828	06b	K			889	06b	K		
767	06b	K			829	06b	K			890	06b	T		144
768	06b	K			830	06b	H			891	06b	T		141
769	06b	H			831	06b	X			892	06b	H		195
770	06b	K			832	06b	X		215	893	06b	H		
771	06b	K			833	06b	K			894	06b	H		
772	06b	T		143	834	06b	H			895	06b	Z		
773	06b	K			835	06b	K			896	007	H		263
774	06b	K			836	06b	H		178	897	06b	K		
775	06b	K			837	007	K			898	06b	H		166
776	06b	K			838	06b	A			899	06b	K		
777	06b	K			839	06b	K			900	06b	K		
778	06b	K			840	06b	K			901	06b	C		
779	06b	K			841	06b	K			902	06b	K		P 227
780	06b	K			842	06b	K			903	06b	H		
781	06b	K			843	06b	K			904	06b	H		165
783	06b	K			844	06b	K			905	06b	K		
784	06b	K			845	06b	K			906	06b	K		
785	06b	K			846	06b	K			907	06b	K		
786	06b	K			847	06b	K			908	06b	K		
787	06b	K			848	06b	K			909	06b	Z		135
788	06b	K			849	06b	H		181	910	06b	H		175
789	06b	K			850	06b	H			911	06b	K		
790	06b	H		179	851	06b	K			912	06b	K		
791	06b	K			852	06b	K			913	06b	K		
792	06b	H		153	853	06b	K			914	06b	C		
793	007	K			854	06b	C			915	06b	W		
794	06b	K			885	06b	K			916	06b	K		
795	06b	H		162	856	06b	K			917	06b	K		
796	06b	K			857	06b	K			918	06b	K		
797	06b	K		247	858	06b	H		180	919	06b	H		
799	06b	H			859	06b	H		177	920	06b	K		
800	06b	K			860	06b	T			921	06b	C		
801	06b	K			861	007	K			922	06b	K		
802	06b	K			862	06b	K			923	06b	K		
803	06b	A			863	06b	Z		134	924	06b	K		
804	06b	K			864	06b	K			925	06b	K		
805	06b	K			865	06b	K			926	06b	K		
806	06b	K			866	06b	K			927	06b	K		
807	06b	K			867	06b	H			928	06b	K		
808	06b	B		248	868	06b	K			929	06b	K		
809	06b	K			869	06b	K			930	06b	K		
810	06b	K			870	06b	K							

No.	土層	種別	器種	図面No.
931	06b	K		
932	06b	K		
933	06b	K		
934	06b	X		
935	06b	C		
936	06b	H		
937	06b	K		
938	06b	X		
939	06b	K		
940	06b	K		
941	06b	N	P	231
942	06b	K		
943	06b	K		
944	06b	K		
945	06b	K		
946	06b	K		
947	06b	X		
948	06b	H		183
949	06b	K		
950	06b	K		
951	06b	H		203
952	06b	K		
953	06b	K		
954	06b	K		
955	06b	C		
956	06b	K		
957	06b	K		
958	06b	K		
959	06b	K		
960	06b	H		
961	06b	H		194
962	06b	C		
963	06b	K		
964	06b	K		
965	06b	K		
966	06b	K	P	241
967	06b	K		
968	06b	K		
969	06b	K		
970	06b	K		
971	06b	K		
972	06b	K		
973	06b	T		
974	06b	K		
975	06b	K		
976	06b	K		
977	06b	K		
978	06b	S		253
979	06b	K		
980	06b	H		196
981	06b	K		214
982	06b	K		
983	06b	N	P	230
984	06b	K		
985	06b	A		
986	06b	K		
987	06b	K		
988	06b	C		
989	06b	K		
990	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
991	06b	K		
992	06b	K		
993	06b	K		
994	06b	X		
995	06b	X		
996	06b	N	T	
997	06b	X		
998	06b	X		
999	06b	N	C	239
1000	06b	K		
1001	06b	H		193
1002	06b	K		
1003	06b	H		160
1004	06b	C		
1005	06b	K		
1006	06b	K		
1007	06b	K		
1008	06b	X		
1009	06b	K		
1010	06b	Z		
1011	06b	K	K	218
1012	06b	C		
1013	06b	K		
1014	06b	K		
1015	06b	K		
1016	06b	K		
1017	06b	K		
1018	06b	H		163
1019	06b	K		
1020	06b	K		
1021	06b	K		
1022	06b	K		
1023	06b	K		
1024	06b	H		156
1025	06b	K		
1026	06b	K		
1027	06b	K		
1028	06b	H		185
1029	06b	K		
1030	06b	K		
1031	06b	K		
1032	06b	K		
1033	06b	K		
1034	06b	K		
1035	06b	K		
1036	06b	H		
1037	06b	K		
1038	06b	K		
1039	06b	H		201
1040	06b	K		
1041	06b	C		149
1042	06b	H		192
1043	06b	K		
1044	06b	H		
1045	06b	K		
1046	06b	Y		240
1047	06b	X		
1048	06b	C		142
1049	06b	K		
1050	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1051	06b	K		
1052	06b	K		
1053	007	C		
1054	007	K		
1055	007	K		
1056	007	K		
1057	007	K		
1058	06b	H		159
1059	007	C		
1060	007	K		
1061	007	Z		255
1062	007	K		
1063	007	K		
1064	007	K		
1065	007	K		
1066	007	K		
1067	007	K		
1068	007	K	K	275
1069	007	H		265
1070	007	C		
1071	06b	Y		
1072	06b	K		
1073	007	K		
1074	06b	Z		
1075	06b	K		
1076	007	C		
1077	007	K		
1078	007	K		
1079	06b	S		
1080	007	K		
1081	06b	K		
1082	06b	H		187
1083	06b	K		
1084	06b	Y	T	232
1085	06b	K		243
1088	06b	K		
1089	06b	K		
1090	06b	K		
1091	06b	K		
1093	06b	K		209
1094	06b	K		
1095	06b	H		150
1096	06b	K		
1097	06b	K		
1098	06b	H		151
1099	06b	K		
1100	007	K		
1101	06b	H		157
1102	06b	K		
1103	007	K		
1104	007	K		
1105	06b	K		
1106	06b	C		
1107	06b	K		228
1108	06b	S		
1109	007	K		
1110	06b	K		
1111	06b	K		
1112	007	K		
1113	007	K		
1114	007	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1115	06b	N	T	236
1116	007	H		
1117	06b	K		
1118	06b	H		158
1119	06b	K		
1120	06b	K		
1121	007	H		
1122	007	K		
1123	06b	K		
1124	06b	K		
1125	06b	H		
1126	06b	K		207
1127	06b	C		145
1128	06b	K		
1129	007	K		
1130	007	K		
1131	06b	K		
1132	06b	K		
1133	007	K		
1134	06b	H		
1135	06b	H		
1137	06b	K		
1138	007	Z		256
1139	06b	K		
1140	06b	K		
1141	06b	K		
1142	007	K		
1144	06b	K		
1145	007	K		
1146	007	K		
1147	007	K		
1148	06b	K		
1149	06b	K		
1150	06b	K		
1151	06b	K		
1152	06b	K		
1153	007	K		
1154	06b	T		
1155	06b	K		
1156	06b	K		
1157	06b	K		
1158	007	K		
1159	06b	K		
1160	007	K		
1161	007	K		
1162	007	K		
1163	007	K		
1164	007	K		
1165	007	K		
1166	06b	K		211
1167	007	K		
1168	007	K		
1169	06b	K		
1170	06b	K		
1171	06b	K		
1172	06b	H		161
1173	06b	K		
1174	06b	X		
1175	06b	C		
1176	007	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1177	06b	K		
1178	06b	K		
1179	06b	K		
1180	007	K		
1181	007	N	K	280
1182	06b	K		
1183	06b	K		
1184	06b	K		
1185	06b	K		
1186	06b	K		
1187	06b	Z		140
1188	06b	K		
1189	06b	K		
1190	007	K		
1191	06b	K		
1192	007	K		
1193	06b	K		
1194	06b	K		
1195	06b	K		
1196	06b	K		
1197	06b	K		216
1198	06b	K		
1199	06b	H		204
1200	06b	K		
1201	06b	K		
1202	007	K		
1203	007	K		
1204	06b	C		
1205	06b	K		
1206	06b	D		
1207	06b	K		
1208	06b	K		
1209	06b	K		
1210	06b	K		
1211	06b	K		
1212	06b	K		
1213	06b	K		
1214	007	N	K	272
1215	06b	K		
1216	06b	K		
1217	06b	K		
1218	06b	K		
1219	06b	K		
1220	06b	K		221
1221	06b	K		225
1222	06b	K		
1223	06b	K		
1224	06b	K		
1225	06b	K		
1226	06b	K		
1227	06b	K		
1228	06b	K		
1229	06b	C		148
1230	06b	H		
1231	06b	H		169
1232	06b	K		
1233	06b	K		
1234	06b	K		
1235	06b	H		173
1236	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1237	007	K		
1238	06b	C		
1239	06b	N		K 226
1240	06b	K		
1241	06b	K		
1242	007	K		
1243	007	K		
1244	007	K		
1246	007	K		
1247	007	K		
1248	06b	K		
1249	06b	K		
1250	007	K		
1251	06b	K		
1252	06b	K		
1253	007	K		
1254	06b	K		
1255	06b	K		
1256	06b	N		T 235
1257	007	K		
1258	06b	K		
1259	06b	K		
1260	06b	K		
1261	06b	K		
1262	06b	K		
1263	06b	K		
1264	007	N	K	289
1265	007	C		
1266	06b	K		
1267	06b	K		
1268	06b	K		
1269	06b	K		
1270	06b	K		
1271	06b	H		
1272	007	Z		170 254
1273	06b	H		U
1274	007	K		
1275	06b	K		
1276	06b	K		
1277	06b	K		
1278	06b	K		
1279	06b	H		
1280	06b	K		
1281	06b	K		
1282	007	K		
1283	06b	K		
1284	06b	K		
1285	06b	K		
1286	06b	H		186 200
1287	007	K		
1288	06b	K		
1289	007	K		
1290	06b	K		
1291	06b	K		
1292	06b	K		
1293	06b	K		
1294	007	K		
1295	007	K		
1296	06b	K		
1297	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1298	06b	B		249
1299	06b	K		
1300	06b	K		
1301	06b	K		
1302	06b	K		
1303	06b	K		
1304	06b	H		190
1306	06b	K		
1307	06b	K		
1308	06b	K		
1309	06b	K		
1310	06b	K		
1312	06b	K		
1313	06b	H		199
1314	06b	K		
1315	06b	K		
1316	06b	K		
1317	06b	K		
1318	06b	K		
1319	06b	K		
1320	06b	K		
1321	06b	K		
1322	06b	K		
1323	06b	K		
1324	06b	C		
1325	007	K		
1326	06b	H		
1327	06b	K		
1329	06b	K		
1330	06b	K		
1331	06b	K		
1332	007	K		
1333	06b	K		
1334	06b	K		
1335	06b	K		
1336	06b	K		
1337	06b	K		
1338	06b	K		
1339	06b	K		
1340	06b	K		
1341	06b	K		
1342	06b	H		189
1343	06b	K		
1344	007	K		
1345	06b	K		
1346	007	K		
1347	06b	K		
1348	06b	K		
1349	06b	K		
1350	007	K		
1351	007	H		266
1352	06b	K		
1353	06b	K		
1354	06b	K		
1355	06b	H		188
1356	06b	H		198
1357	06b	K		
1358	06b	K		
1359	06b	K		
1360	06b	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1361	06b	K		
1362	007	H		264
1363	06b	K		
1364	06b	K		
1366	06b	K		
1367	06b	K		
1368	06b	K		
1369	06b	K		
1370	007	K		
1371	06b	K		
1372	06b	N	K	
1373	007	N	K	
1374	06b	K		
1375	007	K		
1376	06b	C		
1377	007	K		
1378	06b	K		
1379	06b	N	C	238
1380	06b	H		205
1381	06b	K		
1382	06b	N	X	217
1383	06b	K		
1384	06b	K		
1385	06b	N	K	212
1386	06b	T		
1387	06b	H		
1388	06b	H		191
1389	06b	K		
1390	06b	H		202
1391	06b	K		
1392	06b	K		
1393	06b	K		
1394	06b	K		
1395	06b	K		
1396	06b	K		
1398	06b	K		224
1399	06b	Z		133
1400	06b	K		
1401	007	K		
1402	06b	K		
1403	06b	K		
1404	06b	Z		
1405	007	N	T	282
1406	007	K		
1407	06b	K		
1408	007	K		
1409	007	C		
1410	007	H		258
1411	06b	K		
1412	007	K		
1413	007	K		
1414	06b	K		
1415	06b	H		
1416	06b	K		
1417	06b	K		
1418	06b	H		168
1419	06b	K		
1420	007	X		
1421	06b	X		
1422	06b	T		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1423	06b	K		
1425	007	K		
1426	007	K		
1427	007	K		
1428	007	K		
1429	007	K		
1430	007	K		
1431	007	N	K	279
1432	007	K		
1433	007	K		
1434	007	K		
1435	007	K		
1436	007	C		
1437	007	K		
1438	007	K		
1439	007	K		
1440	06b	K		
1441	06b	K		
1442	06b	K		
1443	06b	K		
1444	06b	K		
1445	06b	K		
1446	06b	K		
1447	06b	K		
1448	007	K		
1449	06b	K		
1450	06b	K		
1451	06b	N	K	210
1452	06b	K		
1453	06b	K		
1454	06b	K		
1455	06b	K		
1456	06b	K		
1457	06b	K		
1458	06b	C		
1459	06b	K		
1460	06b	K		
1461	06b	N	K	222
1462	007	N	K	274
1463	06b	N	K	206
1464	06b	K		
1465	06b	K		
1466	06b	K		
1467	06b	K		
1468	06b	K		
1469	06b	H		
1470	06b	K		171
1472	06b	H		176
1473	06b	K		
1474	007	K		
1475	06b	K		
1476	06b	K		
1477	06b	K		
1478	06b	K		
1479	06b	H		
1480	06b	K		
1481	06b	K		
1482	06b	K		
1483	06b	K		
1484	007			

No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.	No.	土層	種別	器種	図面No.
1485	06b	K			1545	007	K			1607	007	H		
1486	06b	K			1546	007	K	K	273	1608	007	H		
1487	06b	C			1547	007	H			1609	007	H		268
1488	06b	X			1548	007	K			1610	007	K		
1489	06b	X			1549	007	Y	P		1611	007	K		
1490	06b	X			1550	007	Y		285	1612	007	K		
1491	06b	X			1551	007	K			1613	007	K		
1492	06b	N	T	233	1552	007	K	V		1614	007	H		260
1493	06b	K			1553	007	C			1615	007	Y	P	286
1494	007	X			1554	007	K			1616	007	K		
1495	06b	X			1555	007	K			1617	008	H		294
1496	007	N			1556	007	K			1618	007	K		
1497	06b	K			1557	007	K			1619	008	K		
1498	007	N	X	278	1558	007	K			1620	06b	Z		138
1499	06b	N	K		1559	007	K			1621	007	X		
1500	06b	K			1560	007	H			1622	007	K		
1501	06b	K			1561	007	H			1623	06b	K		
1502	007	K			1562	06b	K			1624	008	H		293
1503	06b	Z			1563	06b	N	K	219	1625	007	K		287
1504	06b	K			1564	06b	K			1626	06b	K		
1505	06b	K			1565	06b	H	V		1627	06b	K		
1506	06b	X			1566	06b	K			1628	009	H		299
1507	06b	C			1567	007	K			1629	009	H		299
1508	007	K			1568	007	K			1630	009	K		
1509	007	N	K		1569	007	K			1631	008	K		
1510	007	C			1570	007	H		267	1632	008	K		298
1511	06b	N			1571	007	K			1633	06b	K		
1512	06b	N	X	208	1572	007	K			1634	06b	H		
1513	007	K			1575	007	K			1635	009	K		
1514	06b	K			1576	007	K			1637	009	K		
1515	06b	K			1577	007	K			1638	009	K		
1516	06b	K			1578	007	N			1639	009	X		
1517	06b	N	K		1579	007	K			1640	009	H		299
1518	06b	K			1580	007	K			1641	009	H		299
1519	007	K			1581	007	K			1642	009	H		299
1520	007	K		290	1582	007	K			1643	009	H		299
1521	06b	K	X		1583	007	K			1644	009	H		299
1522	06b	K			1584	007	K			1645	009	K		
1523	007	K			1585	007	K			1646	009	X		
1524	06b	K			1586	007	K			1647	009	K		
1525	06b	K			1587	007	K			1648	009	K		
1526	007	K			1588	007	K			1649	009	K		
1527	06b	K			1589	007	K			1650	009	K		
1528	06b	K			1590	007	K			1651	009	N	P	302
1529	007	K			1591	007	K			1652	009	K		
1530	007	K			1592	007	K			1653	009	K		
1531	007	K			1593	007	H			1654	009	K		
1532	007	K			1594	007	K			1655	009	K		
1533	007	X			1595	007	K			1656	009	K		
1534	007	N	H		1596	007	K			1657	010	K	P	
1535	007	C			1597	007	H		270	1658	010	K		
1536	007	K			1598	007	K			1659	009	K		
1537	007	H			1599	007	T		257	1660	009	K		
1538	007	K			1600	007	K			1661	009	K		
1539	007	K			1601	007	K			1662	009	K		
1540	007	K			1602	007	K			1663	009	K		
1541	007	K			1603	007	K			1664	009	K		
1542	007	H		261	1604	007	K			1665	009	N	T	
1543	007	K			1605	007	K			1666	010	K		
1544	007	K			1606	007	K			1667	010	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1668	010	K		
1669	06b	K		
1670	011	K		
1671	010	K		
1672	010	K		
1673	010	K		
1674	010	K		
1675	010	K		
1676	011	K		
1677	007	K		
1678	007	K		
1679	007	K		
1680	007	K		
1681	007	H		
1683	007	K		
1684	007	C		
1685	007	H		
1686	007	K		
1687	007	C		
1688	007	K		
1689	007	K		
1690	007	K		
1691	007	K		
1692	007	K		
1693	007	H	262	
1694	007	K		
1695	007	K		
1696	007	K		
1697	007	K		
1698	007	K	277	
1699	007	K		
1700	007	K	P	
1701	008	N	T	296
1702	007	N	K	276
1703	007	H		
1704	007	T		
1705	007	K		
1706	007	K	283	
1707	008	H		292
1708	007	K		
1709	007	K		
1710	007	K		
1711	007	H	269	
1712	007	H	259, 271	
1713	007	K		
1714	007	K		
1715	007	K		
1716	007	N	T	281
1717	007	K		
1718	007	K		
1719	007	K		
1720	007	K		
1721	007	K		
1722	007	K		
1723	007	C		
1724	007	K		
1725	007	K		
1726	007	H		
1727	009	B		303
1728	010	K		

No.	土層	種別	器種	図面No.
1729	010	K		
1730	009	K		
1731	009	K		
1732	009	K		
1733	010	K		
1734	009	K		
1735	009	K		
1736	010	K	P	
1737	009	K		
1738	010	K		
1739	06b	H		
1740	007	K		
1741	06b	H		
1742	007	K		
1743	007	K		
1744	007	K		
1745	06b	N	T 234	
1747	06b	K		
1748	007	K		
1749	06b	K		
1750	06b	K		
1751	06b	H		
1752	06b	K		
1753	06b	C		
1754	007	K		
1755	007	K		
1756	06b	K		
1757	06b	K		
1758	007	K		
1759	007	K		
1760	007	K		
1761	06b	K		
1762	007	C		
1763	008	H		
1764	008	T		291
1765	008	K		
1766	007	K		
1767	007	X		
1768	007	K		
1769	010	K		
1770	010	K		
1771	009	K		
1772	009	K		
1773	009	K		
1774	010	H		
1775	012	K		
1776	010	K		
1777	010	K		
1778	007	X		
1779	010	K		
1780	010	Y	P 304	
1781	007	K		
1782	007	K		
1783	007	K		288
1784	007	K		284
1785	007	K		
1786	007	K		
1787	012	K	K 305	
1788	010	K		
1789	007	H		

凡 例	
種別	B 土製品
	C 須恵器
	H 土師器
	I 鉄製品
	K 素焼き土器
	N 「成川式」土器
	S 石製品
	T 陶器
	Y 弥生土器
	Z 磁器
	A 原位置を保っていない土器
器種	O その他
	C 塚
	H 鉢
	K 壺
	P 蓋
	T 高杯
	U 杯
	W 碗
	I カクラン土壤出土の鉢

Ⅷ 自然科学分析

1. 鹿児島大学稻盛会館建設予定地におけるプラント・オパール定量分析 結果について

宮崎大学 藤原 宏志

分析結果に関するコメント

1. イネ (*Oryza sativa L.*) は2層から12層まで検出され、ピークは6a層、8層および11層に認められる。これらの土層のイネプラント・オパール密度は高く、これらの土層でイネが栽培されていたものと考えてよかろう。ただし、12層はプラント・オパール密度が低く、11層からの落ち込みの可能性も否定できない。
2. 13層から17層では14層にイネが認められるが量的に少なく、これらの土層でイネが生産されたとは考えにくい。
3. 表層から下層までヨシ (*Phragmitess*) の検出される土層が多く、湿润な環境下で堆積が進行した様子がうかがえる。
4. イネの出現に前後し、タケ類が始める。水田稻作の普及にともない水管理が行われるようになり部分的な乾地化が進んだ結果であろう。
5. 6a層、11層におけるイネプラント・オパール密度は5t/10acmを越えており極めて高い値である。この傾向は、これまで調査した鹿児島大学構内遺跡に一貫して認められる現象である。あるいは、この地域のイネ系統が他の地域と異なるものである可能性も考えられるので、プラント・オパール形状解析を試み、この点を確認する予定である。

Tab. 5 鹿児島大学稲盛会館建設予定地におけるプラント・オパール定量分析結果

sampling block [L-11.12]
sampling date [9/23'93]

層名	イネ (O.sati.)	イネ苗 (rice g.)	植物体乾重 (Panl.)	キビ族 (Panl.seed)	キビ族種実 (Panl.seed)	ヨシ (Phrag.)	タケア科 (Bamb.)	ウシクサ族 (Andoro.)
DUMMY	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
2	5.754	2.016	8.682	3.942	0.000	0.427	1.103	
3	7.153	2.506	9.134	4.148	0.000	0.270	0.464	
4	8.438	2.956	5.529	2.511	0.000	0.725	1.498	
5a	16.735	5.863	5.787	2.628	1.644	1.138	2.353	
5b	7.044	2.468	13.153	5.973	0.000	0.518	1.337	
7	13.234	4.636	2.034	0.924	0.000	0.400	2.067	
8	17.094	5.989	10.431	4.737	0.000	0.000	0.636	
9	10.902	3.819	9.360	4.250	3.544	0.246	0.793	
10	12.741	4.464	5.035	2.287	0.715	0.495	0.768	
11	21.014	7.362	21.801	9.900	0.000	2.097	2.462	
H40-1	0.901	0.316	16.826	7.640	3.186	0.221	2.850	
12-1	2.088	0.731	1.733	0.787	0.000	0.000	0.176	
12-2	0.000	0.000	1.696	0.770	0.000	0.067	0.517	
13	0.000	0.000	19.820	9.000	11.258	0.223	1.583	
14	0.478	0.167	1.982	0.900	2.252	0.000	0.806	
15	0.000	0.000	2.601	1.181	1.108	0.000	0.264	
16	0.000	0.000	0.000	0.000	1.196	0.083	0.000	
17	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.287	

- Estimation of plant products with plant opal analysis -

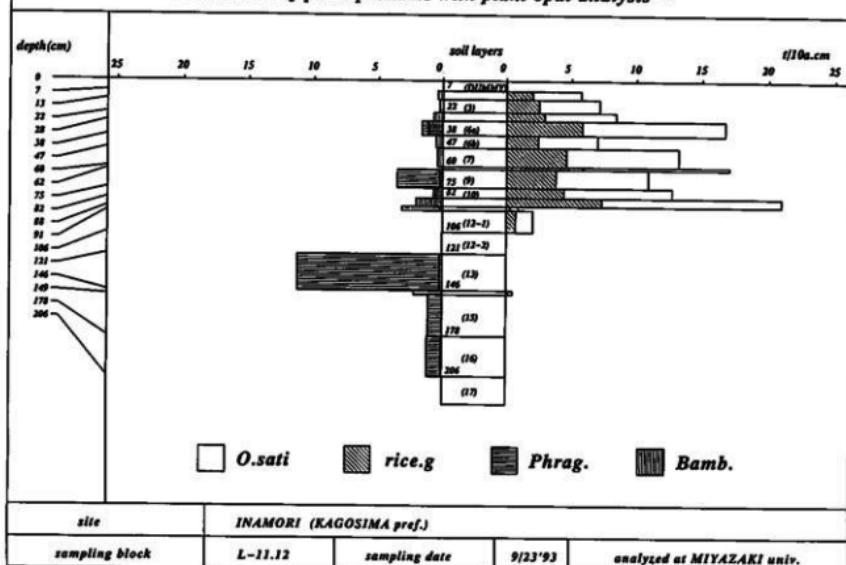


Fig. 41 プラント・オパール定量分析結果

2. 鹿児島大学構内遺跡、郡元団地L-11・12区における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 鹿児島大学構内遺跡の植物珪酸体分析

1.はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れた後も微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。この微化石は大きさや形態が植物群により固有であることから、土壤中から検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生（おもにイネ科）を復元することができる（杉山、1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

ここでは、鹿児島大学構内遺跡（郡元団地 L-11・12 区）の試料について植物珪酸体分析を行い、イネを中心とするイネ科栽培植物の検討および遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

2. 試料

調査地点は、11トレンチ北側東壁と4トレンチ北壁の2地点である。調査区の土層は、1層（現表土）～17層（軽石層）に分層された。

このうち、15層は黒褐色泥炭層、13層は黒色泥炭層であり、13層の中・上位では上方に向かって泥炭の分解が進んでいる。放射性炭素年代測定では、15層下部が $4,780 \pm 100$ y.B.P.、15層上部が $4,890 \pm 90$ y.B.P.、13層上部が $4,410 \pm 90$ y.B.P.の年代値が得られており（第Ⅱ章参照）、縄文時代中期前葉から中葉の時期に比定される。12層は河川堆積物と見られる砂層（軽石混）、11層より上位層はシルトを主体とした堆積層であり、古墳時代以降の堆積と見られている。

試料は、11トレンチ北側東壁の7層～16層、4トレンチ北壁の2層～11層について計33点が採取された。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾（105°C・24時間）、仮比重測定
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスピース添加（直径約40μm、約0.02g）
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散（300W・42KHz・10分間）
- 5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- 7) 検顕・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光頭微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試

料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はスキの値を用いた。その値は 294 (稟実重は 1.03), 8.40, 6.31, 1.24 である。タケ亞科については数種の平均値を用いた。ネザサ節の値は 0.48, クマザサ属は 0.75 である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を Tab. 6 および Fig. 42, Fig. 43 に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、サヤヌカグサ属、キビ族（ヒエ属など）、ヨシ属、ウシクサ族（スキ属やチガヤ属など）、ジユズダマ属、シバ属、キビ族型、ウシクサ族型、ウシクサ族型（大型）、くさび型、Aタイプ、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、タケ亞科（未分類等）

穎の表皮細胞由来：オオムギ属

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、地下茎部起源、未分類等
〔カヤツリグサ科〕

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亞属？）、マンサク科（イスノキ属）、クスノキ科（バリバリノキ？）、はめ縫パズル状（ブナ科ブナ属など）、その他

5. 考察

（1）稻作の可能性について

水田跡（稻作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体が試料 1 gあたりおよそ 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層に植物珪酸体密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稻作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、各地点ごとに稻作の可能性について検討を行った。

1) 11 トレンチ北側東壁

7 層から 16 層までの各層について分析を行った。その結果、7 層（試料 7-1）から 13 層上部（試料 13-2）までの層準でイネの植物珪酸体が検出された（Fig. 42）。

このうち、7 層から 11 層までの各層では密度が 5,000 個/g 以上と高い値であり、とくに 9 層（砂質シルト層）では約 4 万個/g、7 層、8 層、10 層でもおよそ 2 万個/g と非常に高い値である。したがって、これらの各層では稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。

放射性炭素年代測定で $4,410 \pm 90$ y.B.P. の年代値が得られている 13 層（黒色泥炭層）上部では、密度が 4,500 個/g と比較的高い値である。同層の直上を厚く覆う 12 層（輕石混砂層）でもイネが検出されたが、密度は 1,400 個/g と低い値である。したがって、13 層に上層から後代の植物珪酸体が混入した危険性は考えにくい。これらのことから、13 層上部の時期に調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていた可能性が考えられ

る。

2) 4トレンチ北壁

2層から11層までの各層について分析を行った。その結果、これらのすべての層からイネの植物珪酸体が検出された(Fig.43)。密度は、すべての層で5,000個/g以上と高い値であり、とくに9層(砂質シルト層)と10層では3万個/g以上、4層～8層および11層でも1万個/g以上と非常に高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

以上のように、本遺跡では $4,410 \pm 90$ y.B.P.の年代測定値が得られている13層(黒色泥炭層)上部の時期には、調査地点もしくはその近辺で稲作が開始されていたものと推定される。その後、12層(軽石混砂層)の堆積によって稲作は中断されたと考えられるが、11層から2層にかけては継続的に稲作が行われていたものと推定される。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族(ムギ類が含まれる)やキビ族(ヒエやアワ、キビなどが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属(シコクヒエが含まれる)、モロコシ属、トウモロコシ属などがある。このうち、本遺跡の試料からは、オオムギ族(ムギ類が含まれる)、キビ族(ヒエやアワ、キビなどが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)が検出された。

オオムギ族(穀の表皮細胞)は、11トレンチ北側東壁の7層上部と4トレンチ北壁の6a層で検出された。密度はいずれも1,000個/g前後と低い値である。オオムギ族については標本の検討が十分とは言えないが、ここで検出されたのはムギ類(コムギやオオムギなど)と見られる形態のもの(杉山・石井、1989)である。したがって、これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

キビ族は、11トレンチ北側東壁の13層と15層中位で検出された。キビ族にはヒエやアワ、キビなどの栽培種が含まれるが、現時点ではこれらの栽培種とイヌヒエやエノコログサなどの野・雑草とを完全に識別するには至っていない(杉山ほか、1988)。また、密度も1,000個/g前後と低い値であることから、これらの層準でヒエなどのキビ族植物が栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌヒエなどの野・雑草に由来するものである可能性も否定できない。

ジュズダマ属は、11トレンチ北側東壁の11層、13層、15層、4トレンチ北壁の8層、9層から検出された。同属には野草のジュズダマの他に栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別するのは困難である。密度はほとんどの試料で1,000個/g前後と低い値であるが、11トレンチ北側東壁の13層下部では7,300個/gと高い値であり、15層上部でも2,900個/gと比較的高い値である。これらのことから、13層下部や15層上部でハトムギが栽培されていた可能性は考えられるものの、野草のジュズダマに由来するものである可能性も否定できない。ハトムギは東南アジア大陸部の山村ではオカボ(陸稻)栽培の盛んな地域に栽培され、オカボが不作なときや飢饉のときの救荒作物として用いられている(坂本、1988)。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(3) 植生および環境の推定

最下位の16層では、ヨシ属や棒状珪酸体、茎部起源などが検出されたが、いずれも少量である。

$4,780 \pm 100$ y.B.P.の年代測定値が得られている15層(黒褐色泥炭層)下部では、ヨシ属が比較的多量に検出され、ウシクサ族(スキ属など)やウシクサ族型、ジュズダマ属なども検出された。15層中位ではヨシ属は一旦減少しているが、その後は急激に増加しており、密度は最大4万個/g以上にも達している。

$4,890 \pm 90$ y.B.P.の年代測定値が得られている15層上部(試料15-1)では、茎部起源が多量に検出され、ヨシ属は大幅に減少している。14層でもこれと同様の結果であるが、イネ科以外にもブナ科(シイ属)やブナ科(アカガシ亞属?)、マンサク科(イスノキ属)、クスノキ科(バリバリノキ?)などの樹木(照葉樹)に由来する植物珪酸体が検出された。

13層(黒褐色泥炭層)下部では、ヨシ属や棒状珪酸体が多量に検出され、ヨシ属の密度は最大4万個/g以上にも達している。また、前述のようにジュズダマ属やキビ族が見られ、カヤツリグサ科も検出された。 $4,410 \pm 100$ y.B.P.の年代測定値が得られている13層(黒褐色泥炭層)上部では、前述のようにイネが出現しているが、これに伴ってヨシ属が急激に減少している。12層(砂層)では、ほとんどの分類群が大幅に減少している。

11層より上層では、前述のように継続してイネが多量に検出され、ウシクサ族型や棒状珪酸体も比較的多く検出された。また、部分的にメダケ節型やネササ節型なども検出され、6a層より上位ではマダケ属型も検出された。なお、ブナ科(シイ属)やマンサク科(イスノキ属)、クスノキ科(バリバリノキ?)なども継続的に検出された。

おもな植物の推定生産量によると、13層下部より下位ではおおむねヨシ属が圧倒的に卓越しているが、11層より上位ではイネが継続して卓越していることが分かる。

以上の結果から、本遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

16層～13層下部の泥炭層の堆積当時(約4,400～4,900年前頃)は、おおむねヨシ属などが繁茂する湿地的な環境であったものと考えられ、とくに15層中位や13層下部ではヨシ属の生育が旺盛であったものと推定される。なお、14層の時期には遺跡周辺などでカシ類やシイ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹も見られたものと推定される。その後、13層上部の時期(約4,400年前頃)には、ヨシ属やカヤツリグサ科などの生育する湿地を拓いて稻作が開始されたものと推定される。

12層(砂層)の堆積によって稻作は中断されたと考えられるが、11層から2層にかけては継続的に稻作が行われていたものと推定される。11層より上位ではイネが圧倒的に卓越しており、その他の分類群があまり見られないことから、当時の稻作は雑草の管理などが行き届いた集約的なものであったものと考えられる。

なお、当時の遺跡周辺にはカシ類やシイ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

タケア科植物のうち、マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高いが、これらの植物が現れるのは6a層の時期以降と考えられる。

6.まとめ

本遺跡では、放射性炭素年代測定で $4,410 \pm 90$ y.B.P.の年代値が得られている13層(黒褐色泥炭層)上部の時期には、ヨシ属やカヤツリグサ科などの生育する湿地を拓いて稻作が開始されていたものと推定される。また、13層下部などではジュズダマ属(ハトムギ)やキビ族(ヒエなど)が栽培されていた可能性も認められた。その後、12層(砂層)の堆積によって稻作は中断されたと考えられるが、11層から2層にかけては集約的な稻作が継続的に行われていたものと推定される。

参考文献

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号 : p27-37.
- 杉山真二 (1987) タケ亞科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物図報告, 第31号 : p.70-83.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用 - 古代農耕追究のための基礎資料として -. 考古学と自然科学, 20 : p.81-92.
- 杉山真二・石井克己 (1989) 群馬県臼杵村, F P 直下から検出された灰化物の植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析. 日本国第四紀学会要旨集, 19 : p.94-95.
- 群馬県立歴史博物館 (1990) 火の山はるな - 火山噴火と黒井峯むらのくらし. 群馬県立歴史博物館第36回企画展, P.23.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(I) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -. 考古学と自然科学, 9 : p.15-29.
- 藤原宏志 (1979) プラント・オパール分析法の基礎的研究(3) - 福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ (*O. sativa* L.) 生産総量の推定 -. 考古学と自然科学, 12 : p.29-41.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) - プラント・オパール分析による水田址の探し -. 考古学と自然科学, 17 : p.73-85.
- 近藤謙三・ピアスン友子 (1981) 樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報) - 双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について -. 帝広畜産大学研究報, 12 : p.217-229.

Tab. 6 鹿児島大学構内遺跡、都元団地の植物珪酸体分析結果

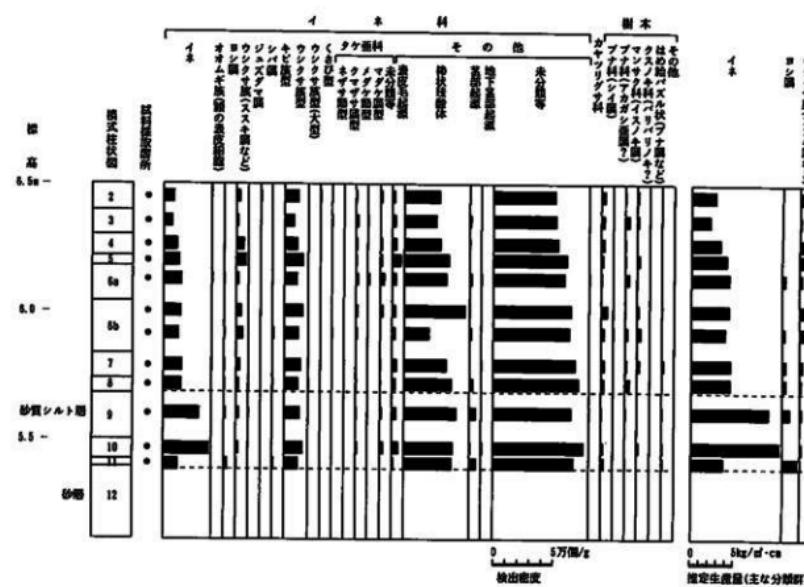
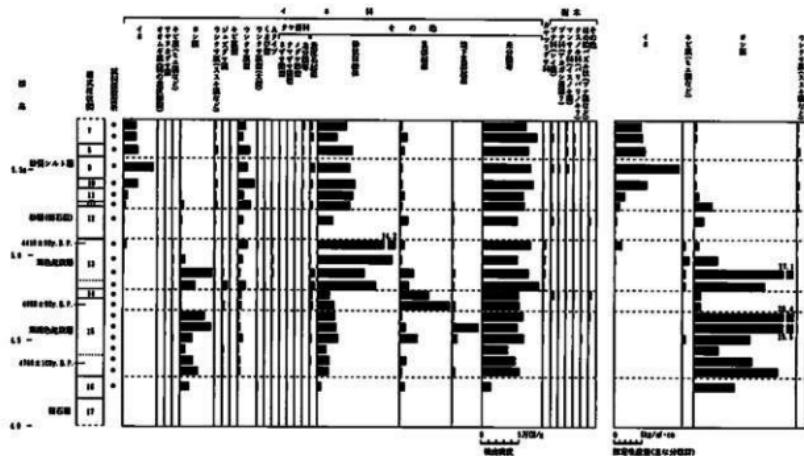
分類群	試料	トレンテ北高東量																				
		7-1	7-2	8	9	10	11	①	12	13-1	13-2	13-3	13-4	14	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	
イネ科		168	172	191	395	198	63	29	14	45	8											
イネ		15																				
オオムギ族(穀の表皮細胞)																						
サヤスカガサ属																						
キビ属(ヒエ属など)																						
ヨシ属		8	7		7	7	14	52	28	15	68	428	204	22	22	323	405	161	71	167	243	
ウシクサ族(スキ属など)		23	15	43	15	37	21	29	14	15	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	118	
ジュズダマ属								7	8	6	22	73	29						13	7	8	
シバ属																						
キビ族																						
ウシクサ族型		107	75	156	127	220	77	169	69	129	61	29	102	50	51	14	37	66	13	33	38	
ウシクサ族型(大型)							7		15		7	7	7								22	
くさび型																						
Aタイプ																						
タケ草科																						
ホツサ属型																						
クマツサ属型																					7	
メダケ属型																						
マダケ属型																						
未分類等		38	7	21	7	15		7														
その他イネ科																						
表皮毛起源		38	45	7	60	37	7	29	7	8	15	65	66	29	43	14	22		13			
棒状珪酸体		389	255	461	433	493	475	434	200	1423	1059	626	773	158	216	238	250	278	121	167	152	
茎部起源		31	57	37	37	56	37	103	68	30	182	124	395	564	28	81	242	4	93	30	74	
地下茎部起源								7	7	22	14	15	8	36	29	43	21	353	66	4	46	
未分類等		580	719	810	641	679	945	552	468	598	469	611	751	488	498	547	464	556	348	446	495	
カヤツリグサ科																						
裸木起源																						
ブナ科(シイ属)		15	37	7	37	7	7	15	41						50	7	14					
ブナ科(アカガシ属?)		8	7					7	7						14							
マンサク科(イスノキ属)		23	15	28	37		7		7						14							
クスノキ科(バリバリノキ?)		22	14	7				7							14							
はめ縫パズル状(ブナ属など)															7		22					
その他		8	7	14		7									43	14	21					
(高砂骨針)		45	7	43	7				21						43	14	21					
植物珪酸体総量		1451	1407	1638	1835	1755	1293	1399	991	2400	1808	2089	2173	1277	1595	1227	1597	1427	585	933	1020	
おもな分類群の推定生産量(単位: kg/m²·cm)																						
イネ		4.94	5.06	5.63	11.62	5.83	1.85	0.87	0.40	1.34	0.22											
(イネ科)		1.73	1.77	1.97	4.07	2.04	0.65	0.30	0.14	0.47	0.08											
キビ属(ヒエ属など)												0.64	1.27	0.61	0.61				0.61			
ヨシ属		0.48	0.47		0.47	0.46	0.86	3.25	1.74	0.96	4.30	27.09	12.89	1.36	1.37	20.35	25.53	10.16	4.51	10.51	15.36	7.44
ウシクサ族(スキ属など)		0.28	0.19	0.53	0.18	0.45	0.26	0.37	0.17	0.19	0.09	0.09	0.09			0.09		0.08	0.09			
ホツサ属型																						
クマツサ属型																					0.08	

検出密度(単位: ×100個/ε)

分類群	基科	4トレンチ北壁											
		2	3	4	5	6a	6b-1	6b-2	7	8	9	10	11
イネ科													
イネ		97	74	117	139	152	150	134	156	155	306	385	128
オオムギ族(頭の表皮細胞)							?						
サヤスカグサ属													
キビ族(ヒエ属など)													
ヨシ属													
ウシクサ族(スキ属など)		35	15	66	88	28	45	54	37	22	22	22	1
ジュズダマ属									7	7			
シバ属													
キビ族型													
ウシクサ族型		125	82	110	168	117	158	121	141	125	134	156	126
ウシクサ族型(大型)							8	7		7			
くさび型										7			
Aタイプ													
タケ目科													
ネザサ属型			7		7	7		7					
クマザサ属型		7	7			7			7				
メダケ属型		7	22	15	7	21	23	13		7	7	15	
マダケ属型		7				14							
未分類等		21	7	22	22	48	38	7	7	7	15	37	7
その他のイネ科													
表皮毛起原		28	37	44	73	41	30	27	44	29	45	59	15
棒状珪穀體		299	274	307	381	359	519	215	356	405	447	422	407
茎部起原		7	15	7	7	21	8	20		37	60	15	59
地下茎部起原						7		7	7	7	7	15	
未分類等		522	526	548	622	601	655	645	697	722	656	753	689
カヤツリグサ科						7			7				
樹木起源													
ブナ科(シイ属)		42	30	29	22	14	60	27	30	29	7	22	38
ブナ科(アカガシ亞属?)		7					7		7				
マンサク科(イスノキ属?)		7	44	7	7	35	8	27	15	44	7	7	
クスノキ科(バリバリノキ?)		14	15		22		15	34	22		15		
はじめ輪バズル状(ブナ属など)											7		
その他							8	22	7	7	15	15	
(高緑骨針)		14	52	44	15	7	34	22	52		15		
植物種間体積数		1224	1171	1270	1574	1499	1723	1363	1549	1635	1753	1848	1533

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/m²·cm)

イネ (イネ科)	2.86	2.18	3.43	4.09	4.47	4.42	3.95	4.58	4.55	8.99	11.32	3.70
キビ族(ヒエ属など)	1.00	0.76	1.20	1.43	1.56	1.55	1.38	1.80	1.59	3.15	3.97	1.30
ヨシ属							0.44	0.42	0.47	0.46	0.94	1.87
ウシクサ族(スキ属など)	0.43	0.18	0.81	1.09	0.34	0.56	0.67	0.46	0.27	0.28	0.28	0.09
ネザサ属型							0.04	0.04	0.03	0.03		
クマザサ属型	0.05	0.06					0.05		0.06			

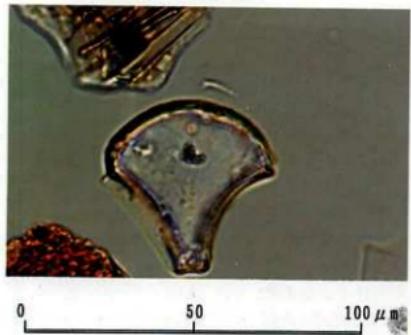


植物珪酸体の顯微鏡写真

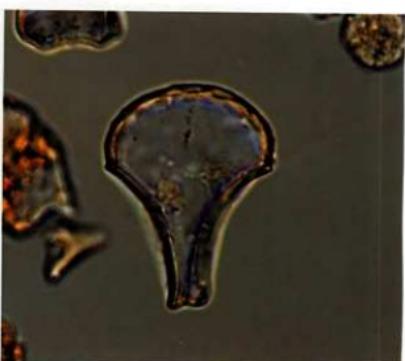
(倍率はすべて400倍)

No.	分類群	地点	試料名
1	イネ	4トレンチ	8
2	イネ	11トレンチ北	9
3	イネ	11トレンチ北	13-1
4	イネ(側面)	4トレンチ	6a-2
5	サヤスカグサ属	11トレンチ北	13-4
6	オオムギ族(穂の表皮細胞)	11トレンチ北	7-1
7	オオムギ族(穂の表皮細胞)	4トレンチ	6a
8	キビ族(ヒエ属など)	11トレンチ北	13-2
9	キビ族(ヒエ属など)	11トレンチ北	13-1
10	ヨシ属	11トレンチ北	15-3
11	ヨシ属	11トレンチ北	15-7
12	ウシクサ族(ススキ属など)	4トレンチ	2
13	ウシクサ族(ススキ属など)	11トレンチ北	7-1
14	ジュズダマ属	4トレンチ	8
15	ジュズダマ属	11トレンチ北	15-1
16	シバ属	4トレンチ	2
17	キビ属型	11トレンチ北	9
18	ウシクサ族型	11トレンチ北	15-7
19	ウシクサ族型(大型)	11トレンチ北	16
20	イネ科Aタイプ	11トレンチ北	13-1
21	ネザサ節型	4トレンチ	5
22	クマザサ属型	4トレンチ	3
23	メダケ節型	4トレンチ	2
24	メダケ節型	11トレンチ北	7-2
25	マダケ属型	4トレンチ	6a
26	表皮毛起源	4トレンチ	7
27	棒状珪酸体	4トレンチ	6a
28	棒状珪酸体	11トレンチ北	13-1
29	イネ科の莖部起源	11トレンチ北	14
30	イネ科の莖部起源	11トレンチ北	11
31	不明	4トレンチ	6b-2
32	不明	11トレンチ北	15-3
33	不明	4トレンチ	6b-2
34	カヤツリグサ科	11トレンチ北	13-1
35	ブナ科(シイ属)	11トレンチ北	14
36	ブナ科(シイ属)	4トレンチ	6b-2
37	ブナ科(アカガシ亞属?)	11トレンチ北	7-1
38	マンサク科(イスノキ属)	11トレンチ北	7-1
39	マンサク科(イスノキ属)	4トレンチ	3
40	クスノキ科(バリバリノキ?)	4トレンチ	3
41	はめ絵パズル状(ブナ属など)	11トレンチ北	15-4
42	海綿骨針	4トレンチ	2

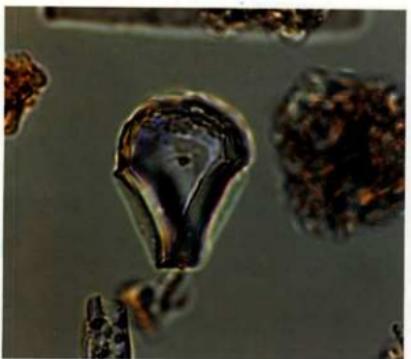
PL. I 植物珪酸体の顕微鏡写真



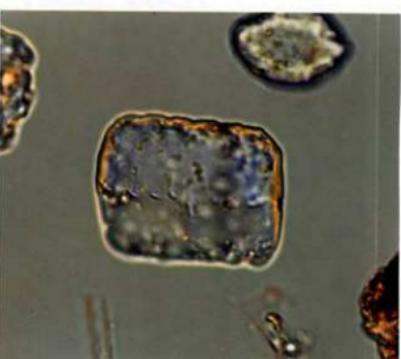
1. イネ



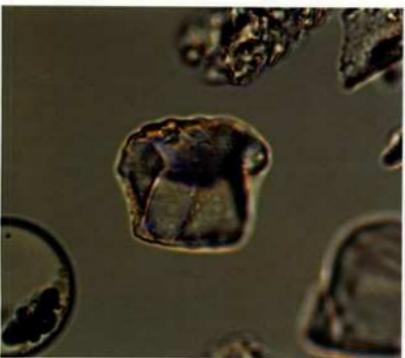
2. イネ



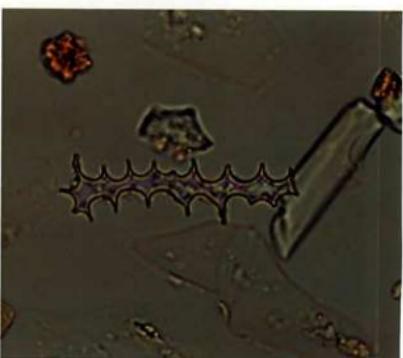
3. イネ



4. イネ（側面）



5. サヤヌカグサ属



6. オオムギ属（穎の表皮細胞）

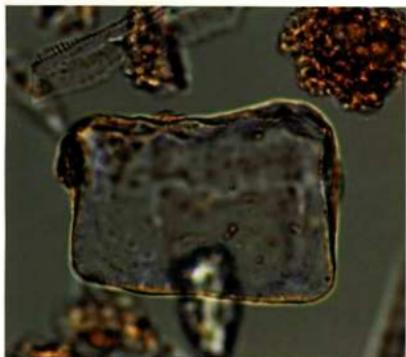
PL. 2 植物珪酸体の顕微鏡写真



7. オオムギ属（穎の表皮細胞）



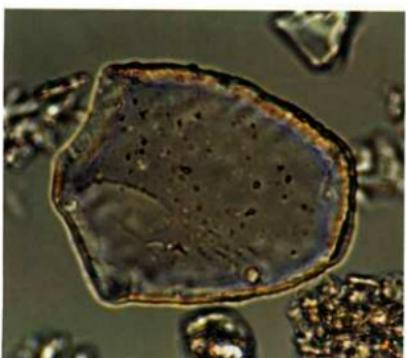
8. キビ属（ヒエ属など）



9. キビ属（ヒエ属など）



10. ヨシ属

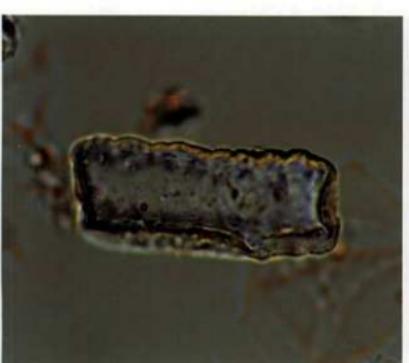
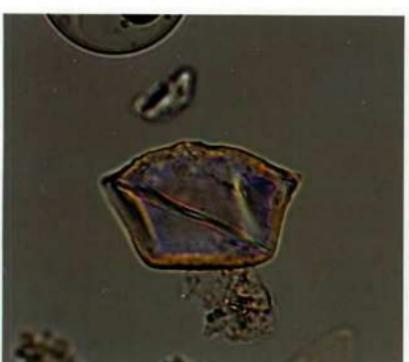
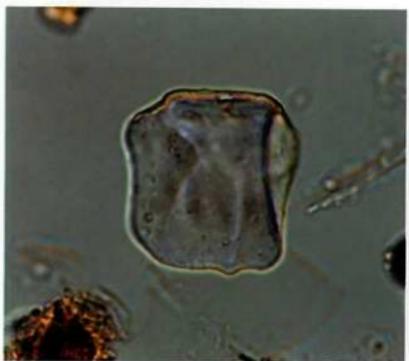


11. ヨシ属



12. ウシクサ属（ススキ属など）

PL. 3 植物珪酸体の顕微鏡写真



PL. 4 植物珪酸体の顕微鏡写真



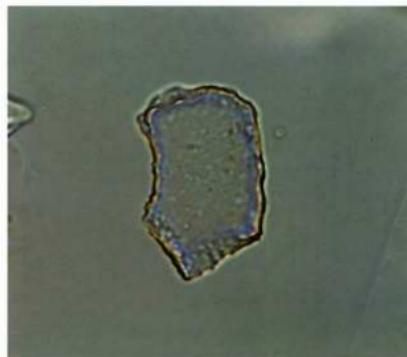
19. ウシクサ属型（大型）



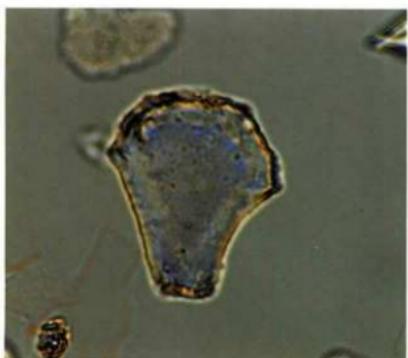
20. イネ科 Aタイプ



21. ネザサ節型



22. クマザサ属型

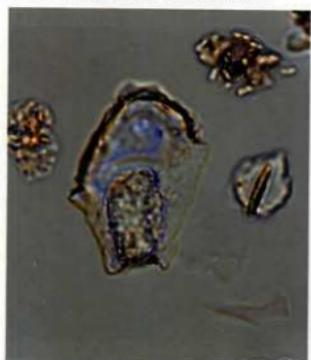


23. メダケ節型



24. メダケ節型

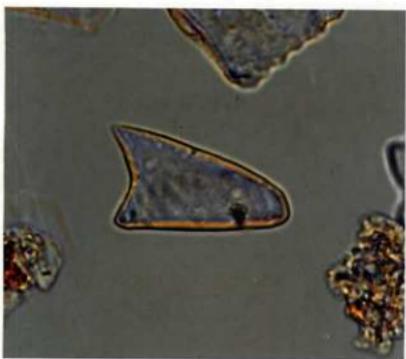
PL. 5 植物珪酸体の顕微鏡写真



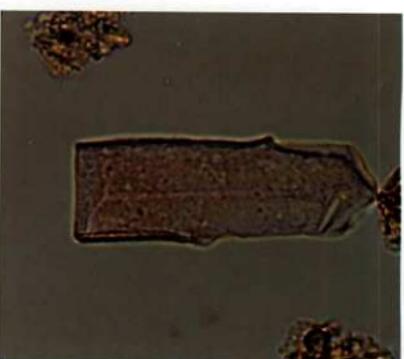
25. マダケ属型



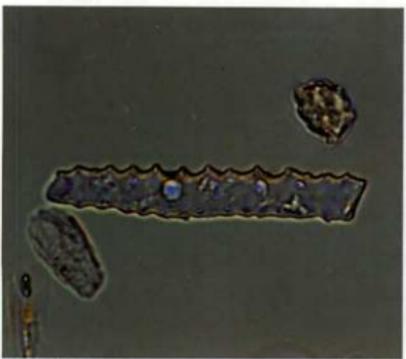
28. 棒状珪酸体



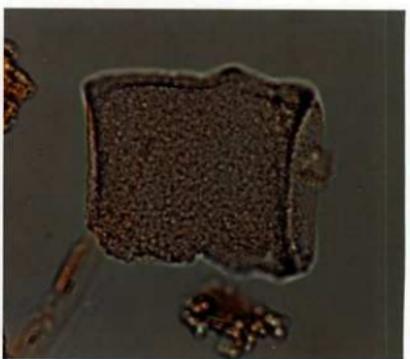
26. 表皮毛起源



29. イネ科の茎部起源

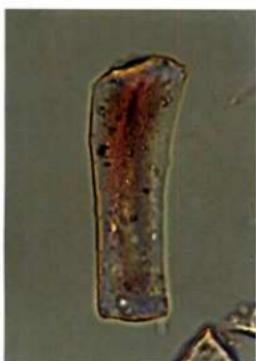


27. 棒状珪酸体

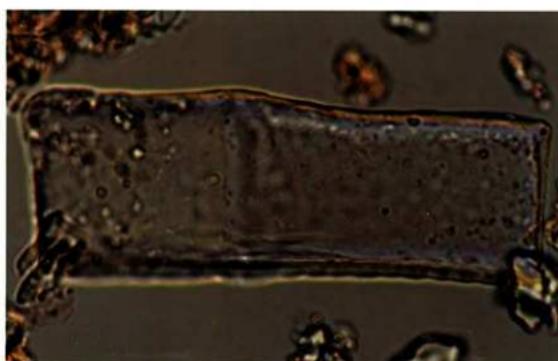


30. イネ科の茎部起源

PL. 6 植物珪酸体の顕微鏡写真



31. 不明



34. カヤツリグサ科



32. 不明



33. 不明



35. ブナ科 (シイ属)



36. ブナ科 (シイ属)

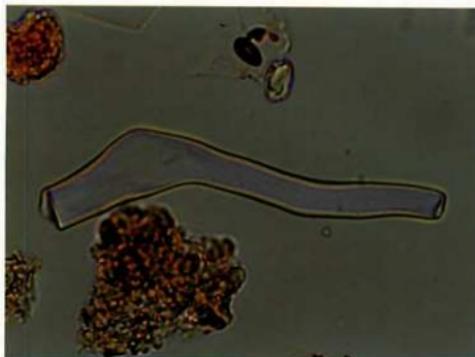
PL. 7 植物珪酸体の顕微鏡写真



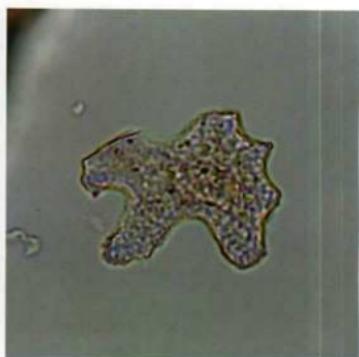
37. ブナ科 (アカガシ亜属?)



40. クスノキ科 (バリバリノキ?)



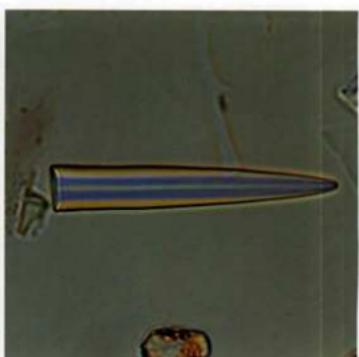
38. マンサク科 (イスノキ属)



41. はめ絵パズル状 (ブナ属など)



39. マンサク科 (イスノキ属)



42. 海綿骨針

II. 放射性炭素年代測定結果

鹿児島大学構内遺跡の試料について年代測定を行った。その結果を次表に示す。なお、年代値は1950年よりの年数(B.P.)である。

年代値の算出には¹⁴Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用している。また、付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差 σ にもとづいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代である。また、試料のβ線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してある。また、試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときは、Modernと表示し、 $\delta^{14}\text{C}\%$ を付記してある。

放射性炭素年代測定結果

試料No.	採取箇所	種類	年代値	コードNo.
No.1	13層上部	黒色泥炭	$4,410 \pm 90$ (2460B.C.)	GaK-17543
No.2	15層上部	黒褐色泥炭	$4,890 \pm 90$ (2940B.C.)	GaK-17544
No.3	15層下部	黒褐色泥炭	$4,780 \pm 100$ (2830B.C.)	GaK-17545

(学習院大学理学部年代測定室)

III. 鹿児島大学構内遺跡の花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、湖沼や湿原の堆積物を対象として広域な森林変遷を主とする時間軸の長い植生や環境の変遷を復原する手法として用いられてきた。考古遺跡では、埋没土壤や遺構内堆積物など堆積域や時間軸の限定された堆積物を対象とすることによって、狭い範囲の植生や短い時間における植生や環境の変遷そして農耕を復原することも可能である。

鹿児島大学構内遺跡(郡元団地L-11・12区)においては、泥炭層の分析から植生と農耕の復原を行った。

2. 試料

試料は、IIトレーナー北側東壁の13層～16層について採取された13点であり、植物珪酸体分析に供されたものと同一試料である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で砾などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、水酢酸によって脱水し、アセトトリス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び水酢酸を加えた後、水洗を行う。

6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpmで2分間の遠心分離を行った後に上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)を基本とし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村(1974, 1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類したが、個体変化や類似種も存在するため、イネ属型とした。

4. 結果

(1) 分類群

分析の結果、樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉16、シダ植物胞子2形態の計45分類群が同定された。結果は、花粉全体一覧を表にまとめ、花粉总数を基数とする百分率を算定し、花粉組成図に示した。また、主要な分類群は写真に示した。

以下に同定された分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複数種東亜属、スギ、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クリーシイ属-マテバシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、サンショウウ属、アカメガシワ、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、モクセイ科、グミ属、ツツジ科、ニワトコ属-ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、オモダカ属、ホシクサ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タテ属サナエタデ節、アザサ科-ヒユ科、セリ科、ノブドウ属、オオバコ属、シソ科、ゴキヅル、タンボボ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 層位による変遷

最下位の16層では樹木花粉の占める割合が著しく多く、クリーシイ属-マテバシイ属とコナラ属アカガシ亜属が優占する。草本花粉ではイネ科とカヤツリグサ科が出現する。15層ではクリーシイ属-マテバシイ属が下部で減少傾向を示し上部で一時的に増加する。同層の下部ではカヤツリグサ科が増加するが、一時的に減少して再び増加する。14層から13層では、樹木花粉においてクリーシイ属-マテバシイ属とコナラ属アカガシ亜属が減少し、コナラ属コナラ亜属が増加する。草本花粉ではカヤツリグサ科とイネ科が優占し、13層ではイネ属型が出現する。なお、シダ植物胞子は15層から13層の下部までやや不安定だが多産する。

5. 植生と環境および農耕の復原

掘文時代中期前葉頃(約4,800~4,900年前)と考えられる16層~14層では、クリーシイ属-マテバシイ属

(ここではシイ属と推定される)とコナラ属アカガシ亜属の花粉が多いため、本道跡の周辺にはシイ属とコナラ属アカガシ亜属を主とする照葉樹林が分布していたと考えられる。また、堆積地はカヤツリグサ科とイネ科の水湿地草本の繁茂する湿原であったと推定される。

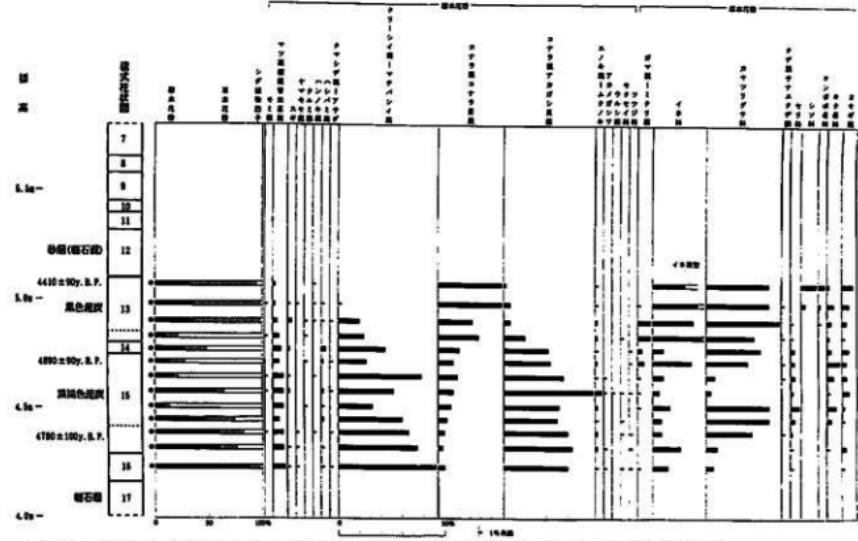
縄文時代中期中葉段(約4,400年前)と考えられる13層では、周囲のシイ属とコナラ属アカガシ亜属を主とする照葉樹林が減少し、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹林が増加したと考えられる。コナラ属コナラ亜属は落葉広葉樹林を構成する冷温帯種ではなく、途中層林を形成するコナラか暖温帯に生育するナラガシワであったと推定される。13層からはイネ属型の花粉が検出され、特に最上部ではやや多いことから、この時期にはイネが存在していたとみなされる。樹木花粉のコナラ属コナラ亜属の増加は、イネ属型花粉の出現とほぼ呼応していることから、この時期に森林への人為干渉とイネの栽培が行われていたことが推定される。

参考文献

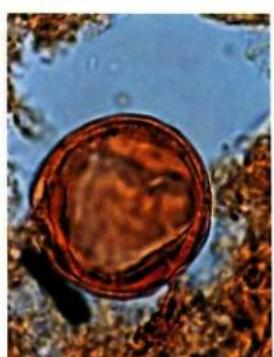
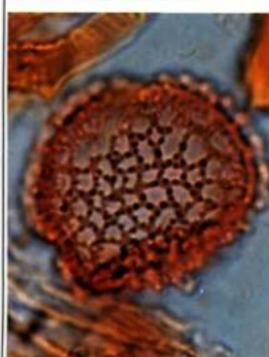
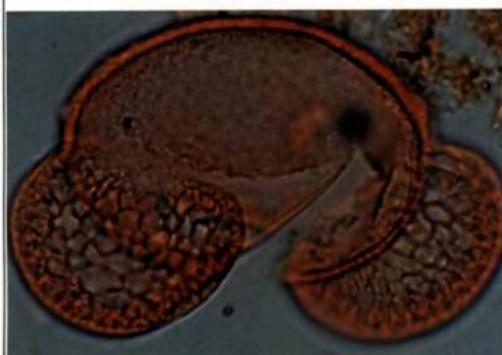
- 中村純(1973)花粉分析、古今書院。
金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原、新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法、角川書店。
日本第四紀学会編(1993)第四紀試料分析法、東京大学出版会。
島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態、大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集。
中村純(1980)日本産花粉の標識、大阪自然史博物館収蔵目録第13集。
中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として、第四紀研究13。
中村純(1977)稻作とイネ花粉、考古学と自然科学 第103。
辻誠一郎・南木睦彦・小池裕子(1983)縄文時代以降の植生と農耕－村田川流域を例として、第四紀研究第22卷。
金原正明・金原正子・粉川昭平(1992)春尾遺跡第10・11次調査の花粉分析・種実同定、春尾遺跡第10・11次調査概報、
奈良県遺跡調査概報1991年度、奈良県立橿原考古学研究所。

Tab. 7 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）11トレンチ北側東壁における花粉分析結果

科名	学名	13B			14			15B			15C			15D			15E		
		13-1	13-2	13-3	13-4	14-1	14-2	14-3	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	15-8	15-9		
Asteraceae	キク科					1		2		2									
Podocarpaceae	モクセイ科																		
Aster	セトノイモ			1						1									
Trochis	ツガ属					1													
<i>Ficus subgen. Diphyllophyllum</i>	マツクサ科																		
Cryptomeria japonica	スギ	4	6	13	11	12	11	15	19	13	15	25	19	26	2	2	2		
Myrsinaceae	ヤマモモ科			2	7	4		1	4										
Juglans	ヤマモモ															1	1	2	
Prunaceae	ハマナカ科																		
Alnus	カバノキ科																		
Betula	カバノキ																		
Coriaceae	ハシコモ科																		
Coriaria-Ostrya	タツナミソテアサガ					2		5	4		4	2	7			1	1	2	
Cotoneaster-Pyracantha	タリシリイ科・マヤバシイ科					2			1							2	2		
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属・コナラ属	134	138	74	81	32	25	26	16	19	13	143	138	143	105				
Quercus subgen. Cerris	コナラ属・カシノキ属	5	11	16	39	69	75	92	161	76	120	143	13	7	13				
Ulmus parvifolia	ウルム科																		
Orniellaceae	エノキ科																		
Zanthoxylaceae	サンショウ科					1	7	5	2	4	1	13	4	1	5	5	4		
Mallotus	アカネボシ科																1		
Rhus	ウルシ科																2	2	
Bur	モクノイ科																1		
Acer	カエデ科																		
Chionanthus	モクレン科																		
Elaeagnaceae	ゲンカイ科																		
Santalaceae-Vaccinium	ヒメツツジ科																		
Artemisia - Nonseeded pollen	ゼンキョウ・ホウキヨウ																		
Artemisia	ウコギ科																		
Nonseeded pollen	ホウキヨウ																		
Tytthos-Sapindaceae	ガーネー・ミクリ科			2	30	24	8	10	1	1	1								
Sapindaceae	オオバカラ科			1															
Ericaceae	イヌツツジ科																		
Gramineae	イネ科	60	89	83	96	17	60	15	13	22	20	19	49	30					
Oryza sp.	イネ科	24	14	1	4														
Cyperaceae	カヤツリグサ科	130	132	160	99	84	66	13	8	83	138	100	19	11					
Polygonum sect. Persicaria	タヌクソウナスクダ科			1		2	2												
Commelinaceae-Amarantaceae	アカバナ科・ヒユニ科															1			
Uncultivated	セリ科					3	2	5	8	7	5	12	8	5	3	1			
Anemone	セリ科																		
Plantago	オオバコ科																		
Labiatae	シソ科	27	10																
Antennaria lateritia	ゴマノハグサ科																		
Lettuce	タノボヅル科	10	6	1															
Asterolepis	タノボヅル科	5	13	7	4	6	22	10	1	10	9	1							
Artemisia	ヨモギ科	22	11	10	3	9	6	7	3	1	7								
Foraminifer	シダ植物門子																		
Monocotyledonous species	単子葉植物子	22	2	0	1401	343	795	1105	214	2164	175	95	126	7					
Total spore species	合計孢子種子	2	1	0	17	27	44	0	7	4	5	5	1						
Artemisia - Nonseeded pollen	ゼンキョウ・ホウキヨウ	140	153	160	168	150	237	230	340	156	360	253	369	261					
Artemisia - Nonseeded pollen	ホウキ・ホウキヨウ	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0					
Total pollen	花粉総数	267	269	303	224	133	176	54	40	132	170	123	79	46					
Unknown pollen	未同定花粉	408	423	468	412	331	343	321	361	385	481	476	368	426					
Fern spores	シダ植物門子	5	3	6	2	3	7	5	6	1	3	2	9	4					
Fern spores	シダ植物門子	24	3	10	1402	360	822	1149	214	2173	181	101	126	6					



PL. 8 鹿児島大学構内遺跡の花粉・胞子遺体 I



30 μm

PL. 9 鹿児島大学構内遺跡の花粉・胞子遺体II



1 ガマ属-ミクリ属



2 イネ科



3 イネ属型



4 カヤツリグサ科



5 タンボボ亜科



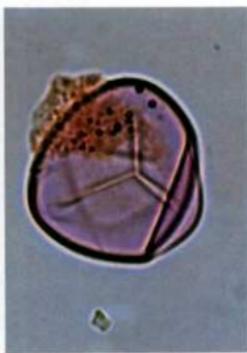
6 キク亜科



7 ヨモギ属



8 シダ植物単条溝胞子



9 シダ植物三条溝胞子

30 μ m

IV. 鹿児島大学構内遺跡の種実同定

1. 試料と方法

試料は鹿児島大学構内遺跡、地域共同研究センター予定地の9層(泥炭)から採取された1点である。同層は、郡元団地L-11・12区の13層に相当すると考えられる。試料500ccを0.25mmの篩いで水洗したのち、実体顕微鏡で観察選別して同定を行った。なお、分類群は同定レベルによって科や属の階級で示した。カヤツリグサ科は形態により3つに分類した。

2. 結果

検出された種実遺体は以下に示す8分類群であった。主要な分類群を写真に示す。

分類群 (和名/学名)	部位	産出個数
ミクリ属 <i>Sparganium</i>	果実	7
イネ科 <i>Gramineae</i>	穎	5
カヤツリグサ科 A <i>Cyperaceae A</i>	果実	12
カヤツリグサ科 B <i>Cyperaceae B</i>	果実	16
カヤツリグサ科 C <i>Cyperaceae C</i>	果実	24
ホタルイ属 <i>Scirpus</i>	果実	7
タデ属 <i>Polygonum</i>	果実	4
キク科 <i>Compositae</i>	果実	4

a. ミクリ属 *Sparganium* 果実 ミクリ科

淡褐色の倒卵形を呈し先端が尖る。表面には5~6本の繊維状の溝が走る。長さ2.8~3.8mm、幅2.1~2.2mm。

b. イネ科 *Gramineae* 穎 イネ科

茶褐色の楕円形を呈し薄く柔らかい。長さ1.2~1.5mm、幅0.7~0.8mm。

c. カヤツリグサ科 A-C *Cyperaceae A-C* 果実 カヤツリグサ科

Aは茶褐色でやや偏平倒卵形を呈し、断面が平凸レンズ状である。果皮は薄く柔らかい。長さ1.2~1.5mm、幅0.8~1.0mm。Bは黒色でやや光沢のある倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ状である。果皮は硬い。長さ1.2~1.5mm、幅1.0~1.2mm。

Cは黄褐色で広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ状である。果皮は厚く弾力がある。長さ1.5~1.7mm、幅1.2~1.4mm。

d. ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科

黒色でぶい光沢のある広倒卵形を呈し、基部に針状の付属物がある。断面は平凸レンズ状で、果皮はやや厚く硬い。表面には微細な隆起が横方向に走る。長さ2.1~2.3mm、幅1.5~1.7mm

e. タデ属 *Polygonum* 果実 タデ科

黒色で光沢のある倒卵形を呈し、先端がとがる。断面は三角形で、果皮はやや厚く硬い。表面には網目

構造がある。長さ 2.6mm、幅 1.5mm。

〔キク科 Compositae 果実 キク科

茶褐色を呈し針形で、上端には円形状の突出、下端は切形を呈する。断面は6角形で、果皮には6本の縱方向の隆起が走り、その間には微細な網目状構造がある。果皮は薄い。長さ 0.6~0.7mm、幅 2.2~2.3mm。

4. 所見

同定の結果、8分類群が検出された。いずれも草本の種実であり、木本は含まれていなかった。カヤツリグサ科 A - C が最も多く、ミクリ属、ホタルイ属と続く。他はイネ科・キク科・タデ属が出現するのみであった。カヤツリグサ科は多くの水湿地草本を含み、ミクリ属・ホタルイ属も水湿地に生育する草本である。

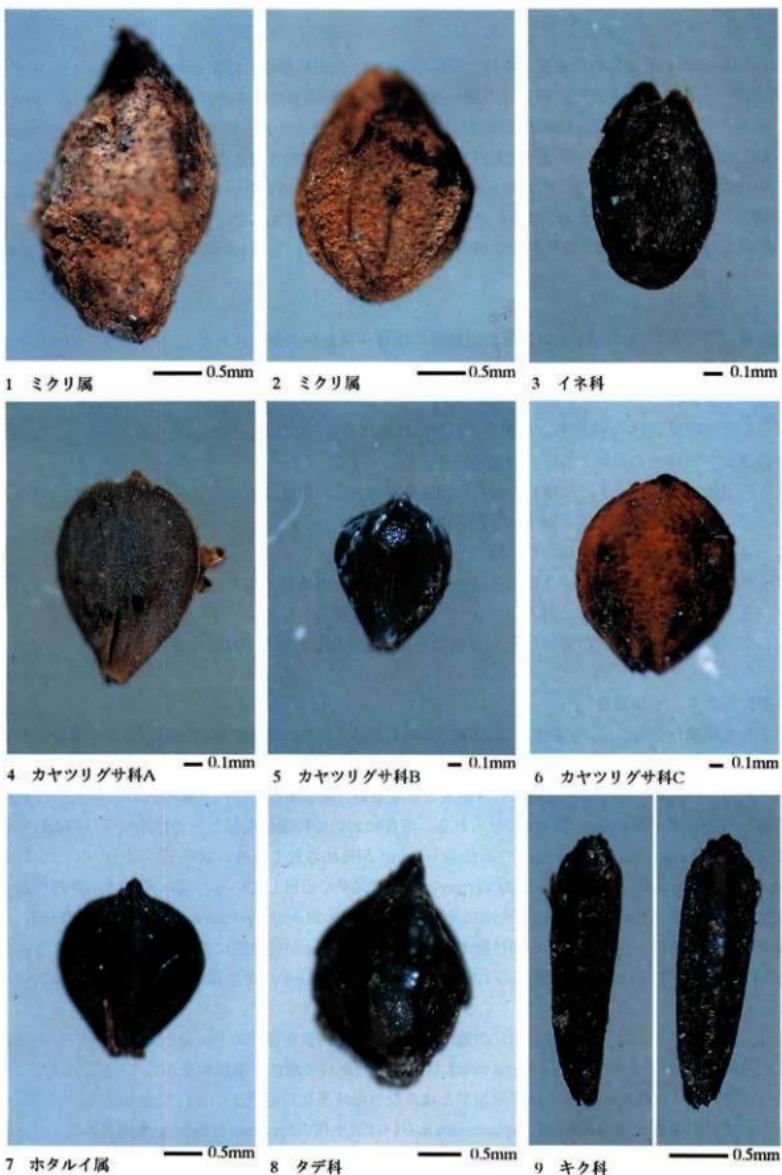
主要に出現する分類群がいざれも水湿地植物であるため、堆積地は湿原であったと推定される。木本類が含まれないことから、湿原はやや大きな範囲に分布していたと考えられ、森林は近接して存在していなかつたと推定される。

なお、カヤツリグサ科、ミクリ属、ホタルイ属は水湿地草本であるとともに水田雑草でもある。

参考文献

日本第四紀学会編(1993)第四紀試料分析法、東京大学出版会。

PL. 10 鹿児島大学構内遺跡出土種実



Ⅳ. 鹿児島大学構内遺跡の珪藻分析

1. はじめに

珪藻は、10~500 μm ほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられている。また、現生の生態から特定環境を指標する珪藻群集も設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域までと広範囲に及び、中には河川や沿地あるいは池などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給される環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質から、過去の堆積物中の珪藻化石の解析から、遺跡を埋積する堆積環境について知ることが可能である。ここでは、こうした珪藻の特性を利用して、鹿児島大学構内遺跡（郡元団地 L-11・12区）の堆積環境について検討する。

2. 試料と処理方法

珪藻分析を行った試料は、11トレンチ北側東壁の13層～16層から採取された13点であり、植物珪酸体分析や花粉分析に供されたものと同一試料である。これらの試料は、以下に述べる方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

- 1) 試料から湿潤重量約1g程度を取り出し、計量した後ビーカーに移し、30%過酸化水素を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。
 - 2) 反応終了後水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を上澄み液が透明になるまで繰り返す（7回程度）。
 - 3) ビーカーに残った残渣は、遠心管に細粒分のみ回収する。
 - 4)マイクロビペットを用い、遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥後は、マウントメディア（封入剤）で封入しプレパラートを作成する。
- 作成したプレパラートは光学顕微鏡下1000倍で珪藻種を同定し、殻約200個体計数する。

3. 硅藻化石群集と堆積環境

検出された珪藻化石は、125分類群30属106種2亜種である。これら珪藻群集の特徴から6珪藻分帯が設定される。以下に、各珪藻分帯の珪藻化石の特徴およびその堆積環境について述べる。

I带（16層、15層最下部）は、珪藻化石の組成は異なるが、海水種および汽水種の占める割合が約39%および約24%と比較的高いことで特徴づけられる。16層において特徴的な種としては小久保（1960）の示す沿岸性種の *Actinocyclus ehrenbergii* や *Actinocyclus* sp. が検出されている。試料15-7においては、汽水種の *Thalassiosira bramaputrae* や *Navicula yarrensis* がほぼ同率で出現している。淡水種では、両試料とも浮遊生種あるいは底生種の *Fragilaria* 属や池に見られる酸性種の *Melosira pensacolae* なども検出される。

II带（15層下部）は、池に見られる酸性種の *Melosira pensacolae* が特徴的に多く検出され、試料15-6では約78%に達する。これ以外では汽水種の *Thalassiosira bramaputrae* や浮遊生種の *Surirella tenera* が随伴している。

III带（15層中～上部）は、安藤（前出）の設定した沼澤湿地付着生種群の *Pinnularia viridis* や *Pinnularia gibba* などが検出される。特に、*Pinnularia viridis* は上部に向かって増加する傾向を示している。

IV带（14層）は、上位Ⅲ帶あるいは下位Ⅳ帶とは異なった珪藻化石組成を示し、安藤（前出）が設定した中～下流性河川指標種群の *Achnanthes laceolata* あるいは底生種の *Navicula radiosha* が検出されている。また、汽水種の *Thalassiosira bramaputrae* や *Achnanthes brevipes* などが検出されている。これは、一時的に汽水が影響する環境あるいは流水環境の存在を示すものである。

Tab. 8 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）11トレント北側東壁の珪藻化石産出表（その1）

分類群	適応性															16	
	地分	pH	淡水	生活	13-1	13-2	13-3	13-4	14	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	
<i>Actinocyclus ehrenbergii</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	51
<i>A.</i> spp.	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Nelosira sulcata</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Nucula longa</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Nitzschia granulata</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>N.</i> marginata	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Thalassiosira nitzschioidea</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploelia smithii</i>	H-B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Nitzschia adducta</i>	H-B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Achnanthus brevipes</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>A.</i> spp.	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis formosa</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>C. rhombica</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
<i>Hydrosera triquetra</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nelosira</i> sp.-1	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-
<i>Navicula yarrensis</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-
<i>Thalassiosira brumputae</i>	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	5
<i>Achnanthus exigua</i>	F-ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1
<i>A.</i> lanceolata	F-ind	Alka	Rhe	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	3
<i>A.</i> spp.	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Aurpha norvegii</i>	F-pho	Ind	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>A. ovalis</i>	F-ind	Alka	Lin	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>A. ovalis</i> var. <i>libyca</i>	F-ind	Alka	Ind	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Bacillaria paradoxa</i>	F-phl	Ind	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis lauta</i>	F-phl	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. leptosoma</i>	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. silicula</i>	F-ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
<i>C.</i> spp.	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Cocconeis placentula</i>	F-ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella costata</i>	F-ind	Alka	Lin	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i>	F-ind	Alka	Ind	B	13	4	13	1	-	5	1	1	4	-	-	-	-
<i>C. ehrenbergii</i>	F-ind	Alka	Lin	B	5	2	1	-	-	22	1	3	1	1	-	-	-
<i>C. gracilis</i>	F-ind	Ind	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. incerta</i>	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. mesiana</i>	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. nituta</i>	F-ind	Ind	Ind	B	20	2	3	3	-	3	1	1	2	1	-	-	-
<i>C. naviculiformis</i>	F-ind	Ind	Ind	B	5	3	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. silesiaca</i>	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. subaequalis</i>	F-ind	Ind	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C. tenuida</i>	F-ind	Alka	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C.</i> spp.	F-?	?	?	B	4	-	2	1	1	4	2	2	2	-	-	-	-
<i>Diploneis elliptica</i>	F-ind	Ind	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>D. flimica</i>	F-ind	Acid	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>D. ovalis</i>	F-ind	Ind	Ind	B	9	4	10	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6
<i>D. subovalis</i>	F-ind	Ind	Ind	B	12	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>D. yatakeensis</i>	F-ind	?	Lin	B	28	59	68	4	-	9	12	-	-	-	-	-	-
<i>D.</i> spp.	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
<i>Spithemia zebra</i>	F-ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
<i>Eunotia arcus</i>	F-pho	Acid	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. elegans</i>	F-pho	Acid	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. flexosa</i>	F-pho	Acid	Ind	B	-	3	4	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-
<i>E. lunaris</i>	F-pho	Acid	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>E. monodon</i>	F-pho	Acid	Ind	B	2	-	1	-	-	2	-	10	1	-	-	-	-
<i>E. pectinalis</i>	F-pho	Acid	Ind	B	6	10	7	3	12	3	1	3	6	2	2	-	-
<i>E. pectinalis</i> var. <i>minor</i>	F-pho	Acid	Ind	B	-	-	-	-	-	4	1	-	3	12	2	2	-
<i>E. venatrix</i>	F-pho	Acid	Ind	B	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-
<i>E.</i> spp.	F-?	?	?	B	3	2	1	-	1	-	-	2	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria brevistriata</i>	F-ind	Alka	Ind	P/B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	13
<i>F. construens</i>	F-ind	Alka	Ind	P/B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5
<i>F. pinnata</i>	F-ind	Alka	Ind	P/B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	25
<i>F.</i> spp.	F-?	?	?	P/B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
<i>Frustulia rhothoides</i>	F-pho	Acid	Lin	B	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>F.</i> spp.	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gymnopedia clevei</i>	F-ind	Alka	Rhe	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. constrictum</i>	F-ind	Alka	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>G. gracile</i>	F-ind	Ind	Lin	B	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>G. parvulum</i>	F-ind	Ind	Ind	B	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gyrosigma</i> spp.	F-?	?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Hantzschia asplenioidea</i>	F-ind	Alka	Ind	T	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>H. ambigu</i>	F-ind	Alka	Lin	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Tab. 9 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）11トレンチ北側東壁の珪藻化石産出表（その2）

分類群	適応性																
	塩分	pH	流水	生活	13-1	13-2	13-3	13-4	14	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	16
<i>Melosira distans</i>	F-pho	Acid	Ind	P	-	-	-	-	1	-	-	-	-	9	1	2	4
<i>M. granulata</i>	F-Ind	Alka	Lim	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. italica</i>	F-Ind	Alka	Ind	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. pensacolae</i>	F-?	Acid	Lim	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	6	104	164
<i>M. varians</i>	F-Ind	Alka	Ind	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	28
<i>M. spp.</i>	F-?	?	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Meridion circulare</i>	F-Ind	Alka	Rhe	B	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Micula americanus</i>	F-Ind	Ind	Lim	B	-	-	-	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-
<i>M. bacillum</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	1	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
<i>M. brasiliensis</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>M. confervaceus</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>M. concentrica</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. cryptoccephala</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. elginiensis</i>	F-Ind	Alka	Rhe	B	-	-	-	-	1	-	-	3	2	-	-	-	-
<i>M. exigua</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>M. goeppertiae</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. mutica</i>	F-Ind	Ind	Ind	T	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. papula</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	4	1	5
<i>M. radiosa</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	-	-	-	25	1	-	-	-	4	1	5	1
<i>M. reinhardtii</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. tokyoensis</i>	F-?	?	B	-	2	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>M. spp.</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-
<i>M. midium affine</i>	F-Ind	Ind	Lim	B	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>M. iridis</i>	F-pho	Ind	Lim	B	1	1	7	8	-	3	1	4	-	-	-	-	-
<i>Mitzschia amphibia</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. parvula</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>M. trybliocella</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>M. spp.</i>	F-?	?	P/B	-	-	-	-	4	2	-	1	3	5	2	1	4	1
<i>Geppha martyi</i>	F-Ind	Alka	Lin	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia acerosaria</i>	F-Ind	Ind	Lin	B	-	-	2	6	-	3	2	3	25	-	-	-	-
<i>P. appendiculata</i>	F-pho	Ind	Ind	B	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. cardinaliculus</i>	F-?	?	B	-	-	-	7	-	-	1	16	2	-	-	-	-	-
<i>P. divergens</i>	F-pho	Acid	?	B	-	4	4	-	-	1	-	16	2	-	-	-	-
<i>P. gibba</i>	F-Ind	Acid	Ind	B	5	2	3	13	-	17	8	19	12	1	-	-	-
<i>P. hamptera</i>	F-pho	Ind	Lim	B	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. microstaurus</i>	F-Ind	Acid	Ind	B	2	2	4	3	1	1	1	2	7	-	-	-	-
<i>P. maior</i>	F-Ind	Acid	Lim	B	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. stomatophora</i>	F-Ind	Acid	Lin	B	1	13	6	9	-	4	11	5	-	-	-	-	-
<i>P. subcapitata</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. subnudata</i>	F-?	?	B	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>P. viridis</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	8	7	23	66	1	55	67	31	19	3	5	3	-
<i>P. spp.</i>	F-?	?	B	15	16	12	41	2	28	35	37	18	2	1	9	-	-
<i>Hopalodias gibba</i>	F-Ind	Alka	Ind	B	-	-	-	-	8	-	-	4	1	-	-	-	-
<i>E. gibberula</i>	F-pho	Alka	Ind	B	36	43	16	-	14	5	5	5	11	29	3	6	-
<i>E. quisumbingiana</i>	F-pho	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
<i>E. spp.</i>	F-pho	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Staurocoelia phoenixenteron</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	9	1	2	14	1	12	1	5	4	-	-	-	-
<i>S. spp.</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-
<i>Stereotropis intermedia</i>	F-?	?	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. angusta</i>	F-Ind	Alka	Rhe	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. linearis</i>	F-Ind	Ind	Ind	B	-	2	1	2	2	5	4	2	2	1	1	-	-
<i>S. teorera</i>	F-Ind	Alka	Lin	P	-	2	1	6	2	7	14	5	18	14	9	3	-
<i>S. spp.</i>	F-?	?	P/B	-	4	3	-	-	12	3	3	4	2	-	-	-	-
<i>Synedra arcus</i>	F-Ind	Alka	Lin	P	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>S. ulna</i>	F-Ind	Alka	Ind	P	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
海水種					0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	61
海-汽水種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水種					0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	7	44
淡水種					200	207	215	209	197	201	207	217	206	192	204	156	129
計数した個数					200	207	215	209	210	201	207	217	206	211	211	204	212

凡例（適応性）

塩分濃度

pH

流水

生活型

N : 海水種 Acid : 酸性種 Lin : 止水種 P : 浮遊生種
 N-B : 海-汽水種 Ind : 不定種 Ind : 不定生種 B : 底生種
 B : 汽水種 Alka : アルカリ種 Rhe : 流水種 P/B : 浮遊生/底生種
 F-pho : 液水-好塩種 ? : 不明種 ? : 不明種 T : 陸生種
 F-Ind : 液水-不定種 F-T : 液水-不定種 ? : 不明種

Ⅳ带（13層下部）は、下位Ⅲ帶とほぼ同様の珪藻群集である。このことから、Ⅳ帶で推定される影響が環境を一変するようなものでないことを示すと考えられる。

Ⅴ帶（13層中～上部）は、底生種とされる *Diploneis yatukaensis* が特徴的に出現し、また好塩種の *Rhopalodia gibberula* なども随伴している。この他沼沢湿地付着生種群の *Eunotia pectinalis* や *Pinnularia viridis* なども随伴することから、沼沢地的環境であることが推定される。

引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理。p73-88。
 小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境の解析とその意義。－わが国への導入とその展望－。植生史研究。p29-44。
 小久保清治（1960）浮遊珪藻類。恒星社恒星閣。330p。
 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用。第四紀研究。p1-20。

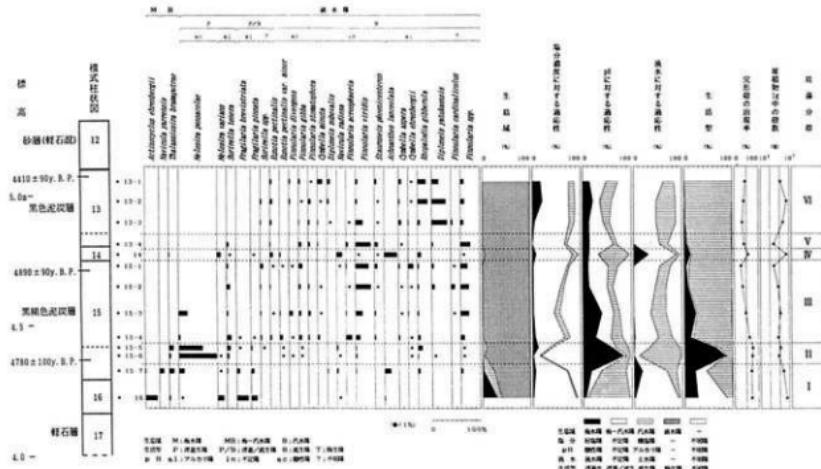
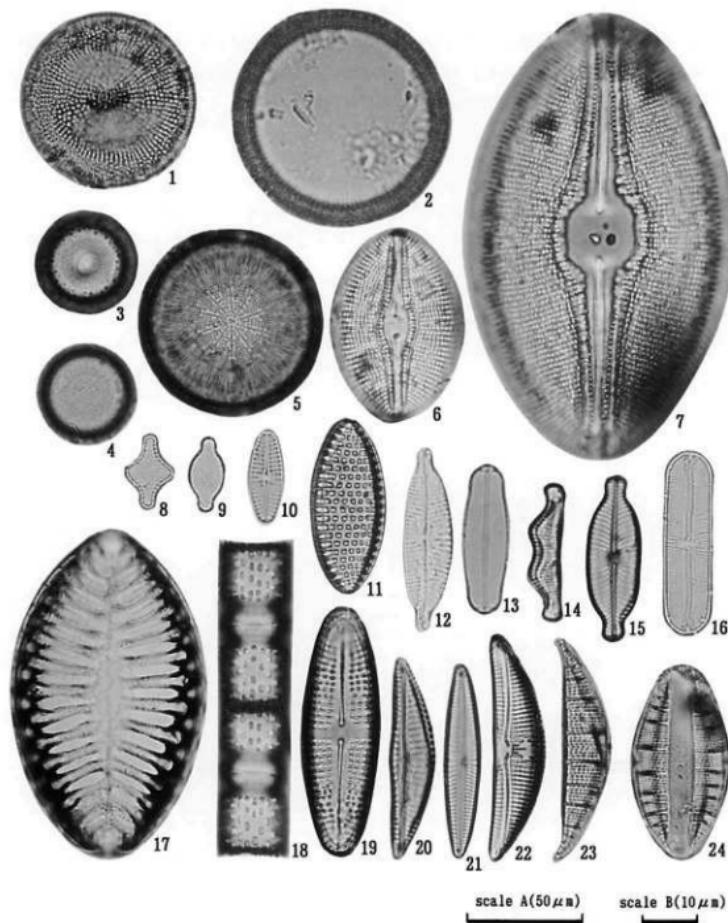
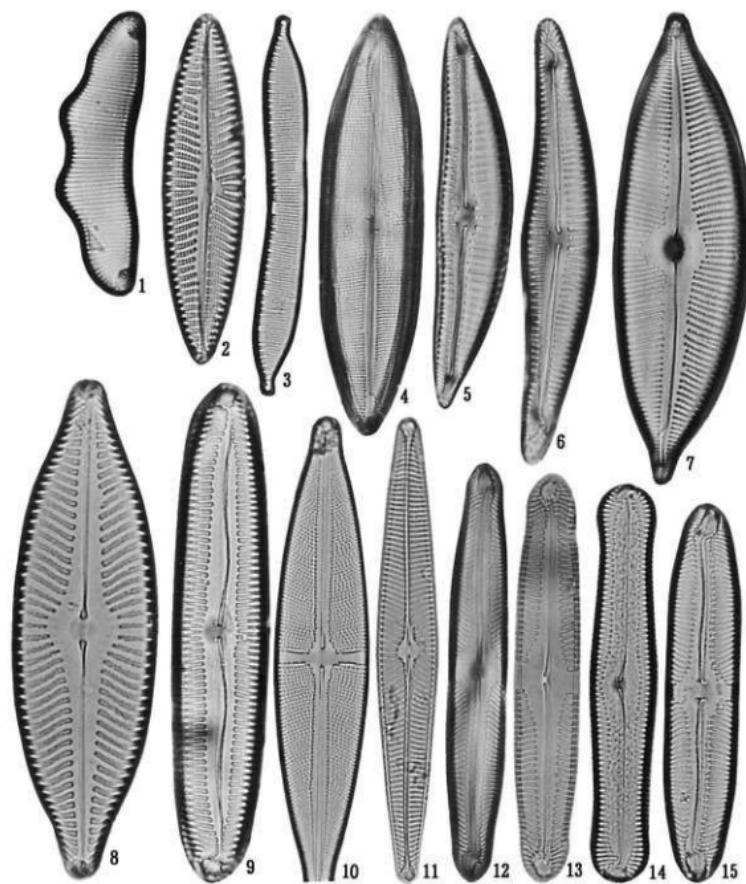


Fig. 45 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）11トレンチ北側東壁の珪藻化石群集（5%以上の種について表示）



図判 1 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）の珪藻化石顕微鏡写真 (No. 5 と No. 17はスケールA, 他はスケールB)

1. *Thalassiosira brasaputrae* (14) 2. *Melosira sulcata* (16) 3. *Melosira* sp.-1 (16)
 4. *Melosira varians* (18) 5. *Actinocyclus ehrenbergii* (15-7) 6. *Diploneis ovalis* (13-3)
 7. *Diploneis yatukaensis* (13-1) 8. *Fragilaria construens* (15-7) 9. *Achnanthes lanceolata* (14)
 10. *Achnanthes lanceolata* (15-7) 11. *Nitzschia granulata* (16) 12. *Cymbella naviculiforans* (13-1)
 13. *Navicula pupula* (15-6) 14. *Eunotia arcus* (13-2) 15. *Navicula elginensis* (13-4)
 16. *Navicula bacillum* (13-2) 17. *Surirella tenera* (15-6) 18. *Melosira pensacolae* (15-6)
 19. *Achnanthes brevipes* (14) 20. *Cymbella minuta* (13-1) 21. *Cymbella incerta* (13-1)
 22. *Amphora ovalis* var. *libyca* (13-4) 23. *Rhopalodia gibberula* (13-2) 24. *Rhopalodia gibberula* (13-2)

10 μm

図判2 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地）の珪藻化石顕微鏡写真

- | | | |
|---|---|---|
| 1. <i>Eunotia monodon</i> (15-2) | 2. <i>Navicula concentrica</i> (14) | 3. <i>Hantzschia amphioxys</i> (13-4) |
| 4. <i>Neidium iridis</i> (13-4) | 5. <i>Cymbella mesiana</i> (13-4) | 6. <i>Cymbella silesiaca</i> (13-4) |
| 7. <i>Cymbella ehrenbergii</i> (15-1) | 8. <i>Navicula yarrensis</i> (15-7) | 9. <i>Pinnularia viridis</i> (13-4) |
| 10. <i>Stauroneis phoenicenteron</i> (13-4) | 11. <i>Navicula radiosa</i> (14) | 12. <i>Pinnularia stomaophora</i> (13-4) |
| 13. <i>Pinnularia gibba</i> (13-3) | 14. <i>Pinnularia acrosphaeria</i> (13-4) | 15. <i>Pinnularia microstauron</i> (13-4) |

VII まとめ

1. 遺構について

本調査区で検出した遺構は、溝状遺構が3条、畦が3本、土壙が2基であった。畦が検出されたことと、土層の状況、プラント・オパール定量分析の結果などから、本地点において、連続的に水田が営まれていたことが明らかとなった。

溝状遺構は3条検出されたが、SD1とSD2は北西から南東に向かつて傾斜し、SD3は東-西向きである。いずれの溝もその性格や用途は断定することはできなかつた。なお、これらの溝と水田との直接的な関係を示す手がかりを得ることはできなかつた。

SD1は2層上面で検出したことから、遺物は少いもののその時期は比較的新しいといえる。

SD2・3は9層中から検出した。9層によってパックされた状況であることから、SD2・3が機能していた期間はそれほど長くなかったと考えられる。9層からは遺存状態のよい土師器が出土しており、平安時代のものであると考えられることから、これらの溝状遺構についてもこれに近い時期を想定できる。

畦は3本検出されたが、いずれも6a層によって形成されている。1本は北西-南東方向に、2本はそれと直行するように、北東-南西方向に延びている。平均の幅は0.5m、高さは0.04mである。

畦が検出された6a層は出土遺物の検討から、江戸時代という時期を与えることができる。

土壙は2基検出された。1基は5層上面で、もう1基は12層上面での検出である。これらの土壙からの遺物の出土は無く、それらの性格は不明である。

2. 出土遺物について

本地点の大部分は水田層であったため、遺物の出土量はそれほど多くない。出土遺物はほとんどが土器類(陶器も含む)であるが、土製品や石器なども見られる。土器類については小片が多く、また、表面が磨滅したものも多いことから二次的な移動を受けていると考えられる。種類としては磁器(青磁・白磁・染付)、陶器、土師器、須恵器、「成川式」土器、弥生土器などがあるが、縄文土器と明らかに判断できるものは確認していない。

各層から出土した遺物の種類ごとの割合はFig.46のようになる。これによると1層から4層までは陶器・磁器の比率が高いという点で共通している。比率の上からは、それ以下の層とかなり異なっているといえる。磁器は染付が多く、陶器の中には薩摩焼も多く含まれるため、これらの層が形成された時期は江戸時代以降と考えられる。

6a層から7層までが比較的類似した比率を示している。6b・7層と下位の層になるにしたがつて磁器・陶器の比率が下がり、「成川式」土器・弥生土器の比率が高くなっていることから下位の層ほど遺物の年代が古くなっていく傾向がよく表れている。このような傾向を示しつつ、各時代の遺物が包含されているところに、水田層の遺物包含の性格が表れているともいえる。6a層からは薩摩焼が出土している点、6a・6b層は層の特徴が非常に類似しているということなどから、これらの層にそれほどの時間差はないと考えられる。

8~10層も比較的類似した比率を示している。磁器は含まれず、陶器は8層にのみ見られ、「成川式」土器や弥生土器も少量含まれる。9層から遺存状態のよい土師器の杯が出土し、その年代は平安時代と考えられることから、これらの層の年代もこれに近い時期を想定できる。

11層以下は出土遺物の量が非常に少なく、時期がわかるような資料は含まれていないため、時期を推定す

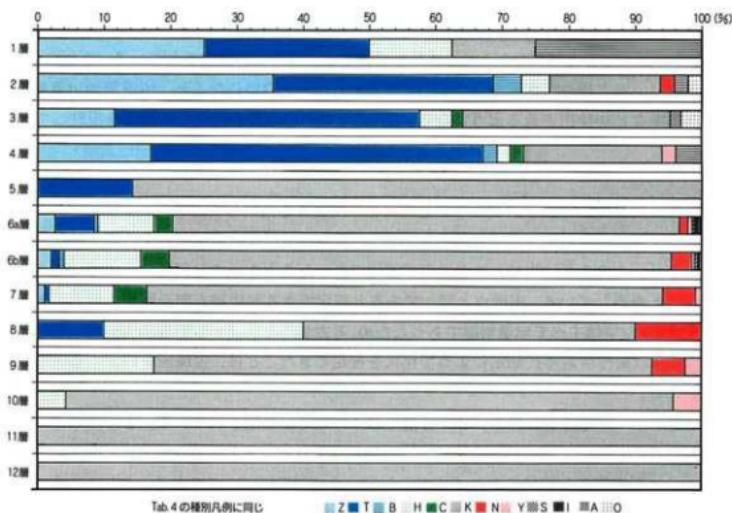


Fig. 46 各層における遺物の種類の比率

ることはできない。しかし、II層までは漸次的に変化しているため、9層とそれほどの時間差は無いと考えられる。

3. 自然科学分析について

自然科学分析では泥炭層を含む各層をサンプルとして、植物珪酸体（プラント・オパール定量）分析、放射性炭素年代測定、花粉分析、珪藻分析、種子同定分析などを行った。

藤原宏志氏によるプラント・オパール定量分析では、2～11（12）層ではイネ栽培が行われていたことが想定されている。また、13層以下の泥炭層では、14層にイネが認められるが量的に少ないため、これらの層ではイネが生産されたとは考えにくいとしている。

古環境研究所の分析結果をまとめると以下のようになる。

- ・13～15層の泥炭層をサンプルとした放射性炭素年代測定の結果、13層上部で、 $4,410 \pm 90$ y.B.P.、15層上部で、 $4,890 \pm 90$ y.B.P.の年代が得られた。

- ・プラント・オパール定量分析では、2層から11層までは集約的な稻作が継続的に行われたことを推定し、13層上部の時期（縄文時代中期に相当）には、湿地を切り拓いて稻作が行われていたことを推定している。また、13層下部などではハトムギやヒエなどが栽培されていた可能性を指摘している。

- ・泥炭層をサンプルとした花粉分析では、14～16層の時期、周辺には照葉樹林が分布しており、この地点は湿原であったと推定している。13層では落葉広葉樹林が増加したことが想定され、イネ属型の花粉が検出されている。そして、樹木相の変化と、イネ属型花粉の出現とがほぼ一致していることから、森林への人為干渉とイネの栽培が行われていたことを推定している。

- ・13層に対応すると考えられる泥炭層をサンプルにした種実同定では主に出現する分類群が水湿地植物

であること、木本類が含まれないことから、湿原の範囲はかなり広く、森林は近接しては存在していないかつたことを推定している。なお、含まれる草本の中には水田雜草も含まれることが指摘されている。

・泥炭層をサンプルとした珪藻分析から、遺跡を埋積する堆積環境が推定されている。それによると、最下部の泥炭層では、海水種や汽水種が高い割合で見られるが、上の層になると、沼澤湿地付着生種、中～下流性河川指標種などが検出されるようになる。このことはこの地点の陸地化の過程を反映しているといえるのかもしれない。

これらの結果に対して、考古学的側からの意義付けや問題点を指摘しておきたい。

泥炭層をサンプルにした放射性炭素年代測定の結果、泥炭層の形成時期をおおよそ縄文時代中期と推定することができた。このことは当時、この地点が湿地であったことを示すと同時に、すでにこの付近が陸地化していたことを表している。本地点と同一であると想定できる泥炭層も郡元団地の何ヵ所かで検出されているが、これらの層はすべて無遺物層であったため、考古学的な手法から形成年代の推定はできなかつた。したがつて、放射性炭素年代測定によって年代を推定できたことは、古環境を復元する上で重要な成果であるといえる。

プラント・オパール定量分析の結果、2～11層ではイネ栽培が想定されている。この結果は、6a層上面で畦が検出されたことや、土層の観察によって水田が推定されたこととよく符合しているといえる。

問題になるのは泥炭層から検出されたイネプラント・オパールについてである。

古環境研究所の報告では、13層上部の層から比較的高い密度のイネプラント・オパールが検出されたことに加え、その他の分析結果も取り入れて、縄文時代中期にこの地で水田耕作を行つていたと推定している。

しかし、13層以下は無遺物層であり、縄文土器などは出土していないため考古学的にはその年代を推定することはできない。また、13層では畦などの水田遺構は検出されていない。これらのことから、発掘調査の結果からは13層が縄文時代の層であり、水田が営まれていたということの検証はできない状態である。

さらに、12層以上と13層との関係も考慮する必要がある。12層よりも上の層で年代を推定できるのは9層で、平安時代頃と考えられるが、11層までは漸次的に変化しているため9層とそれほど時間差は無いと考えられる。ということは、縄文時代中期に比定できる13層上部と古代の層という非常に時間差のある層が、12層の粗砂層を挟んで接していることになる。11層以上の層では多量のイネプラント・オパールが検出され、水田耕作が行つていたことはほぼ確実である。そのため、11層などからイネプラント・オパールが12層の粗砂層を通り抜けて13層まで落ち込んだ可能性が考えられる。古環境研究所の報告では上層からの落ち込みの危険性は考えにくいとしているが⁴、12層が粗砂であるため、落ち込みの可能性はやはり否定できないのである。

また、今まで行ったプラント・オパール定量分析では、本地点と同一であると考えられる泥炭層から、イネプラント・オパールは検出されていないという問題もある。

つぎに、藤原宏志氏の分析では13層（古環境研究所の報告の13層中部に相当し、微量ではあるがイネプラント・オパールが検出されている）ではイネプラント・オパールは検出されていないが⁵、14層からは少量検出されている。このことについて以下のコメントをいただいた。

まず、13層についてであるが、古環境研究所の分析で13層中部から検出されている量もごくわずかであるため、この程度の差はサンプル採取地点によっても生じ得る。

さらに、14層から検出されたイネプラント・オパールの解釈についてであるが、埋蔵文化財調査室が行つたサンプル採取の段階で混ざり込みが無いのか、上部の層からの落ち込みは無いのか、この層が本当に縄文時代中期に比定できるのか、という問題を解決できた場合は、この地点の付近で、該期に水田が営まれ

ていたことが推定できるとのことであった。

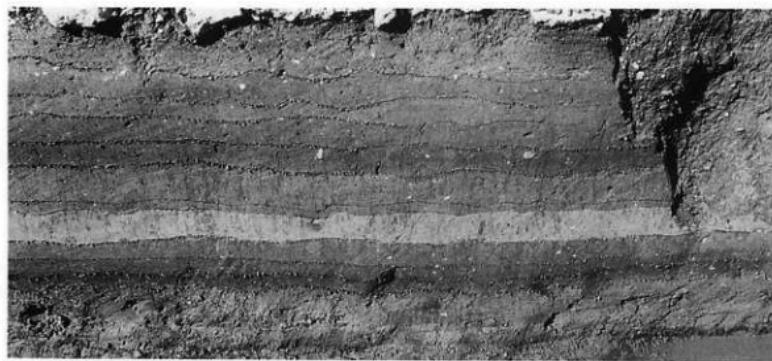
このように、問題点は多いものの、イネプラント・オパールが縄文時代中期に比定できる泥炭層から検出されたことを完全には否定できないのである。今後の調査では、考古学的に該期の水田の有無を確認する視点を持つことが必要となる。さらに、郡元団地における発掘調査において、プラント・オパール定量分析をはじめ放射性炭素年代測定、花粉分析などの自然科学分析を総合的に行い、資料の蓄積を行う必要があるといえる。

図 版

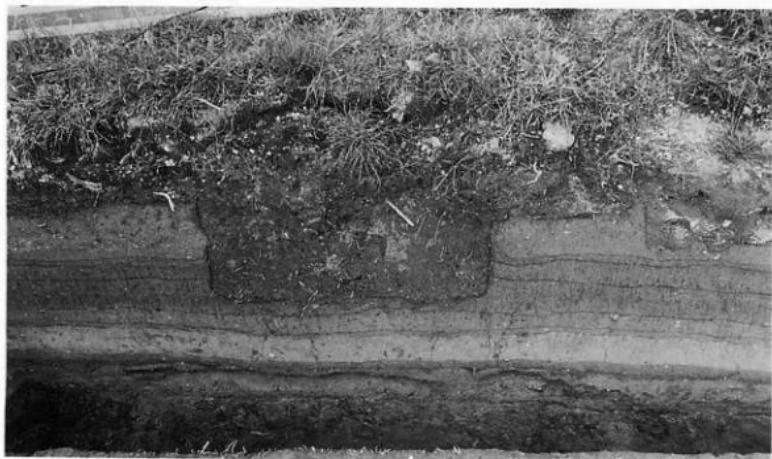
PL. 13 層位断面



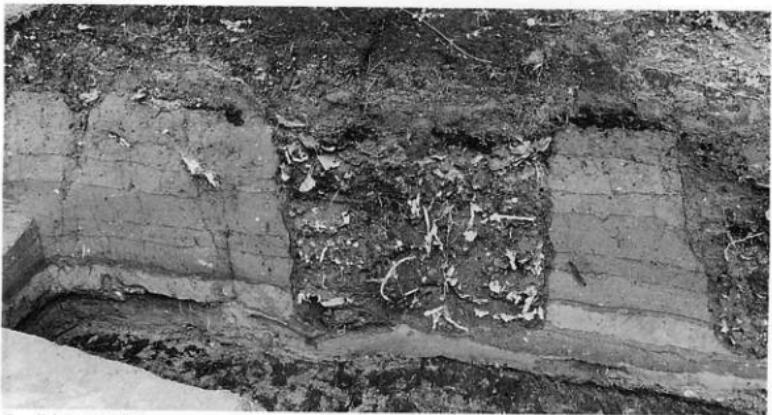
PL. 14 層位断面



1. 3 トレンチ北壁



2. 4 トレンチ北壁

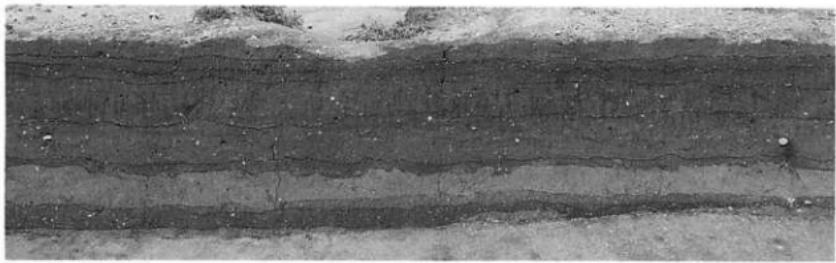


3. 5 トレンチ東壁

PL. 15 層位断面・遺構



1. 11トレンチ東壁



2. 12トレンチ北壁



3. SD 1 梱出状況



1. SD 1 完掘状況



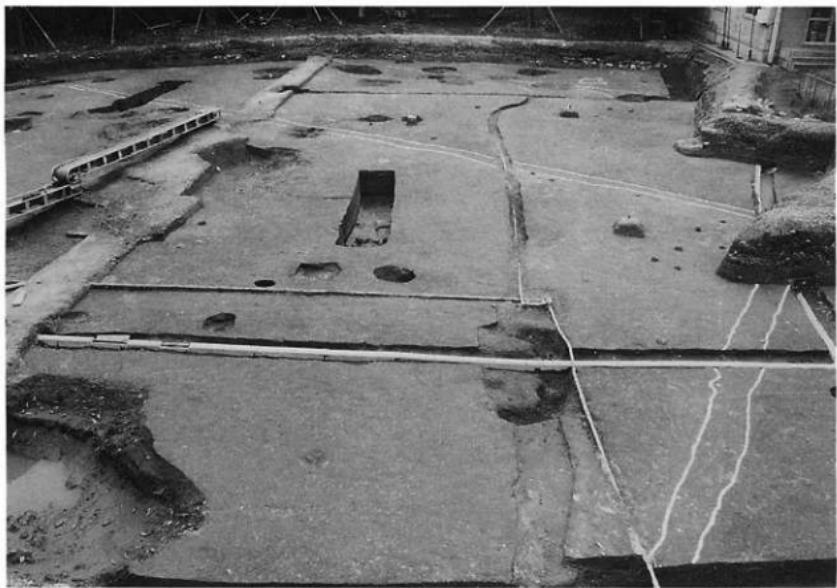
2. SK 2 検出状況



3. SK 2 完掘状況



1. 6 a 層上面畦検出状況



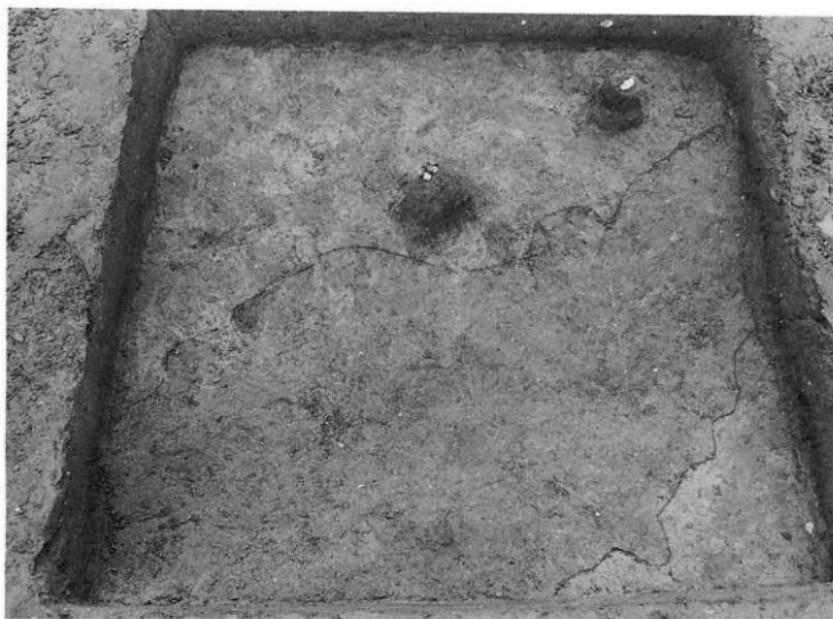
2. 6 a 層上面畦検出状況（東から）



1. 6 a 層上面畦検出状況



2. A Z 2断面



1. SD 2 検出状況 (9トレンチ)



2. SD 2 検出状況 (12トレンチ)



3. SD 2 検出状況 (6トレンチ)



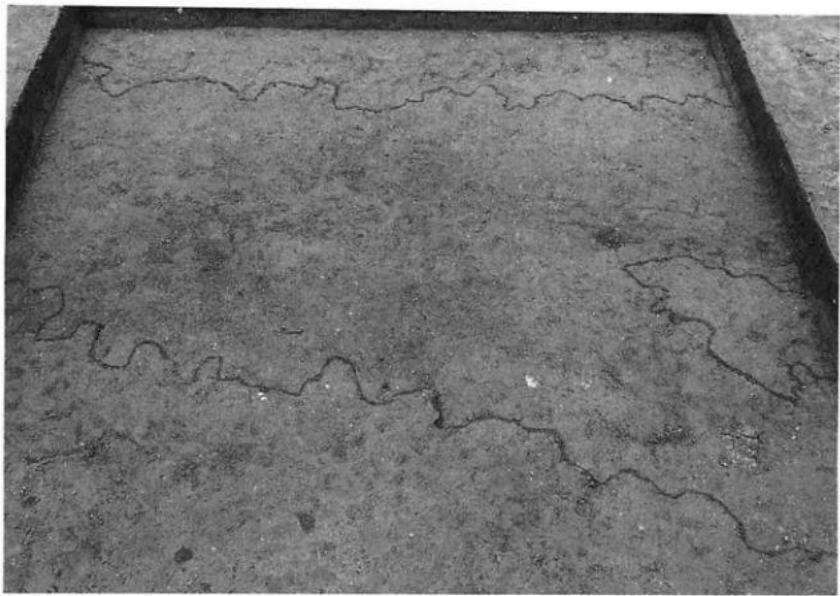
1. SD 2 完掘状況 (9トレンチ)



2. SD 2 完掘状況 (12トレンチ)



3. SD 2 完掘状況 (6トレンチ)



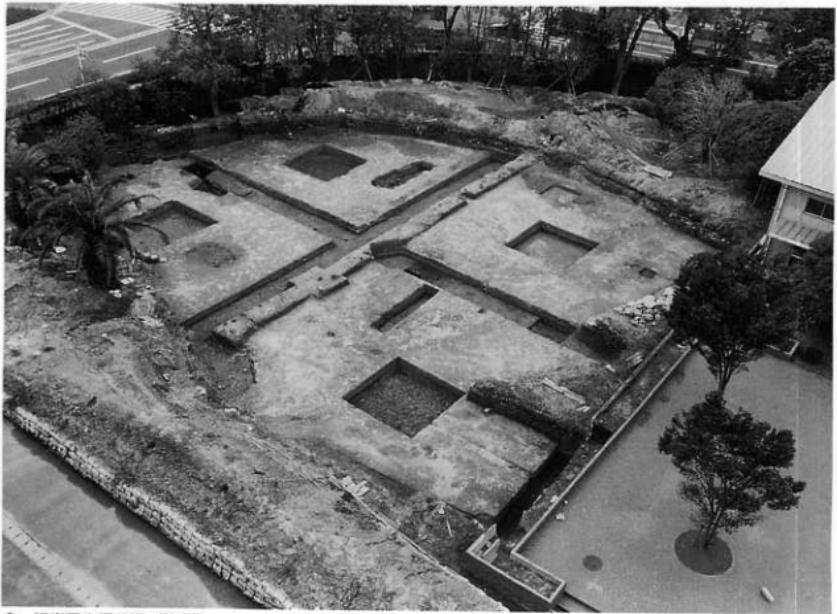
1. SD 3 检出状況



2. SD 3 完掘状況

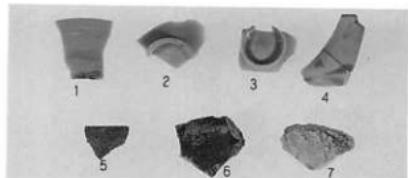


1. SK 3 完掘状況

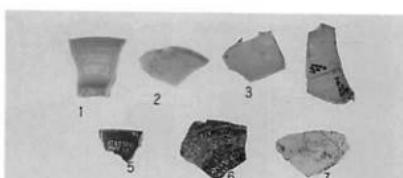


2. 調査区完掘状況（全景）

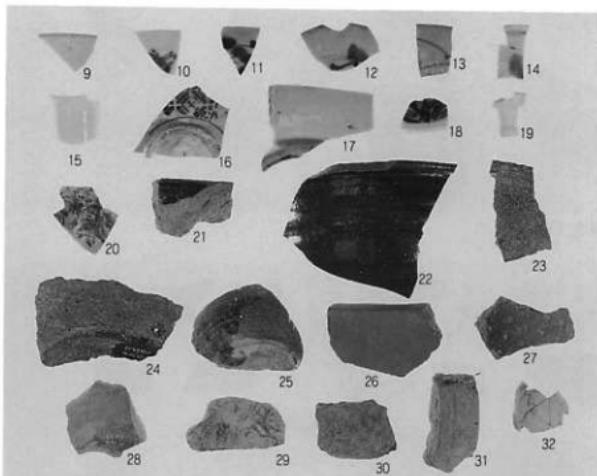
PL. 23 出土遺物



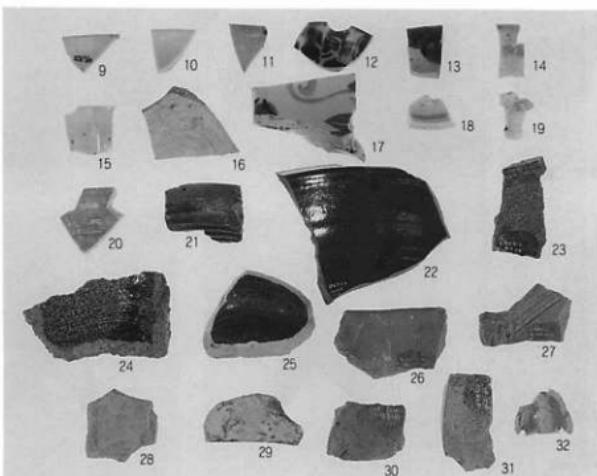
1. 1層出土遺物（表）



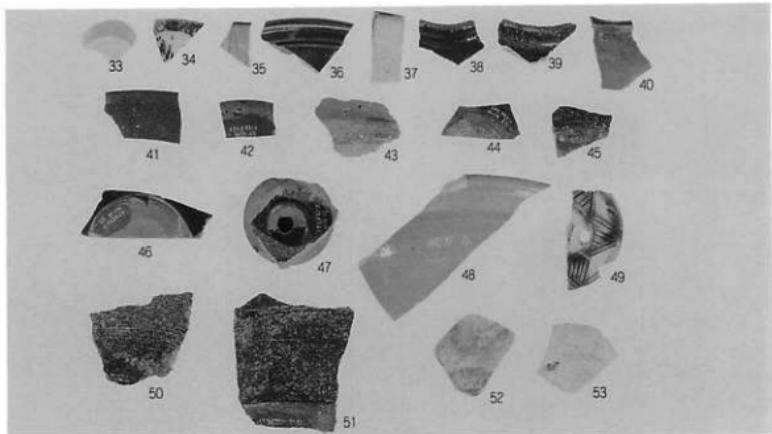
2. 1層出土遺物（裏）



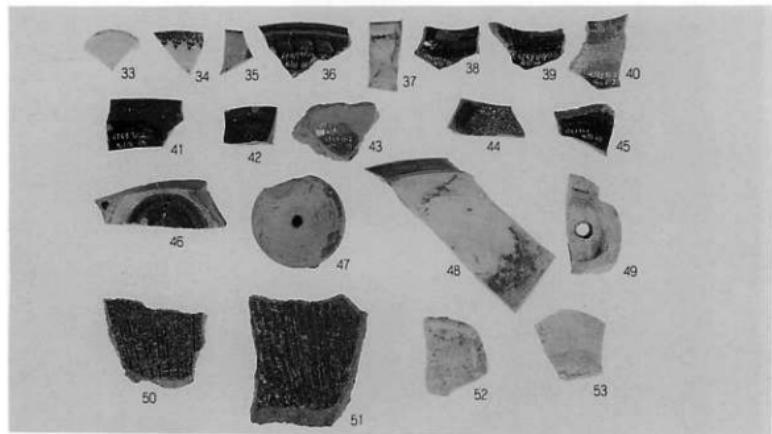
3. 2層出土遺物（表）



4. 2層出土遺物（裏）



1. 3層出土遺物（表）



2. 3層出土遺物（裏）



3. 3層出土遺物

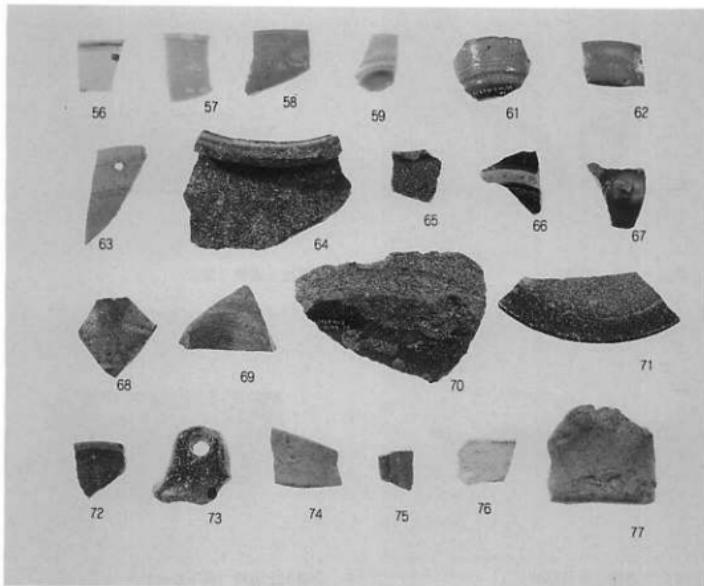


4. 3層出土石器（表）

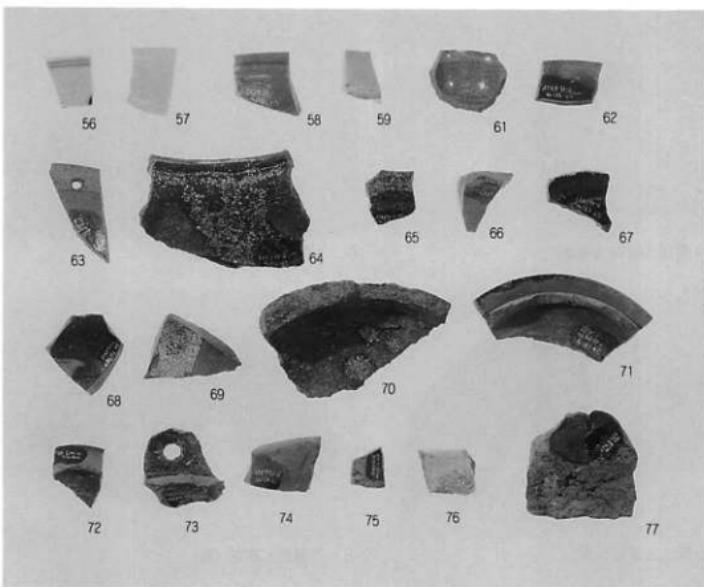


5. 3層出土石器（裏）

PL. 25 出土遺物



1. 4層出土遺物（表）



2. 4層出土遺物（裏）

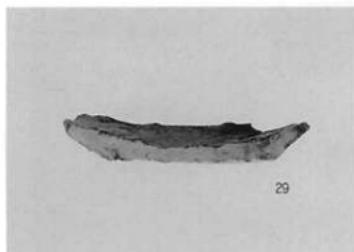
PL. 26 出土遺物



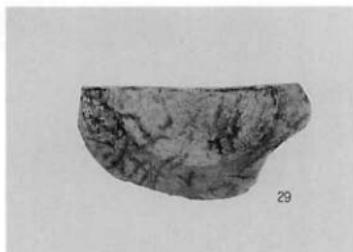
1. 2層出土遺物（側面）



2. 4層出土遺物（側面）



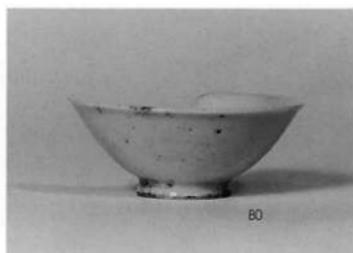
3. 2層出土遺物（半裁部分）



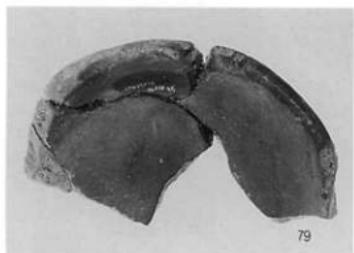
4. 2層出土遺物（真下から）



5. 4層出土遺物（側面）



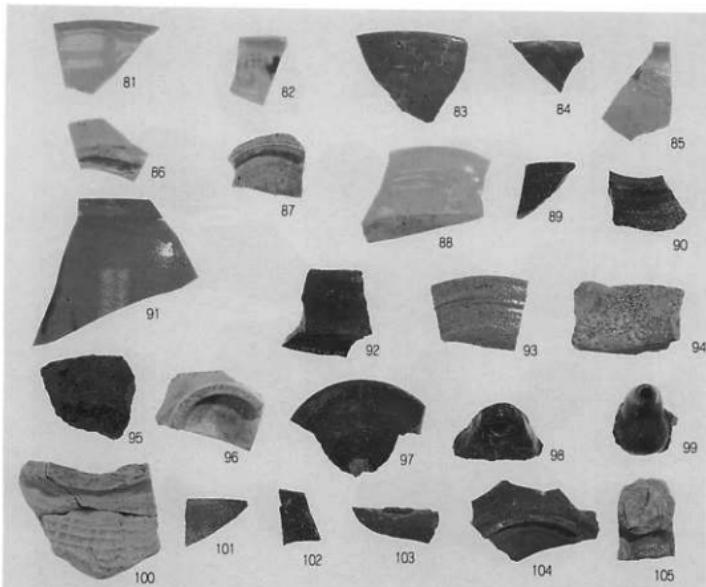
6. 4層出土遺物（側面）



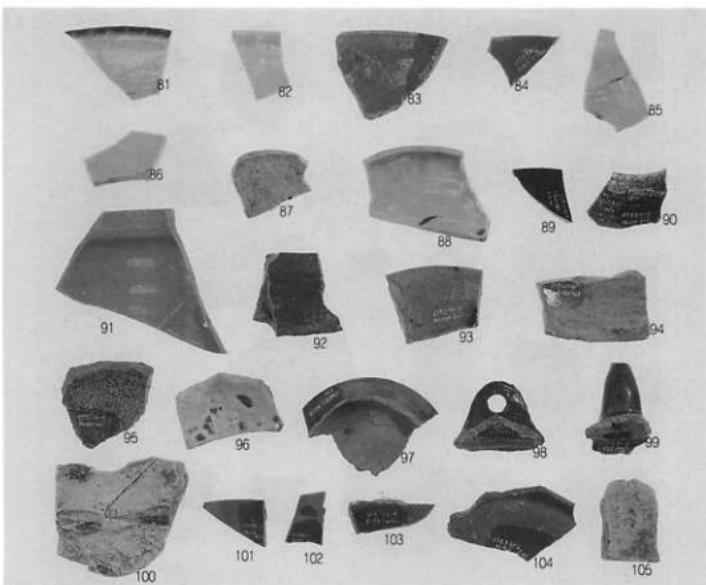
7. 5層出土遺物（表）



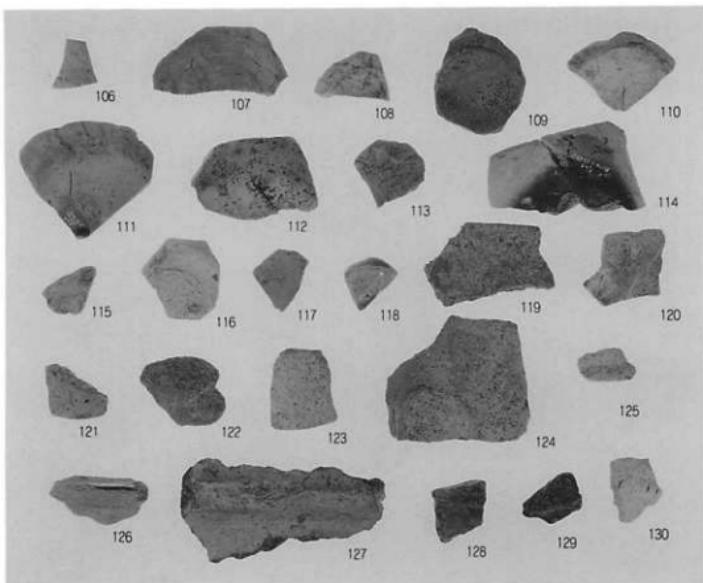
8. 5層出土遺物（裏）



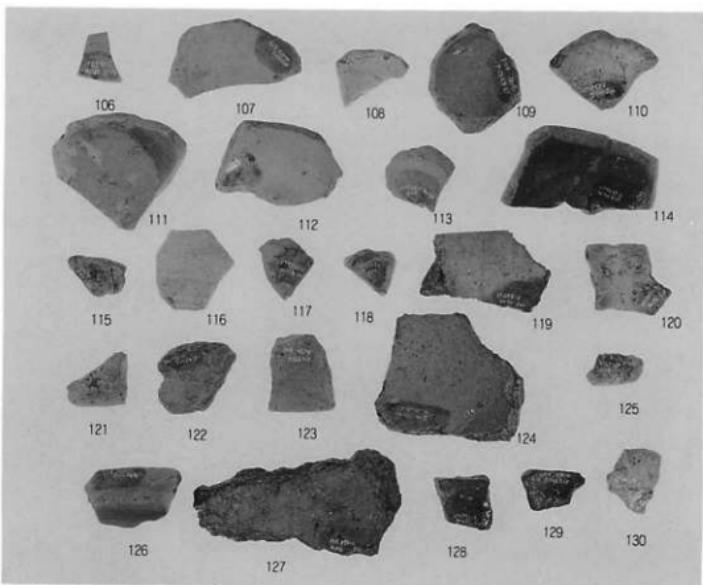
1. 6 a層出土遺物 I (表)



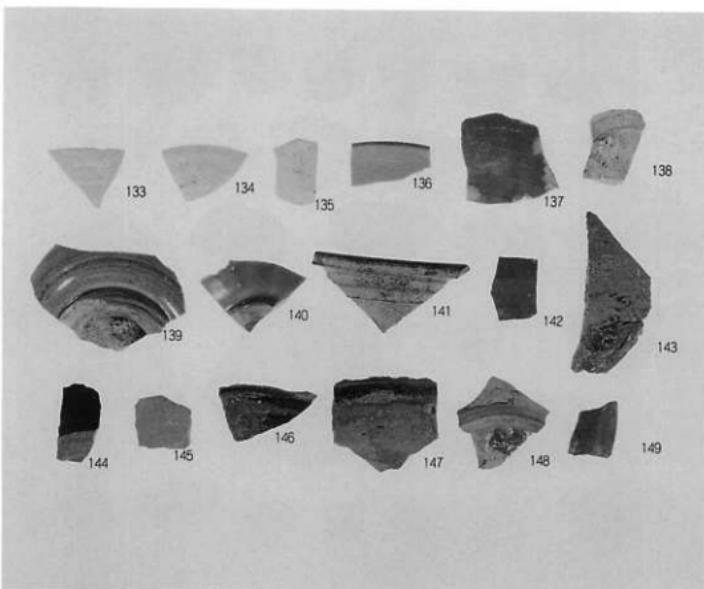
2. 6 a層出土遺物 I (裏)



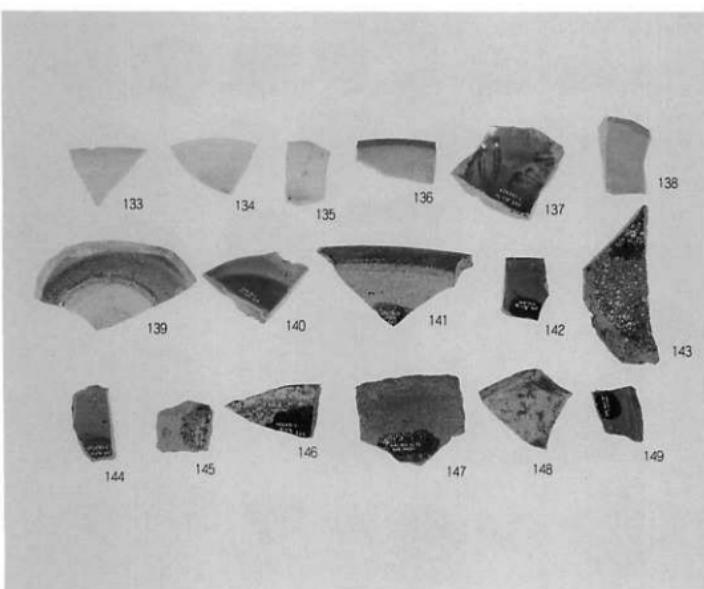
1. 6 a層出土遺物 2 (表)



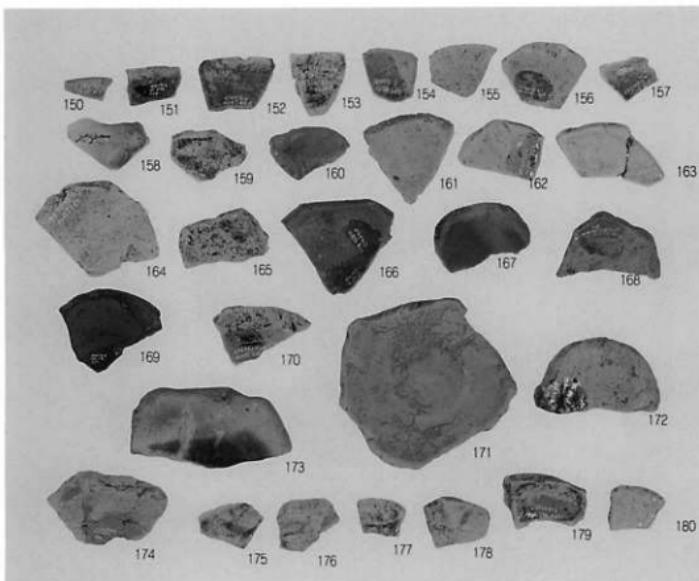
2. 6 a層出土遺物 2 (裏)



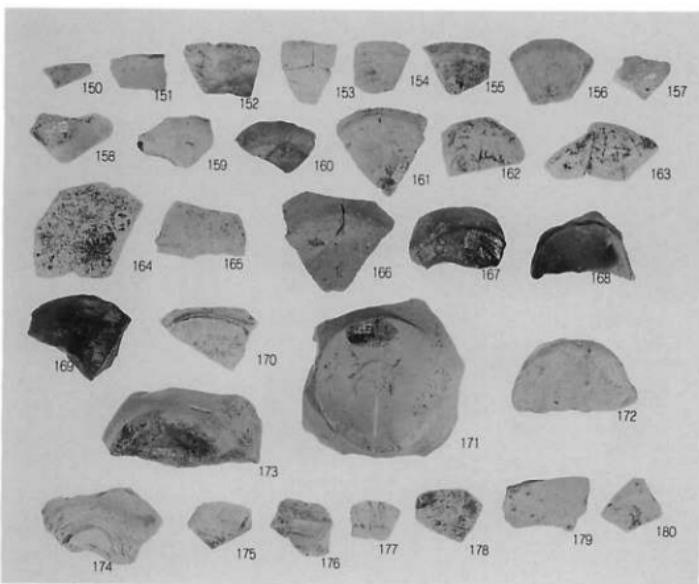
1. 6 b 層出土遺物 I (表)



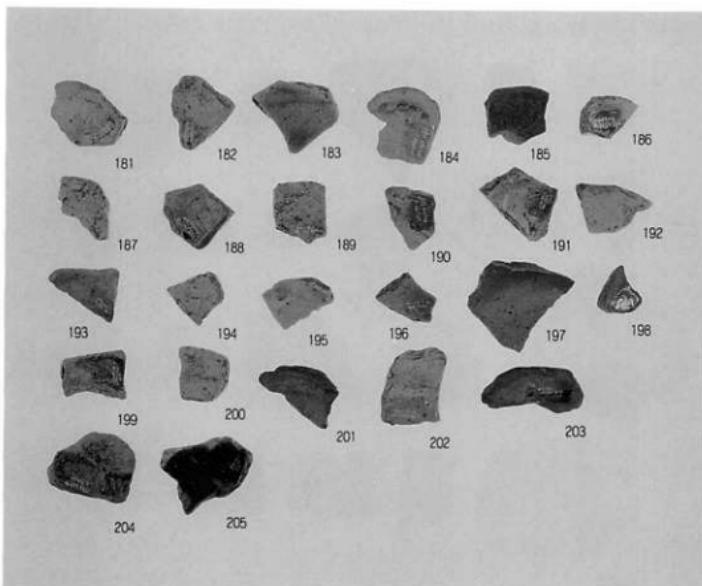
2. 6 b 層出土遺物 I (裏)



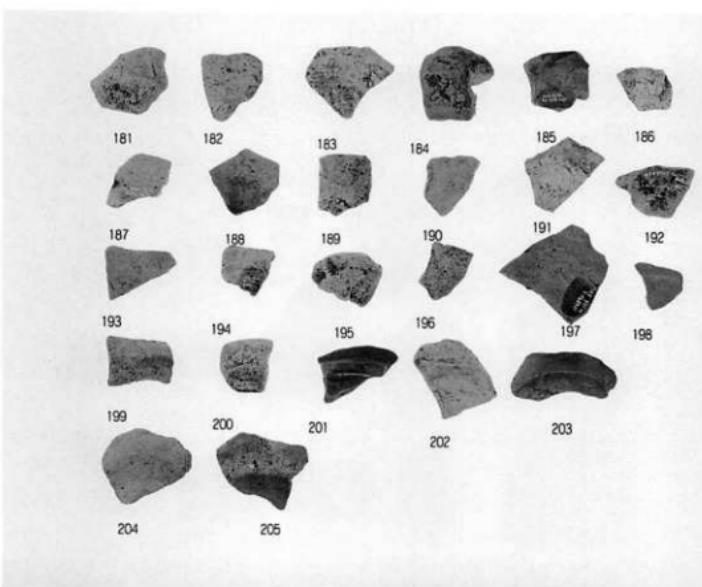
1. 6 b 層出土遺物 2 (表)



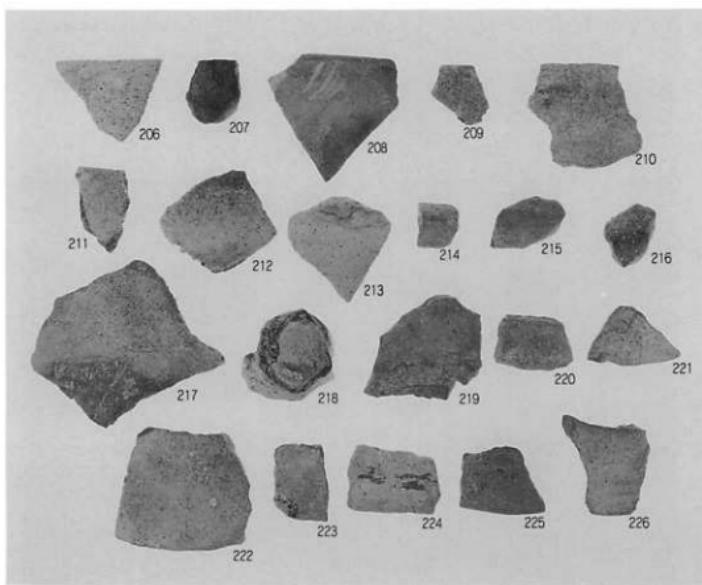
2. 6 b 層出土遺物 2 (裏)



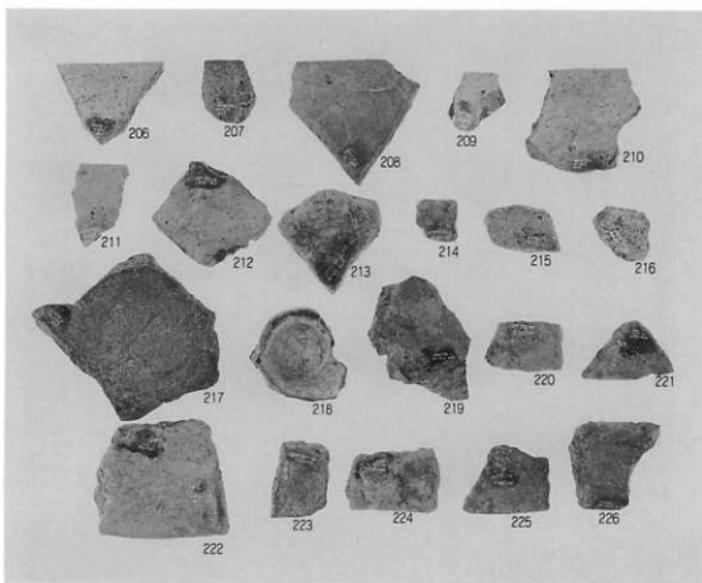
1. 6 b 層出土遺物 3 (表)



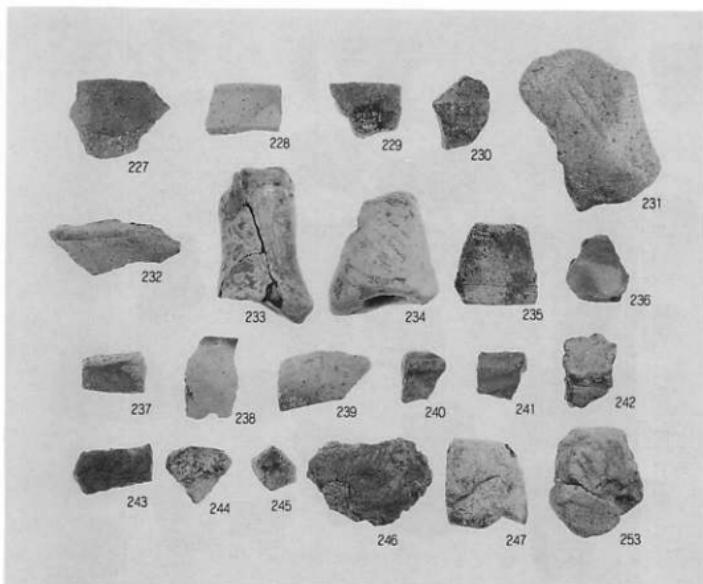
2. 6 b 層出土遺物 3 (裏)



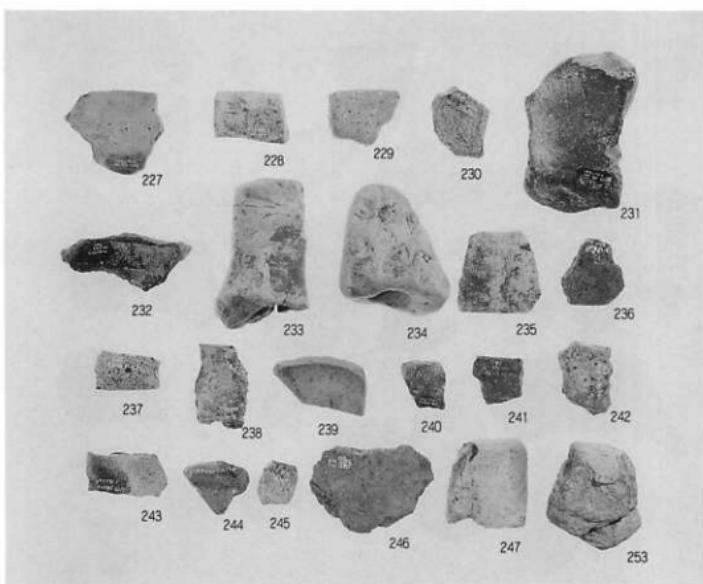
1. 6 b 層出土遺物 4 (表)



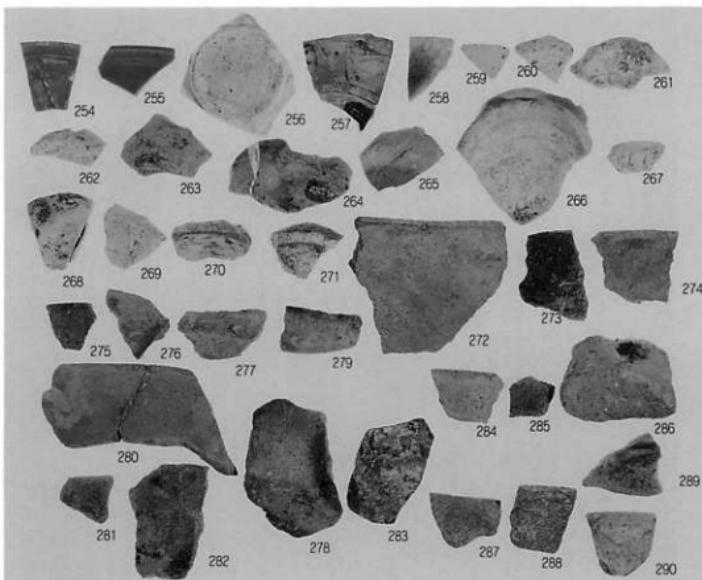
2. 6 b 層出土遺物 4 (裏)



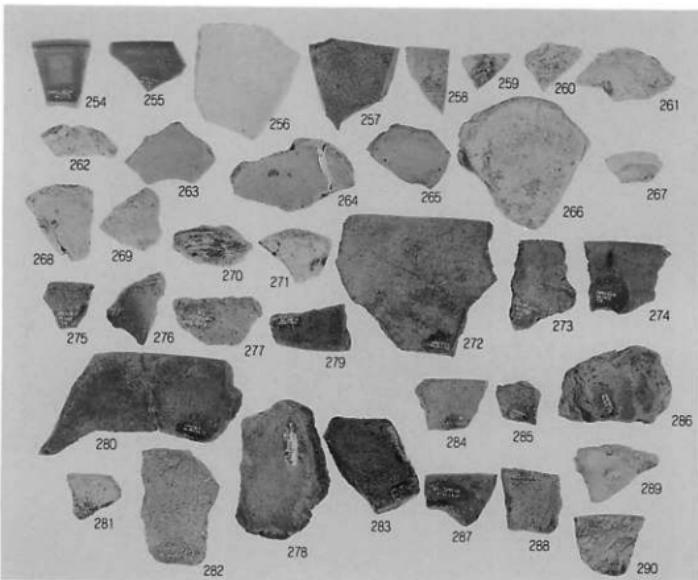
1. 6 b 層出土遺物 5 (表)



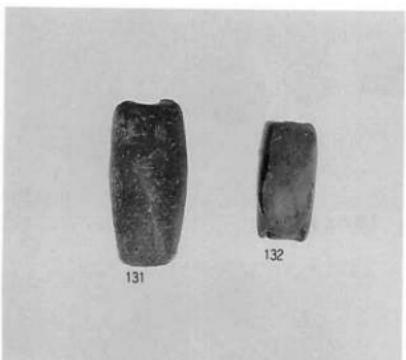
2. 6 b 層出土遺物 5 (裏)



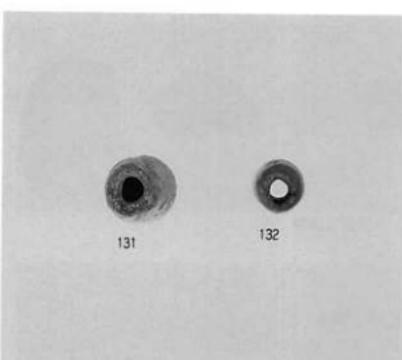
1. 7層出土遺物（表）



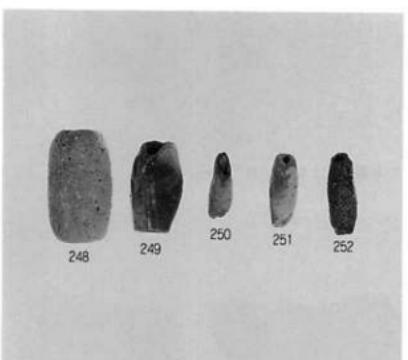
2. 7層出土遺物（裏）



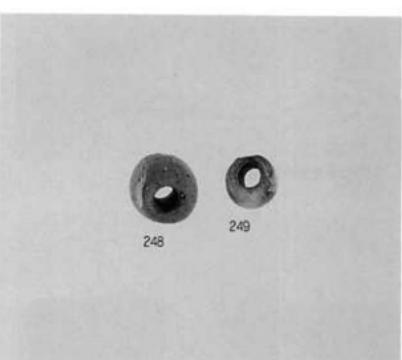
1. 6 a 層出土土錘（側面）



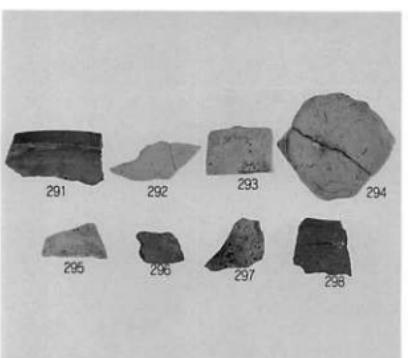
2. 6 a 層出土土錘（真上から）



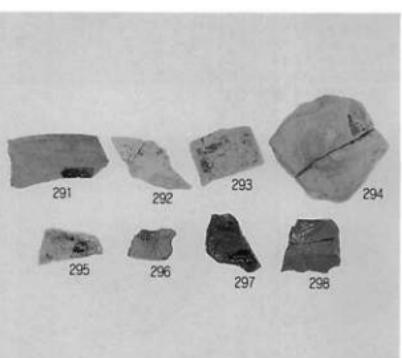
3. 6 b 層出土土錘（側面）



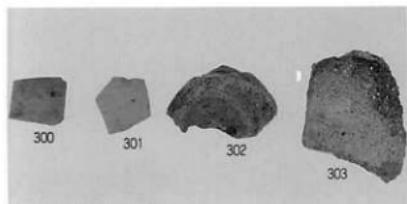
4. 6 b 層出土土錘（真上から）



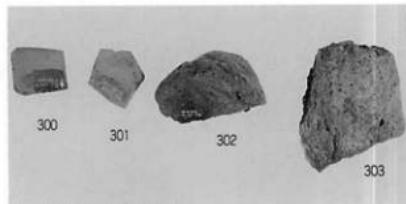
5. 8 層出土遺物（表）



6. 8 層出土遺物（裏）



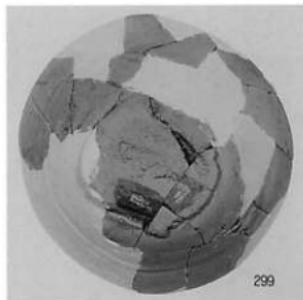
1. 9層出土遺物（表）



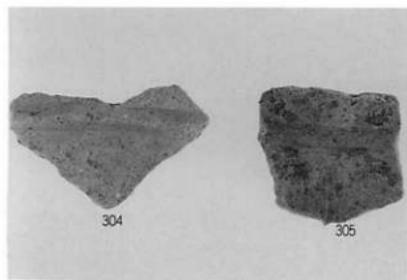
2. 9層出土遺物（裏）



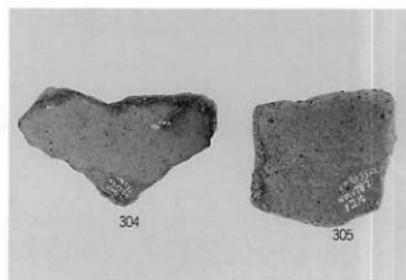
3. 9層出土土師器（側面）



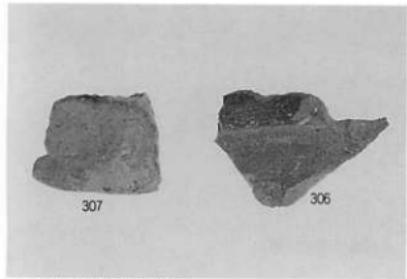
4. 9層出土土師器（真下から）



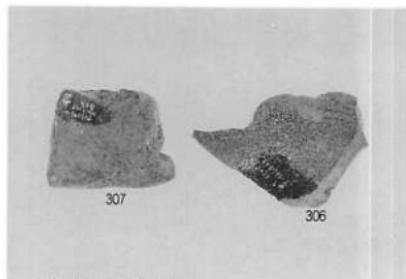
5. 10・12層出土遺物（表）



6. 10・12層出土遺物（裏）



7. 廃土中採取遺物（表）



8. 廃土中採取遺物（裏）

報 告 書 抄 錄

ふりがな	かこしまいがくこうないせきこおりもとだんち						
告名	鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区						
副書名	鹿児島大学穂盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	大西智和						
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室						
所在地	〒890 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL 0992-85-7270						
発行年月日	西暦1994年11月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °°'	東經 °°'	調査期間	調査面積 m ²	調査起因
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地 L-11・12区	鹿児島県 鹿児島市 郡元一丁目 21番40号	46201	31° 34' 11"	130° 32' 48"	19930506~ 19930929	950m ²	建物建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地 L-11・12区	散布地 水田	平安~近世 近世	畦、溝	弥生土器 成川式土器 土師器 須恵器 青白磁 白磁 燒			

鹿児島大学構内遺跡 郡元団地L-11・12区
-鹿児島大学福盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

1994年11月

編集
発行
鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21番24号
TEL 0992-85-7270

印刷
斯文堂株式会社
鹿児島市南堀三丁目1番地